



ELECTRONIC PIANO

PF-1000

取扱説明書



安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。




ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。

お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。


■ 記号表示について


この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	～しないでくださいという「禁止」を示します。
	「必ず実行」してくださいという強制を示します。

■ 「警告」と「注意」について

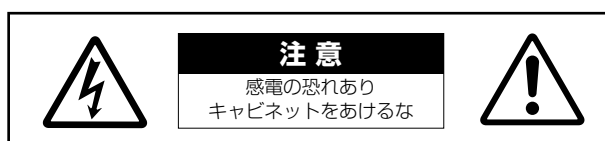
以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

 警告	この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。
---	---

 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
---	--

■ 本体に表示されている注意マークについて

本体には、次の注意マークが付いています。



これは、以下の内容の注意を喚起するものです。

「感電防止のため、パネルやキャビネットを外さないでください。この製品の内部には、お客様が修理 / 交換できる部品はありません。点検や修理は、必ずお買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点にご依頼ください。」

警告

電源 / 電源コード



必ず実行

電源は必ず交流 100V を使用する。
エアコンの電源など交流 200V のものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。
感電やショートのおそれがあります。



必ず実行

電源コード / プラグは、必ず付属のものを使用する。
他の電源コード / プラグを使用すると、発熱や感電の原因になります。



禁止

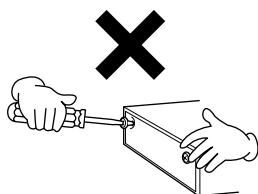
電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。
電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。

分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。
感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

感電や火災、または故障の原因になります。



禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない。
感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上にもうそくなど火気のあるものを置かない。
ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



必ず実行

電源コード / プラグがいたんだ場合、または、使用中に音が出なくなったり異常なおいや煙が出たりした場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。

⚠ 注意

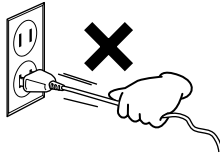
電源 / 電源コード



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



必ず実行

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

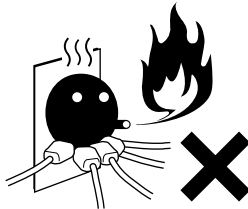
感電や火災、故障の原因になることがあります。



禁止

たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。



スタンドの取り付け



必ず実行

スタンドを取り付ける前に、必ず本書または別紙の取り付け方の説明をよくお読みください。

手順どおりに正しく取り付けないと、楽器が破損したりお客様がけがをしたりする原因になります。

設置



禁止

直射日光のあたる場所（日中の車内など）やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しない。

本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したりする原因になります。



禁止

テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しない。

楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様や他の方々が転倒したりするおそれがあります。



禁止

本体の放熱ファンや放熱用スリットをふさがない。

本体内部に熱がこもり、故障や火災の原因になることがあります。

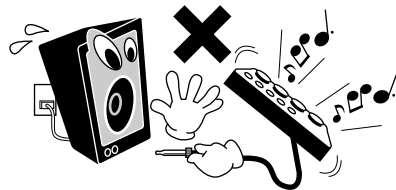
接続



必ず実行

他の機器と接続する場合は、すべての機器の電源を切った上で行なう。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小にする。さらに、演奏を始める場合も必ず両機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げていき適切な音量にする。

感電または機器の損傷の原因になることがあります。



手入れ



禁止

本体を手入れするときは、ベンジンやシンナー、洗剤、化学ぞうきんなどは使用しない。

本体のパネルや鍵盤が変色 / 変質する原因になります。お手入れは、乾いた柔らかい布、もしくは水を固くしぼった柔らかい布でふいてください。

使用時の注意



禁止

パネル、鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。
感電、ショート、火災や故障の原因になることがあります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの楽器店または巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点に点検をご依頼ください。



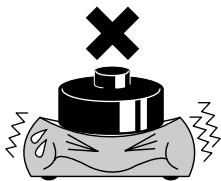
禁止

本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かない。
本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。
本体が破損したり、お客様や他の方々がけがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しない。
聴覚障害の原因になります。



イス



禁止

不安定な場所に置かない。
イスが転倒して、お客様や他の方々がけがをする原因になります。



禁止

イスで遊んだり、イスを踏み台にしたりしない。
このイスは楽器演奏用です。イスを遊び道具や踏み台にすると、イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



禁止

イスには二人以上ですわらない。
イスが転倒したりこわれたりして、お客様がけがをする原因になります。



必ず実行

イスを長期間使用すると、イスのボルトがゆるむことがあります。
ボルトがゆるんだ場合は、付属のスパナで締め直してください。

データの保存

作成したデータの保存とバックアップ



必ず実行

カレントメモリーのデータ(P.39)は電源を切ると消えてしまいます。保存しておきたいデータはフロッピーディスク/ユーザードライブ (P.39)に保存してください。

また、ユーザードライブに保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、フロッピーディスクに保存してください。

システムセットアップ(System Setup)のデータ(別冊データリスト「パラメーター一覧」参照)は、設定を行なった画面またはページから抜けたときに保存されます。設定を行なった画面またはページから抜けずに電源を切ると、設定した内容は失われます。

フロッピーディスクのバックアップ



必ず実行

保存したフロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のフロッピーディスクにバックアップとして保存されることをおすすめします。

不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。また、データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。

使用後は、必ず電源スイッチを切りましょう。

音楽を楽しむエチケット



これは日本電子機械工業会「音のエチケット」キャンペーンのマークです。

楽しい音楽も時と場所によっては、大変気になるものです。隣近所への配慮を十分にいたしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところで迷惑をかけることがあります。夜間の演奏には特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドフォンをご使用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

このたびは、ヤマハ エレクトロニック ピアノ PF-1000を
お買い求めいただきまして、誠にありがとうございました。
PF-1000の優れた機能を十分に生かして演奏を
お楽しみいただくために、本書をご活用いただきますよう
ご案内申し上げます。また、お読みになったあとも、
いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますよう、
お願い申し上げます。

取扱説明書について

取扱説明書は、本書と別冊「データリスト」の2冊があり、以下のような構成になっています。

本書

準備 (P.2)..... 最初にお読みください。

クイックガイド (P.20)..... PF-1000の代表的な機能を簡単にご紹介します。

基本操作 (P.38) 画面の操作などPF-1000の操作の基本をご説明します。

本編 (P.52)..... PF-1000を便利に使いこなすための操作をご説明します。

「クイックガイド」の各項目に、「本編」の参照ページが書いてあります。

別冊「データリスト」

音色名、伴奏スタイル名などの各種一覧表と、MIDIデータフォーマット、MIDIインプリメンテーションチャートなどを掲載しています。

※この取扱説明書に掲載されているイラストや画面はすべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

この製品は、ヤマハ(株)が著作権を有する著作物やヤマハ(株)が第三者から使用許諾を受けている著作物を内蔵または同梱しています。その著作物とは、すべてのコンピュータープログラムや、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データなどのコンテンツを含みます。ヤマハ(株)の許諾を受けることなく、個人的な使用の範囲を越えて上記プログラムやコンテンツを使用することについては、著作権法等に基づき、許されていません。

- 本製品には、株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。
- 日本語変換はオムロンソフトウェア(株)のモバイルWnnを使用しています。
"Mobile Wnn" © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.
- 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。
ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- Macintoshは、米国および他の国々で登録されたApple Computer, Inc.の商標です。
- IBM-PC/ATは、インターナショナルビジネスマシーン株式会社の商標です。
- Windowsは、米国Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標です。
- 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名などは、各社の登録商標または商標です。

付属品(お確かめください)

- 取扱説明書
- 取扱説明書別冊「データリスト」
- 保証書
- 録音用ディスク
- ペダル
- 固定イス
- 譜面立て
- ダストカバー
- スタンド
- 和文シート

フロッピーディスクの取り扱い

フロッピーディスク(ドライブ)をご使用いただく場合は、以下のことをお守りください。

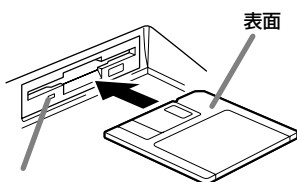
フロッピーディスクの種類

- 3.5インチの2DD、または2HDフロッピーディスクがご使用になれます。

フロッピーディスクの挿入/取り出し

フロッピーディスクの入れかた

- フロッピーディスクのラベルを貼る面の大きい方(表面)を上にして、イラストのように、ディスクを挿入口にカチッと音がするまでていねいに差し込みます。



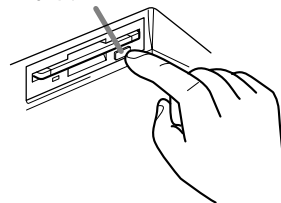
ユーズランプ

電源を入れると、そのディスク挿入口左下のユーズランプは点灯し、フロッピーディスクドライブが使用可能であることを示します。

フロッピーディスクをディスク挿入口から取り出すときのご注意

- フロッピーディスクへのデータの書き込み中(下記)は、絶対に電源を切ったりフロッピーディスクを取り出したりしないでください。ディスクのデータがこわれるだけでなく、ディスクドライブユニットの故障の原因になります。
データの書き込み中とは、フロッピーディスクに関する操作中で、画面に「実行中...」「コピー中です。」「フォーマット中です。」と表示される以下の場合です。
 - データの移動やコピー、貼り付け、保存、消去 (P.42~P.44)
 - ファイル名 / フォルダ名の変更、フォルダの追加 (P.41、P.44)
 - フロッピーディスクのコピーやフォーマット(P.139)
- フロッピーディスクを取り出すときは、上記のようにデータの書き込み中でないことを確認した上で、ディスク挿入口の右下にあるイジェクトボタンをしっかりと正確に押し、フロッピーディスクが完全に出了ことを確認してから、ディスクを取り出してください。

イジェクトボタン



- イジェクトボタンを中途半端に押したり、あわてて押すと、取り出し機構が正常に動作せず、フロッピーディスクが途中で引っかかり取り出せなくなる場合があります。この場合、無理にフロッピーディスクを取り出そうとすると、ディスクがこわれたり、ディスクドライブユニットが故障したりする原因になります。このような場合は、もう一度イジェクトボタンを押し直すか、またはフロッピーディスクをディスク挿入口に完全に押し込んで、もう一度イジェクトボタンをしっかりと正確に押し直して取り出してください。
- 電源を切るときは、フロッピーディスクをあらかじめディスクドライブユニットから取り出してください。電源を切ったあと、フロッピーディスクを入れたまま長時間放置すると、ディスクが汚れ、データの読み書きにエラーが生じる原因になります。

磁気ヘッドの定期的なクリーニング

- ディスクドライブユニットは、高精度の磁気ヘッドを使用しています。ディスクドライブユニットを長時間使用していくうちに、磁気ヘッドはフロッピーディスクの磁性粉で汚れていきます。磁気ヘッドが汚れてくると、録音や再生（データの書き込みや読み取り）にエラーが生じることがあります。
- ディスクドライブユニットを良い状態でお使いいただくために、磁気ヘッドを定期的に（1カ月に1回程度）クリーニングしていただくことをお勧めします。
- 磁気ヘッドのクリーニングには、市販の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をご使用ください。なお、巻末のヤマハ電気音響製品サービス拠点で、ヤマハ推奨の「乾式ヘッドクリーニングディスク」をお求めいただくこともできます。

フロッピーディスクについてのご注意

フロッピーディスクの取り扱いと保管

- (持ち運ぶ場合も含めて)必ず市販のケースに入れて保管し、落としたり、物を乗せたり、折り曲げたりしないでください。また、ディスク内部に水やホコリなどが入らないようにしてください。
- 直射日光の当たる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所に置かないでください。

- ディスクのシャッターを開けて、内部の磁性体に触れないでください。
- 磁気を帯びた物(テレビやスピーカーなど)には近づけないでください。
- シャッターやディスク自体が変形しているようなフロッピーディスクは、使用しないでください。
- フロッピーディスクには、ラベル以外のもの(メモなど)を貼らないでください。ラベルは所定の位置に、はがれないようにしっかりと貼ってください。

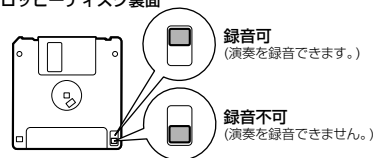
誤消去防止

- フロッピーディスクには、誤ってデータを消してしまうことがないように、ライトプロテクトタブ(書き込み禁止タブ)が付いています。

大切なデータが入っているディスクは、ライトプロテクトタブをオン(タブの窓が開いた状態)にして、書き込みができないようにしてください。

逆に、ディスクに書き込む場合は、ご使用前にディスクのライトプロテクトタブがオフになっていることをご確認ください。

フロッピーディスク裏面



データのバックアップ

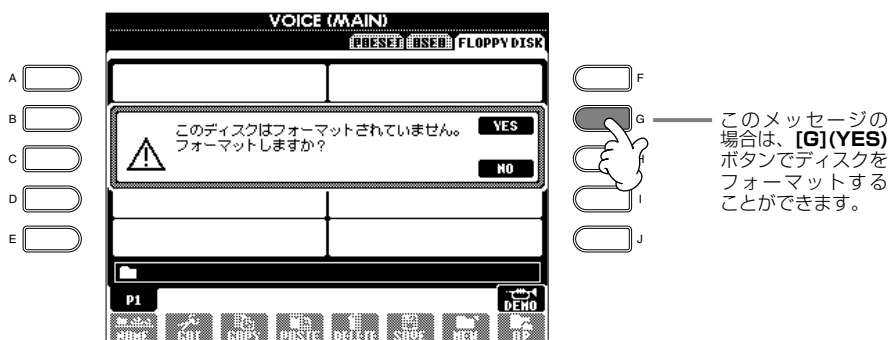
- フロッピーディスクの万一の事故に備えて、大切なデータは、バックアップとして予備のディスクに保存しておかれることをおすすめします(P.139)。
- 市販のフロッピーディスクの中には粗悪品もございます。メーカー名をご確認の上、お求めください。

フロッピーディスクのフォーマット(初期化)

新しいディスクや他の機器で使っていたディスクは、そのままでは使うことができません。この製品で使えるように、最初にフォーマット(初期化)しておく必要があります。フォーマットのしかたについてはP.139をご覧ください。

画面に表示されるメッセージについて

操作中、操作をスムーズに導くために、画面に各種のメッセージ(情報や確認など)が表示されることがあります。メッセージが表示されたら、対応するボタンを押してください。



NOTE

HELP画面(P.49)でメッセージの言語を切り替えることもできます。

目次

準備

安全上のご注意	2
取扱説明書について	6
付属品(お確かめください)	7
フロッピーディスクの取り扱い	7
画面に表示されるメッセージについて	9
目的別目次	12
PF-1000の世界へようこそ!	14
演奏前の準備	16
ペダルユニットについて	16
譜面立てについて	16
和文シートについて	16
演奏準備	17
各部の名称	18

クイックガイド

デモ曲を聞いてみましょう	20
曲(ソング)を聞いてみましょう	21
曲(ソング)の再生	21
音色(ボイス = 楽器音)を変えて弾いてみましょう	25
音色を選ぶ(メイン)	25
2つの音色を重ねる(レイヤー)	26
鍵盤を分けて別々の音色で演奏する(レフト)	27
自動伴奏を使って弾いてみましょう	28
伴奏スタイルを選ぶ	28
自動伴奏のパターンに変化をつける(セクション)	30
選んだスタイルに最適な設定を呼び出す(ワンタッチセッティング)	32
ミュージックファインダー	33
ミュージックファインダーを使う	33
ミュージックファインダーのレコード(設定データ)を検索する	34
曲(ソング)に合わせて演奏や練習をしてみましょう	36
PF-1000と合奏する	36
演奏を録音(記録)してみましょう	37

基本操作

基本操作	38
ファイル/フォルダーを選ぶ	40
ファイル/フォルダーに関する操作	41
ファイル/フォルダーに名前を付ける	41
ファイル/フォルダーを移動させる	42
ファイル/フォルダーをコピーする	43
ファイル/フォルダーを消去する	43
ファイルを保存する	44
新しいフォルダーを作ってファイルを整理する	44
1つ上の階層のページを表示させる	44
文字を入力する/ファイルのアイコンを変更する	44
[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイアルを使う	46
目的の画面をすばやく表示させる DIRECT ACCESS	47
機能説明を見る HELP	49
メトロノームを使う METRONOME	50
テンポを調節する TEMPO	50
ボタンをたたいた速さでテンポを設定する TAP TEMPO	51

本編

デモ演奏を聞く DEMO	52
音色 VOICE	54
音色を選ぶ VOICE	54
ワンタッチでピアノの設定を呼び出す PIANO	55
いくつかの音色を同時に鳴らす LAYER/LEFT	56
2つの音色を重ねる LAYER	56
鍵盤の左右を別々の音色にする LEFT	57
鍵盤で弾いた音に変化をつける VOICE EFFECT	57
ペダルを使う	58

伴奏スタイル STYLE

伴奏スタイルを再生する	59
リズムだけを鳴らす	59
音量バランスを調節する/特定のパートを消音する	61
コードの押さえ方	62
伴奏スタイルのパターンに変化を付ける MAIN A/B/C/D, INTRO, ENDING, BREAK	64
鍵盤から指を離すと同時に伴奏スタイルをストップさせる SYNC STOP	65
イントロとエンディングの種類を選ぶ INTRO/ENDING	66
伴奏セクションが切り替わったときに自動でフィルを入れる AUTO FILL IN	66
選んだ伴奏スタイルに合ったパネル設定を呼び出す ONE TOUCH SETTING	67
自動でワンタッチセッティング番号を切り替える OTS LINK	68
パネルの設定をワンタッチセッティングに登録する ONE TOUCH SETTING	68
曲ごとのおすすめ伴奏スタイルを呼び出す MUSIC FINDER	69
おすすめスタイルを検索する MUSIC FINDER SEARCH	70
レコードを編集する MUSIC FINDER RECORD EDIT	71

曲の再生 SONG

曲(ソング)の種類	73
曲を再生する	74
内蔵曲を再生する	74
ディスク曲を再生する	76
曲再生に関するその他の操作	76
特定のパートを消音する TRACK1/TRACK2/EXTRA(その他) TRACKS	77
指定の範囲を繰り返し再生する A-B REPEAT	77
楽譜を表示させる SCORE	78
歌詞を表示させる LYRICS	81

パネル設定の登録 REGISTRATION MEMORY

パネル設定を登録する REGISTRATION MEMORY	82
登録したパネル設定を本体に保存する	83
登録したパネル設定を呼び出す	84

音色(VOICE)を編集する SOUND CREATOR

操作手順	85
SOUND CREATORで設定できる項目	86

演奏を録音して曲を作る SONG CREATOR

曲の録音について	90
クイック録音	91
多重録音	92
ステップ録音 STEP RECORD	94
操作手順	94
メロディを録音する STEP RECORD (Note)	96
自動伴奏のコードチェンジを録音する STEP RECORD (Chord)	97
録音の始め方/終わり方/上書き方法を選ぶ REC MODE	99
録音した曲を編集する	100
チャンネルに関する編集をする CHANNEL	100
ノートイベントを編集する 1-16	103
コードイベントを編集する CHD	104
システムイベントを編集する SYS/EX. (SystemExclusive)	104
歌詞イベントを入力/編集する LYRICS	105
表示させるイベントの種類を選ぶ FILTER	105

伴奏スタイルを作る STYLE CREATOR

伴奏スタイルの作成について	106
スタイルファイルフォーマット(SFF)について	107
操作手順	107
リアルタイム録音 BASIC	108
ステップ録音 STEP RECORD	109
伴奏スタイルの組み立て ASSEMBLY	110
作成した伴奏スタイルを編集する	111
リズムのノリを変える GROOVE/DYNAMICS	111
チャンネル内のデータを編集する CHANNEL	113
スタイルファイルフォーマットの項目を設定する PARAMETER	114

音量バランスや音色などを調節する MIXING CONSOLE ...	116
操作手順.....	116
音量バランスや音色を設定する VOL/VOICE(VOLUME/VOICE).....	117
音色を調節する FILTER.....	118
音程を調節する TUNE.....	118
エフェクトを調節する EFFECT.....	119
エフェクトのしくみについて.....	121
便利なその他の諸設定 FUNCTION	122
操作手順.....	122
音程(ピッチ)/音律を調整する MASTER TUNE/SCALE TUNE.....	124
音程(ピッチ)を微調整する MASTER TUNE.....	124
音律(調律法)を選ぶ SCALE TUNE.....	124
曲(ソング)再生に関する設定をする SONG SETTING.....	126
自動伴奏に関する設定をする STYLE SETTING/SPLIT POINT/CHORD FINGERING ...	127
自動伴奏に関する設定をする/スプリットポイントを設定するSTYLE SETTING/SPLIT POINT	127
自動伴奏のコードの押さえ方(フィンガリング)を決める CHORD FINGERING	128
ペダルや鍵盤の音に関する設定をする CONTROLLER.....	128
ペダルに機能を割り当てる PEDAL.....	128
タッチ感を変える/移調する KEYBOARD/PANEL	130
レジストシーケンス/フリーズ/ボイスセットの設定をする	
REGIST. SEQUENCE/FREEZE/VOICE SET	131
レジストレーションメモリーを呼び出す順番を決める REGISTRATION SEQUENCE.....	131
パネル設定を固定する FREEZE	131
自動の音色設定をON/OFFする VOICE SET	132
ハーモニーやエコーの設定をする HARMONY/ECHO.....	132
PF-1000の画面をテレビ画面に映す VIDEO OUT.....	133
MIDIに関する設定をする MIDI.....	134
システム(ローカルコントロール、クロックなど)を設定する SYSTEM.....	134
MIDIデータを送信する TRANSMIT	135
MIDIデータを受信する RECEIVE.....	136
ルートチャンネルを設定する ROOT	136
コードチャンネルを設定する CHORD DETECT.....	136
その他の諸設定 UTILITY	137
フェード/メトロノーム/パラメーターロック/タップ音に関する設定をする CONFIG1 ...	137
画面調整/スピーカー/ボイスナンバー表示に関する設定をする CONFIG2	138
ディスクのコピー、フォーマット(初期化)などをする DISK.....	139
個人情報に関する設定をする OWNER.....	140
PF-1000の設定を工場出荷時の状態に戻す SYSTEM RESET	140
他の機器と接続して演奏しましょう.....	141
スピーカーから音を出さずヘッドフォンで音を聞く(PHONES 端子)	141
マイクやギターをつないで使う(MIC/LINE IN 端子)	141
外部オーディオビジュアル機器と接続する	142
ペダル(フットスイッチ)やフットコントローラーを使う(AUX PEDAL 端子)	143
外部MIDI 機器と接続する(MIDI 端子)	143
パーソナルコンピューターと接続する(MIDI 端子, TO HOST 端子)	143
MIDIって何?.....	145
MIDIでできること	147
データの互換性について.....	148
ディスクのフォーマット	148
シーケンスフォーマット	148
音色配列フォーマット	149
スタンドの取り付け方.....	150
故障かな?と思ったら.....	152
仕様.....	154
索引.....	156

準備
クイックガイド
基本操作
デモ演奏を聞く DEMO
音色 VOICE
伴奏スタイル STYLE
曲の再生 SONG
パネル設定の登録 REGISTRATION MEMORY
音色 (VOICE)を編集する SOUND CREATOR
演奏を録音して曲を作る SONG CREATOR
伴奏スタイルを作る STYLE CREATOR
音量バランスや 音色などを調節する MIXING CONSOLE
便利なその他の諸設定 FUNCTION
他の機器と接続して 演奏しましょう
資料編

目的別目次

目的に応じた説明ページを見つけるのにご利用ください。

聞く

- 内蔵曲を聞きたい 「内蔵曲を再生する」(P.74)
- ディスクに入っている曲を聞きたい 「ディスク曲を再生する」(P.76)
- デモ演奏を聞きたい 「デモ演奏を聞く」(P.52)
- 音色ごとのデモを聞きたい 「音色を選ぶ」(P.54)
- 曲(ソング)を PF-1000 独自の豊かな音色で楽しみたい 「音量バランスや音色を設定する」(P.117)

弾く

- ピアノの設定を呼び出したい 「ワンタッチでピアノの設定を呼び出す」(P.55)
- 3種類のペダルを使い分けて弾きたい 「ペダルを使う」(P.58)
- 一人一人のキーに合った伴奏をしたい 「移調する」(P.130)
- 2つの音色を組み合わせて弾きたい 「2つの音色を重ねる」(P.56)
- 右手と左手を違う音で弾きたい 「鍵盤の左右を別々の音色にする」(P.57)

音を変える

- 音に残響や広がり感などの変化を付けたい 「鍵盤で弾いた音に変化を付ける」(P.57)、「エフェクトを調節する」(P.119)
- 音量バランスなどを調節したい 「音量バランスや音色などを調節する」(P.116)
- 2つの音色を組み合わせたい 「2つの音色を重ねる」(P.56)
- 右手と左手を違う音で弾きたい 「鍵盤の左右を別々の音色にする」(P.57)
- 既存の音色を編集して、オリジナルの音色を作りたい 「音色 (VOICE) を編集する」(P.85)

伴奏を入れる

- 伴奏パートを自動演奏させたい 「伴奏スタイルを再生する」(P.59)
- おすすめの伴奏スタイルを呼び出したい 「曲ごとのおすすめ伴奏スタイルを呼ぶ」(P.69)

練習する

- 右手または左手パートの音を消して練習したい 「特定のパートを消音する」(P.77)
- 正確なテンポで練習したい 「メトロノームを使う」(P.50)

録音する

- 演奏を録音したい 「クイック録音」(P.91)、「多重録音」(P.92)
- データを入力して曲を作りたい 「ステップ録音」(P.94)

オリジナルを作る

- オリジナルの音色を作りたい.....「音色 (VOICE) を編集する」(P.85)
 オリジナルの伴奏スタイルを作りたい.....「伴奏スタイルを作る」(P.106)

マイクを使う

- マイクを接続したい.....「マイクやギターをつないで使う (MIC/LINE IN 端子)」(P.141)

設定する

- パネル設定を登録したい.....「パネル設定の登録」(P.82)
 音程、音律を調節したい.....「音程 (ピッチ)、音律を調節する」(P.124)
 曲再生について細かく設定したい.....「曲 (ソング) 再生に関する設定をする」(P.126)
 自動伴奏について細かく設定したい.....「自動伴奏に関する設定をする」(P.127)
 ペダルに機能を割り当てたい.....「ペダルや鍵盤の音に関する設定をする」(P.128)
 鍵盤の音について細かく設定したい.....「ペダルや鍵盤の音に関する設定をする」(P.130)
 PF-1000 の画面をテレビ画面に映したい.....「PF-1000 の画面をテレビ画面に映す」(P.133)
 MIDI について細かく設定したい.....「MIDI に関する設定をする」(P.134)

他の機器と接続して使う

- MIDI について.....「MIDIって何？」(P.145)
 演奏を録音したい.....「PF-1000 の音を外部オーディオ機器から出したり、外部機器で録音したりする (AUX OUT 端子)」(P.142)
 もっと大きな音を出したい.....「PF-1000 の音を外部オーディオ機器から出したり、外部機器で録音したりする (AUX OUT 端子)」(P.142)
 他の機器の音を PF-1000 から流したい.....「PF-1000 のスピーカーから外部機器の音を流す (AUX IN 端子)」(P.142)
 パソコンとつなぎたい.....「パーソナルコンピューターと接続する (MIDI 端子、TO HOST 端子)」(P.143)

スタンドを取り付ける

- スタンドを取り付けたい.....「スタンドの取り付け方」(P.150)

こんなときには

- PF-1000 で何ができるのか知りたい.....「目的別目次」(P.12)、「PF-1000 の世界へようこそ！」(P.14)
 PF-1000 を基本設定に戻したい.....「PF-1000 の設定を工場出荷時の状態に戻す」(P.140)
 メッセージが表示されたら.....「画面に表示されるメッセージについて」(P.9)
 画面中のアルファベットの読み方を知りたい.....「索引」(P.156)
 PF-1000 が故障かな？と思ったら.....「故障かな？と思ったら」(P.152)

PF-1000の世界へようこそ！

ソング

曲を再生しましょう！ (P.21、36、73)

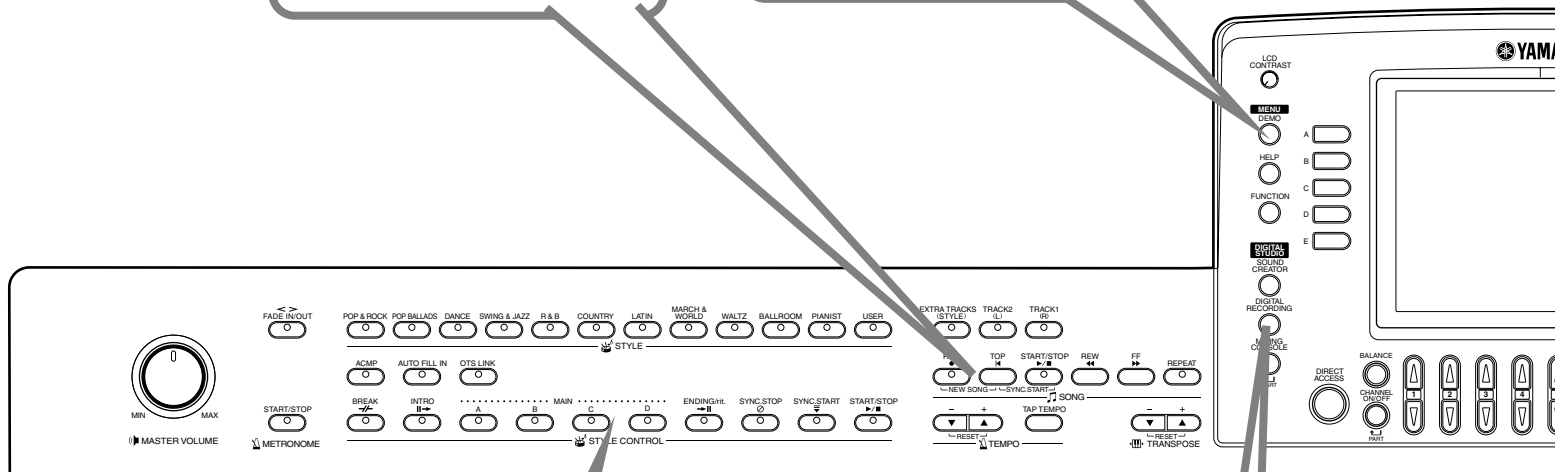
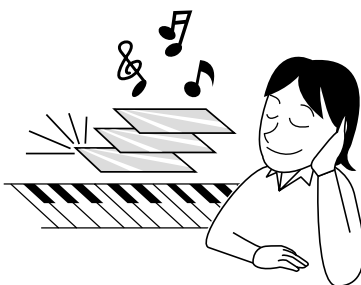
本体に保存されている曲や市販のミュージックデータをお楽しみください。



デモ

デモを見ましょう！ (P.20、52)

PF-1000の代表的な機能のご紹介を画面に表示させたり、デモ演奏を聞いたりすることができます。



スタイル

自動伴奏機能を使いましょう！ (P.28、59)

鍵盤でコードを押さえるだけで、PF-1000が伴奏パートを自動演奏してくれます。ポップス、ジャズ、ラテンなどからお好みの伴奏スタイルを選んで演奏してみましょう。



デジタルレコーディング

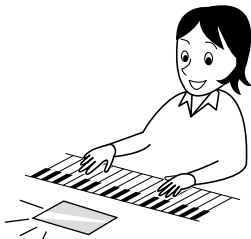
ご自分の演奏を録音しましょう！ (P.90、106)

ご自分の演奏を録音して、本体やディスクに保存しましょう。



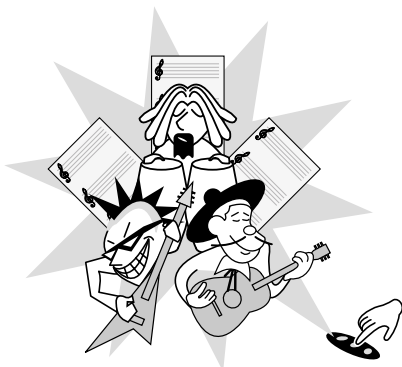
液晶画面

大型液晶画面で操作がわかりやすくなっています。



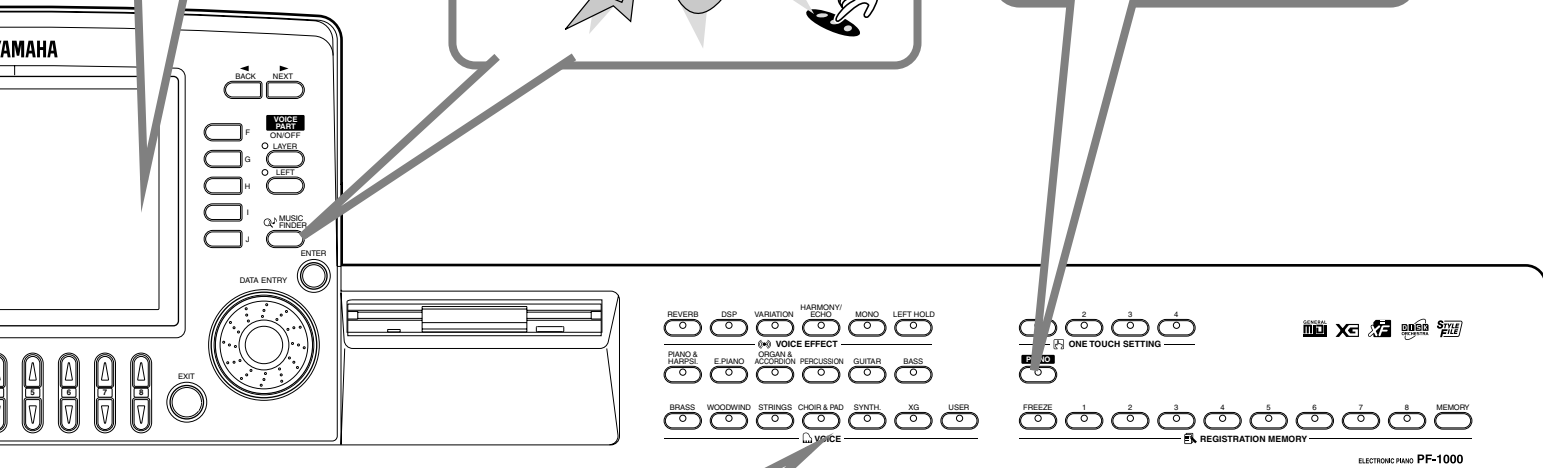
ミュージックファインダー

おすすめの伴奏スタイルを呼び出しましょう！ (P.33, 69)
曲名を指定して、おすすめの伴奏スタイルを呼び出してみましょう。



ピアノ

ワンタッチでピアノ設定を呼び出しましょう！ (P.55)
ワンタッチでピアノ設定を呼び出して、本格的なグランドピアノの音での演奏をお楽しみください。



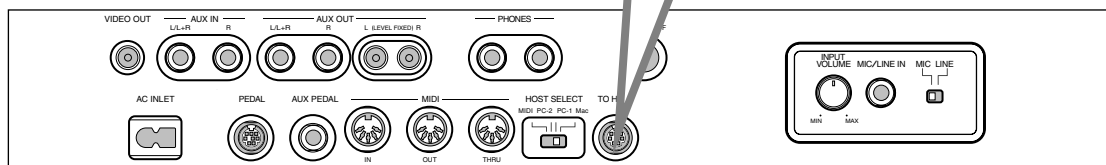
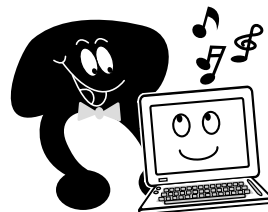
ボイス

いろいろな音色を楽しみましょう！ (P.25, 54)
ピアノをはじめ、弦楽器、管楽器など800以上のリアルで豊かな響きの音色をお楽しみください。



TO HOST端子

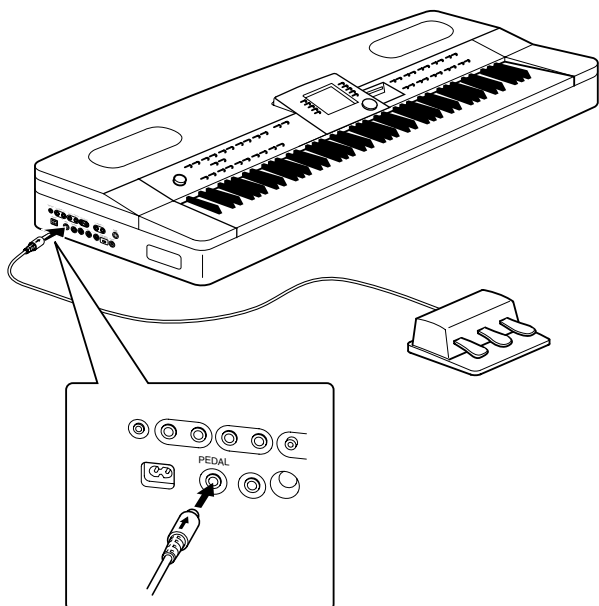
パソコンと接続しましょう！ (P.143)
PF-1000を音源に使用してパソコン用音楽ソフトを楽しみましょう。



演奏前の準備

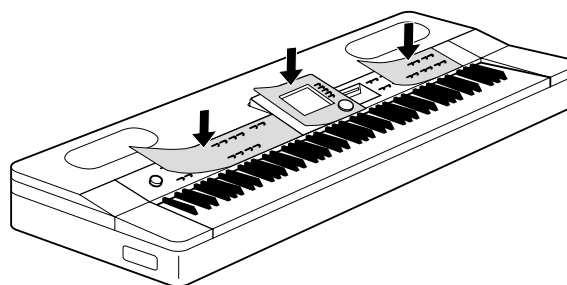
ペダルユニットについて

ペダルユニットのプラグを、矢印の面を上にしてPEDAL端子に差し込みます。



和文シートについて

パネルにのせて使用します。
シートの裏面が粘着式になっていますので、パネル面に貼り付けることもできます。



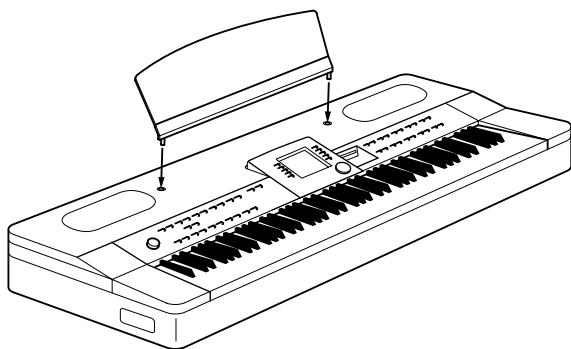
この取扱説明書の操作説明では、和文表記は英文表記の隣の()内に書かれています。

例: **[MASTER VOLUME (ボリューム)]**

パネルの表記 和文シートの表記

譜面立てについて

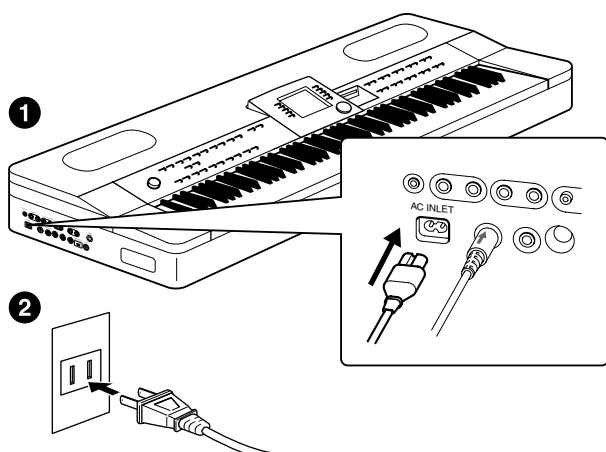
本体パネル上の穴に差し込んで使用します。



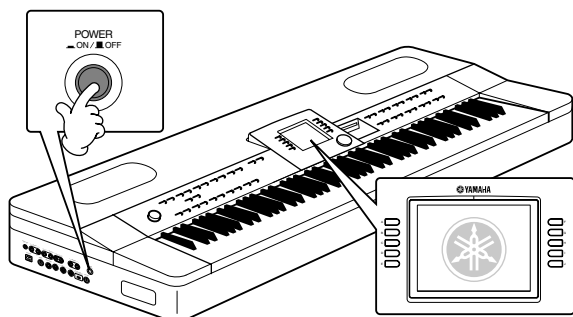
演奏準備

電源を入れる

- 1 最初に本体側のプラグを左サイドパネルのAC INLET端子に差し込み、次にコンセント側(家庭用AC100V)のプラグを差し込みます。



- 2 本体左サイドパネルの【POWER ON/OFF】ボタンを押して電源を入れます。
→ 本体パネル中央の画面に表示が現れます。



- 電源を切るときは、もう一度【POWER ON/OFF】ボタンを押します。
→ 画面の表示が消えます。

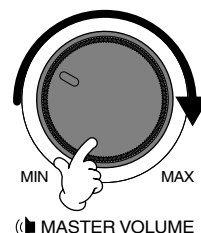
画面のコントラストを調節する

画面左の【LCD CONTRAST(LCDコントラスト)】のつまみを左右に回して、画面のコントラストを調節します。



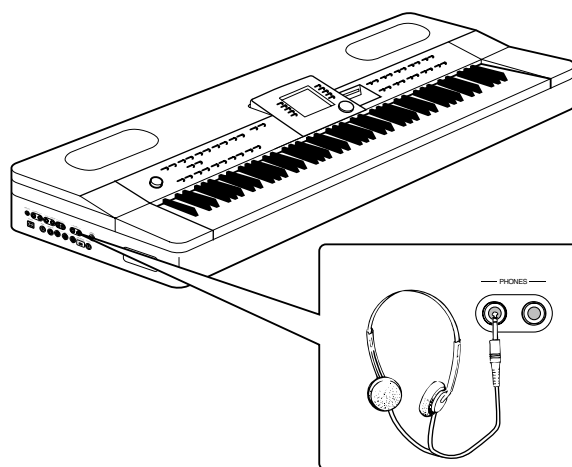
音量(ボリューム)を調節する

音量は、本体パネル左の【MASTER VOLUME(ボリューム)】ダイヤルで調節します。
実際に鍵盤を弾いて音を出しながら調節してください。



ヘッドフォンを使う

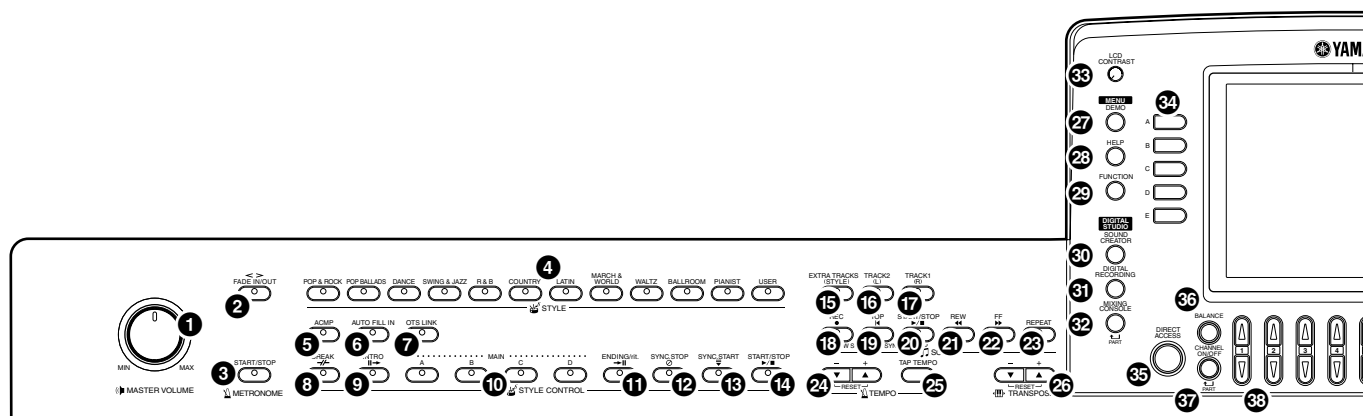
ヘッドフォンを使う場合は、本体左サイドパネルのPHONES端子に接続します。
接続端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。(1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。)



大きな音量で長時間ヘッドフォンを使用しないでください。
聴覚障害の原因になります。

禁止

各部の名称



ボリューム

- ① [MASTER VOLUME(ボリューム)] P.17
- ② [FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)] P.65

METRONOME(メトロノーム)

- ③ [START/STOP(スタート/ストップ)] P.50

STYLE(スタイル)

- ④ STYLE(スタイル) ボタン P.59

STYLE CONTROL(スタイルコントロール)

- ⑤ [ACMP(自動伴奏)] P.60
- ⑥ [AUTO FILL IN(オートフィルイン)] P.66
- ⑦ [OTS LINK(OTSリンク)] P.68
- ⑧ [BREAK(ブレイク)] P.64
- ⑨ [INTRO(イントロ)] P.31、66
- ⑩ MAIN(メイン) [A]~[D] P.64
- ⑪ [ENDING/rit.(エンディング/rit.)] P.31、66
- ⑫ [SYNC.STOP(シンクストップ)] P.65
- ⑬ [SYNC.START(シンクスタート)] P.60
- ⑭ [START/STOP(スタート/ストップ)] P.60

SONG(ソング)

- ⑮ [EXTRA TRACKS (STYLE)(その他トラック(スタイル))] P.77
- ⑯ [TRACK2 (L)(トラック2(左手))] P.77
- ⑰ [TRACK1 (R)(トラック1(右手))] P.77
- ⑱ [REC(録音)] P.90
- ⑲ [TOP(トップ)] P.76
- ⑳ [START/STOP(スタート/ストップ)] P.74
- ㉑ [REW(巻戻し)] P.76
- ㉒ [FF(早送り)] P.76
- ㉓ [REPEAT(くり返し)] P.77

TEMPO(テンポ)

- ㉔ [-][+] P.50
- ㉕ [TAP TEMPO(タップテンポ)] P.51

TRANSPOSE(トランスポーズ)

- ㉖ [-][+] P.130

MENU(メニュー)

- ㉗ [DEMO(デモ)] P.52
- ㉘ [HELP(ヘルプ)] P.49
- ㉙ [FUNCTION(ファンクション)] P.122

DIGITAL STUDIO(デジタルスタジオ)

- ㉚ [SOUND CREATOR(サウンドクリエイター)] P.85
- ㉛ [DIGITAL RECORDING(デジタルレコーディング)] P.90、106
- ㉜ [MIXING CONSOLE(ミキシングコンソール)] P.116

ディスプレイコントロール

- ㉝ [LCD CONTRAST(LCDコントラスト)] P.17
- ㉞ [A]~[J] P.40
- ㉟ [DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)] P.47
- ㊱ [BALANCE(バランス)] P.61
- ㊲ [CHANNEL ON/OFF(チャンネルオン/オフ)] P.61、76
- ㊳ [1▲▼]~[8▲▼] P.38~45
- ㊴ [BACK(バック)] P.40、46
- ㊵ [NEXT(ネクスト)] P.40、46
- ㊶ [ENTER(エンター)] P.46
- ㊷ [DATA ENTRY(データエントリー)] P.46
- ㊸ [EXIT(戻る)] P.40

VOICE PART ON/OFF(ボイスパートオン/オフ)

- ㊹ [LAYER(レイヤー)] P.56
- ㊺ [LEFT(LEFT)] P.56

MUSIC FINDER(ミュージックファインダー)

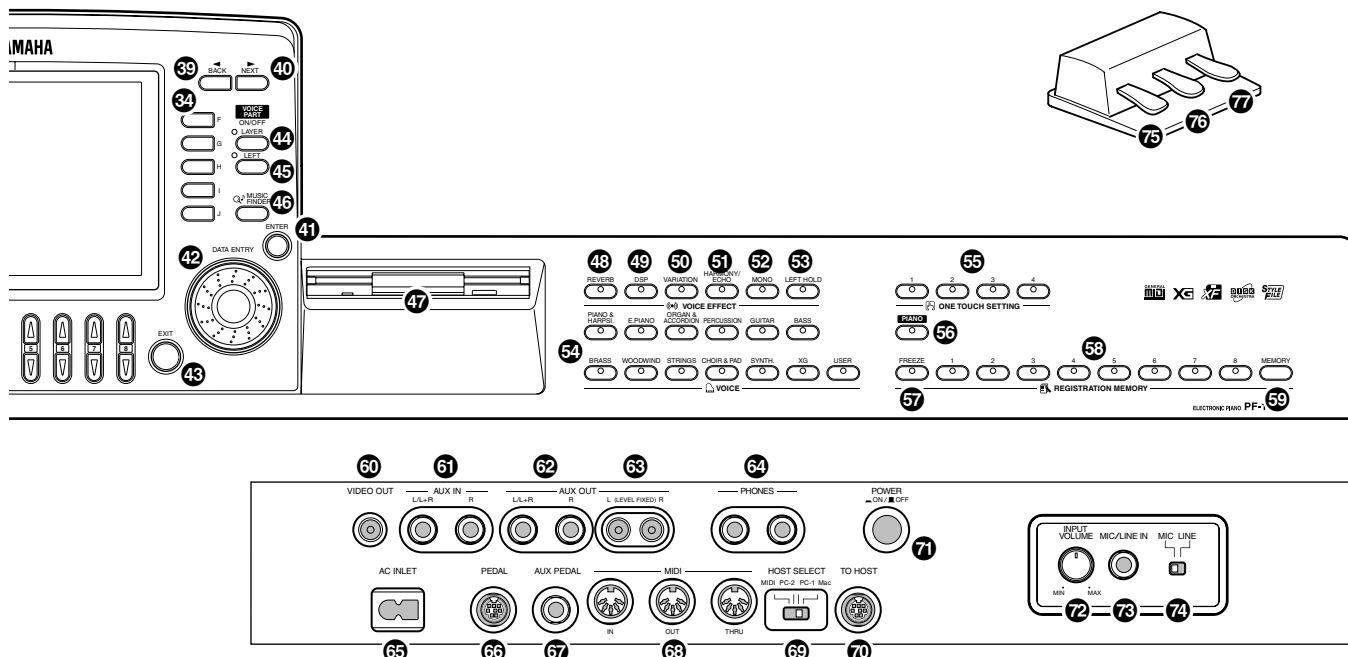
- ㊻ [MUSIC FINDER(ミュージックファインダー)] P.69

フロッピーディスクドライブ

- ㊼ 3.5"フロッピーディスクドライブ P.7

VOICE EFFECT(ボイスエフェクト)

- ㊽ [REVERB(リバーブ)] P.57
- ㊾ [DSP] P.57
- ㊿ [VARIATION(バリエーション)] P.57
- ㉑ [HARMONY/ECHO(ハーモニー/エコー)] P.58
- ㉒ [MONO(モノ)] P.58
- ㉓ [LEFT HOLD(レフトホールド)] P.58



VOICE(ボイス)

- 34 VOICE(ボイス)ボタン..... P.54

ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング(OTS))

- 55 [1]~[4]..... P.67

ピアノ設定

- 56 [PIANO(ピアノ)]..... P.55

REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)

- 57 [FREEZE(フリーズ)]..... P.84
- 58 [1]~[8]..... P.82
- 59 [MEMORY(メモリー)]..... P.82

端子

- 60 [VIDEO OUT]..... P.142
- 61 AUX IN [L/L+R] [R]..... P.142
- 62 AUX OUT [L/L+R] [R]..... P.142
- 63 AUX OUT (LEVEL FIXED) [L] [R]..... P.142
- 64 [PHONES]..... P.141
- 65 [AC INLET]..... P.17
- 66 [PEDAL]..... P.16
- 67 [AUX PEDAL]..... P.143
- 68 MIDI [IN] [OUT] [THRU]..... P.143
- 69 [HOST SELECT]..... P.143
- 70 [TO HOST]..... P.143

POWER(パワー)

- 71 [POWER ON/OFF]..... P.17

マイク端子

- 72 [INPUT VOLUME]..... P.141
- 73 [MIC/LINE IN]..... P.141
- 74 [MIC LINE]..... P.141

ペダル

- 75 レフトペダル..... P.58
- 76 ソステヌートペダル..... P.58
- 77 ダンパーペダル..... P.58

パネルのロゴマーク

PF-1000は、下記のフォーマットや機能に対応しています。

GMシステムレベル1

「GMシステムレベル1」は、メーカーや機種が異なる音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音源の音色配列やMIDI機能に関する一定の基準のことです。「GMシステムレベル1」に対応した音源やミュージックデータには、このGMマークがついています。

XG XG

「XG」は、音色配列に関する「GMシステムレベル1」をより拡張し、時代と共に複雑化、高度化していくコンピューター周辺環境にも対応させ、豊かな表現力とデータの継続性を可能とした、ヤマハの音源フォーマットです。「XG」では、音色の拡張方式やエディット方式、エフェクト構成やタイプなどを規定して、「GMシステムレベル1」を大幅に拡張しました。「XG」に対応した音源やミュージックデータには、この「XG」マークがついています。

XF XF

「スタンダードMIDIファイル」(P.148)をより拡張し、時代と共に複雑化、高度化していくコンピューター周辺機器に対応させ、歌詞表示などを可能にしたヤマハ独自のMIDIファイルフォーマットです。

DOC (ディスクオーケストラ・コレクション)

PF-1000をはじめとする、ヤマハの多くのMIDI機器で対応している音色配列フォーマットです。ディスクオーケストラ・コレクションに対応した音源やミュージックデータには、DOCマークがついています。

スタイルファイル

スタイルファイルフォーマットとは、ヤマハの自動伴奏(オートアカンパニメント)機能のノウハウを集大成した伴奏スタイルに関するフォーマットです。

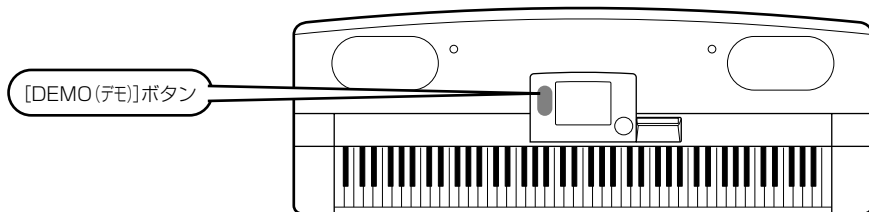
また、上記のロゴマーク以外にも、PF-1000を使用する上で関連するフォーマットについて、P.148で説明します。

クイックガイド.....

デモ曲を聞いてみましょう

本編
P.52

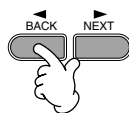
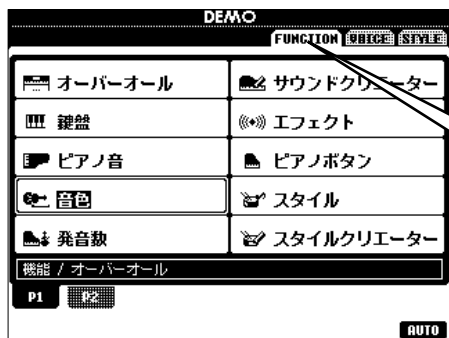
PF-1000には、音色や伴奏スタイルの特徴がわかるデモ曲が入っています。また、代表的な機能を紹介するファンクションデモによる演奏を聞くこともできます。



- ▶ **1** [DEMO(デモ)]ボタンを押すと、デモ曲が自動で選ばれてスタートします。



- ▶ **2** [BACK(バック)][NEXT(ネクスト)] ボタンを押して、デモの種類 (ファンクションデモ、ボイスデモ、スタイルデモ) を選びます。

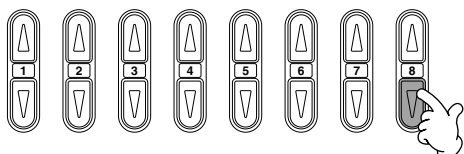
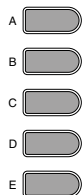
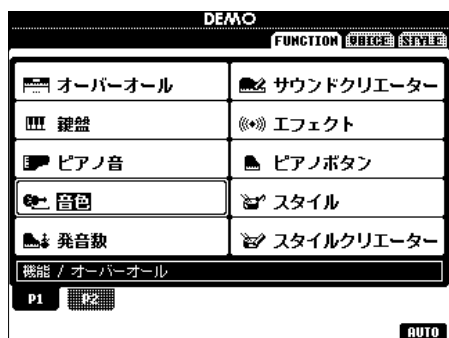


ここでは、FUNCTIONページを選びます。

NOTE

ボイスデモには、音色の特徴がよくわかる演奏が用意されています。スタイルデモには、伴奏スタイルの特徴がよくわかる演奏が用意されています。

- ▶ **3** [A]~[J]ボタン、または[B▼] (AUTO) ボタン (「ファンクション」ページのみ) を押して、デモ曲を切り替えます。ここでは、[B▼] (AUTO) ボタンを押します。ファンクションデモのすべての項目を続けて再生します。



NOTE

デモについて、詳しくはP.52を参照してください。

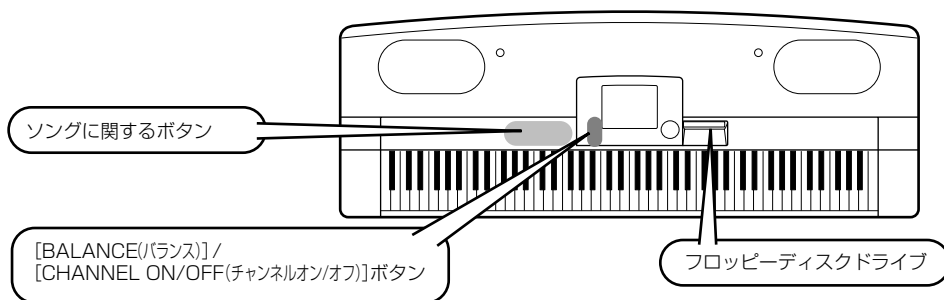
[EXIT(戻る)] ボタンを押すと、デモモードを抜け、MAIN画面に戻ります。

デモの他に、以下の演奏も試してみましょう

- ・内蔵(PRESET)曲の再生 (P.21)
- ・ディスクソングの再生 (P. 21)
- ・音色選択画面での音色のデモ (P.25)

曲(ソング)を聞いてみましょう

PF-1000には、デモ曲の他にも曲データが付いています。ここでは、プリセット(内蔵)ソングやディスクソング(ご自分で録音してディスクに保存した曲や市販のミュージックデータなど)を再生する手順を説明します。



NOTE

本体の言語モード(LANGUAGE)(P.140)を、再生する曲(ソング)のファイル名に適した言語に設定してください。

PF-1000で再生させることのできるディスクは以下のとおりです。詳しくは、P.73、148を参照してください。



GMロゴマークの付いた市販のディスクソフト



XGロゴマークの付いた市販のディスクソフト



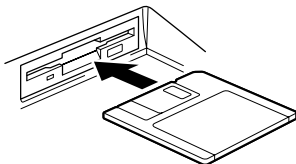
DOCロゴマークの付いた市販のディスクソフト

NOTE

曲データの容量が大きいと、PF-1000本体に読み込めず、選曲できないことがあります。容量の上限のめやすとしてはおよそ200KB ~ 300KBですが、曲データの内容により異なります。

曲(ソング)の再生

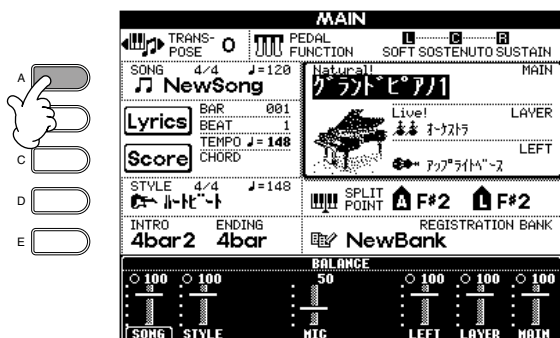
- ▶ **1** ディスクソングを再生させる場合は、ソングデータの入っているディスクをディスク挿入口に入れます。プリセットソングを再生させる場合は、次の手順に進んでください。



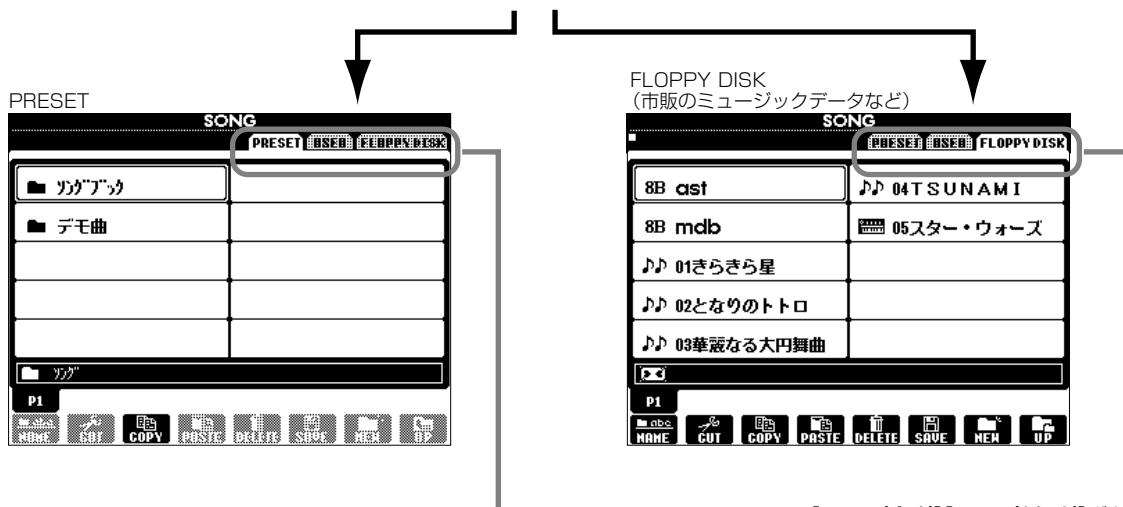
フロッピーディスクおよびディスクドライブの扱い方について、必ずP.7をお読みください。

▶ **2** [A]ボタンを押して、ソングを選択する画面を表示させます。

MAIN画面が表示されていないときは、[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]ボタンを押してから[EXIT(戻る)]ボタンを押して表示させます。



NOTE
曲の再生に限らず、音色(ボイス)や伴奏スタイル選択などの一連の操作は、MAIN画面(電源を入れたときの画面)を起点に行ないます(P.38)。



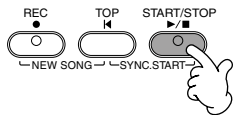
[BACK(バック)] [NEXT(ネクスト)] ボタンを押して、ソングの保存されている場所を選びます。

▶ **3** (プリセットソングを選ぶ場合)[A]ボタンを押して、プリセットソング(ソングブック)のフォルダーを選びます。ディスクソングを選択する場合は、次の手順に進んでください。



▶ **4** [A]~[J]ボタンを使って、ソングファイルを選びます。

▶ **5** SONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ])を押すと、曲がスタートします。

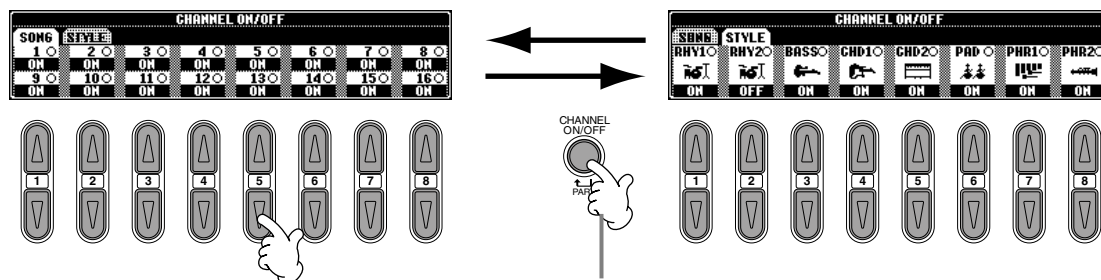


NOTE

- 曲の早送り、巻戻しをするには、**[FF(早送り)] [REW(巻戻し)]** ボタンを押します。
- 歌詞データが入っているソングデータ(スタンダードMIDIファイルフォーマット0)を再生すると、画面に歌詞を表示させることができます(P.81)。
- 楽譜を表示させることもできます(P.78)。

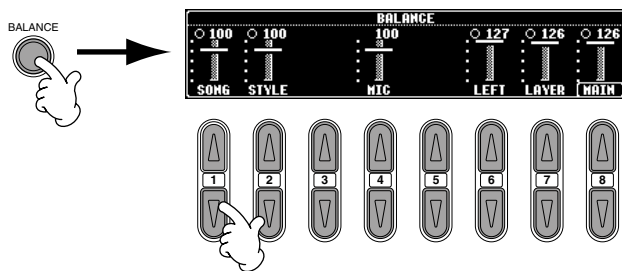
▶ **6** ソングの特定のチャンネル(楽器音)を消音(オフ)することができます。

- 1) **[CHANNEL ON/OFF(チャンネル オン/オフ)]** ボタンを押します。
 - 2) 消音したいチャンネルに対応する**[1~8▲▼]** ボタンを押します。
- 消音を解除する場合は、もう一度**[1~8▲▼]** ボタンを押します。



STYLEが選ばれているときは、**[CHANNEL ON/OFF(チャンネル オン/オフ)]** ボタンを押してSONGを選びます。

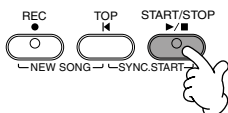
- ▶ **7** パートごとの音量(バランス)を調節します。
- 1) [BALANCE(バランス)] ボタンを押します。
 - 2) 音量を調節したいパートに対応する[1~8▲▼]ボタンを押します。



NOTE

[MIXING CONSOLE(ミキシングコンソール)]ボタンを押すと、ミキサー画面を呼び出して、詳細を設定することができます (P.116)。

- ▶ **8** SONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ]) ボタンを押して、曲をストップします。

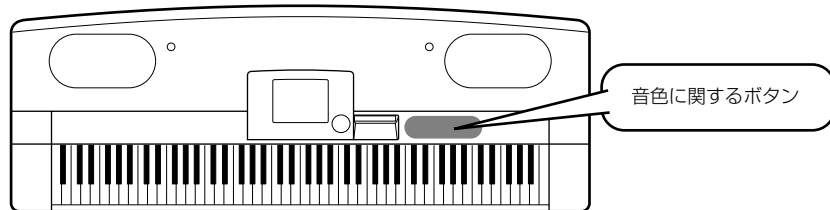


NOTE

曲再生(または伴奏スタイルの演奏)のスタート時やストップ時に [FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)]ボタン (P.65) を押すと、フェードイン(鳴り始めは小さく、だんだん音が大きくなる効果)やフェードアウト(だんだん音が小さくなって消える効果)をかけることができます。

音色(ボイス=楽器音)を変えて弾いてみましょう

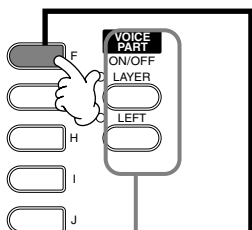
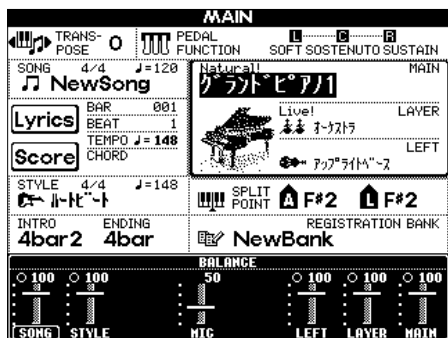
ピアノをはじめ、弦楽器、管楽器などの音色を選んで弾くことができます。
2つの音色を重ねる、左右の鍵域で別々の音色を演奏するといった使い方もできます。



音色を選ぶ(メイン)

▶ **1** [F]ボタンを押して、メイン(MAIN)ボイスを選択する画面を表示させます。

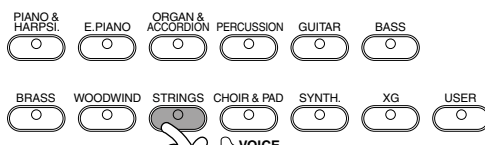
MAIN画面が表示されていないときは、[DIRECT ACCESS (ダイレクトアクセス)]ボタンを押してから [EXIT(戻る)] ボタンを押して表示させます。



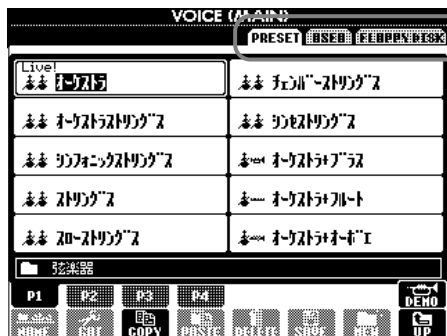
メインボイスの選択時に、他のボイスパートの音色を鳴らしたくない場合は、レイヤーパートとレフトパートをオフにしておきます。



▶ **2** 音色グループを選びます。



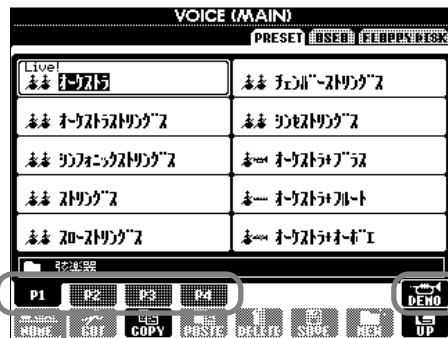
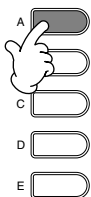
ここでは、「STRINGS (ストリングス)」を選びます。



[BACK(バック)] [NEXT(ネクスト)] ボタンを押して、ボイスの保存されている場所を選びます。ここでは「PRESET」を選びます。

▶ 3 音色を選びます。

ここでは、「オーケストラ」を選びます。



NOTE

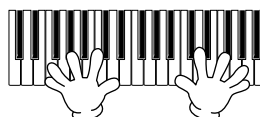
[A]～[J] ボタンをダブルクリックする(すばやく2回続けて押す)と、ボイスを選択して、MAIN画面に戻ります。

[8▲] ボタンを押すと、選択中の音色を使ったデモ演奏をスタートします。もう一度ボタンを押すと演奏はストップします。

対応するボタンでページをめくり、続きの音色を表示させることができます。音色グループによってページ数が異なります。

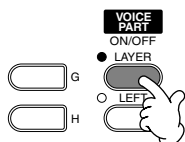
▶ 4 弾いてみましょう。

手順3の画面で、[8▲] ボタンを押せば、PF-1000に試弾させることもできます。



2つの音色を重ねる(レイヤー)

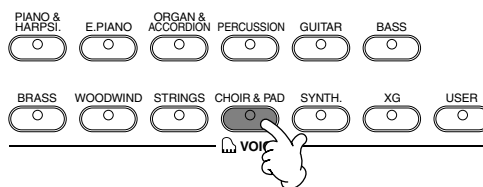
▶ 1 [LAYER(レイヤー)] ボタンを押して、レイヤーパートをオンにします。



▶ 2 [G] ボタンを押して、レイヤーパートを選びます。

▶ 3 音色グループを選びます。

ここでは、「CHOIR & PAD(クワイア&パッド)」のグループを選びます。

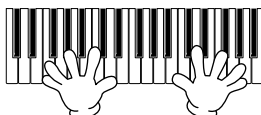


▶ 4 音色を選びます。

ここでは、「ハークワイア」を選びます。

▶ 5 弾いてみましょう。

すでに選んでいるメインと、ここで選んだレイヤーの音色を重ねて演奏することができます。

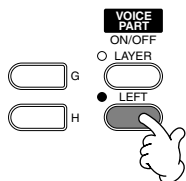


次の機能も試してみましょう。

- ボタンひとつで、ピアノ演奏に適した設定を呼び出すことができます(P.55)。
- 既存の音色を編集して、自分だけのオリジナル音色を作ることができます(P.85)。
- 音色をはじめとするパネルの設定を登録しておき、必要なときに呼び出すことができます(P.82)。

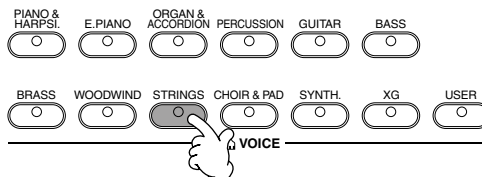
鍵域を分けて別々の音色で演奏する(レフト)

- ▶ **1** [LEFT(レフト)] ボタンを押して、レフトパートをオンにします。



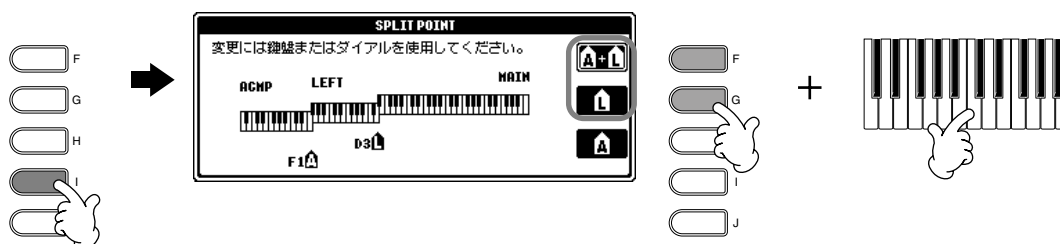
- ▶ **2** [H] ボタンを押して、レフトパートを選びます。

- ▶ **3** 音色グループを選びます。
ここでは、「STRINGS(ストリングス)」のグループを選びます。

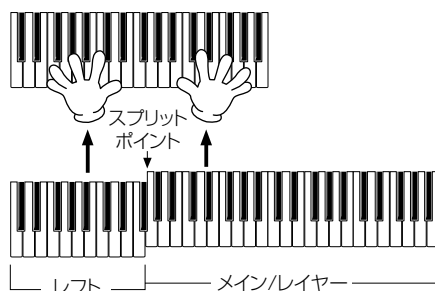


- ▶ **4** 音色を選び、[EXIT(戻る)] ボタンを押してMAIN画面に戻ります。
ここでは、「シンフォニックストリングス」を選びます。

- ▶ **5** [I] ボタンを押して、SPLIT POINT画面を表示させます。
ここでは、どの鍵盤を境に2つの音色を分けるか(スプリットポイント)を設定します。設定するには、[F] ボタンまたは[G] ボタンを押しながら、目的の鍵盤を押します(詳しくはP.127を参照してください)。



- ▶ **6** 弾いてみましょう。



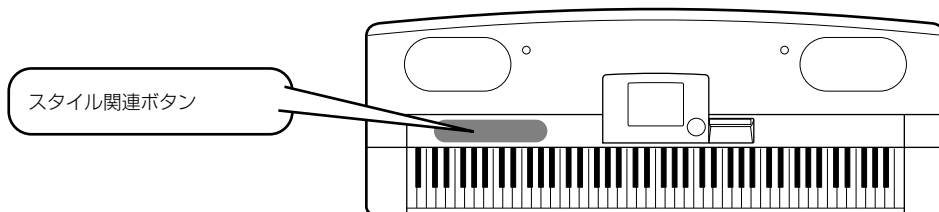
- ▶ **7** [EXIT(戻る)] ボタンを押すと、MAIN画面に戻ります。



自動伴奏を使って弾いてみましょう

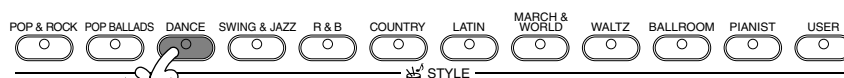
本編
P.59

PF-1000には、幅広いジャンルの伴奏スタイルが用意されています。

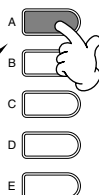


伴奏スタイルを選ぶ

- ▶ **1** 伴奏スタイルグループとスタイルを選びます。



ここでは、「DANCE(ダンス)」を選びます。



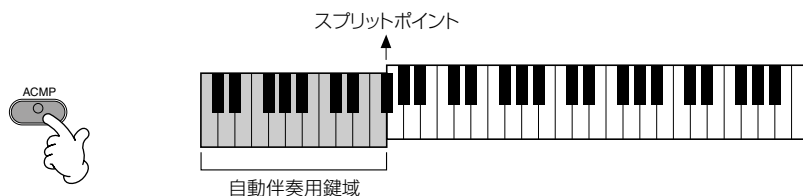
ここでは、「ユーロトランス」を選びます。



[BACK(バック)] [NEXT(ネクスト)] ボタンを押して、伴奏スタイルの保存されている場所を選びます。ここではPRESETを選びます。

- ▶ **2** **[ACMP(自動伴奏)]** ボタンを押して自動伴奏をオンにします。

鍵盤の左手側(低音鍵域)が伴奏スタイル用のコードを押さえるための鍵域になります。



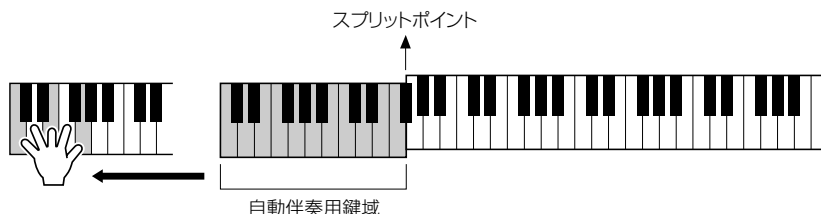
NOTE

自動伴奏と右手鍵域の境をスプリットポイントと言います。スプリットポイントの設定方法については、P.127を参照してください。

- ▶ **3** 【SYNC.START(シンクスタート)】ボタンをオンにします。



- ▶ **4** 左手でコードを押さえると伴奏スタイルがスタートします。
たとえばCMaj(Cメジャー)を押さえてみましょう。



- ▶ **5** 必要に応じて、TEMPO(テンポ)[-][+]を使ってテンポを変更します。
TEMPO(テンポ)[-][+]を同時に押すと、元のテンポに戻ります。【EXIT(戻る)】ボタンを押すと、TEMPO画面を閉じます。

NOTE

【TAP TEMPO(タップテンポ)】ボタンを使って、テンポを調節することもできます(P.51)。

- ▶ **6** 左手でコードを押さえてみましょう。
コードの押さえ方についてはP.62を参照してください。

- ▶ **7** STYLE CONTROL【START/STOP】(スタイルコントロール【スタート/ストップ】)ボタンを押すと、伴奏スタイルがストップします。

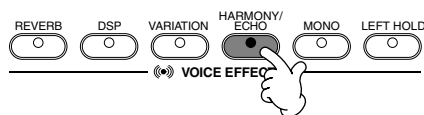
次の機能も試してみましょう。

- 内蔵の伴奏スタイルを編集したり、オリジナルの伴奏スタイルを作ったりすることができます(P.106)。
- スタイルをはじめとするパネルの設定を登録しておき、必要なときに呼び出すことができます(P.82)。

演奏するメロディに自動的に和音や装飾音を付ける(ハーモニー/エコー)

右手鍵域の演奏に対してさまざまなハーモニー音を付加したり、エコーをかけたりすることができます。

- 1** HARMONY/ECHO(ハーモニー/エコー)をオンにします。



- 2** 【ACMP(自動伴奏)】ボタンを押して自動伴奏をオンにします(P.28)。

- 3** 左手でコードを押さえ、右手でメロディを弾きます。

PF-1000にはさまざまなハーモニー/エコータイプが用意されています(P.132)。ハーモニーエコータイプは、選択中のMAINボイスによって変わります。

ハーモニー/エコーは、ボイスエフェクト機能のうちの一つです。他のボイスエフェクトも試して、演奏表現を膨らませてみましょう(P.57)。

NOTE

ハーモニー/エコータイプについては、別冊データリストを参照してください。

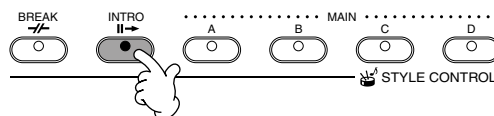
自動伴奏のパターンに変化をつける(セクション)

伴奏に変化をつけるために、伴奏パターンを切り替えるセクションボタンが用意されています。

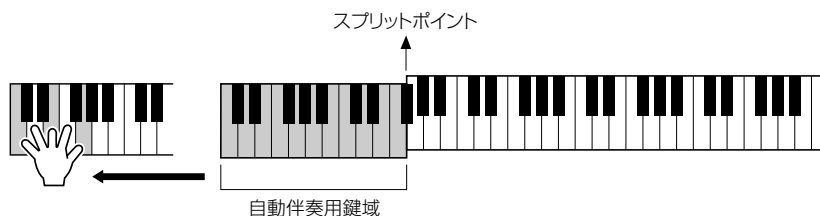
イントロ	曲の始まりに適したセクションです。イントロの演奏が終了するとメインに移ります。
メイン	曲のメイン部分の演奏で使います。他のセクションボタンを押すまで、数小節の伴奏パターンを繰り返し演奏します。
ブレイク	曲の流れに区切りをつけて演奏を盛り上げます。演奏中に[BREAK(ブレイク)]ボタンを押すと、リズム伴奏にアクセントを付けることができます。
エンディング	曲の終わりに適したセクションです。エンディングの演奏が終わると、自動伴奏はストップします。

▶ **1-4** P.28~29の「伴奏スタイルを選ぶ」と同様の操作です。

▶ **5** 【INTRO(イントロ)] ボタンを押します。

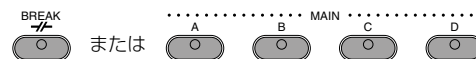


▶ **6** 左手でコードを押さえるとイントロがスタートします。
たとえばCMaj(Cメジャー)を押さえてみましょう。



イントロの演奏が終了すると、自動的にメインに移ります。

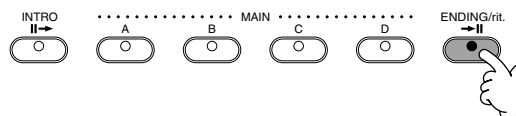
▶ **7** 目的に応じて、MAIN(メイン)[A]~[D]ボタンのどれか、または【BREAK(ブレイク)] ボタンを押します(次ページの「セクション切り替えの流れ」参照)。



▶ **8** 必要に応じて、【AUTO FILL IN(オートフィルイン)] ボタンを押してフィルインを追加します。
オンにすると、メインセクションを切り替えたときに、フィルインを再生します。

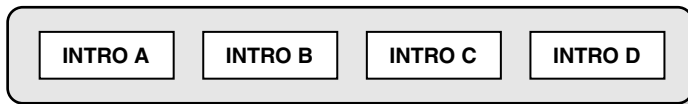


▶ **9** 【ENDING/rit.(エンディング/rit.)] ボタンを押します。
エンディングセクションの演奏に切り替わります。エンディングセクションの演奏が終わると伴奏スタイルはストップします。



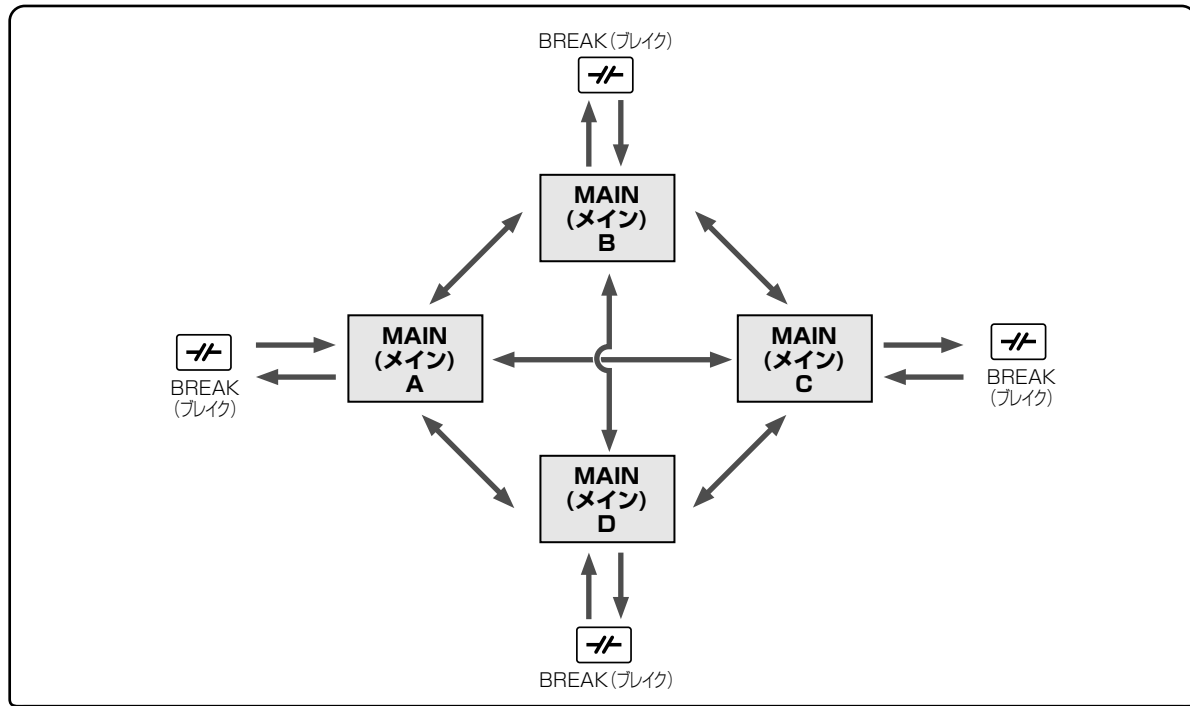
■ セクション切り替えの流れ

イントロ(P.66)



最大4パターン。スタイルごとに異なる名前が表示されます。

メインのバリエーション



↓ [ENDING (エンディング)] ボタンを押します。

エンディング(P.66)



最大4パターン。スタイルごとに異なる名前が表示されます。

エンディングセクションの再生中にもう1度 [ENDING (エンディング)] ボタンを押すと、リタルダンドして(だんだん遅くなって)自動伴奏は終了します。

NOTE

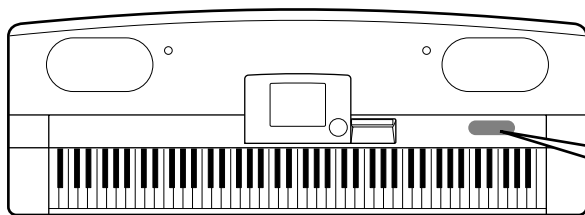
- 自動伴奏演奏中に [INTRO(イントロ)] ボタンを押すと、演奏中にイントロを再生させることができます。
- 小節内の最後の半拍(8分音符)以降に [BREAK(フレイク)] ボタンを押すと、次の小節からブレイクが始まります。オートフィルインがオンの状態でメインを切り替えたときも同様です。
- エンディングセクションから自動伴奏演奏を開始することもできます。その場合、エンディングセクションの演奏が終わっても自動伴奏はストップしません。
- エンディングの演奏中に [INTRO(イントロ)] ボタンを押すと、エンディング終了後にイントロセクションの演奏が継続されます。
- オートフィルインがオンのときは、エンディングの演奏中に MAIN(メイン) [A] [B] [C] [D] ボタンのどれかを押し、すぐにフィルインが演奏され、メインセクションの演奏が継続されます。

その他の操作

<p>フェードイン/アウト</p>	<p>伴奏スタイルの演奏(または曲再生)のスタート時やストップ時に [FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)] ボタン(P.65)を押すと、フェードイン(鳴り始めは小さく、だんだん音が大きくなる効果)やフェードアウト(だんだん音が小さくなって消える効果)をかけることができます。</p>
<p>タップテンポ</p>	<p>[TAP TEMPO(タップテンポ)] ボタンをたたくと、たたいた速さのテンポに変わります。詳しくは、P.51を参照してください。</p>
<p>シンクストップ</p>	<p>自動伴奏用鍵盤から指を離すと同時に伴奏スタイルがストップします。自動伴奏用鍵盤を押さえると同時に伴奏スタイルが再スタートします。詳しくは、P.65を参照してください。</p>

選んだスタイルに最適な設定を呼ぶ(ワンタッチセッティング)

自動伴奏に関するいろいろなパネル設定を、自動的にしてくれる機能です。



[ONE TOUCH SETTING (ワンタッチセッティング(OTS))] ボタン

▶ **1** 伴奏スタイルを選びます (P.28)。

▶ **2** ONE TOUCH SETTING (ワンタッチセッティング(OTS))[1]~[4]ボタンのどれかを押します。

音色やエフェクトなど、選択中のスタイルに最適な設定が呼び出されます (P.67)。また、自動伴奏とシンクスタートは、自動的にオンになります。

▶ **3** 左手でコードを押さえると同時に伴奏スタイルがスタートします。

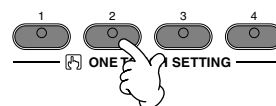
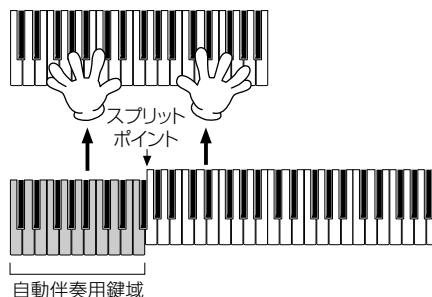
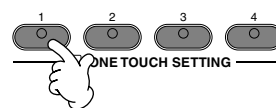
▶ **4** 右手でメロディ、左手でさまざまなコードを弾いてみましょう。

▶ **5** 他のワンタッチセッティングも試してみましょう。

自分でワンタッチセッティングの設定をつくることもできます。詳しくは、P.68を参照してください。

NOTE

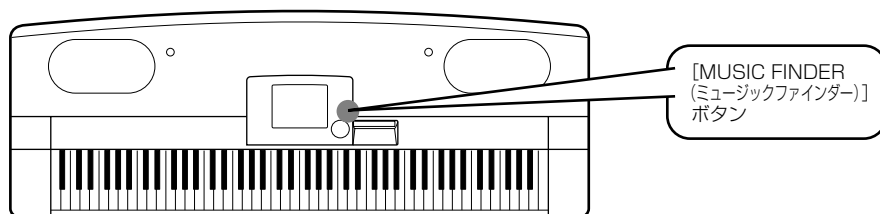
OTS=One Touch Settingの略です。



- OTSリンク機能を使うと、メインセクションを切り替えたときに、自動的にワンタッチセッティングを変えることもできます (P.68)。

ミュージックファインダー

本編
P.69



演奏したい曲名から、PF-1000がおすすめの音色や伴奏スタイルを呼び出す機能です。曲に合う伴奏スタイルがうまく探せない場合に便利です。

ミュージックファインダーを使う

- ▶ **1** [MUSIC FINDER(ミュージックファインダー)] ボタンを押します。

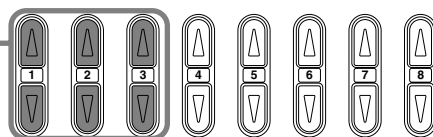


- ▶ **2** レコード(設定データ)を選びます。

MUSIC	STYLE	BEAT/TIME	RECORD NO.	SEARCH
69 Summers Long	ワトロック	4/4	144	
A Bossa Out Of Tune?	ボサノバ	4/4	132	
A Brand New Day Of A W	70's"イソコ1	4/4	120	
A Bridge To Cross Trou	ムビ"ロ"ラト"	4/4	80	
A Cosy Life In Italy	イタリア"ラト"	4/4	88	
A Feeling Of Love Toni	8ビ"ロ"ラト"1	4/4	78	
A Feeling Of Love Toni	ムビ"ロ"ラト"	4/4	76	
A Fire Lighter	ワトロック	4/4	129	
A Flowers Kiss?	アコースティック"ラト"	3/4	158	
A Greek Called Zorba	ギリシア"ラト"	4/4	50	
A Jolly Good Fellow	ジャズ"ラト"	6/8	112	
A Little Caribbean Love	カリブ"ラト"	4/4	95	
A March For Radetsky	ワルツ"ラト"1	4/4	110	
A Nickel In The Nickel	ジャズ"ラト"2	4/4	200	

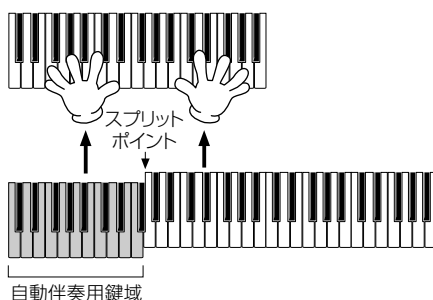
[BACK(バック)] [NEXT(ネクスト)] ボタンを押して、目的のレコードのページを選びます。ここでは、ALLを選びます。

レコードを選びます。



ここでは、[1▲▼]~[3▲▼]ボタンを押して、曲名からレコードを選びます。

- ▶ **3** 伴奏スタイルに合わせて弾いてみましょう。



NOTE

手弾き音色の変更も同時にする場合は、OTSリンク(P.68)をオン、OTS LINK TIMING(P.127)をREAL TIMEに設定してください。

[EXIT(戻る)]ボタンを押して、MAIN画面に戻ります。

ミュージックファインダーのレコード(設定データ)を検索する

ミュージックファインダーの検索機能を使って、曲名やキーワードからレコードを探ることができます。

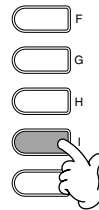
- ▶ **1** [MUSIC FINDER(ミュージックファインダー)] ボタンを押します。



- ▶ **2** [I] ボタンを押して、MUSIC FINDER SEARCH画面を表示させます。

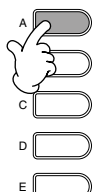
NOTE
SEARCH1 で検索した結果は SEARCH1 ページに、SEARCH2 で検索した結果はSEARCH2ページに表示されます。

MUSIC FINDER			
MUSIC	STYLE	BEAT	TEMPO
89 Summers Long	ル・トロク	4/4	144
A Bossa Out Of Tune?	ボサノヴァ	4/4	132
A Brand New Day Of A W	70'sソフトラク	4/4	120
A Bridge To Cross Trou	ルビノワッド	4/4	80
A Cosy Life In Italy	ソフトラク	4/4	88
A Feeling Of Love Toni	8ビートソフトラク	4/4	78
A Feeling Of Love Toni	ルビノワッド	4/4	76
A Fire Lighter	ル・トロク	4/4	129
A Flowers Kiss?	アコースティックソフトラク	3/4	158
A Greek Called Zorba	ソフトラク	4/4	50
A Jolly Good Fellow	ソフトラク	6/8	112
A Little Caribbean Love	ソフトラク	4/4	95
A March For Radetsky	ソフトラク	4/4	110
A Nickel In The Nickel	ソフトラク	4/4	200



NOTE
文字の入力方法については、P.45を参照してください。

- 4** ここでは、[A] ボタンを押して曲名を入力する画面を表示させます。



ここでは、ANYを選びます。

MUSIC FINDER SEARCH 1

MUSIC: CLEAR

KEYWORD: CLEAR

STYLE: CLEAR

BEAT: ANY 2/4 3/4 4/4 6/8 OTHER

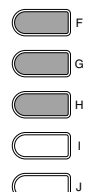
SEARCH AREA: ALL FAVORITE SEARCH1 SEARCH2

TEMPO: FROM ~ TO: ANY

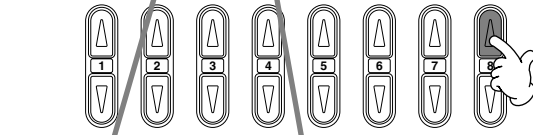
5 ~ 500 All Time Hits Ballad

START SEARCH CANCEL

- 3** 必要に応じて、[F], [G], [H] ボタンを押して、前回の検索条件を消去します。



- 5** 曲名を入力して、[8 ▲] (OK) ボタンを押します。



ここでは、ALLを選びます。

ここでは、ANYを選びます。

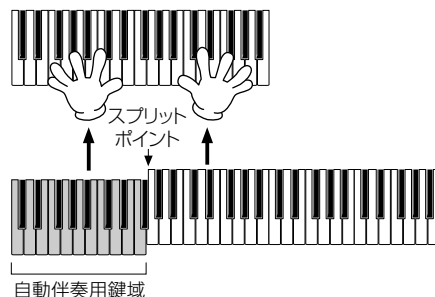
- 6** [8▲] (START SEARCH) ボタンを押します。条件を満たすレコードが表示されます。

MUSIC

かな換

あ	か	さ	た	な	は	OK
ま	や	ら	わ	。、	DELETE	CANCEL

▶ 7 レコードを選び(P.33の手順2参照)、伴奏スタイルに合わせて弾いてみましょう。



【EXIT(戻る)】ボタンを押すと、MAIN画面に戻ります。

自分でオリジナルのミュージックファインダーの設定をつくり、フロッピーディスクに保存することもできます。

ミュージックファインダーのデータの保存と読み込み

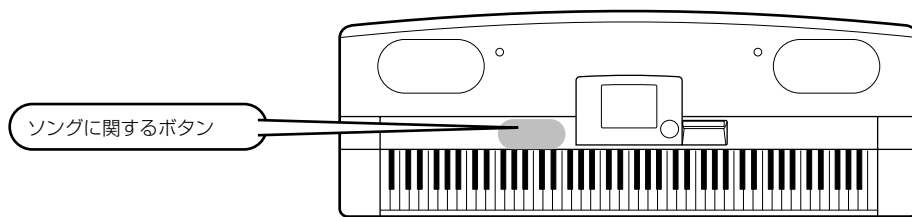
ミュージックファインダーのデータを保存するには、UTILITYの**SYSTEM RESET**画面(P.140)から、MUSIC FINDER **オープン/セーブ**画面を開き、ボイスなどの**オープン/セーブ**画面と同様の操作で行ないます(P.38、44)。データを読み込む場合もMUSIC FINDER **オープン/セーブ**画面で行ないます。レコードは、置き換えることも追加することもできます(P.71)。

上記の方法は、ミュージックファインダーのデータを一括で扱います。これとは別に、スタイルファイルのセーブ、ロード時には、そのスタイルファイルを使用しているミュージックファインダーのデータが更新(保存/追加)されます。フロッピーディスクに保存したスタイルファイルをUSERドライブにコピーまたは移動する(P.42、43)と、そのスタイルの保存時に記録されたレコードが、自動的にPF-1000に追加されます。

- 曲名からだけでなく、スタイルやキーワードから検索することもできます(P.70)。

曲(ソング)に合わせて演奏や練習をしてみましょう

本編
P.73



PF-1000と合奏する

ここでは、曲(ソング)のメロディ(右手)部分を消音して、PF-1000と合奏してみましょう。

- ▶ **1-4** P.21~23の「曲の再生」と同様の操作です。
- ▶ **5** [TRACK1(R)](トラック1(右手)) ボタンを押して、メロディ部分を消音(オフ)します。



NOTE

左手の部分を消音する場合は、[TRACK2(L)](トラック2(左手)) ボタンを押します。

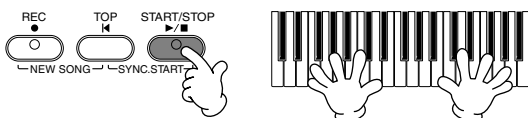
- ▶ **6** 演奏の際に楽譜を表示させる場合は[C]ボタンを、歌詞を表示させる場合は、[B] ボタンを押します。MAIN画面が表示されていないときは、[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]ボタンを押してから [EXIT(戻る)] ボタンを押して表示させます。



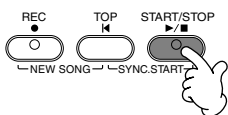
NOTE

歌詞データを含んでいないソングを選んでいるときは、歌詞は表示されません。

- ▶ **7** SONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ]) ボタンを押して、曲をスタートさせ、消音した部分を弾きましょう。



- ▶ **8** SONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ]) ボタンを押して、曲をストップします。



NOTE

イントロのない曲を演奏する場合は、シンクスタートの機能を使います。[TOP(トップ)] ボタンを押しながらSONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ]) ボタンを押すと、シンクスタート待機状態になります。メロディパートの演奏をはじめると、自動的に曲の再生もスタートします。

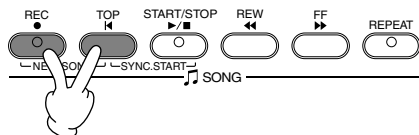
NOTE

PF-1000がメロディパートも演奏してしまう場合は、ソングデータのメロディパートのチャンネルを確認して、トラック1に割り当てられているチャンネルを変更してください(P.126)。また、ソング自体のチャンネルを変更することもできます(P.100)。

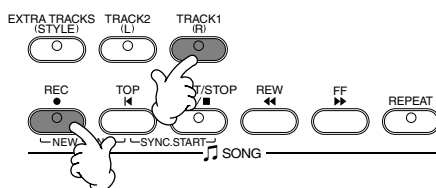
演奏を録音(記録)してみましょう

ここではクイック録音の機能を使って、自分の演奏を録音してみましょう。

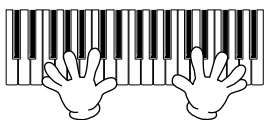
- ▶ **1-3** 録音のための音色を選びます。P.25~26の「音色を選ぶ」と同様の操作です。
- ▶ **4** [REC(録音)] ボタンと[TOP(トップ)] ボタンを同時に押します。
録音のためのNewSong (新しい曲)が選択されます。



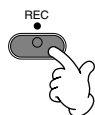
- ▶ **5** [REC(録音)] ボタンを押しながら、[TRACK1(R)(トラック1(右手))] ボタンを押します。



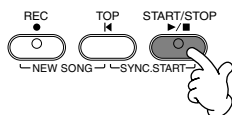
- ▶ **6** 演奏を始めると自動的に録音が始まります。



- ▶ **7** [REC(録音)] ボタンを押すと、録音がストップします。



- ▶ **8** [TOP(トップ)] ボタンで曲を先頭に戻して、SONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ])ボタンを押し、今録音した演奏を聞いてみましょう。



- ▶ **9** 必要に応じて、録音したデータを保存します(P.38,44)。



録音した演奏データは、電源を切ると失われます。大切なデータは必ず USER ドライブまたはフロッピーディスクに保存してください。

基本操作

PF-1000では、音色、伴奏スタイル、曲(ソング)、レジストレーションメモリーなどさまざまなデータを扱います。データには、あらかじめPF-1000本体に内蔵されているデータもあれば、あなたがPF-1000のさまざまな機能を使って作ったデータもあります。これらのデータはパーソナルコンピューターと同様にすべてファイルの形で保存されています。

ここでは、これらの「ファイル」を扱う仕組みをご説明します。

ファイルは、ソング、ボイス、スタイルなどの種類ごとに、それぞれの**オープンセーブ**画面で、呼び出し、保存、名前付け、移動、削除などすることができます。また、同じ種類のファイルをいくつかまとめて「フォルダー」に保存することもできます。ソング、ボイス、スタイル、レジストレーションバンクの**オープンセーブ**画面は、**MAIN**画面(電源を入れたときの画面)から、該当する[A]~[J]ボタンを押して表示させます。

ソングオープンセーブ画面(P.74)



ソングファイルを扱います。

ボイスオープンセーブ画面(P.54)



ボイスファイルを扱います。

NOTE

PF-1000では、録音したり再生したりする曲(演奏データ)のことを「ソング」と呼びます。

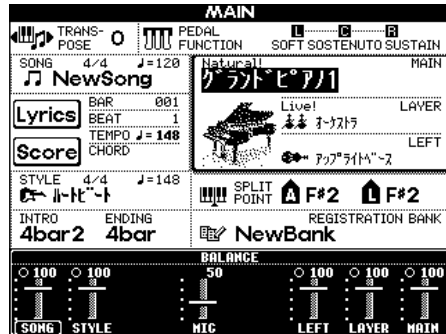
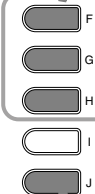
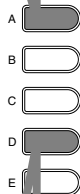
NOTE

[G][H]ボタンは、それぞれレイヤート、レフトパートのボイスの**オープンセーブ**画面を表示させる場合に押します。

NOTE

下記の**オープンセーブ**画面は、**MAIN**画面以外から表示させます(P.140)。

- SYSTEM SETUP
- MIDI SETUP
- USER EFFECT
- MUSIC FINDER

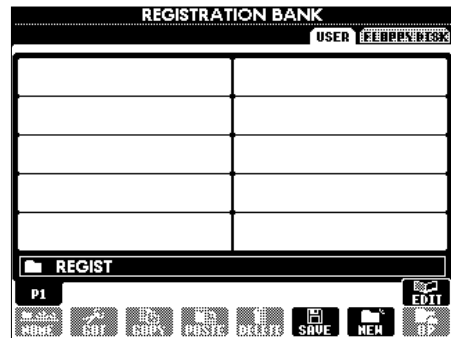


スタイルオープンセーブ画面(P.59)



スタイルファイルを扱います。

レジストレーションバンクオープンセーブ画面(P.83)



レジストレーションバンクファイルを扱います。

NOTE

MAIN画面が表示されていないときは、[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]ボタンを押してから[EXIT(戻る)]ボタンを押して表示させます。

ボイスオープンセーブ画面の例

各オープンセーブ画面には「PRESETドライブ」「USERドライブ」「FLOPPY DISKドライブ」のページがあります。

PRESETドライブ

あらかじめPF-1000本体に内蔵されているデータがファイルとして保存されています。プリセットのファイルは呼び出すことはできますが、書き替えることはできません。プリセットのファイルを編集して、あなたのオリジナルファイルを作り、USER/FLOPPY DISKドライブに保存することはできます。

USERドライブ

PF-1000のいろいろな機能を使ってあなたが作ったデータを、ファイルとして保存します。必要に応じてPF-1000本体から呼び出します。

FLOPPY DISKドライブ

PF-1000のいろいろな機能を使ってあなたが作ったデータを、ファイルとしてディスクに保存します。必要に応じてフロッピーディスクドライブにディスクを入れて呼び出します。市販のディスク曲(ミュージックデータ)もここから呼び出すことができます。



PRESET、USER、FLOPPY DISKドライブを切り替えます。

1つ上の階層を表示させます。この画面からは、音色フォルダー(グループ)を選ぶページを表示させることができます。

ファイル

本体に内蔵されているデータや、あなたが作ったデータの保存形式です。

カレントメモリー

音色ファイルを選んだときに、音色が呼び出されるメモリー領域です。また、SOUND CREATORを使って音色を編集するのもカレントメモリー上で行なわれます。編集された音色は、必ずUSER/FLOPPY DISKドライブにファイルとして保存してください。保存しないと、電源を切ると消えてしまいます。曲を録音したり(P.90)、伴奏スタイルを作ったり(P.106)するのもカレントメモリー上で行なわれます。これらのデータも、必ずUSER/FLOPPY DISKドライブにファイルとして保存してください。保存しないと、電源を切ると消えてしまいます。

ファイル/フォルダーを選ぶ

画面に表示されているファイルを選んでみましょう。ここでは、例として音色ファイルを選んでみます。

まず、**VOICE [PIANO & HARPSI.]**(ボイス[ピアノ&ハープシコード]) ボタンを押して、ファイルが保存されている画面(VOICE (MAIN) 画面)を表示させます。この画面は、ファイル(音色ファイル)を呼び出したり保存したりする「オープンセーブ画面」です。**[PRESET]**にはPF-1000にあらかじめ内蔵されている音色があり、**[USER]**や**[FLOPPY DISK]**には**SOUND CREATOR**であなたが作ったオリジナル音色を保存することができます。

1 「PRESET」「USER」「FLOPPY DISK」を選びます。

NOTE
[A]~[J] ボタンをすばやく2回押す(ダブルクリックする)と、ファイルを選んでからMAIN画面に戻ります。

NOTE
[ENTER(エンター)] ボタンをすばやく2回押す(ダブルクリックする)と、ファイルを選んでからMAIN画面に戻ります。

NOTE
[LANGUAGE]で「JAPANESE」を選んでいるとき(P.49, 140)にユーザードライブかディスクドライブに保存したファイル名は、「JAPANESE」以外に切りかえたと漢字やかなが文字化けします。その逆の場合も「` (ウムラウト)」や「` (アクセント)」、記号などが文字化けします。また、フロッピーディスクの場合にはこれら文字化けするファイルは読み出せなくなります。PF-1000で保存したファイルが入ったフロッピーディスクをパソコンで使用する時、異なる言語のOSを使用すると同様の問題が起こることがあります。言語を切り替えながら使用する場合は、この点十分ご留意ください。

2 ページをめくります。
画面にページが6ページ以上ある場合は、下のようになります。

↓ [NEXT]を押す ↑ [PREV]を押す

3 ファイル/フォルダーを選びます。
ファイル/フォルダーを選ぶ方法として、次の2種類があります。

- **[A]~[J] ボタンを押す**
使いたいファイル/フォルダー(上の画面の場合)は音色ファイルの横にあるアルファベットボタン[A]~[J]を押します。
- **[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイヤルと[ENTER(エンター)]ボタンを使う**
[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイヤルを回すと、ファイル/フォルダー名を囲む枠が移動します。使いたいファイル/フォルダー(上の画面の場合)は音色ファイルに枠を移動させ[ENTER(エンター)]ボタンを押すと、確定されます。

[EXIT(戻る)] ボタンを押してMAIN画面に戻ります。
[EXIT(戻る)]ボタンは、現在表示させている画面を閉じて1つ前の画面に戻すボタンです。

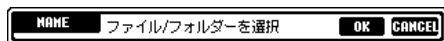
小画面の閉じ方
下記のような画面上の一部に表示される小さな画面も、**[EXIT(戻る)]**ボタンで閉じることができます。

ファイル/フォルダーに関する操作

ファイル/フォルダーに名前を付ける

ファイル/フォルダーの名前を書き替えます。書き替えができるのは、[USER][FLOPPY DISK]ページのファイル/フォルダーだけです。

- 1** [1▼](NAME)ボタンを押します(P.38)。
NAME画面が表示されます。

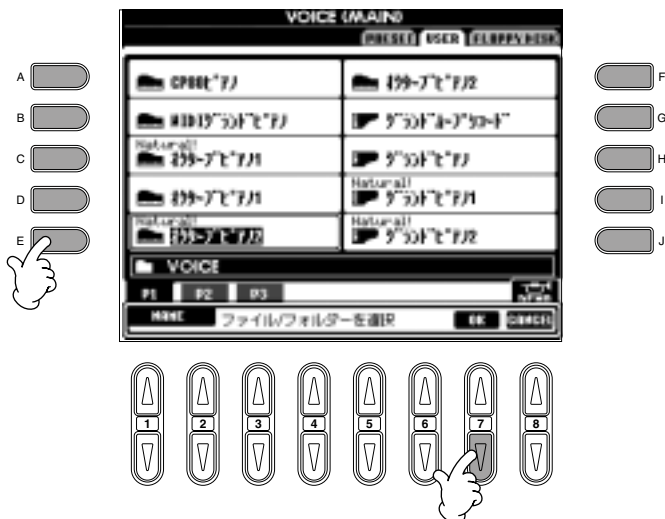


NOTE

半角英数字で最大50文字(かな漢字の場合は25文字)のファイル/フォルダー名を設定することができます。この文字数には下記のアイコンID、拡張子も含まれます。

- 2** 名前を書き替えたいファイル/フォルダーを選んで[7▼](OK)ボタンを押します。

現在選ばれているファイル/フォルダーの表示が反転しますが、他のファイル/フォルダーを選びたいときは[A]~[J]ボタンのどれかを押します。
中止するときは、[8▼](CANCEL)ボタンを押します。



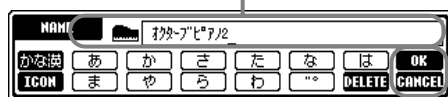
NOTE

PF-1000のファイル名は、パーソナルコンピュータでは下記のように表示されます。ここでアイコンID、拡張子を変更すると、アイコンが変更されたりファイルが正常に扱われなくなったりします。

ABCDE.S002.MID
 ファイルID アイコンID 拡張子

ファイル/フォルダーの名前を入力(P.45)します。

END

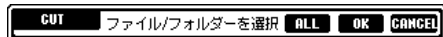


[8▲](OK)ボタンを押します。
中止するときは、[8▼](CANCEL)ボタンを押します。

ファイル/フォルダーを移動させる

ファイル/フォルダーを移動させます。移動できるのは、「USER」「FLOPPY DISK」ページのファイル/フォルダーだけです。

- 1** [2▼](CUT)ボタンを押します(P.38)。
CUT画面が表示されます。



NOTE

FLOPPY DISK ページからカットしたファイル/フォルダーを、別のディスクに直接ペーストすることはできません。別のディスクにペーストしたいときは、カットしたファイル/フォルダーを一度USERページにペーストしてから、ディスクを入れ替えてFLOPPY DISKページにペーストしましょう。

- 2** カットしたいファイル/フォルダーを選びます。

現在選ばれているファイル/フォルダーの表示が反転しますが、他のファイル/フォルダーを選びたいときは[A]～[J]ボタンのどれかを押します。ファイル/フォルダーはいくつかまとめて(別のページからも)選ぶことができます。選んだファイル/フォルダーのボタンをもう一度押すと、選択を解除することができます。選択されているページ(USER/FLOPPY DISK)の中のファイル/フォルダーをすべて選びたいときは、[6▼](ALL)ボタンを押します。[6▼]ボタンを押すとボタンの表記が「ALL OFF」に変わり、もう一度押すとファイル/フォルダーの選択を解除することができます。

NOTE

ディスクに入っているファイル/フォルダーは、別のディスクにまとめてコピーすることができません(P.139)。

NOTE

ペーストされたファイル/フォルダーは、元あったファイル/フォルダーも含めてアルファベットまたは50音順に並べ替えられて表示されます。

- 3** [7▼](OK)ボタンを押します。
中止するときは、[8▼](CANCEL)ボタンを押します。

NOTE

ディスクのファイル/フォルダーについて
オープンセーブ画面の「FLOPPY DISK」ページでは、そのオープンセーブ画面で扱える種類のファイルだけが表示されますが、ディスクにはいろいろな種類のファイルを1つのフォルダーに保存することができます。ディスクのフォルダーをカット→ペーストするときは、カットはフォルダーごとに行なわれますが、現在のオープンセーブ画面で扱える種類のファイルだけがペーストされます。

- 4** 移動先の画面を表示させます。
移動先として指定できるのは、同じオープンセーブ画面の「USER」「FLOPPY DISK」ページだけです。

- END** [4▼](PASTE)ボタンを押します。
カットしたファイル/フォルダーがペースト(貼り付け)されます。

ファイル/フォルダーをコピーする

ファイル/フォルダーをコピーします。「PRESET」「USER」「FLOPPY DISK」ページのファイル/フォルダーをコピーすることができます。

- 1** [3▼](COPY)ボタンを押します(P.38)。
COPY画面が表示されます。

COPY ファイル/フォルダーを選択 ALL OK CANCEL

NOTE

コピー機能は、個人的な使用の範囲でのみ、ご利用ください。

NOTE

FLOPPY DISKページからコピーしたファイル/フォルダーを、別のディスクに直接ペーストすることはできません。別のディスクにペーストしたいときは、コピーしたファイル/フォルダーを一度USERページにペーストしてからディスクを入れ替えて、FLOPPY DISKページにペーストしましょう。

- 2** コピーしたいファイル/フォルダーを選びます。

現在選ばれているファイル/フォルダーの表示が反転しますが、他のファイル/フォルダーを選びたいときは[A]~[J]ボタンのどれかを押します。ファイル/フォルダーはいくつかまとめて(別のページからも)選ぶことができます。選んだファイル/フォルダーのボタンをもう一度押しすと、選択を解除することができます。

選択されているページ(PRESET/USER/FLOPPY DISK)の中のファイル/フォルダーをすべて選びたいときは、[6▼](ALL)ボタンを押します。[6▼]ボタンを押すとボタンの表記が「ALL OFF」に変わり、もう一度押しすとファイル/フォルダーの選択を解除することができます。

- 3** [7▼](OK)ボタンを押します。
中止するときは、[8▼](CANCEL)ボタンを押します。

- 4** コピー先の画面を表示させます。
コピー先として指定できるのは、同じオープンセーブ画面の「USER」「FLOPPY DISK」ページだけです。

- END** [4▼](PASTE)ボタンを押します。
コピーしたファイル/フォルダーがペースト(貼り付け)されます。

ファイル/フォルダーを消去する

ファイル/フォルダーを消去します。消去できるのは、「USER」「FLOPPY DISK」ページのファイル/フォルダーだけです。

- 1** [5▼](DELETE)ボタンを押します(P.38)。
DELETE画面が表示されます。

DELETE ファイル/フォルダーを選択 ALL OK CANCEL

- 2** 消去したいファイル/フォルダーを選びます。

現在選ばれているファイル/フォルダーの表示が反転しますが、他のファイル/フォルダーを選びたいときは[A]~[J]ボタンのどれかを押します。

ファイル/フォルダーはいくつかまとめて(別のページからも)選ぶことができます。選んだファイル/フォルダーのボタンをもう一度押しすと、選択を解除することができます。

選択されているページ(USER/FLOPPY DISK)の中のファイル/フォルダーをすべて選びたいときは、[6▼](ALL)ボタンを押します。[6▼]ボタンを押すとボタンの表記が「ALL OFF」に変わり、もう一度押しすとファイル/フォルダーの選択を解除することができます。

- END** [7▼](OK)ボタンを押します。
中止するときは、[8▼](CANCEL)ボタンを押します。

「ファイル***** (ファイル名)」を削除しますか?
YES/NOが表示されます。

YES 反転表示されているファイル/フォルダーを消去します。

NO 反転表示されているファイル/フォルダーを消去せず、メッセージを閉じます。

いくつかのファイル/フォルダーを選んだときは、
「ファイル***** (ファイル名)」を削除しますか?
YES/YES ALL/NO/CANCELが表示されます。

YES/NO 反転表示されているファイル/フォルダーひとつずつについて、消去するか残すかを定めることができます。消去するときは「YES」、残すときは「NO」を押します。

YES ALL 選んだファイル/フォルダーすべてを一度に消去します。

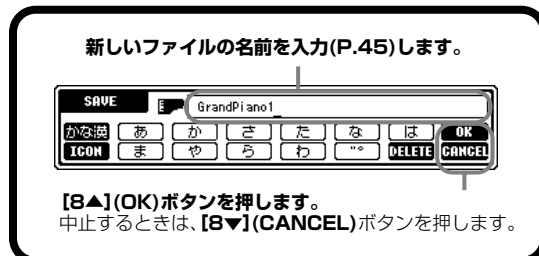
CANCEL 消去を中止します。

ファイルを保存する

カレントメモリー上(P.39)の、あなたが作った曲(ソング)、音色などをファイルとして保存します。ファイルを保存できるのは「[USER]」「[FLOPPY DISK]」ページの中だけです。

保存するデータの種類のオープンセーブ画面が開いていない場合は、「[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]」ボタンを押してから「[EXIT(戻る)]」ボタンを押してMAIN画面に戻ります。MAIN画面から該当する「[A]」～「[J]」ボタンを押してオープンセーブ画面を開き、「[USER]」か「[FLOPPY DISK]」のページを開きます(P.38、39)。

1 [6▼](SAVE) ボタンを押します。



NOTE

本体に保存できる容量は、何も保存されていないときで約580KBです。また、2DD/2HDディスクの容量は、何も保存されていないときで約720/1440KBです。これらの空き容量を、ボイス、スタイル、ソング、レジストなどで共通に使用します。

NOTE

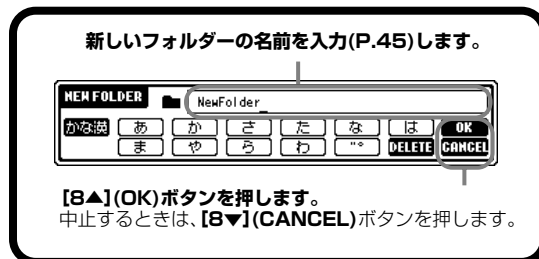
市販のDOCファイルやピアノプレーヤー用のミュージックデータ、またそれらをPF-1000で編集したデータは、「[USER]」ページに保存することはできませんが、他のディスクへコピーすることはできません。

新しいフォルダーを作ってファイルを整理する

新しいフォルダーを作ります。フォルダーには、ファイルを種類別に分けて入れておくことができます。

新しいフォルダーを作ることができるのは「[USER]」「[FLOPPY DISK]」ページの中だけです。

1 新しいフォルダーを作りたいページを表示させ、[7▼](NEW) ボタンを押します(P.38)。



NOTE

フォルダーの階層は4階層までです。保存できるファイルとフォルダーの総数は、ファイル名の長さにもよりますが、最多で800です。1つのフォルダーに保存できるファイルとフォルダーの総数は、最多で250です。

1つ上の階層のページを表示させる

[8▼](UP) ボタンを押して、現在表示させているページの1つ上の階層のページを表示させることができます。たとえば、VOICE画面のファイルを選ぶページを表示させているときは、[8▼] ボタンでフォルダーを選ぶページを表示させることができます。

文字を入力する/ファイルのアイコンを変更する

1 [1▼](NAME)、[6▼](SAVE)、[7▼](NEW) ボタンのどれかを押します(P.38)。

[1▲] ボタンで文字種を切り替えます。

FUNCTION画面の「[LANGUAGE(言語)]」(P.140)で「[JAPANESE]」を選んだ場合は、下記の文字を入力することができます。

かな漢 ひらがな(漢字変換)、全角記号

カナ 全角カタカナ、全角記号

か 半角カタカナ、半角記号

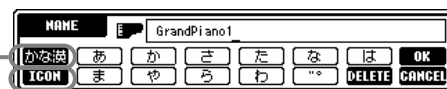
ABC 全角アルファベット(大文字、小文字)、全角数字、全角記号

ABC 半角アルファベット(大文字、小文字)、半角数字、半角記号

FUNCTION画面の「[LANGUAGE(言語)]」(P.140)で「[JAPANESE]」以外を選んだ場合は、下記の文字を入力することができます。

CASE 半角アルファベット(大文字、半角数字、半角記号)

case 半角アルファベット(小文字)、半角数字、半角記号



[1▼] ボタンで ICON SELECT 画面を表示させます。ファイル名の左に付いているアイコンを変更することができます。

文字を入力する

ファイルやフォルダーに名前を付けたり、ミュージックファインダーのキーワードを入力したりするときの、文字の入力方法をご説明します。携帯電話の文字入力のような方法で、文字を入力することができます。

1 **[DATA ENTRY(データエントリー)]**ダイアルで、文字を入力したい位置にカーソルを移動させます。

2 **[2▲]~[7▲]**、**[2▼]~[6▼]**ボタンのうち、入力したい文字のボタンを押します。

ひとつのボタンにはいくつかの文字が割り当てられており、ボタンを押すたびに文字が切り替わります。文字を確定するには、カーソルを移動させるか、別の文字入力ボタンを押します。

入力を間違ったときは、消したい文字にカーソルを移動させ、**[7▼](DELETE)**ボタンを押します。入力した文字列をすべて一度に消したいときは、**[7▼](DELETE)**ボタンを押し続けます。カーソルが反転しているときは、反転表示の範囲だけ一度に消すことができます。

3 入力した文字列を、**[8▲](OK)**ボタンで確定します。

文字の入力を中止するときは、**[8▼](CANCEL)**ボタンを押します。

NOTE

次の記号を半角でファイル/フォルダーの名前として入力することはできません。
¥\/:?*"<>|

■ 「かな漢」での漢字変換

入力した文字列が反転表示されているときに**[ENTER(エンター)]**ボタンを押すと、反転表示の範囲が漢字に変換されます。漢字を再変換するときは、**[ENTER(エンター)]**ボタンを何度か押します。文節(反転表示の範囲)を変えたいときは、**[DATA ENTRY(データエントリー)]**ダイアルを使います。漢字に変換された文字列をひらがなに戻したいときは、**[7▼](DELETE)**ボタンを押します。反転表示の文字をすべて一度に消したいときは、**[8▼](CANCEL)**ボタンを押します。入力した漢字を確定するときは、**[8▲](OK)**ボタンを押すか、次の文字を入力します。漢字変換せずに**[8▲](OK)**ボタンを押すと、ひらがなの入力が確定します。

■ 「かな漢」「カナ(全角)」での「ゝ(濁点)」「゜(半濁点)」の入力

濁点や半濁点を付けたい文字を入力し、文字を確定する前に**[6▼]**ボタンを押します。

NOTE

文字種「ABC」「CASE」「case」での「ゝ(ウムラウト)」「゜(アクセント)」などの入力方法も濁点や半濁点の入力と同様です。

■ 記号入力

カーソルを次に進めて文字を確定したあとで**[6▼]**ボタンを押すと、画面に記号一覧が表示されます。

ダイアルで入力したい記号にカーソルを移動させ、**[8▲](OK)**ボタンか**[ENTER(エンター)]**ボタンを押します。



NOTE

文字種が「かな漢」「か」以外で濁点や半濁点が付かない文字の場合は、文字入力確定前に**[6▼]**ボタンを押しても記号一覧が表示されます。

■ 数字入力

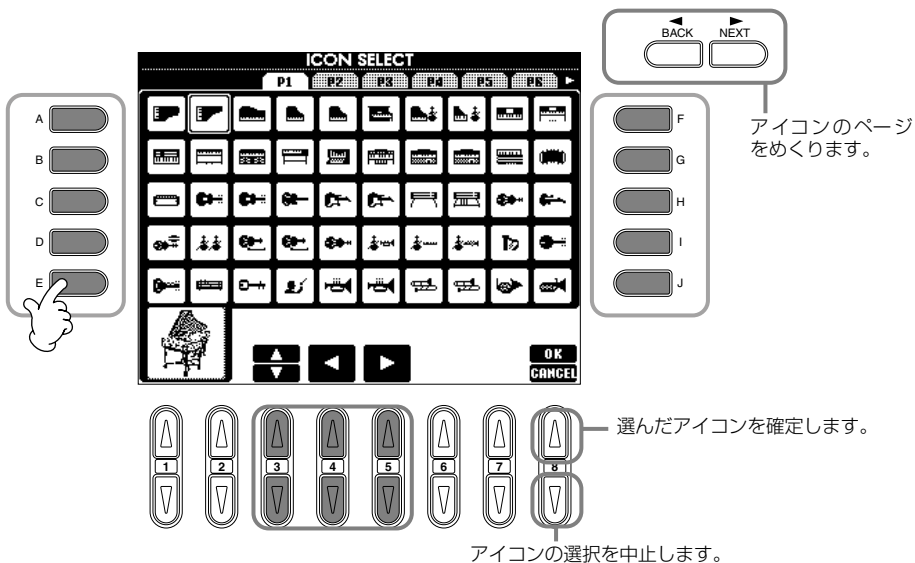
文字種のうち「A B C」(全角アルファベット)、「ABC」「CASE」(半角アルファベット大文字)「case」(半角アルファベット小文字)のどれかを選び、**[2▲]~[7▲]**、**[2▼]~[5▼]**ボタンのうち、入力したい数字に対応したボタンを押し続けます(または数字が表示されるまで繰り返し押します)。

アイコンを変更する

ファイル名の左に付いているアイコンを変更することができます。

文字入力画面(P.45)で[1▼](ICON)ボタンを押してICON SELECT 画面を表示させます。

[A]～[J]ボタン、[3▲▼]～[5▲▼]ボタンのどれかでアイコンを選び、[8▲](OK)ボタンで確定します。

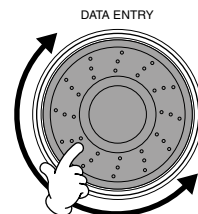
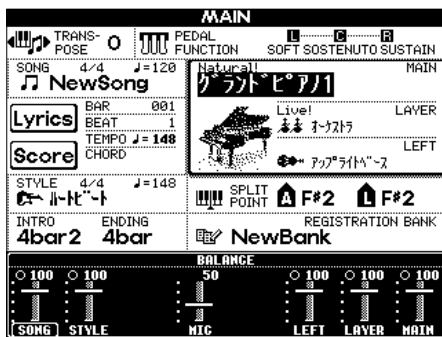


[DATA ENTRY (データエントリー)] ダイアルを使う

[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイアルを使って項目を選んだり数値を決めたりすることができます。[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイアルは、画面によって使い方が変わります。

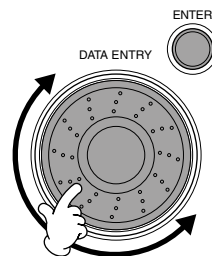
■ 数値を決める

[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイアルを回して数値を変えることができます。たとえば右のBALANCE画面では、反転表示されているパートの音量を変えます。他のパートを選びたいときは、選びたいパートの下の[▼▲]ボタンを押してから、[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイアルを回します。

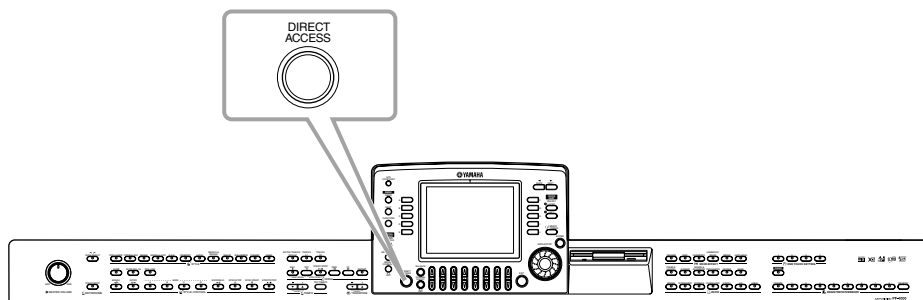


■ 項目を選ぶ

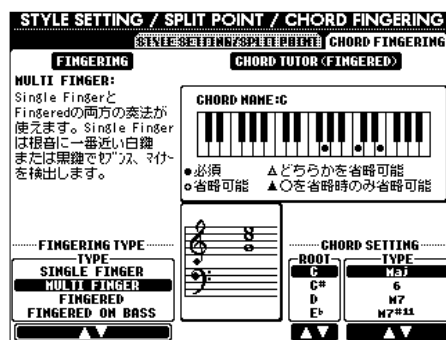
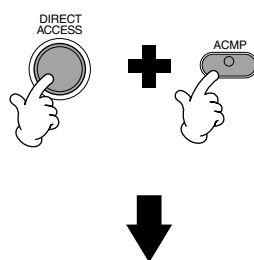
[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイアルを回して項目を選ぶことができます。選んだ項目は、[ENTER(エンター)]ボタンで確定します。たとえば右のVOICE画面では、ファイルを[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイアルで選び、[ENTER(エンター)]ボタンを押して確定します。



目的の画面をすばやく表示させる ダイレクト アクセス DIRECT ACCESS



[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)] ボタンを使って、目的の画面をすばやく表示させることができます。**[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]** ボタンを押すと、画面に目的のボタンを押すように促すメッセージが表示されます。表示させたい設定画面に対応したボタンを押します。この例では、**CHORD FINGERING**ページが呼び出されます(P.128)。



ダイレクトアクセス機能で切り替えることのできる画面については、ダイレクトアクセス一覧表(P.48)を参照してください。

NOTE

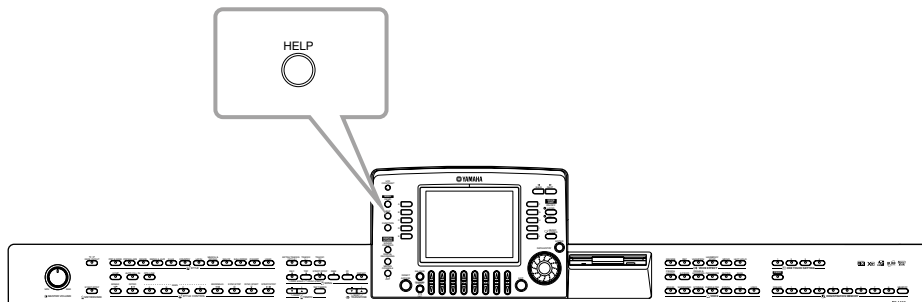
現在どの画面を表示させていても、**[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]** ボタンを押してから**[EXIT(戻る)]** ボタンを押すと**MAIN**画面が表示されます。覚えておくと便利です。

ダイレクトアクセス一覧表

[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]ボタンを押してから押すボタン		アクセスできる機能			参照ページ
STYLE(スタイル)	[POP & ROCK(ポップ&ロック)]	FUNCTION	STYLE SETTING/SPLIT POINT	SPLIT POINT (ACMP)設定	127
	[POP BALLADS(ポップ(バラッド))]				
	[DANCE(ダンス)]				
	[SWING & JAZZ(スウィング&ジャズ)]				
	[R&B]				
	[COUNTRY(カントリー)]				
	[LATIN(ラテン)]				
	[MARCH & WORLD(マーチ&ワールド)]				
	[WALTZ(ワルツ)]				
	[BALLROOM(ボールルーム)]				
[PIANIST(ピアニスト)]					
[USER(ユーザー)]					
STYLE CONTROL(スタイルコントロール)	[ACMP(自動伴奏)]	MIXING CONSOLE (STYLE PART)	VOLUME/VOICE	FINGERING TYPE選択	128
	[BREAK(ブレイク)]				
	[INTRO(イントロ)]				
	[MAIN A(メインA)]				
	[MAIN B(メインB)]				
	[MAIN C(メインC)]				
	[MAIN D(メインD)]				
	[ENDING/rit.(エンディング/rit.)]				
	[AUTO FILL IN(オートフィルイン)]				
	[OTS LINK(OTSリンク)]				
	[SYNC.STOP(シンクストップ)]				
	[SYNC.START(シンクスタート)]				
	[START/STOP(スタート/ストップ)]				
SONG(ソング)	[TRACK 1 (R) (トラック1(右手))]	FUNCTION	SONG SETTING	TRACK1 CHANNEL選択	126
	[TRACK 2 (L) (トラック2(左手))]				
	[EXTRA TRACKS (STYLE)(その他トラック(スタイル))]				
	[REPEAT(くり返し)]				
	[REC(録音)]				
	[TOP(トップ)]				
	[START/STOP(スタート/ストップ)]				
	[REW(巻き戻し)]				
	[FF(早送り)]				
	[START/STOP(スタート/ストップ)]				
METRONOME(メトロノーム)	[START/STOP(スタート/ストップ)]	FUNCTION	UTILITY	METRONOME設定	137
	[FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)]				
TEMPO(テンポ)	[TAP TEMPO(タップテンポ)]	FUNCTION	MIDI	MIDI CLOCK設定	134
	[−]				
	[+]				
TRANSPOSE(トランスポーズ)	[−]	MIXING CONSOLE	CONTROLLER	TRANSPOSE設定	130
	[+]				
MENU(メニュー)	[DEMO(デモ)]	FUNCTION	UTILITY	LANGUAGE選択	140
	[HELP(ヘルプ)]				
	[FUNCTION(ファンクション)]				
DIGITAL STUDIO(デジタルスタジオ)	[SOUND CREATOR(サウンドクリエイター)]	FUNCTION	MIDI	LCD BRIGHTNESS設定	138
	[DIGITAL RECORDING(デジタルレコーディング)]				
	[MIXING CONSOLE(ミキシングコンソール)]				
[BALANCE(バランス)]	[CHANNEL ON/OFF(チャンネルオン/オフ)]	MIXING CONSOLE (SONG PART)	VOLUME/VOICE	VOLUME設定	117
[NEXT(ネクスト)]					
[BACK(バック)]					
[ENTER(エンター)]					
[MUSIC FINDER(ミュージックファインダー)]		MUSIC FINDER	MUSIC FINDER SEARCH 1(レコードの検索)		70
[EXIT(戻る)]					
VOICE PART ON/OFF(ボイスパートオン/オフ)	[LAYER(レイヤー)]	MIXING CONSOLE	TUNE	OCTAVE設定	118
	[LEFT(レフト)]				
VOICE EFFECT(ボイスエフェクト)	[REVERB(リバーブ)]	MIXING CONSOLE	EFFECT	REVERB設定	119
	[DSP]				
	[VARIATION(バリエーション)]				
	[HARMONY/ECHO(ハーモニー/エコー)]				
	[MONO(モノ)]				
VOICE(ボイス)	[LEFT HOLD(レフトホールド)]	MIXING CONSOLE	TUNE	PORTAMENTO TIME設定	118
	[PIANO & HARPSI.(ピアノ&ハーピシコード)]	FUNCTION	VOICE SET	SPLIT POINT (LEFT) 設定	132
[E.PIANO(Eピアノ)]					
[ORGAN & ACCORDION(オルガン&アコーディオン)]					
[PERCUSSION(パーカッション)]					
[GUITAR(ギター)]					
[BASS(ベース)]					
[BRASS(金管楽器)]					
[WOODWIND(木管楽器)]					
[STRINGS(ストリングス)]					
[CHOIR & PAD(クワイア&パッド)]					
[SYNTH.(シンセサイザー)]					
[XG]					
[USER(ユーザー)]					
ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング(OTS))	[1]~[4]	−			
[PIANO(ピアノ)]		FUNCTION	CONTROLLER	KEYBOARD TOUCH選択	130
REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)	[FREEZE(フリーズ)]	FUNCTION	FREEZE		131
	[1]~[8]	REGISTRATION BANK	REGISTRATION EDIT (レジストレーションメモリー設定の編集)		83
ペダル	[MEMORY(メモリー)]	REGISTRATION BANK	REGISTRATION SEQUENCE (レジストレーションシーケンスの作成)		131
	ダンパーペダル(右)	FUNCTION	CONTROLLER	ダンパーペダルへの機能割り当て	128
	ソステナートペダル(中)			ソステナートペダルへの機能割り当て	
	レフトペダル(左)			レフトペダルへの機能割り当て	
AUXペダル	AUXペダルへの機能割り当て				

機能説明を見る ヘルプ HELP

各機能の説明を画面で見ることができます。



NOTE

【LANGUAGE】で選べる言語
 ENGLISH(英語)
 JAPANESE(日本語)
 GERMAN(ドイツ語)
 FRENCH(フランス語)
 SPANISH(スペイン語)
 ITALIAN(イタリア語)

NOTE

言語選択は、FUNCTION での「LANGUAGE(P.140)」でも行なえます。

NOTE

【LANGUAGE】で「JAPANESE」を選んでいるときにユーザードライブかディスクドライブに保存したファイル名は、「JAPANESE」以外に切りかえると漢字やかなが文字化けします。その逆の場合も「`」（ウムラウト）や「´」（アクセント）、記号などが文字化けします。また、フロッピーディスクの場合にはこれら文字化けするファイルは読み出せなくなります。PF-1000で保存したファイルが入ったフロッピーディスクをパソコンで使用するとき、異なる言語のOSを使用すると同様の問題が起こることがあります。言語を切り替えながら使用する場合は、この点十分で留意ください。

1

2

2-2 確定します。

2-1 項目を選びます。

画面に表示される言語を切り替えることができます。ここで言語を切り替えると、メッセージなどもその言語で表示されます。

3

下線の引いてある用語をダイヤルで選び【ENTER(エンター)】ボタンを押すと、詳しい説明やその項目が設定できる画面が表示されます。

BACK NEXT

ページをめくります。

ENTER

DATA ENTRY

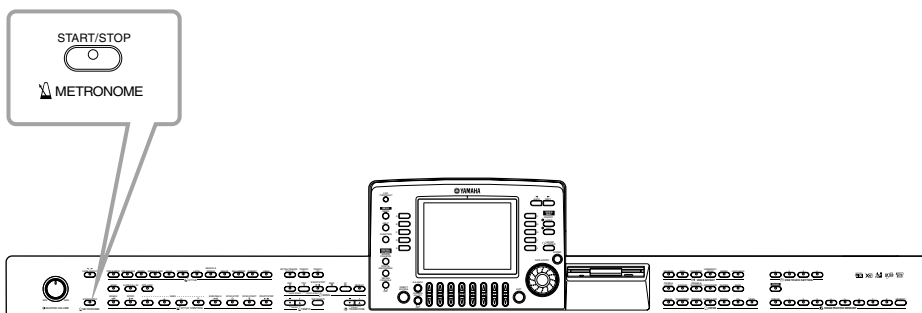
END 元の画面に戻ります。

メトロノームを使う メトロノーム METRONOME

正確なテンポで練習したいとき、また、実際のテンポを音で確認したいとき、**メトロノーム**をお使いください。

NOTE

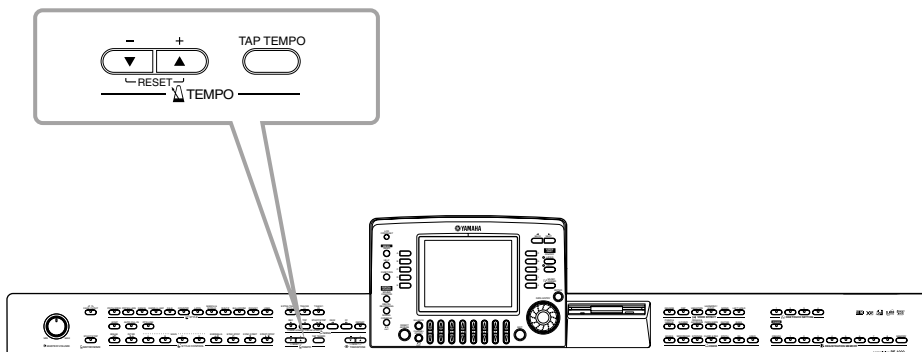
メトロノームの音、音量、拍子は変更することができます (P.137)。



METRONOME [**START/STOP**] (メトロノーム [スタート/ストップ]) ボタンを押すと **メトロノーム** がスタートします。テンポは **TEMPO** (テンポ) [-] [+]**ボタン** で調節します (P.50)。もう一度 [**START/STOP** (スタート/ストップ)] ボタンを押すと、**メトロノーム** はストップします。

テンポを調節する テンポ TEMPO

曲 (ソング) や伴奏スタイルの再生、メトロノームのテンポを調節します。



NOTE

曲 (ソング) や伴奏スタイルには、あらかじめ最適なテンポ (初期値) が決められています。

1

TEMPO (テンポ) [-] [+]**ボタン** のどちらかを押します。

2

TEMPO (テンポ) [-] [+]**ボタン** が [**DATA ENTRY** (データエントリー)] タイアルで、テンポを調節します。画面の数値は、1 分間に刻まれる 4 分音符の回数です。設定範囲は 5 ~ 500 です。テンポは、表示の数値が大きくなるほど速くなります。

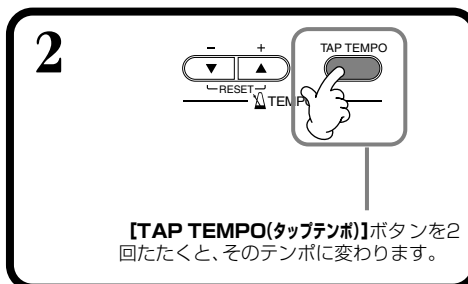
テンポを変更すると、現在の曲 (ソング) もスタイルも同じテンポになります。**TEMPO** (テンポ) [-] [+]**ボタン** を同時に押すと、それぞれの初期値に戻ります。曲とスタイルのテンポについては、「**MAIN**画面のテンポ表示について (P.51)」を参照してください。

END **TEMPO** 画面を閉じます。

ボタンをたたいた速さでテンポを設定する TAP TEMPO

実際にボタンをたたいた速さで曲や伴奏スタイルのテンポを設定することができます。

1 曲や伴奏スタイルを再生します
(P.59、74)。



NOTE

TAP=軽くたたく

NOTE

[TAP TEMPO(タップテンポ)]ボタンをたたくと、タップ音が鳴ります。タップ音は選ぶことができます(P.138)。

NOTE

曲と伴奏スタイルの停止中に[TAP TEMPO(タップテンポ)]ボタンを数回たたくと、たたいた速さで伴奏スタイルがスタートします。また、曲をシンクロスタート待機状態(P.60、74)にしておいて[TAP TEMPO(タップテンポ)]ボタンを数回たたくとたたいた速さで曲がスタートします。たたく回数は、2拍子と4拍子は4回、3拍子は3回、5拍子は5回です。

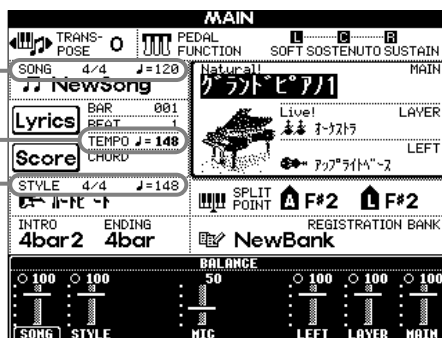
MAIN画面のテンポ表示について

MAIN画面に表示されているように、テンポは3種類あります。

曲(SONG)を選んだ時点では、曲(SONG)に設定されているテンポ(初期値)が表示されます。

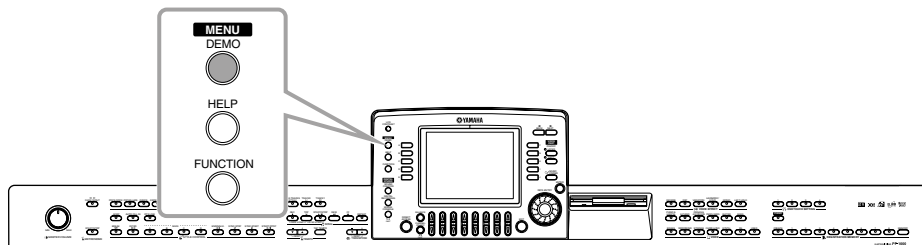
現在再生している曲(SONG)、伴奏スタイル(STYLE)、メトロノームのテンポが表示され、何も再生していないときは、伴奏スタイルのテンポが表示されます。曲と伴奏スタイルを同時に再生しているときは、伴奏スタイルのテンポが自動的に曲のテンポに同期し、そのテンポがここに表示されます。曲や伴奏スタイルを録音すると、このテンポが記憶されません。

伴奏スタイル(STYLE)を選んだ時点では、伴奏スタイル(STYLE)に設定されているテンポ(初期値)が表示されます。



デモ演奏を聞く DEMO

3種類のデモで、バラエティあふれる洗練されたPF-1000の世界を体験してみましょう。

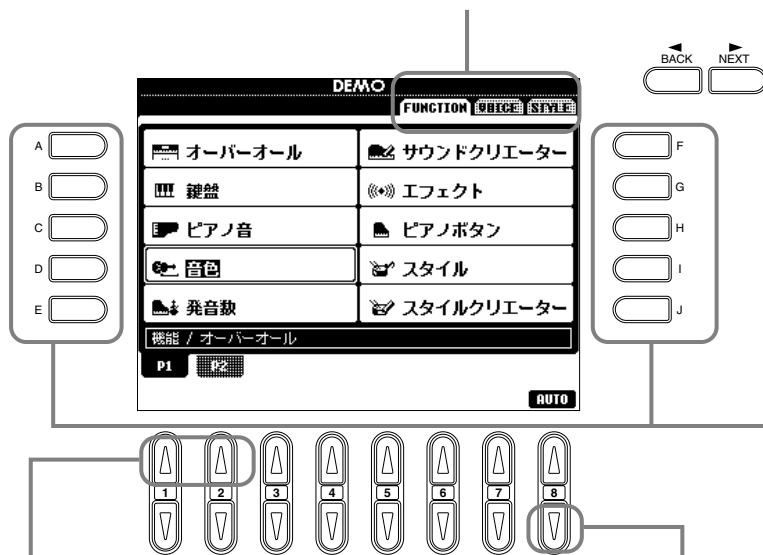


- 1** [DEMO(デモ)]ボタンを押すと、デモ曲が自動で選ばれてスタートします。



- 2** デモ曲を切り替えます。

- 2-1** [BACK(バック)] [NEXT(ネクスト)] ボタンでデモ演奏の種類を選びます。
FUNCTION.. PF-1000の代表的な機能を機能紹介文でご紹介します。
VOICE PF-1000の音色をデモ曲でご紹介します。
STYLE PF-1000の伴奏スタイルをデモ曲でご紹介します。



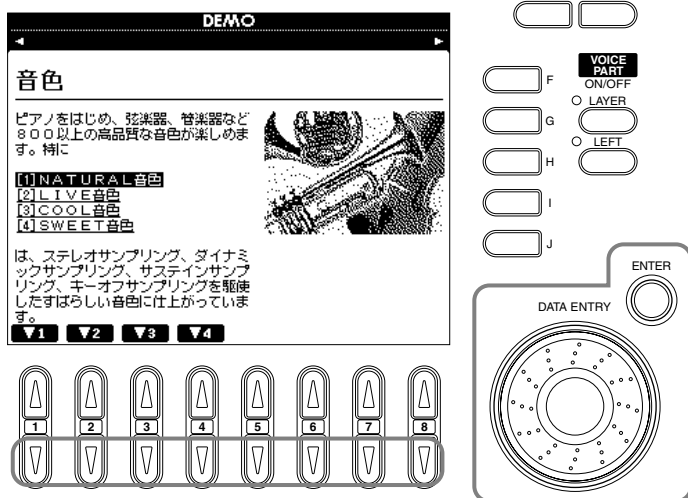
- 2-2** ページをめくります。

- 2-3** ボタンを押してデモを選び、もう一度同じボタンを押してデモをスタートさせます。

FUNCTIONの項目を続けて再生していきます。
[VOICE][STYLE]ページには**[AUTO]**ボタンはありませんが、デモ曲は、選んだ曲から順に続けて再生されます。
[AUTO]ボタンを押すと、手順3での機能体験はできません。

3 FUNCTION ページでデモを選んだ場合は、機能紹介文が表示され、デモ演奏がスタートします。

(例: FUNCTION の音色紹介画面)



番号が付いている項目を、[1▼][2▼]...ボタンか、[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイヤルと[ENTER(エンター)]ボタンで選びます。

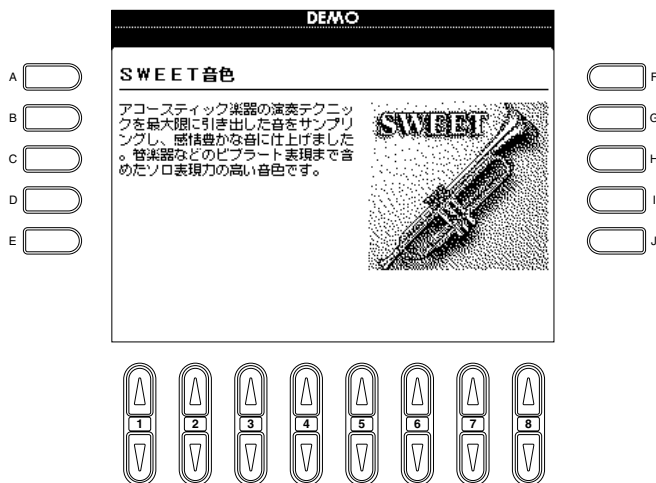
NOTE

機能紹介画面で[BACK(バック)] [NEXT(ネクスト)]ボタンを押すと、1つ前/1つ後の項目のデモ画面が表示されます。

NOTE

デモ演奏を途中で止めるときは、ソング[START/STOP(スタート/ストップ)]ボタンを押します。もう一度ソング[START/STOP(スタート/ストップ)]ボタンを押すと、ストップしていたところからデモがスタートします。巻き戻し、早送りをすることもできます(P.76)。

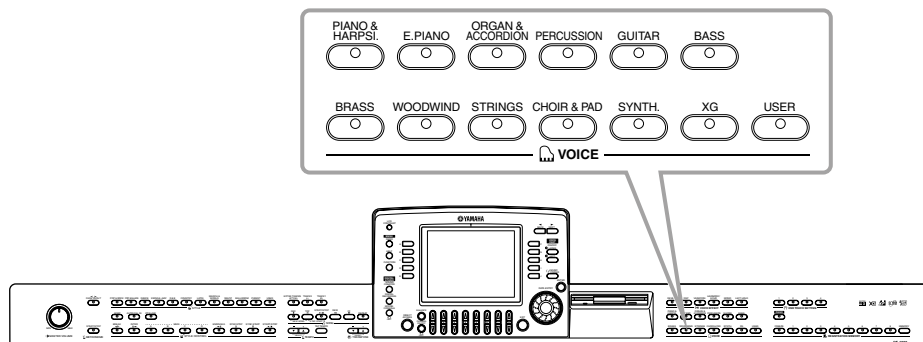
4 内容説明画面が表示されます。



MAIN画面に戻ります。

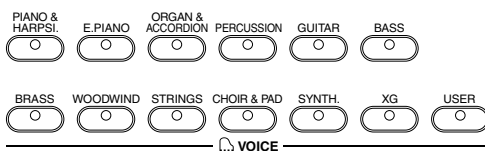
音色 VOICE

PF-1000では鍵盤楽器、弦楽器、管楽器などのいろいろな音色を選んで弾くことができます。



音色を選ぶ VOICE

1 音色グループを選びます。



NOTE

ボイス=「声」や「音」などの意味があります。PF-1000では、いろいろな楽器の「音色」のことを指します。

NOTE

音色グループを選ぶと、前回最後に選ばれていた音色が自動的に選ばれます。

NOTE

音色を選ぶと、選んだ音色に付随した効果や設定も自動的に選ばれます。効果や設定は自動的に選ばれないようにすることもできます (P.132)。

NOTE

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の付き方(タッチ感)を変えられることもできます (P.130)。

NOTE

音色の種類については、別冊の「データリスト(音色一覧)」を参照してください。

NOTE

バンクナンバー、プログラムチェンジナンバー(音色名右上の数字。左からMSB-LSB-プログラムチェンジ)は表示/非表示させることができます (P.138)。

NOTE

XG=「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハの音源フォーマットの音色配列です。

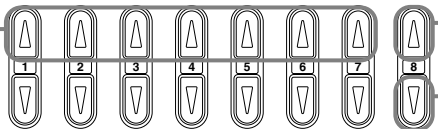
2 音色を選びます。

メイン音色 (P.25) を選ぶ画面であることを示しています。

2-1 音色が保存されている場所 (PRESET/USER/FLOPPY DISK) を選びます。



2-2 音色のページをめくります。

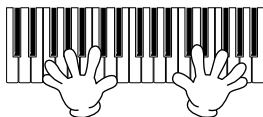


音色グループを選ぶ画面を表示します。音色グループを選びなおしたいときは、このボタンを押します。

2-3 音色を選びます。

選んだ音色のデモが鳴ります!! デモを途中で止めたいときは、もう一度このボタンを押します。

3 鍵盤を弾いて音を鳴らしてみましょう。



MAIN画面に戻ります。



音色の特長

音色名の上には、音色の特長が表示されます。

Natural! 鍵盤楽器を中心とした鍵盤演奏に適した音色を集めました。独立した音源を使用していますので、発音数の多い場合も余裕のある演奏がお楽しみいただけます。ステレオサンプリング、ダイナミックサンプリング、サステインサンプリング、キーオフサンプリングなどの技術も使われています。

Live! アコースティック楽器をステレオサンプリングで録音し、臨場感豊かな音色に仕上げました。

Cool! エレクトリック楽器の特徴をとらえて録音し、大きなメモリーを使用して仕上げました。

Sweet! アコースティック楽器の演奏テクニックを最大限に引き出した音を録音し、感情豊かな音に仕上げました。

Drums いろいろな打楽器の音色が鍵盤に割り振られているので、鍵盤でドラム演奏ができます。

SFX いろいろな効果音が鍵盤に割り振られているので、鍵盤で効果音を鳴らすことができます。

キーボードパーカッション

パーカッショングループの中からStandard KitやSFX Kitの音色を選ぶと、いろいろなドラムキット、パーカッション(打楽器)音色、SFX(効果音)音色を鍵盤で演奏することができます。Standard Kitのドラムやパーカッション音色は、各鍵盤の上にあるイラストで示されています。異なるドラムキット音色内にある同じ名前の打楽器音は、まったく同じ音色の場合もあります。

Standard KitやSFX Kitの各鍵盤への割り当てについては、別冊の「データリスト(ドラム/SFXキット一覧)」を参照してください。

ワンタッチでピアノの設定を呼び出す ピアノ PIANO

パネルの設定をピアノ演奏用に切り替えます。パネルがどんな設定になっていても、ワンタッチでピアノ設定を呼び出すことができます。

**NOTE**

メトロノームを使うこともできます (P.50)。

PF-1000のパネル設定がピアノ演奏用に切り替わります。

ピアノロック

ピアノ設定を固定(ピアノロック)すると、本体パネルのボタンを押しても設定が切り替わらないようにすることができます。たとえば、演奏会でピアノ演奏をしているときにあやまって曲(ソング)や伴奏スタイルをスタートさせてしまう、などのハプニングを防ぎます。

[PIANO(ピアノ)]ボタンを押し続けると、ピアノロックモードに入る旨のメッセージが表示されます。「OK」でピアノ設定が固定されます。

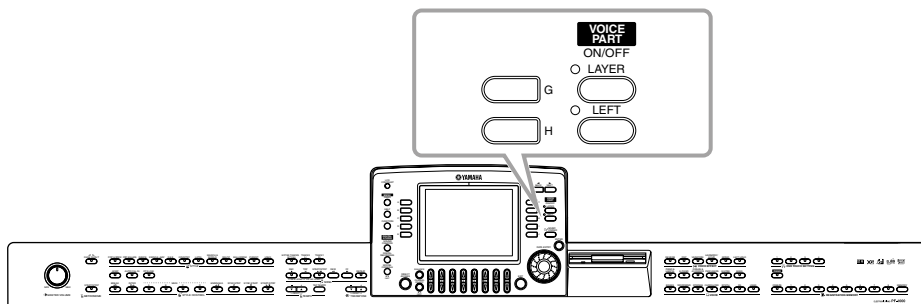
もう一度[PIANO(ピアノ)]ボタンを押し続けると、ピアノロックを解除できます。

NOTE

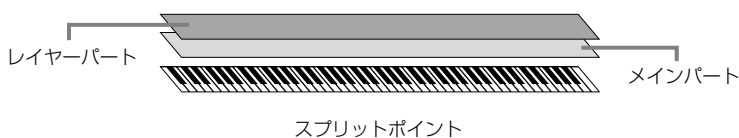
ピアノロックを解除しても、設定はピアノ演奏用のままです。

いくつかの音色を同時に鳴らす レイヤー レフト LAYER/LEFT

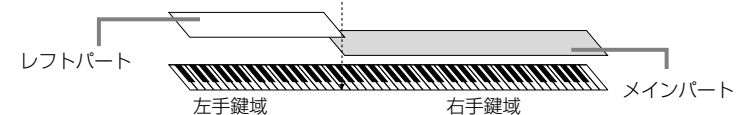
音色にはメイン/レイヤー/レフトの3つのパートがあります。この3つのパートを組み合わせることで同時に鳴らすことにより、厚みのある演奏をすることができます。



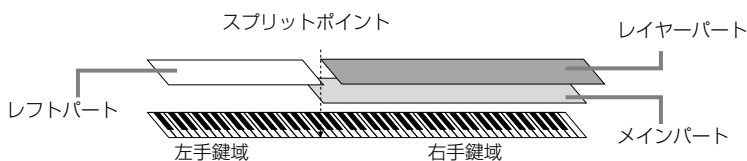
2つの音色を重ねる



鍵盤を左と右の鍵域に分けて別々の音色にする



鍵盤を左と右の鍵域に分けて別々の音色にする
+ 右の鍵域の音を重ねる



2つの音色を重ねる レイヤー LAYER

1 [LAYER (レイヤー)] を ON にします。OFF にしたいときは、もう一度このボタンを押します。

2 [G] ボタンで「LAYER」を選びます。もう一度同じボタンを押すとVOICE画面が表示され、重ねたい音色を選ぶことができます。音色の選び方はVOICE (MAIN) 画面 (P.54) と同様です。

NOTE
レイヤー = 重ね

NOTE
パネルの音色を選ぶボタンを使って、メイン、レイヤー音色をすばやく設定することができます。**VOICE (ボイス)** ボタンの1つを押しながら、もう1つ別の**VOICE (ボイス)** ボタンを押すと、最初に押したボタンに対応した音色がメインに、後に押したボタンに対応した音色がレイヤーに設定されます。

END **MAIN画面に戻ります。**

鍵盤の左右を別々の音色にする レフト LEFT

1 [LEFT(レフト)]をONにします。OFFにしたときは、もう一度このボタンを押します。

2 [H]ボタンで「LEFT」を選びます。もう一度同じボタンを押すとVOICE画面が表示され、左手鍵盤の音色を選ぶことができます。音色の選び方はVOICE (MAIN)画面 (P.54)と同様です。

END MAIN画面に戻ります。

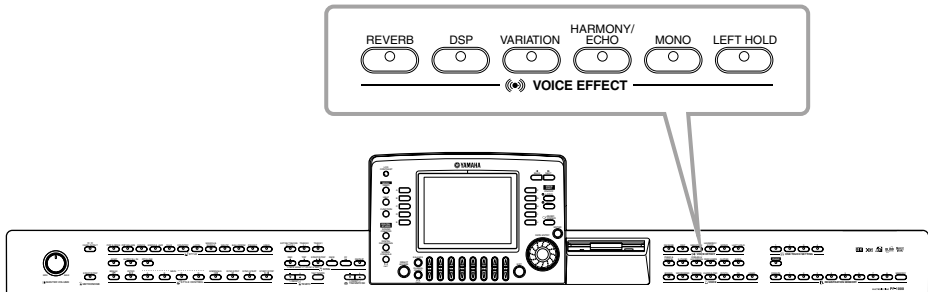
NOTE
左右の鍵盤の境め(スプリットポイント)は、好きな位置に設定できます。MAIN画面の[SPLIT POINT]ボタンでSPILT POINT画面を表示させて、設定してみましょう。操作手順はFUNCTIONのSTYLE SETTING/SPLIT POINT画面と同様です(P.127)。

NOTE
各パート(メイン/レイヤー/レフト)の音量バランスを調整することができます(P.61)。

NOTE
レイヤーとレフトは同時に使えます。その場合は、鍵盤の左右を別々の音色にしなが、右手鍵盤は2つの音色を重ねることができます。

鍵盤で弾いた音に変化をつける ボイス エフェクト VOICE EFFECT

鍵盤で鳴らす音色にエフェクト(効果)をかけることができます。



かけたいエフェクトのボタンを押してONにします。ボタンをもう一度押すと、エフェクトはOFFになります。各エフェクトについては下記を参照してください。

リバーブ
音に残響をつけます。コンサートホールなどで演奏しているような臨場感を味わうことができます。

DSP (デジタルシグナルプロセッサー)
音に臨場感や広がりをつけることができます。リバーブのようにコンサートホールで演奏しているような効果、ディストーションのように音を歪ませる効果、シンフォニックのように音に奥行きをもたせる効果をはじめ、いろいろな効果をつけることができます。DSPは現在選ばれているパート(メイン/レイヤー/レフト)に対しての設定になります。

バリエーション(REGULAR音色(P.86)のみ)
DSPのバリエーションを切り替えます。たとえば、ロータリースピーカーエフェクト(P.119)の回転スピード(スロー/ファスト)を変えることができます。

NOTE
DSPとバリエーションにはいろいろなタイプがあり、MIXING CONSOLE画面 (P.119)で選ぶことができます。MIXING CONSOLE画面では、エフェクトのかかり具合を調節することもできます。

■ ハーモニー / エコー

右手鍵域で弾いた演奏にハーモニーやエコーなどの効果を付けます (P.132)。

■ モノ

音色を単音(モノフォニック)で鳴らします。パート別(メイン/レイヤー/レフト)にON/OFFを設定できます。モノフォニックをONにして鍵盤を弾くと、先に鳴っている音は消えてあとに弾いた音が鳴るので、和音を弾いても単音で鳴ります。モノフォニックでは、管楽器などの単音発音楽器をよりリアルに演奏することができます。音色によっては、レガートに演奏したときにポルタメント効果が付きます。

このボタンがOFFのときは、複音(ポリフォニック)で鳴ります。

■ レフトホールド

左手鍵域(レフトパートONのとき)で、鍵盤を離しても音が鳴り続けるようにすることができます。ダンパーペダルを踏み続けたときと同じ効果が得られます。この機能は、特に自動伴奏機能を使っているときに効果的です。たとえば、(レフトパートONで左手鍵域の音色をストリングスにして)自動伴奏用鍵盤でコードを弾いて鍵盤から指を離しても、ストリングスパートが鳴り続けます。これにより自動伴奏に持続音パートを加えることができます。

♪NOTE

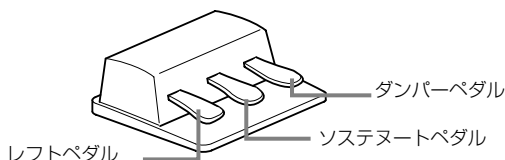
ポルタメント=高さの異なる複数の音をなめらかに音程変化させることです。

♪HINT

メイン音色かレイヤー音色のどちらかがモノフォニックでレイヤーパートがONの場合は、最高音にだけモノフォニックの音色を加えることができます。たとえば、メイン音色をポリフォニックにし、レイヤー音色をモノフォニックにして、次の組み合わせで、いくつかの音を同時に弾いてみましょう。メロディライン(最高音)にパンチが付きまます。
メイン音色 ... プラスセクション (ポリフォニック)
レイヤー音色 ... トランペット (モノフォニック)

ペダルを使う

PF-1000にはペダルユニットがついています。

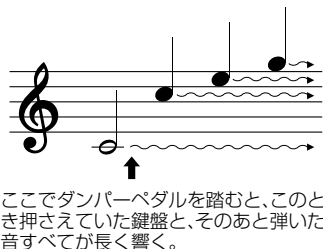


♪NOTE

すべてのペダル(別売のフットコントローラー/フットスイッチ含む)には、伴奏スタイルをスタート/ストップしたり、フィルインを入れるスイッチとして使うなど、いろいろな機能を割り当てて使う (P.128) こともできます。

■ ダンパーペダル (右のペダル)

このペダルを踏むと、鍵盤から指を離しても音を長く響かせることができます。

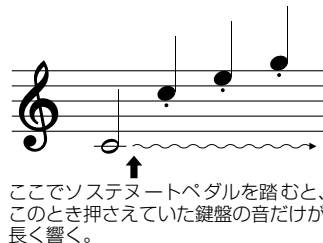


♪NOTE

- 音色によって、ダンパーペダル使用時に、音がゆっくり減衰して消えるものと、持続して消えないものがあります。
- ダンパーペダルは、**[PERCUSSION(パーカッション)]**、**[XG]**グループの中でダンパー機能に適さない音色には機能しません。

■ ソステヌートペダル (まん中のペダル)

このペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。



♪NOTE

- [STRINGS(ストリングス)]**や**[BRASS(金管楽器)]**などの持続音系の音色では、ソステヌートペダルを踏むと、音が減衰せず踏んでいる間鳴り続けます。
- ソステヌートペダルは、**[PERCUSSION(パーカッション)]**、**[XG]**グループの中で、ソステヌート機能に適さない音色には機能しません。

■ レフトペダル (左のペダル)

ピアノ音色を選んでいるときにこのペダルを踏むと、ボリュームがわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。選んだ音色によって、このペダルに割り振られる設定が変わります。

♪NOTE

レフトペダルのかかる深さは調節することができます (P.128)。

■ フットコントローラー / フットスイッチ

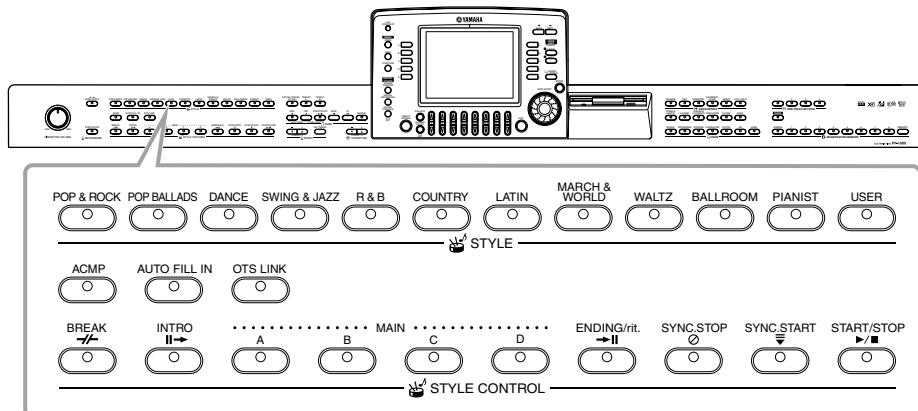
別売のYAMAHA FC7フットコントローラーやYAMAHA FC4/FC5フットスイッチをAUX PEDAL端子に接続して、FUNCTION(P.128)で設定したいろいろな機能をコントロールすることができます。

♪NOTE

- YAMAHA FC7: 6,000円(税別価格)
- YAMAHA FC4: 3,000円(税別価格)
- YAMAHA FC5: 1,500円(税別価格)

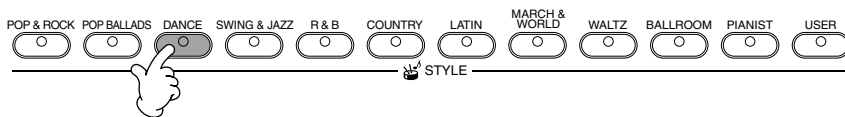
伴奏スタイル スタイル STYLE

PF-1000には、ポップス、ジャズ、ラテン、ダンスミュージックなどの伴奏スタイルが用意されています。演奏する音楽に合った伴奏スタイルを選んで左手でコードを押さえるだけで、弾いたコードに従って伴奏スタイルが再生されます。別冊の「データリスト(伴奏スタイル一覧)」を参照しながら、いろいろな伴奏スタイルを試してみましょう。

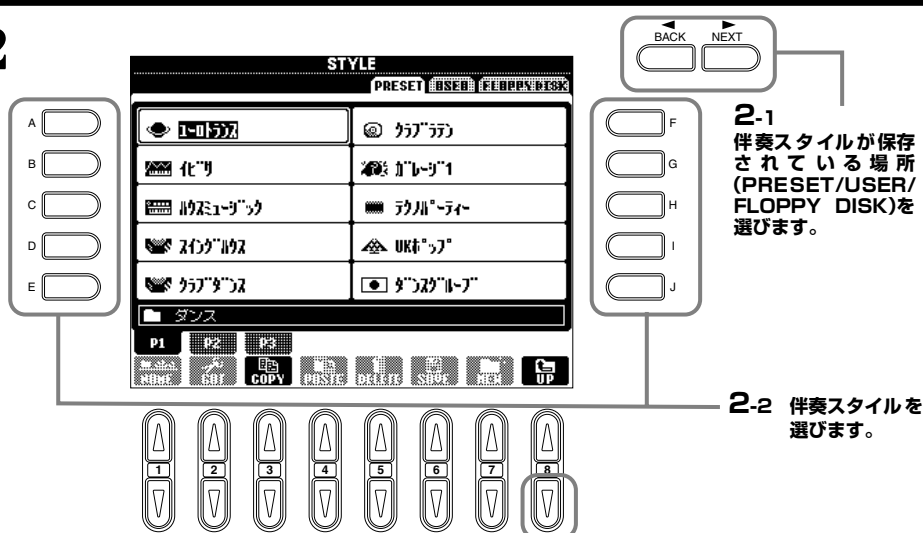


伴奏スタイルを再生する

1



2



2-1 伴奏スタイルが保存されている場所 (PRESET/USER/FLOPPY DISK) を選びます。

2-2 伴奏スタイルを選びます。

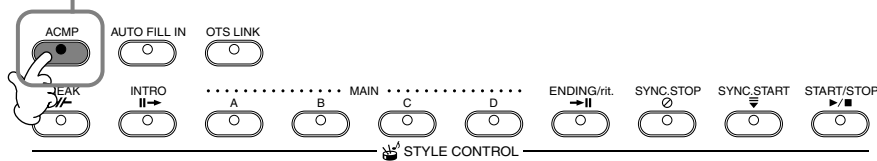
伴奏スタイルファイルを選ぶ画面にいる場合、伴奏スタイルグループを選ぶ画面(1つ上の階層)を表示させます。伴奏スタイルグループを選びなおしたいときは、このボタンを押します。

NOTE

伴奏スタイルの種類については、別冊の「データリスト(伴奏スタイル一覧)」を参照してください。

3

【ACMP(自動伴奏) ボタンをONにすると、指定された左手鍵域または全鍵域が伴奏スタイルのコードを押さえる鍵域になります。



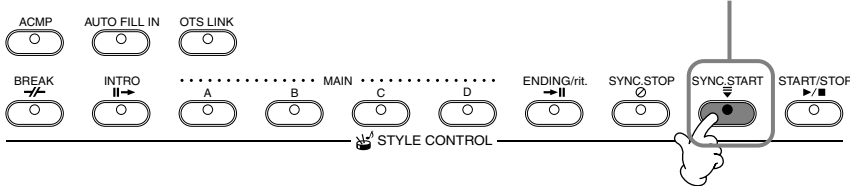
NOTE

自動伴奏用 鍵域を変更することもできます (P.127)。



4

シンクスタート機能をONにします。



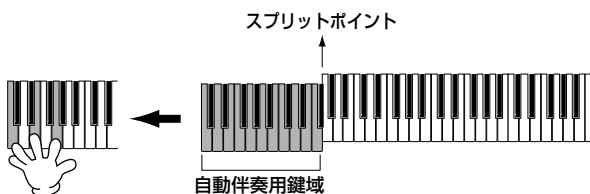
NOTE

シンクスタート=鍵盤を弾くと同時にリズムや伴奏スタイルをスタートさせることができる機能です。



5

自動伴奏用鍵盤でコードを押さえると、伴奏スタイルがスタートします。コードの押さえ方についてはP.62を参照してください。
伴奏スタイルのテンポは、TEMPO(テンポ)[-][+]ボタンか【TAP TEMPO(タップテンポ)】ボタンで調節します。
【TAP TEMPO(タップテンポ)】ボタンを2回たたくと、ボタンをたたいた速さのテンポに変わります。



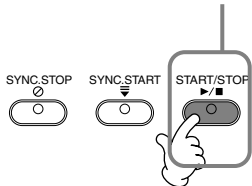
NOTE

- **STYLE CONTROL**
【START/STOP】(スタイルコントロール【スタート/ストップ】)ボタンで伴奏スタイルのリズムをスタートさせることもできます。
- **【TAP TEMPO(タップテンポ)】**
ボタンで伴奏スタイルのリズムをスタートさせることもできます。伴奏スタイルの停止中に【TAP TEMPO(タップテンポ)】ボタンを数回たたくと、たたいた速さでリズムがスタートします。たたいた回数は、2拍子と4拍子は4回、3拍子は3回、5拍子は5回です。



6

伴奏スタイルがストップします。



自動伴奏機能をOFFにします。



NOTE

曲(ソング)と伴奏スタイルを同時に再生すれば、曲の伴奏部分(9-16チャンネル)が伴奏スタイルに置き換えられ、曲に合わせて伴奏を弾くことができます (P.75)。

伴奏スタイルの特長

オープンセーブ画面の伴奏スタイル名の上には、スタイルの特長が表示されるものもあります。

Session!.....メインセクションに、伴奏スタイル独特のコードタイプやコード変化、コード変化を伴う伴奏リフなどが加えられ、よりリアルで派手な伴奏となっています。ただし、メジャーコードを弾いただけでセブンスの音が伴奏に混ざる、オンベースコードに正確に反応しない場合があるなど、必ずしもあらゆる曲での使用が考慮されているわけではありません。特定カテゴリーの曲で、パンチのある演奏を楽しむことができます。

Piano Combo! ピアノトリオ (ピアノ、ベース、ドラム) を中心にいくつかの楽器を加えた小編成コンボによる伴奏スタイルです。スタイルとしての色付けが少なく、いろいろな曲に使うことができます。

Pianist!.....ピアニストの左手演奏をシミュレートした、ピアノ音色のみによる伴奏スタイルです。左手でコードを押さえるだけで複雑なアルペジオパターンやストライドピアノの左手パターンなどが演奏できます。

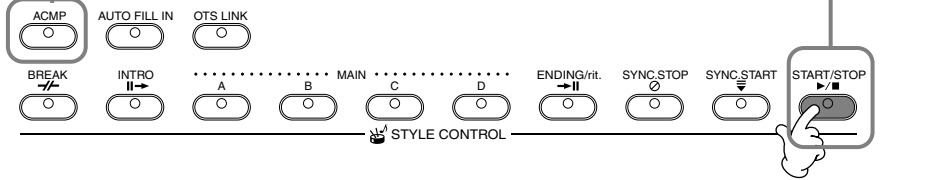
リズムだけを鳴らす

1 伴奏スタイルを選びます(P.59)。

NOTE

リズムは伴奏スタイルの一部です。伴奏スタイルごとに違うリズムを鳴らすことができます。

2 OFFにしておきます。

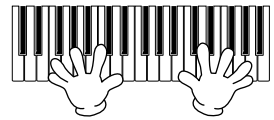


NOTE

【SYNC.START(シンクスタート)】ボタンをONにすると、鍵盤を弾いてリズムをスタートさせることができます。

3 リズムに合わせて演奏します。

テンポは、TEMPO(テンポ)[-][+]ボタンか[TAP TEMPO(タップテンポ)]ボタンで調節します。
【TAP TEMPO(タップテンポ)】ボタンを2回たたくと、ボタンをたたいた速さのテンポに変わります。



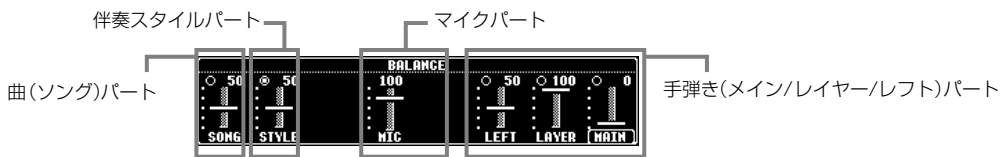
END もう一度 **START/STOP** を押すとリズムが止まります。

NOTE

伴奏スタイルのグループに【PIANIST】を選んだときは、リズムは鳴りません。この伴奏スタイルは、自動伴奏をONにしてお楽しみください。

音量バランスを調節する/特定のパートを消音する

BALANCE画面



ボタンを押すと、BALANCE画面が表示されます。

各パートの音量バランスを調節します。

CHANNEL ON/OFF画面



ボタンを押すと、CHANNEL ON/OFF画面が表示されます。

【CHANNEL ON/OFF(チャンネルオン/オフ)】ボタンを押して、「STYLE」ページを表示させ、消音したい楽器を【OFF】にします。1つの楽器だけ鳴らす場合は鳴らしたいチャンネルのボタンを押し続けて【SOLO】にします。【SOLO】を解除するには、もう一度SOLOチャンネルのボタンを押します。

NOTE

チャンネル=MIDIチャンネル(P.147)のことです。PF-1000では下記のようにチャンネルが割り振られています。
曲(ソング)..... 1~16
伴奏スタイル..... 9~16

コードの押さえ方

コードは、スプリットポイントより左側で押さえる鍵盤によって決まります。コードには7種類の押さえ方があります。コードの押さえ方は、CHORD FINGERINGページ(P.128)で選びます。CHORD FINGERINGページにはコードの押さえ方も表示されます。

SINGLE FINGER(シングルフィンガー)

自動伴奏用鍵盤を簡単なルールに従って押さえるだけで、メジャー、セブンス、マイナー、マイナーセブンスの4種類のコードを使った伴奏スタイルをつけることができます。押さえ方のルールは下のとおりです。

メジャーコード: コードのルート音(根音)の鍵盤を押します。



マイナーコード: コードのルート音とそれより左側の黒鍵を同時に押します。



セブンスコード: コードのルート音とそれより左側の白鍵を同時に押します。



マイナーセブンスコード: コードのルート音とそれより左側の白鍵と黒鍵を同時に押します。



MULTI FINGER(マルチフィンガー)

シングルフィンガーとフィンガードの両方の奏法が使えます。ただし、シングルフィンガーの押さえ方で、マイナー、セブンス、マイナーセブンスコードを鳴らしたいときは、コードのルート音に一番近い白鍵と黒鍵を押してください。

FINGERED(フィンガード)

伴奏スタイル用鍵盤で一般的なコードを押さえるだけで、選ばれている伴奏スタイルに合った自動伴奏が付きます。コードの押さえ方は、次のページのとおりです。

FINGERED ON BASS(フィンガードオンベース)

コードの押さえ方はフィンガードと同じですが、押さえたコードの一番低い音がベース音として鳴るので、コードを転回形で押さえるとオンコードを鳴らすことができます。たとえば、Cメジャーコードを「EGC」と押さえるとC onEのコードが鳴ります。

FULL KEYBOARD(フルキーボード)

全鍵域でコードを検出します。左手でベース音、右手でコードを弾いても、左手でコード、右手でメロディを弾いてもフィンガードの押さえ方に基づいてコードが検出されます。

AI FINGERED(AIフィンガード)

この奏法は基本的にはフィンガードと同じですが、鍵盤を2音以下しか押さえなくても、1つ前に弾いたコードなどを基に適切なコードを推定して再生します。

AI FULL KEYBOARD(AIフルキーボード)

全鍵域で通常のピアノ両手演奏をするだけで、コードを押さえなくても伴奏スタイルが再生されます。特定のコードの弾き方にとらわれず、鍵盤のどこで演奏してもリズム、ベース、コードやフレーズによる自動伴奏がつきます。曲のアレンジによっては、AIフルキーボードでの演奏に合わない場合もあります。

基本的にはフルキーボードと似ていますが、鍵盤を2音以下しか押さえなくても、1つ前に再生されたコードなどを基に適切なコードを推定して伴奏スタイルが再生されます。ただし、9thと11thは再生されません。

NOTE

フルキーボードでは押さえた鍵盤の最低音と次に低い音の間隔によって、下記のようにコードが検出されます。

- 1オクターブ以内の場合
最低音から11th以内の鍵盤でコードが検出されます。
- 1オクターブ以上の場合
最低音はベース音となり、次に低い音から11th以内でコードが検出されます。

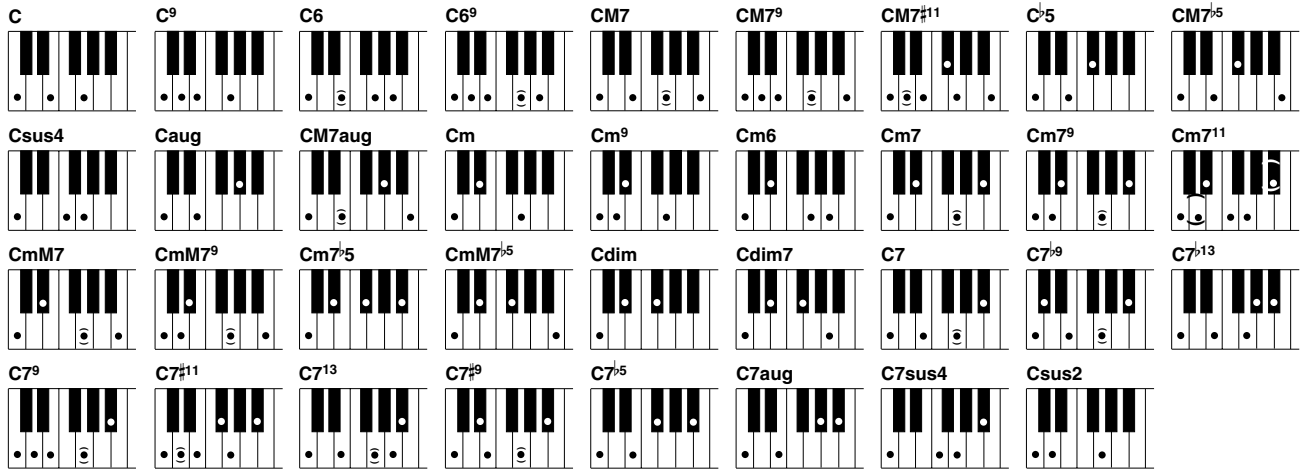
NOTE

AI(Artificial Intelligence)
=人工知能

NOTE

AIフルキーボードでは、小節のはじめからだいたい8分音符間隔でコードが検出されます。この間隔以内で弾かれた短いコードは検出されません。

・フィンガードでの押さえ方一覧(Cコードの例)



コード	押鍵	コード(C)
メジャー[M]	1 - 3 - 5	C
ナインス[9]	1 - 2 - 3 - 5	C ⁹
シックス[6]	1 - (3) - 5 - 6*	C ⁶
シックスナインス[6 ⁹]	1 - 2 - 3 - (5) - 6* または 3 - 6 - 2*	C ⁶ ⁹
メジャーセブンス[M7]	1 - 3 - (5) - 7	CM7
メジャーセブンスナインス[M7 ⁹]	1 - 2 - 3 - (5) - 7	CM7 ⁹
メジャーセブンスシャープイレブンス[M7 ^{#11}]	1 - (2) - 3 - #4 - 5 - 7 または 1 - 2 - 3 - #4 - (5) - 7	CM7 ^{#11}
フラットファイブ [b5]	1 - 3 - b5* または 3 - b5 - 1*	C ^{b5}
メジャーセブンスフラットファイブ[M7 ^{b5}]	1 - 3 - b5 - 7	CM7 ^{b5}
サスフォー[sus4]	1 - 4 - 5*	Csus4
オーギュメント[^{aug}]	1 - 3 - #5*	Caug
メジャーセブンスオーギュメント[M7 ^{aug}]	1 - (3) - #5 - 7	CM7 ^{aug}
マイナー[m]	1 - b3 - 5	Cm
マイナーナインス[m ⁹]	1 - 2 - b3 - 5	Cm ⁹
マイナーシックス[m6]	1 - b3 - 5 - 6	Cm6
マイナーセブンス[m7]	1 - b3 - (5) - b7* または (5) - b7 - 1 - b3* または b7 - 1 - b3 - (5)*	Cm7
マイナーセブンスナインス[m7 ⁹]	1 - 2 - b3 - (5) - b7 または 2 - b3 - b7	Cm7 ⁹
マイナーセブンスイレブンス[m7 ^{#11}]	1 - (2) - b3 - 4 - 5 - (b7)*	Cm7 ^{#11}
マイナーメジャーセブンス[mM7]	1 - b3 - (5) - 7	CmM7
マイナーメジャーセブンスナインス[mM7 ⁹]	1 - 2 - b3 - (5) - 7	CmM7 ⁹
マイナーセブンスフラットファイブ[m7 ^{b5}]	1 - b3 - b5 - b7* または b5 - b7 - 1 - b3 * または b7 - 1 - b3 - b5*	Cm7 ^{b5}
マイナーメジャーセブンスフラットファイブ[mM7 ^{b5}]	1 - b3 - b5 - 7	CmM7 ^{b5}
ディミニッシュ[dim]	1 - b3 - b5	Cdim
ディミニッシュセブンス[dim7]	1 - b3 - b5 - 6*	Cdim7
セブンス[7]	1 - 3 - (5) - b7 または 1 - (3) - 5 - b7	C7
セブンスフラットナインス[7 ^{b9}]	1 - 2 - 3 - (5) - b7	C7 ^{b9}
セブンスフラットサーティーンズ[7 ^{b13}]	1 - 3 - 5 - b6 - b7	C7 ^{b13}
セブンスナインス[7 ⁹]	1 - 2 - 3 - (5) - b7 または 3 - b7 - 2*	C7 ⁹
セブンスシャープイレブンス[7 ^{#11}]	1 - (2) - 3 - #4 - 5 - b7 または 1 - 2 - 3 - #4 - (5) - b7	C7 ^{#11}
セブンスサーティーンズ[7 ¹³]	1 - 3 - (5) - 6 - b7 または 3 - 6 - b7	C7 ¹³
セブンスシャープナインス[7 ^{#9}]	1 - #2 - 3 - (5) - b7	C7 ^{#9}
セブンスフラットファイブ [7 ^{b5}]	1 - 3 - b5 - b7* または b7 - 1 - 3 - b5*	C7 ^{b5}
セブンスオーギュメント[7 ^{aug}]	1 - 3 - #5 - b7	C7 ^{aug}
セブンスサスフォー[7sus4]	1 - 4 - 5 - b7	C7sus4
サスツー[sus2]	1 - 2 - 5*	Csus2

*.....この転回形のみ。その他のコードはすべての転回形が使えます。

NOTE

- ・カッコの中の音は省略されることもあります。
- ・FINGERED、FINGERED ON BASS、AI FINGEREDでは、連続した3つの鍵盤(黒鍵を含む)を押さえるとコードなしとなり、リズムの演奏だけが続きます(コードキャンセル機能)。リズムだけを鳴らす場合などに利用します。
- ・オクターブ違いの同じルート音2つを弾いた場合、ルートだけに基づいた伴奏が再生されます。
- ・完全 5 度(1+5)を押さえると、ルートと5度だけに基づいた伴奏が再生されます。
- ・類似するコード間の変更では、伴奏スタイルが前のコードのまま変化しない場合もあります(たとえば、あるマイナーコードに続けてマイナーセブンスが続いた場合など)。

NOTE

CHORD FINGERING ページ(P.128)では、知りたいコードを指定するとフィンガードでのコードの押さえ方が表示されます。

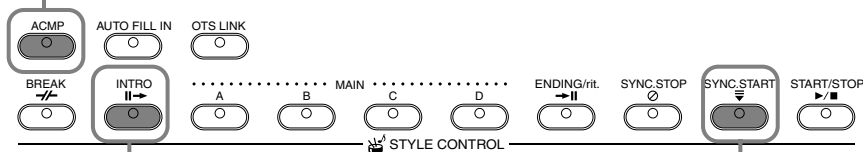
伴奏スタイルのパターンに変化を付ける メイン MAIN A/B/C/D, イントロ INTRO, エンディング ENDING, ブレイク BREAK

伴奏セッションを切り替えると、1曲の中で伴奏に変化を付けることができます。セッションには、イントロ(前奏)、メイン(伴奏)、エンディング(後奏)、ブレイクがあります。

1 伴奏スタイルを選びます(P.59)。

2

2-1 伴奏スタイル機能をONにします。

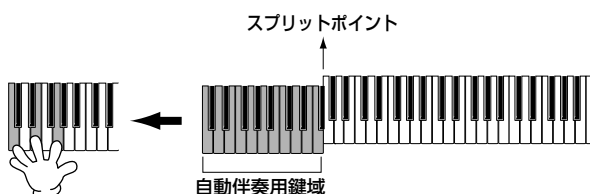


2-3 シンクロスタート機能をONにします。

2-2 イントロをONにします。伴奏スタイルがスタートする前に、もう一度このボタンを押すと、イントロは解除されます。

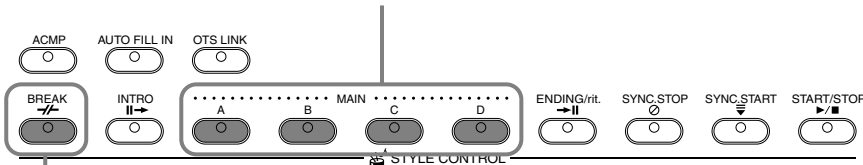
3

自動伴奏用鍵盤を押さえると、イントロがスタートし、メインセッションへ移ります。



4

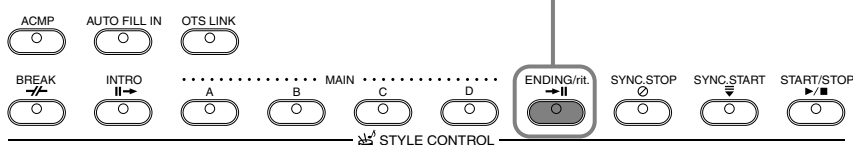
メインセッションを切り替えることができます。



ブレイクを入れることができます。

5

エンディングを鳴らします。エンディングの演奏が終わると、伴奏スタイルは自動的にストップします。エンディング演奏中にもう一度このボタンを押すと、リタルタンド(徐々にテンポを遅くすること)をかけることができます。



NOTE

ここでは自動伴奏をONにしていますが、リズムだけを鳴らす場合(P.61)でも同様の使い方ができます。

NOTE

自動伴奏演奏中に【INTRO(イントロ)】ボタンを押すと、演奏中にイントロを再生させることができます。

NOTE

【BREAK(ブレイク)】【INTRO(イントロ)】【MAIN(メイン)】【ENDING/rit.(エンディング/rit.)】ボタンのランプについて
緑点灯データが入っていて、現在選ばれていません。
赤点灯データが入っていて、現在選ばれています。
点灯なし ..データが入っていません。ボタンを押しても選ぶことができません。

NOTE

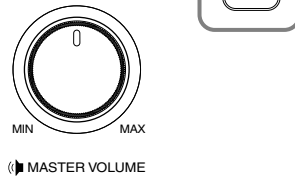
- 自動伴奏用鍵盤を押した強さで自動伴奏の音量を変えることができます(P.127)。
- 自動伴奏演奏中に【SYNC START(シンクスタート)】ボタンを押すと、伴奏スタイルをストップし、シンクスタート待機状態になります。
- ペダルで伴奏セッションを切り替えることもできます(P.128)。
- **ブレイク**=曲の流れに区切りをつけて演奏を盛り上げる効果です。演奏中に【BREAK(ブレイク)】ボタンを押すと、1小節分のフィルインが演奏されます。
- ブレイク演奏中は、MAIN(メイン)のいずれかのランプが点滅してブレイク後の行き先のセッションを知らせます。
- 【AUTO FILL IN(オートフィルイン)】ボタンがONのときは、小節内の最後の半拍(8分音符)以降にMAIN(メイン)【A】【B】【C】【D】ボタンのどれかを押すと、次の小節からフィルインが始まります。
- 伴奏スタイルはSTYLE CONTROL【START/STOP(スタイルコントロール【スタート/ストップ)】ボタンでストップすることもできます。
- MAIN 画面の【E】ボタンで、イントロとエンディングの種類を選ぶことができます(P.66)。
- エンディングの演奏中に【INTRO(イントロ)】ボタンを押すと、エンディング終了後にイントロセッションの演奏が継続されます。

フェードイン/アウト

伴奏スタイルをフェードイン(鳴り始めは小さく、だんだん音が大きくなる効果)でスタートしたいときは、

[FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)]ボタンを押して
[SYNC.START(シンクスタート)]ボタンをONにします。伴奏スタイルがスタートする前にもう一度**[FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)]**ボタンを押すと、フェードインは解除されます。

伴奏スタイルをフェードアウト(だんだん音が小さくなって消える効果)してストップしたいときも、**[FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)]**ボタンを押します。フェードイン/アウトする時間は設定することができます(P.137)。



NOTE

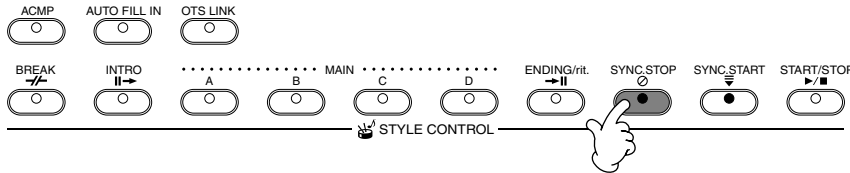
- **[AUTO FILL IN(オートフィルイン)]**ボタンがONのときは、エンディングの演奏中に**MAIN(メイン)[A][B][C][D]**ボタンのどれかを押すと、すぐにフィルインが演奏され、メインセクションの演奏が継続されます。
- エンディングセクションから自動伴奏演奏を開始することもできます。その場合、エンディングセクションの演奏が終わっても自動伴奏はストップしません。
- 伴奏スタイルがストップしているときに伴奏スタイルを変更すると、自動的にそのスタイルの初期設定テンポがセットされますが、自動伴奏演奏中にスタイルを変更してもテンポは変わりません。
- **STOP ACMP**をONにすると、伴奏スタイルがストップしているときに自動伴奏用鍵盤でコードを押さえてコードとベースを両方鳴らすことができます(P.127)。

鍵盤から指を離すと同時に 伴奏スタイルをストップさせる SYNC. STOP

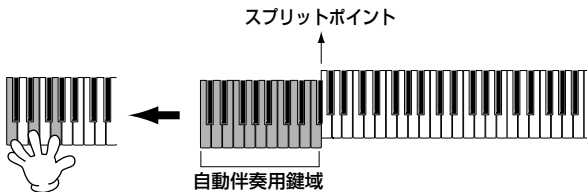
シンクロストップ機能を使うと、伴奏スタイル用鍵盤から指を離すと同時に伴奏スタイルがストップします。また、自動伴奏用鍵盤を押さえると同時に伴奏スタイルが再スタートします。

1 自動伴奏機能をONにします。

2 **[SYNC.STOP(シンクストップ)]**ボタンをONにします。**[SYNC.STOP(シンクストップ)]**ボタンをONにすると**[SYNC.START(シンクスタート)]**ボタンも自動的にONになります。



3 左手でコードを弾くと同時に伴奏スタイルがスタートします。



NOTE

自動伴奏用鍵盤/左手鍵盤で短く鍵盤を押してシンクロストップさせることもできます(P.127)。

4 鍵盤から左手を離すと伴奏スタイルがストップします

NOTE

奏法がフルキーボードかAIフルキーボードに設定されているか、パネルの自動伴奏機能がOFFのときは、シンクロストップはONにできません。

5 左手でコードを弾くと伴奏スタイルが再スタートします。



もう一度**[SYNC.STOP(シンクストップ)]**ボタンと**[SYNC.START(シンクスタート)]**ボタンを押して、シンクロストップ機能をOFFにします。

イントロとエンディングの種類を選ぶ イントロ エンディング INTRO/ENDING

NOTE
 MAIN画面は、[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]ボタンを押してから、[EXIT(戻る)]ボタンを押して表示させます。

1

2

INTRO	CountIn	4bar1	4bar2
ENDING	Fill&Hit	Simple	6bar

イントロを選びます。
 エンディングを選びます。

3 イントロ、エンディングを入れて演奏をします (P.30,31)。

伴奏セッションが切り替わったときに オート フィル イン 自動でフィルを入れる AUTO FILL IN

NOTE
 FILL=リズムに変化を付けるときに入れる短いフレーズ。

1

2 伴奏セッションを切り替えながら演奏(P.30,31)します。
 メインを切り替えたときにフィルが入ります。

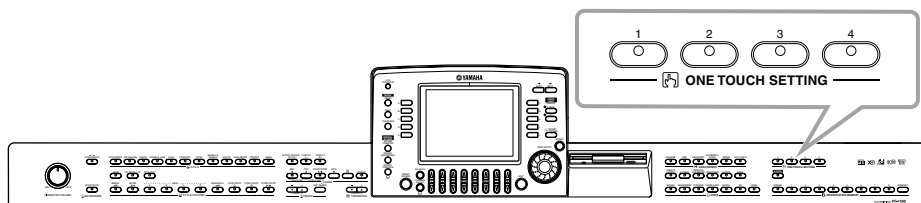
NOTE
 選ばれているMAIN(メイン)ボタンをもう一度押しても、フィルが入ります。

END もう一度[AUTO FILL IN(オートフィルイン)]ボタンを押すと、オートフィルは解除されます。

NOTE
 メインセッションを切り替えるときに、すばやく2回ボタンを押すとオートフィルを経由せずに次のメインセッションへ切り替わります。

選んだ伴奏スタイルに合ったパネル設定を呼び出す ONE TOUCH SETTING

内蔵の伴奏スタイルには、各4種類のおすすめのパネル設定が用意されています。選んだ伴奏スタイルに合う音色やエフェクトをワンタッチで呼び出すことができます。



1 伴奏スタイルを選びます(P.59)。

2 ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング(OTS))[1]~[4]ボタンのどれかを押しします。

ランプ(赤)点灯..... おすすめのパネル設定が入っていて、現在選ばれています。

ランプ(緑)点灯..... おすすめのパネル設定が入っていて、現在選ばれていません。

ランプ点灯なし..... おすすめのパネル設定は入っていません。ボタンを押してもパネル設定は変わりません。

選ばれている伴奏スタイルに合った音色、エフェクトなどが呼び出されます。伴奏スタイルがストップしているときは、伴奏スタイル機能とシンクロスタートが自動的にONになります。ワンタッチセッティングで呼び出すことができる設定の詳細については、別冊の「データリスト(パラメーター一覧)」を参照してください。

3 左手でコードを弾くと同時に伴奏スタイルがスタートします。

スプリットポイント

自動伴奏用鍵域

4 伴奏スタイルをストップします。

ACMP AUTO FILL IN OTS LINK

BREAK INTRO A B MAIN C D ENDING/rit. SYNC.STOP SYNC.START START/STOP

STYLE CONTROL

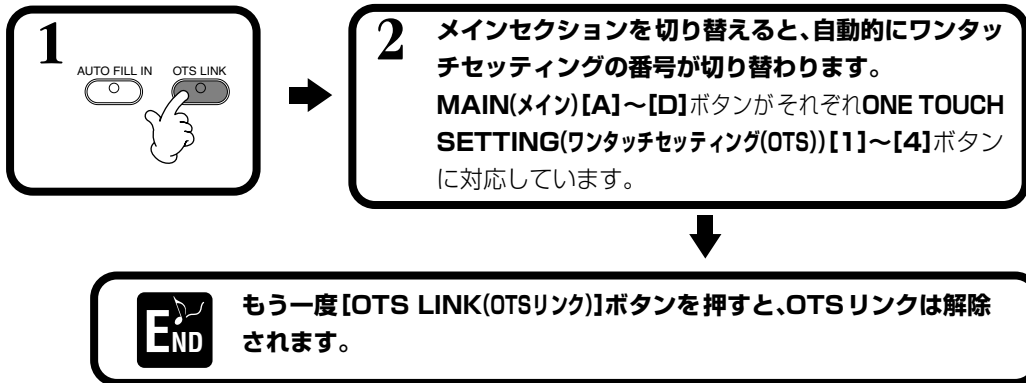
5 他のワンタッチセッティングも試してみましょう。また、オリジナルのワンタッチセッティングを作ることができます(P.68)。

自動でワンタッチセッティング番号を切り替える リンク OTS LINK

メインセクションの切り替えと連動させて、ワンタッチセッティング番号を自動的に切り替えることができます。

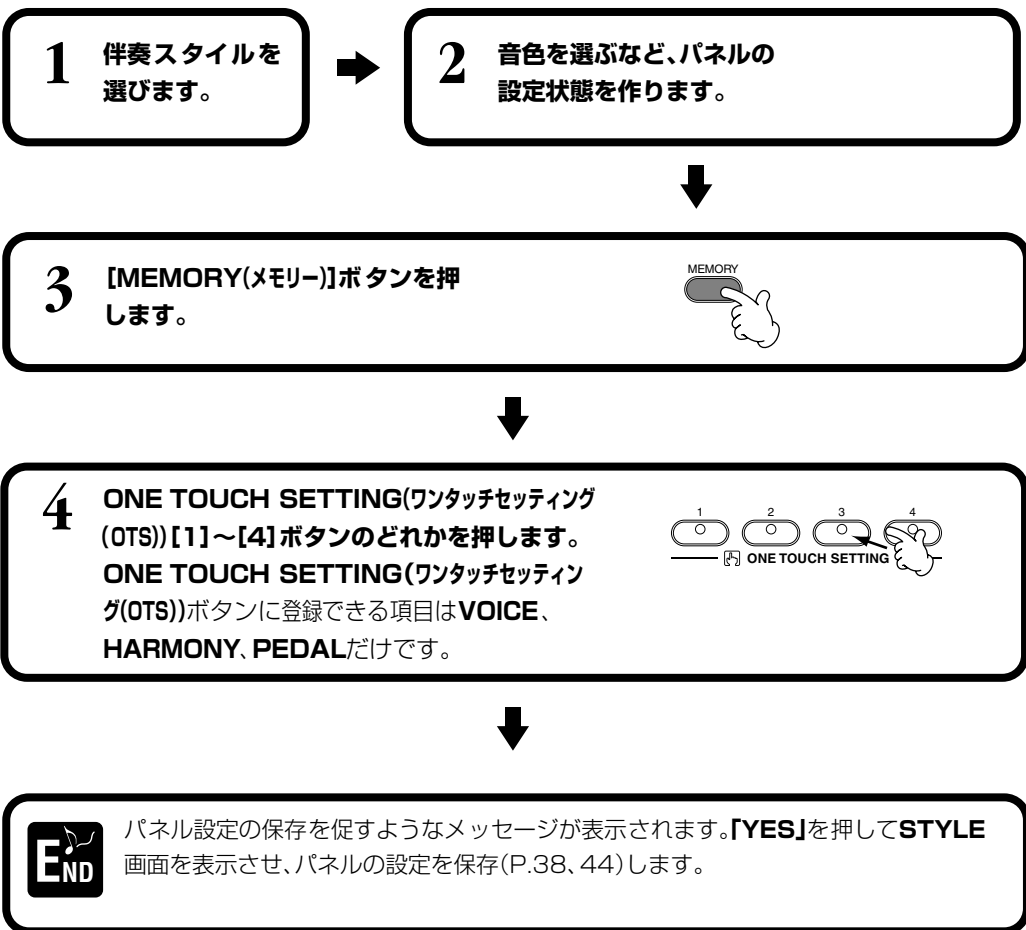
NOTE
OTS=One Touch Settingの略です。

NOTE
ワンタッチセッティング番号は、次のどちらのタイミングで切り替えるか決めることができます(P.127)。
 ・セクションボタンを押した時点
 ・伴奏スタイルが次の小節にさしかかった時点



パネルの設定をワンタッチセッティングに登録する ワン タッチ セッティング ONE TOUCH SETTING

ここでは、オリジナルのワンタッチセッティング(伴奏スタイルごとに4設定)の登録方法をご紹介します。ワンタッチセッティングの各設定項目については、別冊の「データリスト(パラメーター一覧)」を参照してください。



NOTE
ここでパネルの設定を保存しないと、伴奏スタイルを変更したときに、登録した設定は消去されます。

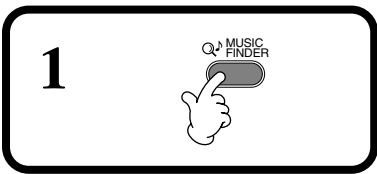
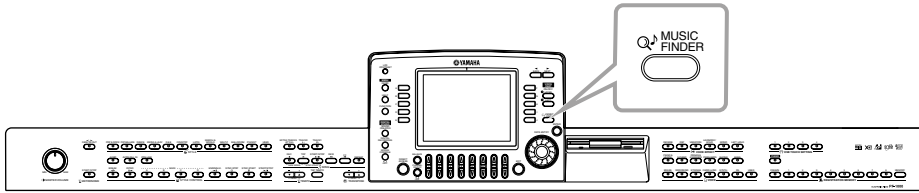
ミュージック ファインダー
MUSIC FINDER

曲ごとのおすすめ伴奏スタイルを呼び出す

演奏したい曲名から、音色や伴奏スタイルなどを選んでくれる機能です。弾きたい曲に合う伴奏スタイルがうまく探せないという場合に、ワンタッチで伴奏スタイルやワンタッチセッティングなどがセットされて便利です。また、ここで呼び出すことのできるおすすめの設定(レコード)は、作成、保存することもできます。ご自分で作った設定を保存して、必要に応じて呼び出してみましょう。

♪ NOTE
ミュージックファインダーのレコードとその内容は、おすすめのパネル設定の一例にすぎません。このほかにも、演奏する曲目に応じて、自由にお好みの設定でお楽しみください。

♪ NOTE
ミュージックファインダーは、ご自身で演奏を楽しんでいただくための伴奏スタイルや音色などを設定するもので、曲データそのものではありません。



2 おすすめの設定(レコード)を選びます。レコードを選ぶと、そのレコードに登録されている伴奏スタイルとワンタッチセッティングが呼び出されます。たとえば【1▲▼】ボタンで一番上のレコードを選んでみましょう。

ここで表示されているミュージックファインダーの設定データをレコードと呼びます。

MUSIC	STYLE	BEAT	TEMPO
69 Summers Long	トトロ	4/4	144
A Bossa Out Of Tune?	トトロ	4/4	132
A Brand New Day Of A W	70's"ラト"	4/4	120
A Bridge To Cross Trou	ムビ"ラト"	4/4	80
A Cozy Life In Italy	ボカ"ラト"	4/4	88
A Feeling Of Love Toni	80's"ラト"1	4/4	78
A Feeling Of Love Toni	ムビ"ラト"	4/4	76
A Fire Lighter	トトロ	4/4	129
A Flowers Kiss?	アコースティック"ラ"	3/4	158
A Greek Called Zorba	フォークM2	4/4	50
A Jolly Good Fellow	ボカ"ラト"	6/8	112
A Little Caribbean Love	ボカ"ラト"	4/4	95
A March For Radetsky	グ"ラト"1	4/4	110
A Nickel In The Nickel	グ"ラト"2	4/4	200

曲名からレコードを選びます。曲名順にレコードを表示させるときの【1▲▼】ボタンを押すと、同じ文字で始まる曲をスキップします(たとえば、Aで始まる曲名のレコードが選択されている場合に【1▼】を押すと、Bで始まる曲名のレコードに移動することができます。【▲▼】ボタンを同時に押しと一番上のレコードに移動します。

スタイル名からレコードを選びます。スタイル名順にレコード表示させているときにこのボタンを押すと、次のスタイルに移動させることができます。【▲▼】ボタンを同時に押しと一番上のレコードに移動します。

レコードを表示する順番を切り替えます。
MUSIC.....曲名順
STYLE.....スタイル名順
BEAT.....拍子の分母/分子の小さい順
TEMPO.....テンポ値の大きい(テンポが速い)順

レコードの昇順(ASCENDING)、降順(DESCENDING)を切り替えます。

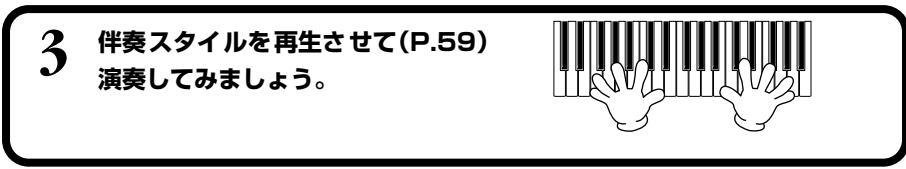
選ばれているレコードを「FAVORITE(お気に入り)」ページに追加します。
【H】ボタンを押すと、メッセージ「選択されているデータをお気に入りに追加しますか? YES/NO」が表示されます。「YES」で、選ばれているレコードが「FAVORITE」ページに追加されます。

レコードを検索します。MUSIC FINDER SEARCH 画面(P.70)で検索条件を入力します。SEARCH 1の検索結果は「SEARCH 1」ページに、SEARCH 2の検索結果は「SEARCH 2」ページに表示されます。

各ページの全レコード数を表示します。

TEMPLO LOCKをON/OFFします。TEMPLO LOCKとは、伴奏スタイルを使って演奏しているときにレコードを変更しても、テンポが変わらないようにする機能です。ここでのON/OFFは、すべてのページ(ALL/FAVORITE/SEARCH1/SEARCH2)で共通です。

選択中のレコードの編集画面「MUSIC FINDER RECORD EDIT」(P.71)に移動します。



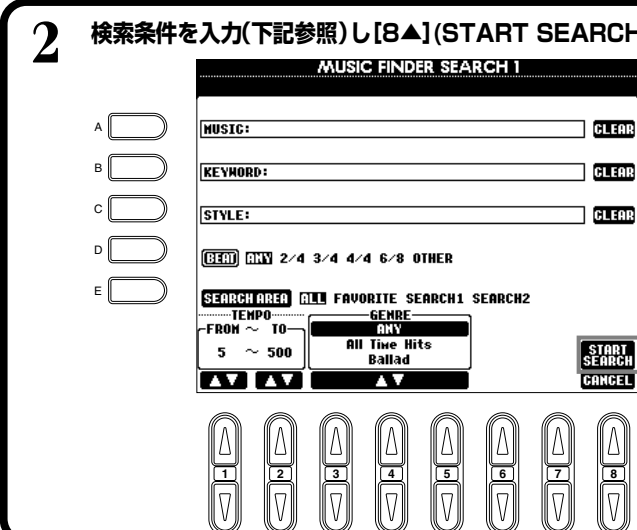
♪ NOTE
レコードは、[DATA ENTRY (データエントリー)]ダイアルと[ENTER(エンター)]ボタンで選ぶこともできます。

おすすめスタイルを検索する MUSIC FINDER SEARCH

曲名やキーワードなどからMUSIC FINDERの中のレコードを検索し、結果を表示させることができます。

1 MUSIC FINDER画面で、**[I]** (SEARCH 1) ボタンか**[J]** (SEARCH 2) ボタンを押します。

2 検索条件を入力(下記参照)し**[8▲]**(START SEARCH)ボタンで検索を始めます。



検索を始めます。設定した条件のすべてを満たすレコードが検索され、**[SEARCH]**ページに表示されます。検索したい内容の入力/設定は、下記を参照してください。

■ [A] MUSIC(ミュージック)

曲名で検索します。ボタンを押すと、曲名入力の画面が表示されます。

検索する曲名を入力(P.45)すると、すべてのレコードの中から、入力された文字列を含むものが検索されます。



■ [B] KEYWORD(キーワード)

キーワードで検索します。ボタンを押すと、キーワード入力の画面が表示されます。

検索するキーワードを入力(P.45)すると、すべてのレコードの中から、入力されたキーワードを含むものが検索されます。複数のキーワードを、カンマ(,)で区切って入力することもできます。その場合は、すべてのキーワードの内一つでも一致するキーワードが入っているレコードが検索されます。



■ [C] STYLE(スタイル)

伴奏スタイル名で検索します。ボタンを押すと、**STYLE FILE SELECT**画面が表示されます。

STYLE FILE SELECT画面の**[A]~[J]**ボタンで、検索したい伴奏スタイルを選びます。各伴奏スタイルがどんな曲におすすめなのか調べるのに便利です。

NOTE

ここでの**STYLE FILE SELECT**画面は検索のためにファイル名を選ぶためだけのもので、伴奏スタイルのファイルを呼び出すわけではありません。

■ [D] BEAT(ビート)

拍子で検索します。

■ [E] SEARCH AREA(サーチエリア)

検索するページを選びます。SEARCH1か2を選ぶと、すでに検索されているレコードの中からさらに絞り込んで検索することができます。

■ [F]~[H] CLEAR(クリア)

左の項目の検索条件を消去します。

■ [1▲▼] TEMPO FROM(テンポフロム)

検索するレコードの最小テンポを設定します。**[1▲▼]**ボタンを同時に押すとテンポの最小値にリセットされます。

■ [2▲▼] TEMPO TO(テンポトゥー)

検索するレコードの最大テンポを設定します。**[2▲▼]**ボタンを同時に押すとテンポの最大値にリセットされます。

■ [3▲▼]~[5▲▼] GENRE(ジャンル)

検索するジャンルを選びます。選択範囲は、すべてのジャンル(ANY)、プリセットジャンル、あなたが登録した(P.69)ジャンルです。

■ [8▼] CANCEL(キャンセル)

検索せずに、前の画面に戻ります。

レコードを編集する MUSIC FINDER RECORD EDIT

選択中のレコードのデータを表示/変更/消去します。また、新しいレコードを登録します。

1 MUSIC FINDER画面で、**[8▲▼] (RECORD EDIT)**ボタンを押します。



2 レコードのデータを変更/消去します。また、新しいレコードを登録します。操作方法については、下記を参照してください。

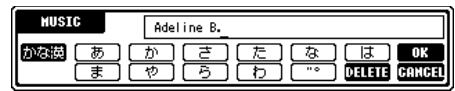
NOTE
プリセットのレコードも変更/消去できます。プリセットのレコードを変更/消去したくないときには、編集したあとで新しいレコードとして登録しましょう。

NOTE
ミュージックファインダーのすべてのレコードは、まとめて1つのファイルとして保存することができます (P.140)。保存したファイル呼び出すと、レコードの置き換え/追加を選ぶメッセージが表示されます。
REPLACE ...現在のミュージックファインダー全レコードが消去され、ファイルから呼び出されたレコードに置き替われます。
APPEND ...ファイルから呼び出されたレコードは、空きレコード番号に追加されます。

■ [A] MUSIC(ミュージック)

曲名を表示/変更/消去/登録します。ボタンを押すと、曲名入力の画面が表示されます。

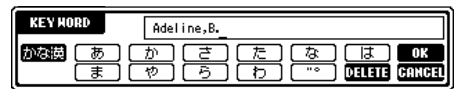
この画面で曲名を変更/消去/登録します。



■ [B] KEYWORD(キーワード)

キーワードを表示/変更/消去/登録します。ボタンを押すと、キーワード入力の画面が表示されます。

この画面でキーワードを変更/消去/登録します。複数のキーワードを、コンマ(,)で区切って入力することもできます。



■ [C] STYLE(スタイル)

伴奏スタイル名を表示/変更/消去/登録します。レコードを新しく登録するときは、必ず入力してください。ボタンを押すと、**STYLE FILE SELECT**画面が表示されます。**STYLE FILE SELECT**画面の**[A]~[J]**ボタンで、変更/消去/登録したいファイルを選びます。

NOTE
ここでの**STYLE FILE SELECT**画面は、レコードの変更/消去/登録のためにファイル名を選ぶだけのものです。伴奏スタイルのファイル呼び出すわけではありません。

■ [D] BEAT(ビート)

拍子を表示/変更/消去/登録します。**[C]**ボタンでファイルを変更すると、拍子も自動的に新しいファイルの拍子に変わります。

NOTE
ここでのビートの変更は検索のためのもので、実際の伴奏スタイルの拍子を変更するわけではありません。

■ [E] FAVORITE(フェバリット)

選択中のレコードを**[FAVORITE (P.69)]**に登録することができます。

■ [F]~[H] CLEAR(クリア)

左の項目のデータを消去します。

■ [I] DELETE RECORD(デリートレコード)

このレコードを消去します。消去したレコード番号は空き番号となります。ボタンを押すとレコードを削除するかどうか確認するメッセージが表示されます。

YES レコードを消去して画面を閉じます。

NO レコードを消去せずに画面を閉じます。

CANCEL メッセージを閉じて、元の画面に戻ります。

■ [J] NEW RECORD(ニューレコード)

レコードを新しく登録します。レコード番号は、空き番号の中でいちばん小さい番号が自動的に登録されます。ボタンを押すと「**新規レコードを作成しますか? YES/NO/CANCEL**」が表示されます。

YES レコードを登録して画面を閉じます。

NO レコードを登録せずに画面を閉じます。

CANCEL メッセージを閉じて、元の画面に戻ります。

NOTE

登録できるレコード数は、内蔵されていたレコードも含めて全部で2500件です。

■ [1▼▲] TEMPO(テンポ)

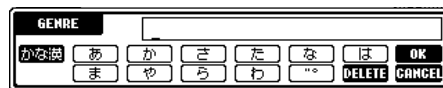
選ばれている伴奏スタイルのテンポを表示/変更します。**[C]** ボタンで伴奏スタイルを変更すると、テンポも自動的に変更した伴奏スタイルのテンポに変わります。

■ [3▼▲]~[5▼▲] GENRE(ジャンル)

選ばれているレコードが属するジャンルを表示/変更します。選択範囲は、すべてのプリセットジャンル、あなたが登録したすべてのジャンルです。

■ [6▼▲] GENRE NAME(ジャンルネーム)

ジャンル名を入力します。ボタンを押すと、ジャンル名入力の画面が表示されます。この画面でジャンル名を変更/消去/登録します。ジャンルは200件まで登録することができます。入力したジャンル名は、現在のレコードが**[8▲](OK)** ボタンで書き替えられたときか**[J](NEW RECORD)** で新規登録されたときに有効になります。レコードを書き替え/新規登録しないでMUSIC FINDER RECORD EDIT画面を閉じた場合は、入力したジャンル名が消去されます。



■ [8▲] OK(オーケー)

レコードを変更します。ボタンを押すと「**このレコードを変更しますか? YES/NO/CANCEL**」が表示されます。

YES レコードを書き替えて画面を閉じます。

NO レコードを書き替えずに画面を閉じます。

CANCEL メッセージを閉じて、元の画面に戻ります。

■ [8▼] CANCEL(キャンセル)

変更内容を取り消して、MUSIC FINDER画面に戻ります。

NOTE

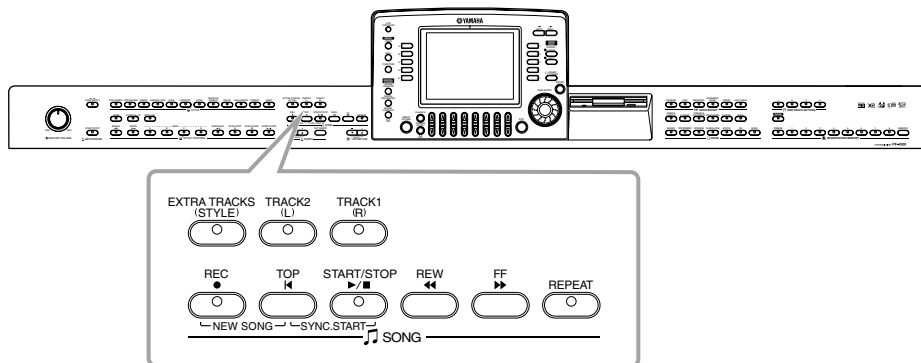
ここで変更/登録した内容を残しておきたい場合は、ミュージックファインダーのすべてのレコードのファイルとして保存してください(P.140)。保存しないと、他のミュージックファインダーのファイルを呼び出したり、工場出荷時の状態に戻したときに失われます(P.140)。

曲の再生 ソング SONG

内蔵曲や録音機能(P.90)を使って録音した演奏、市販のディスクなどを再生します。この機能では、再生されている曲と一緒に演奏したり、リピート(P.77)を使って練習するなど、いろいろな使い方ができます。さらに、画面に楽譜や歌詞を表示させることもできます。

NOTE

ソング=PF-1000では、再生される曲のことを指します。



曲(ソング)の種類

● 内蔵曲(ソングブック)

● 市販のディスク曲

NOTE

市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、個人で楽しむ範囲でご利用ください。



このロゴマークが付いたディスクには、GM規格に対応した曲データが入っています。



このロゴマークが付いたディスクには、XG フォーマットに対応した曲データが入っています。XGでは、音色の拡張方式やエディット方式、エフェクト構成やタイプなどを規定して、「GMシステムレベル1」を大幅に拡張しています。

NOTE

再生させることができる曲の種類については、P.148も参照してください。



このロゴマークが付いたディスクには、ヤマハDOC(Disk Orchestra Collection)フォーマットに対応した曲データが入っています。



このロゴマークが付いたディスクには、ヤマハ独自の MIDI ファイルフォーマットに対応した曲データが入っています。

● ご自分で録音(P.90)してPF-1000本体またはディスクに保存した曲

曲を再生する

内蔵曲を再生する

1

MAIN

TRANSPOSE 0 PEDAL FUNCTION SOFT SOSTENUTO SUSTAIN

SONG 4/4 ♩=120 Natural

Lyrics BAR 001 Live!

Score CHORD

STYLE 4/4 ♩=148

INTRO 4bar2 4bar

SPLIT POINT F#2 F#2

REGISTRATION BANK NewBank

BALANCE

100 100 50 100 100 100

SONG STYLE MIC LEFT LAYER MAIN

NOTE

MAIN画面が表示されていないときは、**[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]**ボタンを押してから、**[EXIT(戻る)]**ボタンを押して表示させます。

NOTE

曲の再生と共に呼び出したい設定(テンポや音色など)を設定しておくことができます(P.102)。

NOTE

[TOP(トップ)]ボタンと**SONG [START/STOP(ソングスタート/ストップ)]**ボタンを同時に押すと曲のシンクスタート待機状態になります。鍵盤を弾くと同時に曲がスタートします。伴奏スタイルのシンクスタート(P.60)とあわせて使用することができます。

NOTE

曲再生のスタート時やストップ時に**[FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)]**ボタンを押すと、フェードイン(鳴り始めは小さく、だんだん音が大きくなる効果)やフェードアウト(だんだん音が小さくなって消える効果)をかけることができます。

2

2-1 **[BACK(バック)]**ボタンで「PRESET」を選びます。

SONG PRESET BASED FEBRUARY 2020

フォルダを開いて再生したい曲を選びます。

2-2

3

曲がスタートします。

テンポは、**TEMPO(テンポ)[-][+]**ボタン(P.50)か**[TAP TEMPO(タップテンポ)]**ボタンで調節します。**[TAP TEMPO(タップテンポ)]**ボタンを2回たたくと、ボタンをたたいた速さのテンポに変わります。

END

もう一度 **[START/STOP]** ボタンを押して曲をストップします。曲は、押した位置で停止します。

ひとつ前の画面に戻るには、**[EXIT]** を押します。

NOTE

曲を連続再生させることもできます。SONG SETTING画面(P.126)でSONG CHAIN PLAYをONにします。

NOTE

本体の言語モード(LANGUAGE)(P.140)を、再生する曲(ソング)のファイル名に適した言語に設定してください。

曲(ソング)と伴奏スタイルの同時再生

曲と伴奏スタイルを同時に再生すれば、曲の9~16チャンネルが伴奏スタイルのチャンネルに置き替えられるので、自動伴奏機能を使って曲の伴奏部分を弾くことができます。

たとえば、下記の設定をしてから、曲に合わせてコードを弾いてみましょう。

- ・ [ACMP(自動伴奏)] ボタンON
- ・ [AUTO FILL IN(オートフィルイン)] ボタンON

- 1** 曲を選び、**SONG[START/STOP]**(ソング[スタート/ストップ])ボタンで再生させておきます。
- 2** 伴奏スタイルを選びます。
- 3** **STYLE CONTROL[START/STOP]**(スタイルコントロール[スタート/ストップ])ボタンで、伴奏スタイルをスタートします。
- 4** 曲に合わせて、ブレイクを入れたり、セクションを切り替えたりします。セクションを切り替えるとフィルが入ります。



曲の再生がストップすると、伴奏スタイルの再生も同時にストップします。

NOTE

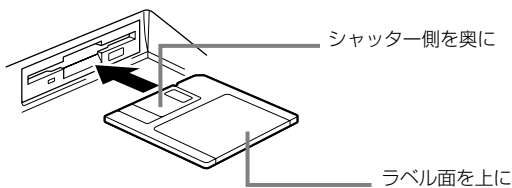
伴奏スタイルだけ再生しているときに曲をスタートすると、伴奏スタイルはストップします。ただし、内蔵曲の中で伴奏スタイルを使用している曲では、伴奏スタイルはストップしません。

NOTE

内蔵曲の中には、伴奏スタイルを使用した独自の形式で作られているものもあります。このような曲では、再生をスタートさせると自動的に伴奏スタイルもスタートします。

ディスク曲を再生する

ディスクをディスクドライブに差し込みます。



再生方法は、「内蔵曲を再生する (P.74)」と同様です。**SONG**画面では**「FLOPPY DISK」**を選びます。

NOTE

最初に「フロッピーディスクの取り扱いについて」(P.7)をお読みください。

NOTE

ディスクを入れたときに、曲(ソング)を自動で呼び出さないようにすることもできます (P.139)。

NOTE

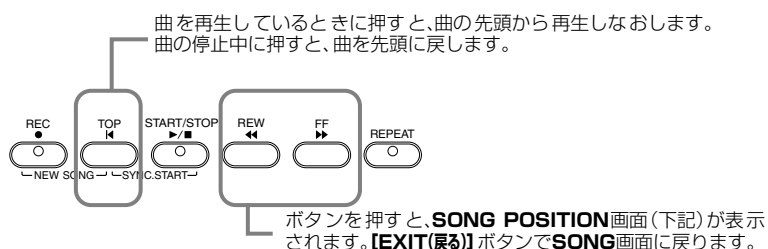
曲のテンポに関係なく一定のテンポが設定されているミュージックデータをPF-1000で再生した場合、小節番号は実際の曲の小節番号とは一致せず、単に曲の進行を示す目安となります。

NOTE

曲データの容量が大きいと、PF-1000本体に読み込めず、選曲できないことがあります。容量の上限のめやすとしてはおよそ200KB ~ 300KB ですが、曲データの内容により異なります。

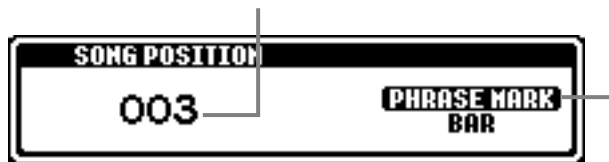
曲再生に関するその他の操作

■ 頭出し/巻戻し/早送りをする



SONG POSITION画面

【BAR】が選ばれているときは、【REW(巻戻し)】【FF(早送り)】ボタンで巻き戻し/早送りしたい小節数(曲の最初から数えた小節数)を指定します。
【PHRASE MARK】が選ばれているときは、【REW(巻戻し)】【FF(早送り)】ボタンでフレーズマーク番号を指定します。



曲にフレーズマークが入っているときだけ【PHRASE MARK】が表示されます。
【BAR】と【PHRASE MARK】を【J】ボタンで切り替え、小節数(BAR)とフレーズマーク数のどちらで巻き戻し/早送りするかを指定します。

NOTE

フレーズマーク=曲データに設定されている、曲中のある箇所を指定するデータです。

■ 音量バランスを調節する/特定のチャンネルを消音する



CHANNEL ON/OFF画面

SONG		CHANNEL ON/OFF															
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON
ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON	ON

【CHANNEL ON/OFF(チャンネルオン/オフ)】ボタンで【SONG】ページを表示させ、消音したいチャンネルを【OFF】にします。1チャンネルだけで鳴らす場合は鳴らしたいチャンネルのボタンを押し続けて【SOLO】にします。【SOLO】を解除するには、もう一度SOLOチャンネルのボタンを押します。

NOTE

チャンネル=MIDIチャンネルのことです。PF-1000には下記のようにチャンネルが割り振られています。

曲(ソング)..... 1~16
伴奏スタイル9~16

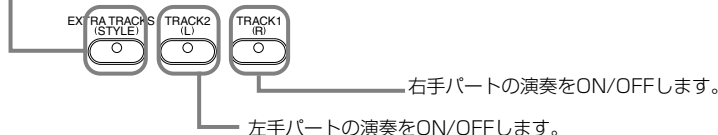
特定のパートを消音する TRACK1/TRACK2/EXTRA TRACKS

特定のパート(トラック1/トラック2/その他トラック)を消音して曲を再生することができます。たとえば、右手や左手のパートを消音して、そのパートの手弾き練習をすることができます。

1 再生したい曲を選びます(P.73)。



2 右手/左手パート以外の演奏をON/OFFします。



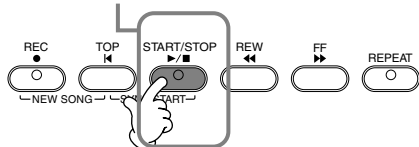
NOTE

TRACK1とTRACK2へのチャンネルの割り当てを変更する(P.126)と、
【TRACK1(R)(トラック1(右手))】
【TRACK2(L)(トラック2(左手))】
【EXTRA TRACKS (STYLE)(その他トラック(スタイル))】
ボタンを押したときに消音するパートを変更することができます。

NOTE

別の曲を選ぶと、すべてのトラックが再生ONになります。

3 曲がスタートします。
テンポは、TEMPO(テンポ)[-][+]ボタンで調節します(P.50)。



もう一度 ボタンを押して曲をストップします。曲は、押した位置で停止します。

指定の範囲を繰り返し再生する A-B REPEAT

曲のある特定の範囲(A点とB点)を指定して、繰り返し再生することができます。

1 曲を再生します(P.74、76)。



2 繰り返し再生の開始位置(A点)にしたいところで押します。
繰り返し再生の終了位置(B点)にしたいところで、もう一度押します。

NOTE

曲の停止中は、【REPEAT(くり返し)】ボタンを押してA点を決め、【FF(早送り)】ボタンで曲を進め、もう一度【REPEAT(くり返し)】ボタンを押してB点を決めます。

NOTE

A点が選ばれていないと、B点は選べません。

NOTE

A点だけを指定したときは、曲の終了位置が自動的にB点となり、A点から曲の最後までが繰り返し再生されます。

NOTE

指定したA点からB点までの範囲は、リピート機能を終了したり、別の曲や別のリピート方法に切り替えると解除されます。別のリピート方法とは、フレーズマーク指定でのリピートやソングチェーンプレイ(P.126)などです。

3 曲に合わせたカウントが入った後、A点からB点までが繰り返し再生されます。再生中、停止中にかかわらず、【TOP(トップ)】ボタンを押すとA点に戻ります。



4 曲をストップします。



もう一度 を押すと、リピート機能を終了します。

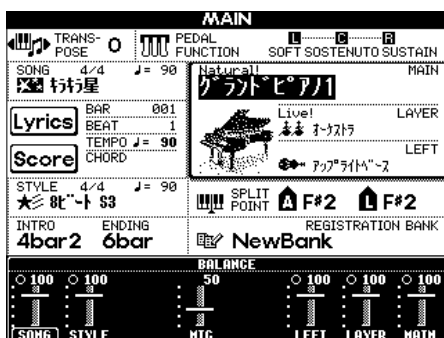
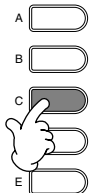
楽譜を表示させる SCORE

曲に合わせて楽譜を表示させます。内蔵のデモや自作の曲などの楽譜を見ながら演奏することができます。

1 再生する曲を選びます (P.74,76)。



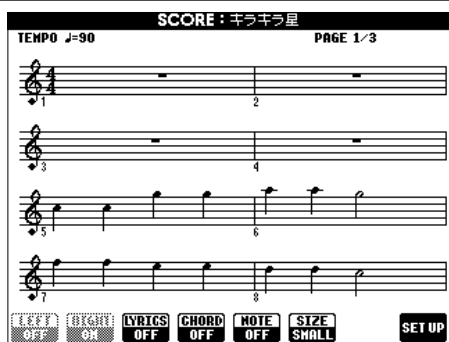
2



NOTE

MAIN画面が表示されていないときは、**[DIRECT ACCESS (ダイレクトアクセス)]** ボタンを押してから **[EXIT(戻る)]** ボタンを押して表示させます。

3



左手鍵域の楽譜を表示/非表示します。
[LEFT] ON/OFFが選べない場合は、次ページの詳細設定画面の**[LEFT.CH]**に**[AUTO]**以外、または**FUNCTION**の**SONG SETTING**画面 (P.126) の**[TRACK2]**に**[OFF]**以外のチャンネルを設定してください。

右手鍵域の楽譜を表示/非表示します。
SONG SETTING画面 (P.126) で**[TRACK1]**が**[OFF]**のときは、自動的にチャンネル1が選ばれます。

歌詞を表示/非表示します。
 選んだ曲(ソング)に歌詞データがないときは歌詞が表示されません。

コードを表示/非表示します。
 選んだ曲(ソング)にコードデータがないときはコードが表示されません。

音名を表示/非表示します。

楽譜の表示率(拡大/縮小)を変えます。
SMALL..... 楽譜を小さく表示させます。
LARGE..... 楽譜を大きく表示させます。

楽譜の詳細設定画面が表示されます。
 詳細は次ページを参照してください。

NOTE

表示される楽譜はソングデータを元に作成されます。そのため、細かい音符が多い曲や複雑な曲を表示するときは、市販の楽譜とは異なる場合があります。

NOTE

曲のテンポに関係なく一定のテンポが設定されているミュージックデータを再生した場合は、テンポ、ビート、小節数、楽譜が正しく表示されません。

NOTE

[RIGHT]と**[LEFT]**は両方同時にOFFにはできません。

NOTE

音名は音符の左に表示されます。音符と音符の間が狭いときには、左の音符と重なることもあります。

NOTE

表示させる項目(パート、歌詞、コードなど)を少なくすれば、表示できる小節数は多くなります。

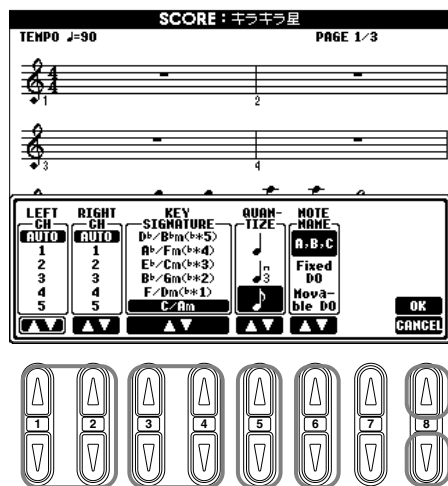
NOTE

1小節分の音符が1段に入りきらない場合は、小節の途中から次の段に表示されます。

NOTE

音符を入力して曲データを作ることはできません。曲データの作り方についてはP.94を参照してください。

楽譜の詳細設定画面



NOTE

チャンネル=MIDIチャンネルのことです。PF-1000では下記のようにチャンネルが割り振られています。
曲(ソング)データ .. 1~16
伴奏スタイル 9~16

NOTE

「LEFT」と「RIGHT」を同じチャンネルに設定したときは、右手鍵域と左手鍵域の楽譜が2段譜で表示されます。

■ [1▲▼] LEFT CH(レフトチャンネル)/[2▲▼] RIGHT CH(ライトチャンネル)

LEFTチャンネル(左手パート用のチャンネル)/RIGHTチャンネル(右手パート用のチャンネル)を設定します。曲(ソング)を変更すると、チャンネルは**AUTO**に戻ります。

AUTO(オート).....右手パートと左手パートのチャンネルを自動で割り振ります。**FUNCTIONのSONG SETTING**画面(P.126)で指定されているチャンネルと同じチャンネルに設定されます。

1~16.....1~16チャンネルのどれかを設定します。

OFF(オフ)(LEFT CHのみ).....チャンネルを設定しません。

■ [3▲▼]、[4▲▼] KEY SIGNATURE(キーシグネチャー)

曲の停止位置の調性(ハ長調、ホ短調など)を変更することができます。曲の途中で転調するときなどに使います。調性については下記の「調号と調性の関係一覧」を参照してください。

調号と調性の関係一覧

C Maj (A min) ハ長調(イ短調)	G Maj (E min) ト長調(ホ短調)	D Maj (B min) ニ長調(ロ短調)	A Maj (F# min) イ長調(嬰ヘ短調)	E Maj (C# min) ホ長調(嬰ハ短調)	B Maj (G# min) ロ長調(嬰ト短調)	F# Maj (D# min) 嬰ハ長調(嬰ニ短調)	C# Maj (A# min) 嬰ハ長調(嬰イ短調)
C# Maj (A# min) 嬰ハ長調(嬰イ短調)	G# Maj (E# min) 変ト長調(変ホ短調)	D# Maj (B# min) 変ニ長調(変ロ短調)	A# Maj (F# min) 変イ長調(変ヘ短調)	E# Maj (C# min) 変ホ長調(変ハ短調)	B# Maj (G# min) 変ロ長調(変ト短調)	F# Maj (D# min) ハ長調(ニ短調)	

○は長調、●は短調の主音を表しています。

■ [5▲▼] QUANTIZE(クオンタイズ)

楽譜に表示される音符のタイミングのずれを修正して、楽譜を見やすくすることができます。

曲(ソング)で使っている最小の音符を選んでください。

クオンタイズする値: 3連32分音符、32分音符、3連16分音符、16分音符、
 3連8分音符、8分音符、3連4分音符、4分音符

NOTE

たとえば、4分音符と8分音符が録音されている曲なら、♪(8分音符)でクオンタイズします。「クオンタイズする値」より細かい音符や休符は、楽譜に表示されません。

■ **[6▲▼] NOTE NAME(ノートネーム)**

SCORE画面(P.76)で「NOTE」をONにしたときに表示される、音名、階名の種類を選びます。

ABC(エービーシー)C D E F G A Bが表示されます。

FIXED DO(フィックスド)言語によって、下記のように表示が切り替わります。言語は**HELP**画面の**「LANGUAGE(P.49)」**で設定します。

英語 Do Re Mi Fa Sol La Ti
 ドイツ語 Do Re Mi Fa Sol La Si
 フランス語 Ut Re Mi Fa Sol La Si
 スペイン語 Do Re Mi Fa Sol La Si
 イタリア語 Do Re Mi Fa Sol La Si
 日本語 ド レ ミ ファ ソ ラ シ

MOVABLE DO(ムーバブルド)各調の主音がドとして表示されます。たとえば、ト長調(主音がソ)のときは、ソがドとして表示されます。**「FIXED DO」**と同じように、言語によって表示が切り替わります。

■ **[8▲] OK(オーケー)**

詳細設定画面を閉じて、楽譜作成を開始します。本体パネルの**「ENTER(エンター)」**ボタンでも行なえます。

■ **[8▼] CANCEL(キャンセル)**

設定を変更せずに詳細設定画面を閉じます。本体パネルの**「EXIT(戻る)」**ボタンでも行なえます。

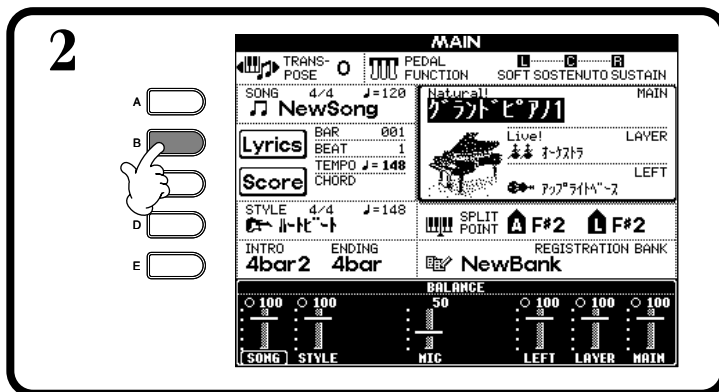
NOTE

曲が停止しているときは、**「BACK(バック)」****「NEXT(ネクスト)」**ボタンまたはペダル(P.128)で楽譜のページをめくる(前後1ページずつ)ことができます。

歌詞を表示させる リリックス LYRICS

曲に合わせて歌詞を表示させます。弾き語りやカラオケなどを楽しむことができます。

1 再生する曲を選びます (P.74,76)。

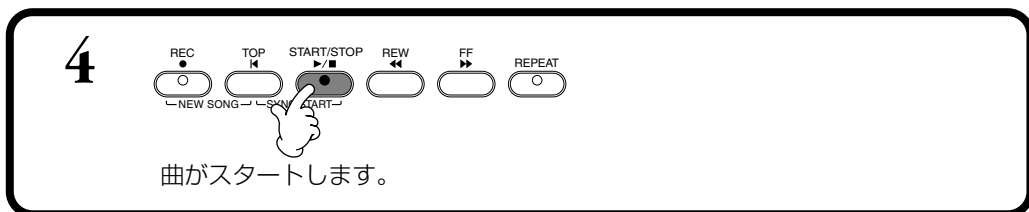


NOTE
表示される歌詞の言語は、歌詞データによります。歌詞が文字化けしたらSONG SETTING画面(P.126)の[LYRICS LANGUAGE]を切り替えます。



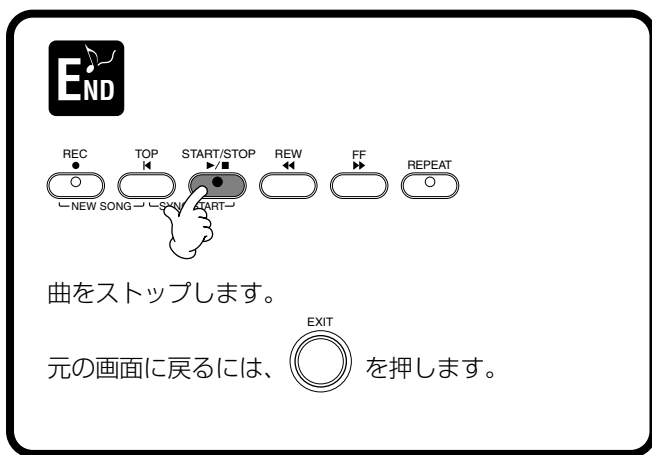
NOTE
歌詞データを含んでいない曲を選んでいるときは、歌詞は表示されません。

NOTE
コードデータを含んでいる曲を選んでいるときは、コードも表示されます。



NOTE
画面は、テレビに映すこともできます(P.133,142)。

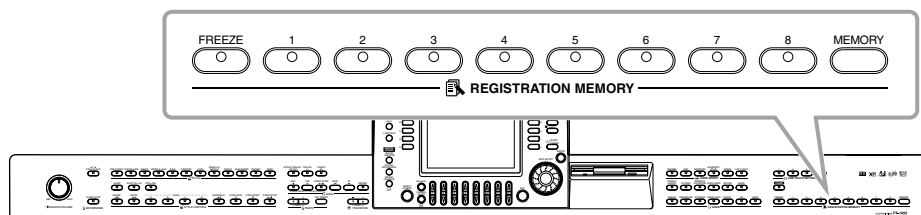
5 曲に合わせて歌詞が反転表示されます。



NOTE
歌詞は変更することができます (P.105)。

パネル設定の登録 REGISTRATION MEMORY

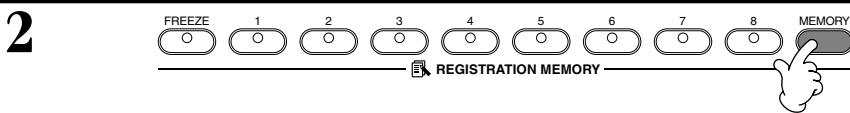
パネルの設定をそのままボタンに登録して、好きなときに呼び出すことができます。登録する項目を選んで、好きな音色や伴奏スタイルなどを個別に登録することもできます。



パネル設定を登録する REGISTRATION MEMORY

パネルの設定をボタンに登録します。パネルの設定の中から、登録する項目を選ぶことができます。

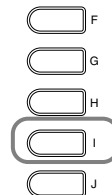
- 音色や伴奏スタイルなどを選び、登録したい状態を作ります。
レジストレーションメモリーで登録できる内容は、別冊「データリスト(パラメーター一覧)」を参照してください。



NOTE
REGISTRATION=登録

NOTE
ディスクの曲(ソング)や伴奏スタイルが選ばれている場合は、**[SONG]**、**[STYLE]**を登録することができません。ディスクのソング/スタイルデータを登録したいときは、**SONG**画面/**STYLE**画面の**[USER]**ページにデータをコピーし、そのデータを選択してから登録してください。

- 登録する項目を選びます。**[DATA ENTRY(データエントリー)]**ダイヤルでも行なえます。選んでいる項目は反転表示されます。チェックマークを付けた項目だけが**REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)**ボタンに登録されます。すべての項目を登録しておいて、あとで呼び出したいくない項目を指定することもできます(P.84)。

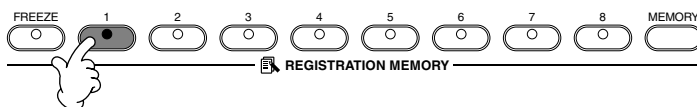


登録を中断して画面を閉じます。**[EXIT(戻る)]**ボタンでも行なえます。

選んだ項目にチェックマークを付けます。**[ENTER(エンター)]**ボタンでも行なえます。

選んだ項目のチェックマークを外します。**[ENTER(エンター)]**ボタンでも行なえます。

- パネル設定を登録したいボタンを押します。



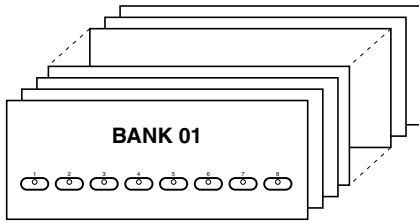
- ランプ(緑)点灯 パネル設定が登録されていて、現在選ばれていません。
- ランプ(赤)点灯 パネル設定が登録されていて、現在選ばれています。
- ランプ点灯なし パネル設定は登録されていません。

NOTE
ランプが点灯(緑、赤)しているボタンにパネル設定を登録すると、そのボタンに登録されていたデータは消去され、新しいデータに書き替えられます。

NOTE
ここで登録したレジストレーションは、次ページの**[保存]**の操作をしないと、電源を切った時点で失われます。

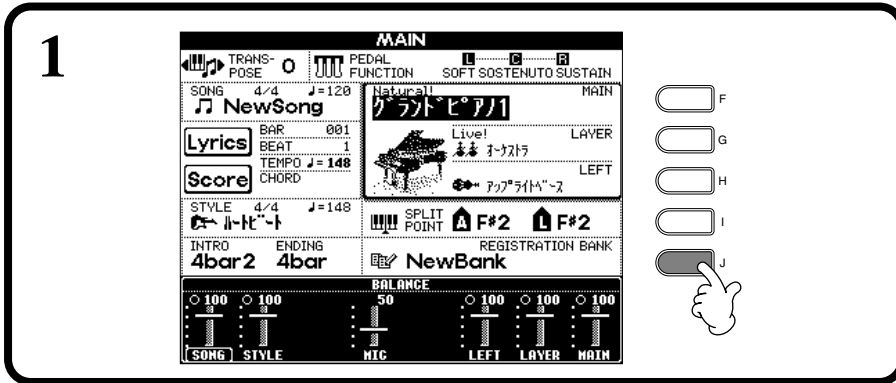
登録したパネル設定を本体に保存する

REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)[1]~[8]ボタンに登録された設定を、1つのファイルとして本体に保存します。

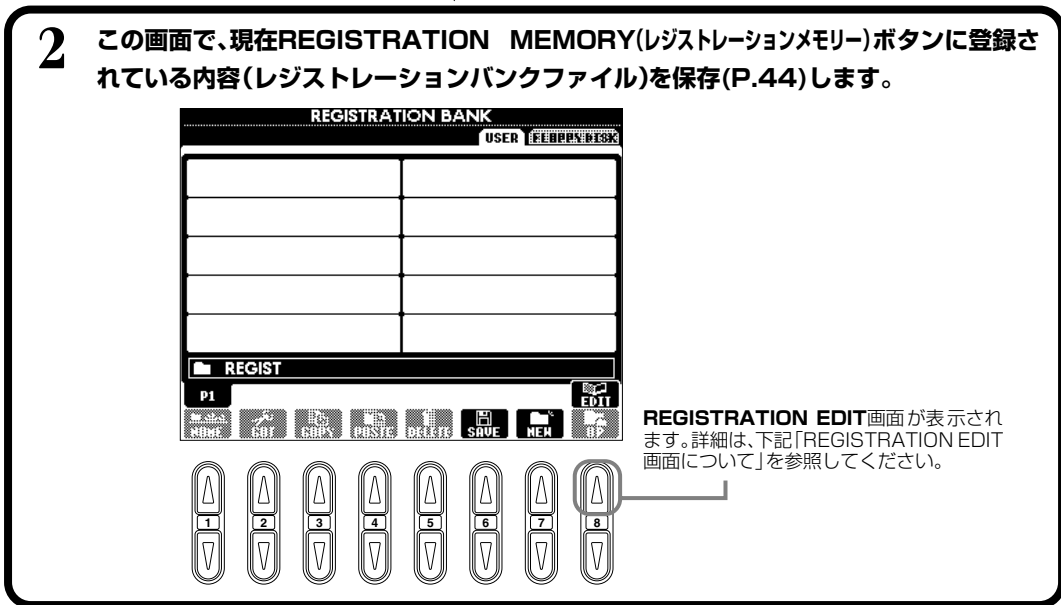


[1]~[8]ボタンに登録されている設定をまとめて「バンク」と呼びます。バンクはレジストレーションバンクファイルとして「USER」「FLOPPY DISK」ページに保存することができます。

NOTE
REGISTRATION MEMORY画面(P.82)で項目をたくさん登録すると、ファイルの容量は大きくなります。



NOTE
MAIN画面が表示されていないときは、[DIRECT ACCESS(ダイレクトアクセス)]ボタンを押してから、[EXIT(戻る)]ボタンを押して表示させます。



2 この画面で、現在REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)ボタンに登録されている内容(レジストレーションバンクファイル)を保存(P.44)します。

REGISTRATION EDIT画面が表示されます。詳細は、下記「REGISTRATION EDIT画面について」を参照してください。

REGISTRATION EDIT画面について

REGISTRATION EDIT画面には、現在のバンクの登録内容(レジスト)が表示されます。登録されているレジストは画面に名前が表示され、対応するREGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)ボタンは緑ランプが点灯しています。この画面では、下記要領でレジストの選択/名前付け/消去ができます。

選択 [A]~[J]ボタンを押します。レジストはREGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)[1]~[8]ボタンと連動していますので、ここでレジストを選ぶと、対応するREGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)ボタンが押された状態(赤ランプ点灯)になります。

名前付け 「基本操作」の「ファイル/フォルダーに名前を付ける(P.41)」と同様です。

消去 「基本操作」の「ファイル/フォルダーを消去する(P.43)」と同様です。

NOTE
ここで名前付け/消去した結果は、[B▼](UP)ボタンを押してREGISTRATION BANK画面に戻り保存(P.44)しないと、電源を切った時点で無効になります。

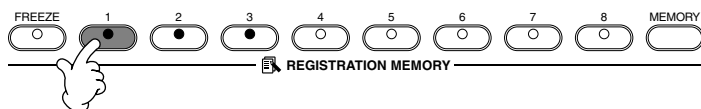
登録したパネル設定を呼び出す

登録した項目は、すべて呼び出すことも、呼び出たくない項目を指定することもできます。たとえば、自動伴奏を使った演奏中に**REGISTRATION MEMORY**(レジストレーションメモリー)ボタンを押しても、突然伴奏スタイルが変更されたりしないようにすることができます。

登録した項目を呼び出す

必要に応じて、最初に**REGISTRATION BANK**画面(P.83)でバンクを選びます。

呼び出したいパネル状態が登録されているボタン(緑ランプ点灯)を押します。



NOTE

REGISTRATION MEMORY (レジストレーションメモリー) [1]～[8]ボタンを呼び出す順番を決めて、演奏のときに**[BACK(バック)]** **[NEXT(ネクスト)]**ボタンやペダルを使って[1]～[8]ボタンを順に切り替えるよう設定することができます(P.131)。

呼び出たくない項目を指定する フリーズ FREEZE

1

REGIST.SEQUENCE/
FREEZE/VOICE SET
画面の「FREEZE」ページ
を表示します(P.131)。

2

レジストメモリーが選ばれても、変更したくないグループにチェックマークをつけてください。

呼び出たくない項目にチェックマークを付けます。

チェックマークを外します。

呼び出たくない項目を選びます。

3 [FREEZE(フリーズ)] ボタンをONにして、チェックマークを付けなかった項目だけが**REGISTRATION MEMORY**(レジストレーションメモリー)ボタンを押したときに本体パネルに呼び出されるようにします。

4 呼び出したいパネル状態が登録されているボタン(緑ランプ点灯)を押します。

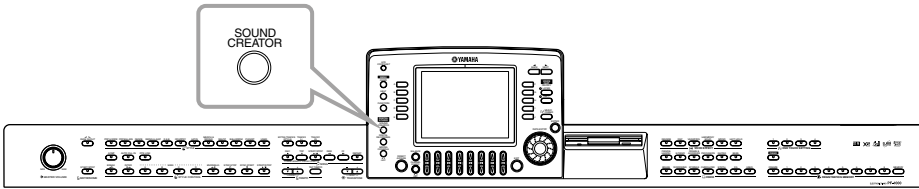
ボイス 音色 (VOICE) を編集する

サウンド クリエーター SOUND CREATOR

SOUND CREATORの機能を使うと、既存のVOICE(音色)を編集し、オリジナルのVOICEを作ることができます。作ったVOICEは、USER VOICEとして保存することにより、必要なときに呼び出して使うことができます。

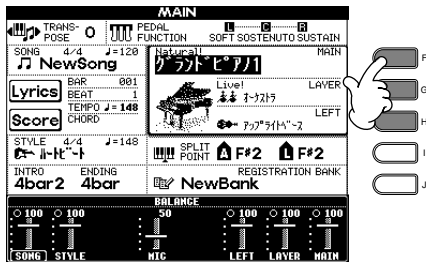
NOTE

- VOICEの編集は、SONGやSTYLEの再生中にリアルタイムで行なうことができます。
- 選んでいる音色によっては、エディットの効果がわかりにくい場合があります。



操作手順

1 [F] ボタン、[G] ボタン、[H] ボタンを押して、編集したいVOICEが割り当てられているPART (MAIN、LAYER、LEFT) を選びます。



2 [SOUND CREATOR (サウンドクリエーター)] ボタンを押します。



NOTE

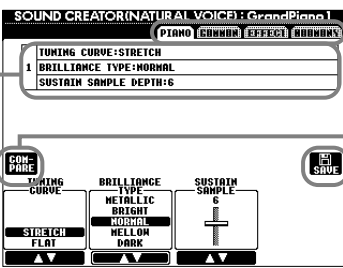
VOICEは、SOUND CREATOR画面に入ったあとでも切り替えることができます。



編集したパートの音色が切り替わると、変更した内容は失われます。大切なデータは必ずUSERドライブまたはディスクに保存してください。

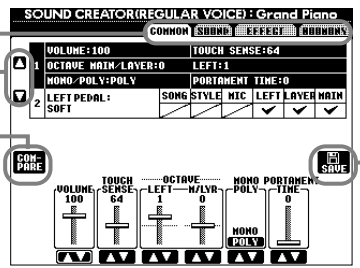
3 VOICEのパラメーター(機能の設定値)を編集します。
各設定項目についてはP.87からの説明を参照してください。

NATURAL音色時



[NEXT(ネクスト)] [BACK(バック)] ボタンを押して、目的のページを選びます。

REGULAR音色時



目的のメニューを選びます。選ばれている項目が反転表示されます。

編集前のVOICEと編集中のVOICEを聞き比べることができます。

この画面で変更できる項目のリストです。画面下部に表示されるとおり、[1]~[8] ボタンと対応しています。

編集したVOICEをUSER VOICEとして保存します(P.44)。

4 編集したVOICEをUSER VOICEとして保存します(P.44)。

5 保存したVOICEを呼び出せば、編集したVOICEを演奏することができます。

サウンド クリエーター
SOUND CREATORで設定できる項目

PIANO	ピアノに特有の調律曲線や共鳴に関する設定をします。ピアノ(NATURAL音色)以外のVOICEが選択されているときは表示されません。
COMMON	VOICEのVOLUMEやOCTAVEなどに関する設定をします。
SOUND	音の明るさや音量の時間的変化、音の揺れなどに関する設定をします。(REGULAR音色のみ)
EFFECT	エフェクトの深さやタイプを選択します。
HARMONY	HARMONY/ECHOに関する設定をします。

NOTE
 選んだVOICEの種類(REGULAR音色、NATURAL音色)によって、設定できる項目は異なります。

以下の設定項目はSOUND CREATOR以外の機能からも設定できます。一方で変更した内容は、もう一方にも反映されます。

NOTE
 SOUND CREATORの設定値がMAINパートの音色のみに反映されるパラメーターもあります。

共通の設定	機能のもう一方の場所	
MONO	VOICE EFFECT(TOP PANEL)	P.58
PORTAMENTO TIME	MIXING CONSOLE	P.118
LEFT PEDAL TYPE	CONTROLLER (FUNCTION)	P.128
LEFT PEDAL SETTINGS	CONTROLLER (FUNCTION)	P.128
FILTER BRIGHTNESS	MIXING CONSOLE	P.118
FILTER HARMONIC CONTENT	MIXING CONSOLE	P.118
REVERB DEPTH	MIXING CONSOLE	P.119
CHORUS DEPTH	MIXING CONSOLE	P.119
DSP ON/OFF	VOICE EFFECT(TOP PANEL)	P.57
DSP DEPTH	MIXING CONSOLE	P.119
DSP TYPE/VARIATION	MIXING CONSOLE/VOICE EFFECT (TOP PANEL)	P.57, 119
HARMONY/ECHO TYPE	HARMONY/ECHO (FUNCTION)	P.132
HARMONY/ECHO VOLUME	HARMONY/ECHO (FUNCTION)	P.132
HARMONY/ECHO SPEED	HARMONY/ECHO (FUNCTION)	P.132
HARMONY/ECHO ASSIGN	HARMONY/ECHO (FUNCTION)	P.132
HARMONY/ECHO CHORD NOTE ONLY	HARMONY/ECHO (FUNCTION)	P.132
HARMONY/ECHO TOUCH LIMIT	HARMONY/ECHO (FUNCTION)	P.132

NATURAL VOICE(音色) と REGULAR VOICE(音色)について

PF-1000には、膨大なウェーブ容量をフルに活用し、きめ細かい演奏表現を可能にするNATURAL音源と、他の機器やSONGデータとの互換性を実現するXG音源の2つの音源が搭載されています。このNATURAL音源を使って発音するVOICE(音色)をNATURAL音色、XG音源を使って発音するVOICEをREGULAR音色と呼びます。

最大同時発音数は、音源ごとに決められています。

通常、SONG や STYLE は XG 音源を使って再生されますので、鍵盤で弾く VOICE に NATURAL 音色を選べば、SONGやSTYLEに最大同時発音数以上の演奏情報が含まれていても、影響を受けることなく演奏することができます。

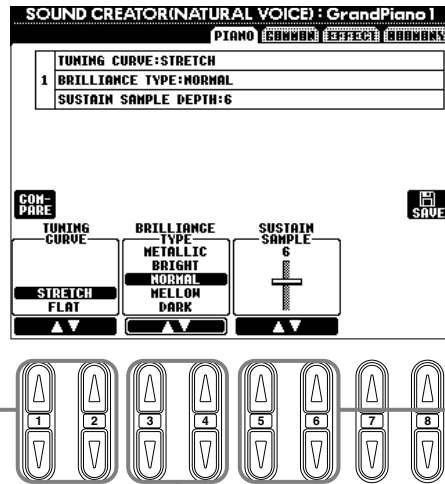
NOTE
 XG音源を使って発音するVOICEはさらに、PF-1000独自の音色(Cool!, Sweet!, Live!)とXG音色に分けることができます。

Natural!	Cool!	Sweet!	Live!	XG
PF-1000独自の音色				XG対応(互換用)音色
NATURAL音色 (NATURAL音源で発音)	REGULAR音色 (XG音源で発音)			
おもに手弾き用*	手弾き、SONG/STYLE再生用*			

* STYLEによっては、NATURAL 音色を使うものがあります。また、通常XG音色(P.149)で再生されるSONG(曲)を、自動的にPF-1000が持つ豊かな音色で再生させるように設定することもできます(P.117)。

ピアノ ナチュラル ピアノ ボイス
PIANO(NATURAL音色のPIANO VOICE選択時のみ)

以下の機能は、P. 85の操作手順3に対応しています。



NOTE
 選んだ音色によって、設定できる項目は異なります。

調律曲線を選ぶことができます。多重録音したときなど、ピアノ特有の調律カーブが他の楽器の音程と微妙に合わないと感じた場合に、FLATを選ぶと解消されます。

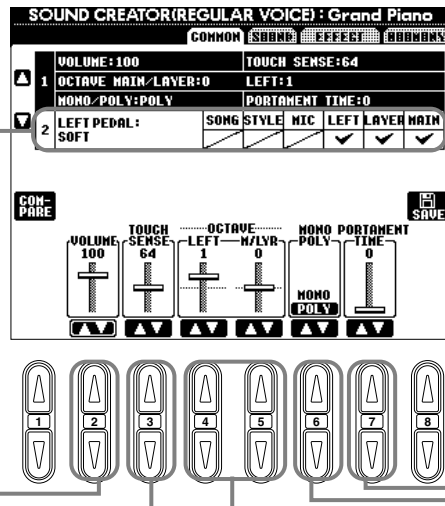
STRETCH...ピアノ特有の調律曲線
FLAT全音域にわたってオクターブで周波数が倍になる調律曲線

ダンパーペダル使用時の共鳴効果(サステインサンプリング)のかけ具合を設定します。

音の明るさを調節します。すべてのNATURAL音色で共通に有効となります。NATURAL音色のPIANO VOICE以外が選択されているときは、EFFECTページで設定します。詳しくは、EFFECTページ(P.89)の説明を参照してください。

COMMON
COMMON

以下の機能は、P. 85の操作手順3に対応しています。



LEFT PEDALに割り当てる機能を設定します。設定できる内容はCONTROLLERと同じです。詳しくは、P. 128を参照してください。

編集中のVOICEの音量を設定します。

タッチに対する音量変化幅を設定します。
 0(弱く弾くと、より急激に音量が下がる) ~64(標準タッチ) ~127(一定音量)

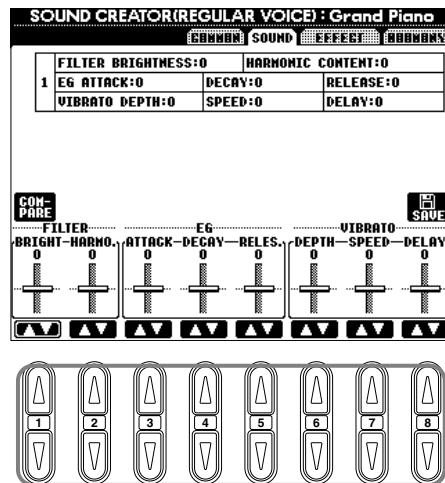
各パート(MAIN,LAYER,LEFT)のポルタメントタイムを設定します(REGULAR音色のみ)。詳しくは、P.118を参照してください。

単音(モノフォニック)で鳴らします(REGULAR音色のみ)。詳しくは、P.58を参照してください。

選択中のボイスの音程をオクターブ単位で移調します。ボイスをMAINまたはLAYERパートで使用しているときはM/LYR、LEFTパートで使用しているときはLEFTの値が有効となります。

サウンド レギュラー
SOUND(REGULAR音色のみ)

以下の機能は、P. 85の操作手順3に対応しています。



FILTER,EG,VIBRATO を設定します。このあとの説明を参照してください。

■ FILTER(フィルター) (BRIGHTNESS、RESONANCE)(ブライトネス、レゾナンス)

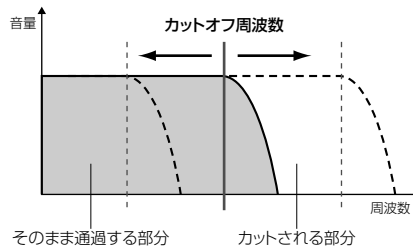
フィルターとは特定の周波数帯域だけを通過させ、他の周波数帯域の信号をカットすることによって音質を変化させる機能です。

NOTE

フィルターを使って、シンセサイザーのような電子的なサウンドを作り出すこともできます。

• BRIGHTNESS(ブライトネス)

フィルターのカットオフ周波数(どの周波数帯の信号以上をカットするか)を設定して、音の明るさを調整します(図参照)。値を高くするほど、明るい音になります。

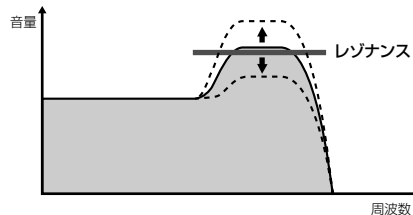


NOTE

BRIGHTNESS...明るさ、輝き

• HARMONIC CONTENT(ハーモニックコンテンツ)

カットオフ周波数付近の音量を持ち上げる(レゾナンス)機能です(図参照)。値を高くするほど、レゾナンス効果が強くなります。



NOTE

レゾナンス...共鳴、共振

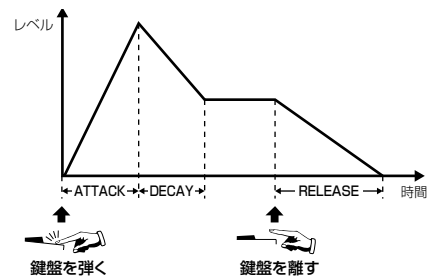
■ EG(エンベロープジェネレーター)

EG(エンベロープジェネレーター)により、時間経過の中でどのように音量が変化していくかを設定することができます。これにより、「音の立ち上がりや減衰が早い」(パーカッションなど)であるとか、「余韻が長い」(ピアノなど)といった生楽器が持つさまざまな音の特性を作り出すことができます。

• **ATTACK(アタック)**.. 鍵盤を押さえたとき、0から最大の出力レベルに達するまでの時間を設定します。値を小さくするほど、音の立ち上がりが早くなります。

• **DECAY(ディケイ)**..... 最大の出力レベルから減衰してサステインレベル(鍵盤を押さえている間持続する一定のレベル)に達するまでの時間を設定します。値を小さくするほど、減衰のしかたが早くなります。

• **RELEASE(リリース)**.. 鍵盤を離した後、出力レベルが0に達するまでの時間を設定します。値を小さくするほど、音の消え方が早くなります。



NOTE

RELEASEの値を大きく設定すると、余韻(サステイン)を長くすることができます。

■ VIBRATO(ビブラート)

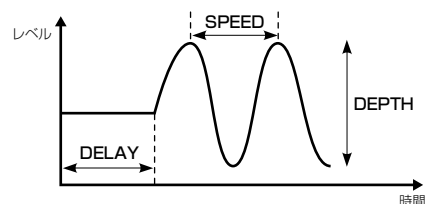
• **DEPTH(デプス)** ビブラート効果の深さを決定します(図参照)。値を高くするほど、ビブラートが深くかかります。

• **SPEED(スピード)**..... ビブラート効果の速さを決定します(図参照)。

• **DELAY(ディレイ)**..... 鍵盤を弾いてからビブラート効果がかかり始めるまでの時間の長さを決定します。設定値が高いほど、ビブラートがかかるまでの時間が長くなります(図参照)。

NOTE

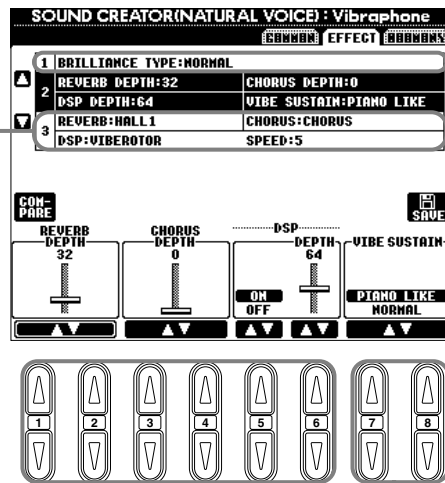
VIBRATO...音程を周期的に変化させて、音の揺れを作る効果です。



エフェクト
EFFECT

以下の機能は、P.85の操作手順3に対応しています。

NATURAL 音色用のエフェクト(REVERB、CHORUS、DSP)タイプを選びます(NATURAL 音色選択時)。REGULAR音色時はDSPのタイプとVARIATIONを設定します。エフェクトのしくみについてはP.121を、エフェクトタイプについては別冊データリストを参照してください。



設定できる内容は、MIXING CONSOLEと同じです。詳しくは、P.119を参照してください。

鍵盤を押しているあいだ、ピアノと同じように音が延びる(PIANO LIKE)か、ピアノ本来の動きと同じようにサステインペダルを踏んでいるときだけ音が延びる(NORMAL)かを選択します(VIBRAPHONE VOICE選択時のみ)。

音の明るさを調節します(NATURAL 音色選択時のみ)。すべてのNATURAL 音色に共通で有効となります。PIANO VOICEが選択されているときは、PIANOページ(P.87)でも設定できます。

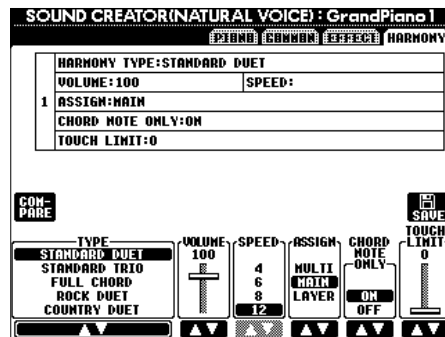
- METALLIC 鋭い音
- BRIGHT 明るい音
- NORMAL 標準的な音質
- MELLOW 柔らかくまろやかな音
- DARK 暗い音

NOTE

- BrightやMetallicを極端に設定すると、音量が少し大きくなります。【MASTER VOLUME (ボリューム)】が大きくなっている状態では音がひずむことがありますので、その場合は音量を少し下げてください。
- DSPタイプにVIBE ROTORが選ばれているときは、SPEEDの項目が追加されます。VIBE ROTORペダルを使っている場合の、ピラート効果の音揺れのスピードを設定できます。

ハーモニー
HARMONY

以下の機能は、P.85の操作手順3に対応しています。

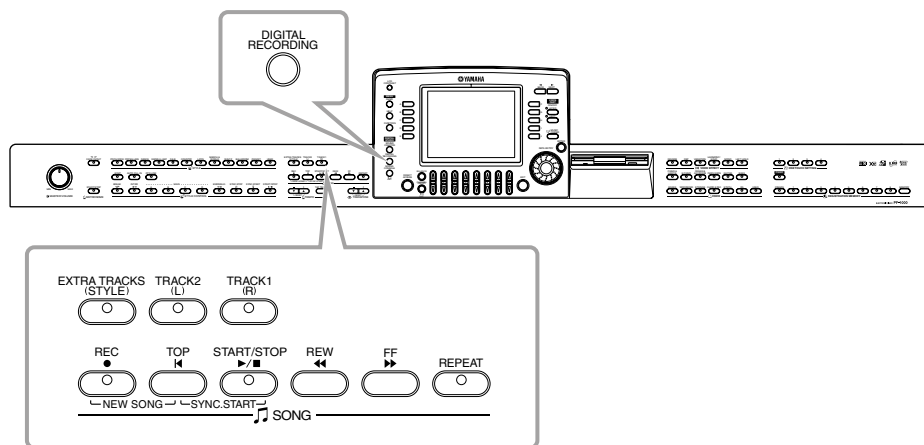


設定できる内容は、FUNCTIONのHARMONY/ECHOと同じです。P.133を参照してください。

演奏を録音して曲を作る

SONG CREATOR

自分の演奏を録音し、本体またはディスクに保存することができます。簡単な操作で録音できる「クイック録音(P.91)」、アンサンブルの曲を多重録音できる「多重録音(P.92)」、楽器を演奏しなくてもデータ入力で録音できる「ステップ録音(P.94)」があります。曲には、鍵盤演奏用の音色(MAIN/LAYER/LEFT)だけでなく、エフェクトや自動伴奏パートも含まれます。録音した曲は本体やディスクに保存できます(P.38、44)。



曲の録音について

■ クイック録音(P.91)

練習中のピアノ曲を録音して聞いてみるなど、もっとも手軽にできる録音方法です。右手、左手、自動伴奏の3つのパートを選んで、右手演奏だけ録音したり、右手演奏と自動伴奏を同時に録音したりすることができます。

■ 多重録音(P.92)

バンドやオーケストラのように複数の楽器を使う演奏を録音できます。楽器ごとに演奏を録音してアンサンブル曲を作ってみましょう。また、本体またはディスクに入っている曲に自分の演奏を重ねて録音したり、一部を上書き録音したりすることもできます。

■ ステップ録音(P.94)

譜面を書いていくように、音程や音の長さなどを選んで録音することができます。楽器を演奏しなくても簡単に曲を作ることができます。

■ 録音した曲の編集(P.100)

クイック録音、多重録音、ステップ録音で録音した曲を編集します。

NOTE

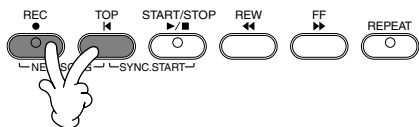
- 本体に保存できる容量は、何も保存されていないときで約580KBです。また、2DD/2HDディスクの容量は、何も保存されていないときで約720/1440KBです。これらの空き容量を、ボイス、スタイル、ソング、レジストなどで共通に使用します。
- マイクで歌った声は録音できません。
- PF-1000で録音した曲は、SMF(スタンダードMIDIファイルフォーマット0)になります。SMFについてはP.148、149を参照してください。
- 録音した曲データは、再生時MIDI OUTから出力することもできます(P.135)。
- MIXING CONSOLEで曲(ソング)を編集し、その内容を曲データに記憶させることができます(P.102)。
- 曲(ソング)に合わせて弾く手弾き音の音色を、曲データに記憶させることができます(P.102)。

クイック録音

練習中のピアノ曲を録音して聞いてみるなど、もっとも手軽にできる録音方法です。

■ 新しい曲を作る場合

1



■ 本体またはディスクに入っている曲の一部を自分の演奏に差し替える場合

1

使いたい曲を選びます (P.74,76)。

2 録音に使う音色や伴奏スタイルなどを選びます。

レイヤー/レフト音色も録音したい場合は、**[LAYER(レイヤー)]/[LEFT(レフト)]** ボタンをONにしてください。必要に応じてそのほかの設定(リバーブやコーラスなど)も選んでください。

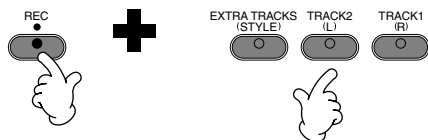
3

[REC(録音)] ボタンを押したまま録音したいトラックのボタンを押します。トラック1か2とその他トラックを同時に選ぶこともできます。

鍵盤演奏を録音する..... **[TRACK1(R)(トラック1(右手))]**か**[TRACK2(L)(トラック2(左手))]** ボタンを押します。

自動伴奏の演奏を録音する... **[EXTRA TRACKS(STYLE)(その他トラック(スタイル))]** ボタンを押します。

もう一度 **[REC(録音)]** ボタンを押すと、録音は中止されます。



NOTE

[REC(録音)] ボタンを押す前に **[LAYER(レイヤー)]/[LEFT(レフト)]** ボタンを ON にすると、レイヤー/レフトパートは自動的に別々のチャンネルに録音されます。

NOTE

TRACK1/2 の演奏は、SONG SETTING(P.126) で指定されたチャンネルに録音されます。

NOTE

トラック1に右手演奏(レイヤー音色含む)を録音したあと、さらに別の右手演奏をトラック2に録音することができます。

[LEFT(レフト)] ボタンをOFFにして、手順2、3を繰り返して録音してください。

NOTE

一時停止したいときは **SONG [START/STOP](ソングスタート/ストップ)** ボタンを押します。もう一度 **SONG [START/STOP](ソングスタート/ストップ)** ボタンを押すと録音が再スタートします。

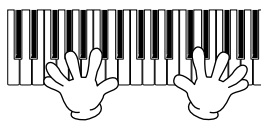
NOTE

メトロノームを使って録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。

4

演奏を始めると同時に録音がスタートします。

SONG/STYLE CONTROL [START/STOP](ソング/スタイルコントロール[スタート/ストップ]) ボタンを押しても録音をスタートすることができます。ペダルにソングスタート/ストップ機能を設定してあれば(P.128)、ペダルを踏んで録音をスタートすることができます。



もう一度 **[REC(録音)]** ボタンを押すと録音がストップします。

ペダルにソングスタート/ストップ機能を設定してあれば(P.128)、ペダルを踏んで録音をストップすることができます。

■ 再生してみよう

[TOP(トップ)] ボタンで曲を先頭に戻して、**SONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ])** ボタンを押し、今録音した演奏を再生します。

再生が終わると自動的にストップし、曲の先頭に戻ります。

録音した曲データは **SONG CREATOR(1-16)** 画面で編集(P.103)することもできます。

録音したデータは、ソングオープンセーブ画面で **[6▼]** ボタンを押して保存(P.38,44)してください。



録音した演奏データは、電源を切ると消えてしまいます。消したくないときは必ず本体のユーザードライブやディスクに保存(P.38,44)してください。

多重録音

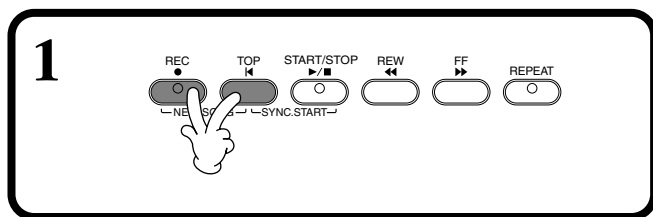
1つの曲で最大16チャンネルにそれぞれ別々の楽器演奏を録音し、アンサンブルの曲を作り上げることができます。チャンネルとパートの構成は次の表の通りです。

チャンネル	初期設定のパート	設定できるパート	チャンネル	初期設定のパート	設定できるパート
1	音色 MAIN	音色 MAIN, LAYER, LEFT 伴奏スタイル RHYTHM 1 伴奏スタイル RHYTHM 2 伴奏スタイル BASS 伴奏スタイル CHORD1 伴奏スタイル CHORD2 伴奏スタイル PAD 伴奏スタイル PHRASE1 伴奏スタイル PHRASE2 MIDI	9	伴奏スタイル RHYTHM 1	音色 MAIN, LAYER, LEFT 伴奏スタイル RHYTHM 1 伴奏スタイル RHYTHM 2 伴奏スタイル BASS 伴奏スタイル CHORD1 伴奏スタイル CHORD2 伴奏スタイル PAD 伴奏スタイル PHRASE1 伴奏スタイル PHRASE2 MIDI
2	音色 MAIN		10	伴奏スタイル RHYTHM 2	
3	音色 MAIN		11	伴奏スタイル BASS	
4	音色 MAIN		12	伴奏スタイル CHORD1	
5	音色 MAIN		13	伴奏スタイル CHORD2	
6	音色 MAIN		14	伴奏スタイル PAD	
7	音色 MAIN		15	伴奏スタイル PHRASE1	
8	音色 MAIN		16	伴奏スタイル PHRASE2	

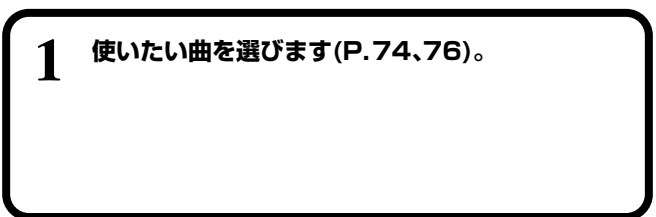
伴奏スタイルの構成パートについて

- RHYTHM..... 伴奏の中心となるリズムパートです。通常、ドラムキットの1つが使われます。
- BASS..... ベースパートです。アコースティックベース、シンセベースなど、各スタイルに合ったベース音が使われます。
- CHORD..... ピアノやギターなどの音で作られるリズムカルなコードの伴奏パートです。
- PAD..... ストリングス、オルガン、クワイアなどの音を使った長く伸びるコードの響きを付けるパートです。
- PHRASE..... パンチのきいたプラスセクションやコードアルペジオなど、さまざまな装飾音を付けるパートです。

■ 新しい曲を作る場合



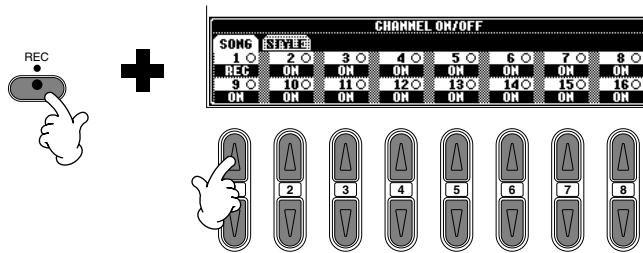
■ 本体またはディスクに入っている曲の一部を自分の演奏に差し替える場合



2 [REC(録音)] ボタンを押したまま[1▼▲]~[8▼▲]ボタンを押して、録音するチャンネルを「REC」にします。複数のチャンネルを同時に選ぶこともできます。

- REC..... 録音チャンネル
- ON..... 再生チャンネル
- OFF..... 消音チャンネル

もう一度 [REC(録音)] ボタンを押すと、録音は中止されます。

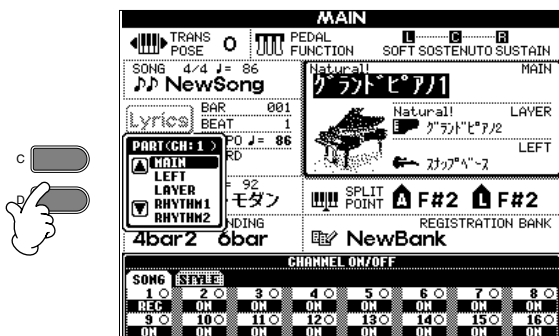


NOTE

複数のチャンネルを同時に「REC」にしたときは、パートは自動で選ばれます。

3 録音するチャンネルに割り振るパートを選びます。

手順2で選んだ録音チャンネルに、手弾き音パート(メイン/レイヤー/レフト)や伴奏スタイルパート(RHYTHM1, 2, BASSなど)のうちどのパートを録音するかを設定します。パートは、初期設定ではP.92のように割り振られています。

**NOTE****MIDIパートを選んだ場合**

• 単一チャンネルをMIDIに設定
MIDI 1~16チャンネルすべてのメッセージが録音されます。コントロールキーボードを接続して録音した場合、コントロールキーボード側で出力チャンネルを設定する必要があります。

• 複数チャンネルをMIDIに設定
外部機器をつないで録音した場合、録音チャンネルと同じMIDIチャンネルのデータを録音します。

NOTE

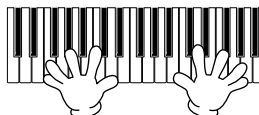
MIDI 以外のパートは、複数のチャンネルに割り振ることはできません。

NOTE

録音パートの設定は、曲変更やクイック録音、電源OFFすると消えてしまいます。

4 演奏を始めると同時に録音がスタートします。

SONG/STYLE CONTROL [START/STOP](ソング/スタイルコントロール[スタート/ストップ])ボタンを押しても録音をスタートすることができます。ペダルに録音パンチイン/アウト機能を設定してあれば(P.99)、ペダルを踏んで録音をスタート/ストップすることができます。

**NOTE**

一時停止したいときは **SONG [START/STOP]**(ソング[スタート/ストップ])ボタンを押します。もう一度 **SONG [START/STOP]**(ソング[スタート/ストップ])ボタンを押すと録音が再スタートします。

NOTE

メトロノームを使って録音することもできます。ただし、メトロノームの音は録音されません。

5 もう一度[REC(録音)]ボタンを押すと録音がストップします。

ペダルに録音パンチイン/アウト機能を設定してあれば(P.99)、ペダルを離れたときに録音をストップすることができます。

6 [TOP(トップ)]ボタンで曲を先頭に戻して、**SONG [START/STOP]**(ソング[スタート/ストップ])ボタンを押し、今録音した演奏を試聴します。

再生が終了すると自動的にストップし、曲の先頭に戻ります。



上記の操作手順2から6までの手順を繰り返して、新しいパートを録音します。

必要に応じて、録音済みのチャンネルを再生させながら録音します。この操作を繰り返して1つの曲を完成させます。録音した曲データは**SONG CREATOR(1-16)**画面で編集(P.103)することもできます。

録音したデータは、**ソングオープンセーブ**画面で[6▼]ボタンを押して保存(P.38, 44)してください。



録音した演奏データは、電源を切ると消えてしまいます。保存したい場合は必ず本体のユーザードライブやディスクに保存(P.38, 44)してください。

ステップ録音 ステップ レコード STEP RECORD

演奏をしなくても、音譜や休符のデータをひとつずつ入力して曲を作ることができます。
メロディとコードは、別々に録音します。

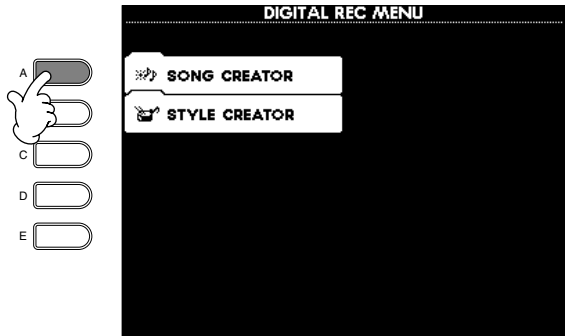
操作手順

1 すでに録音されている曲に追加または上書き録音する場合は、その曲を選びます(P.74、76)。新しい曲を作る場合は[REC(録音)]ボタンと[TOP(トップ)]ボタンを同時に押します。

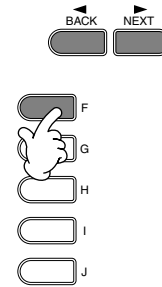
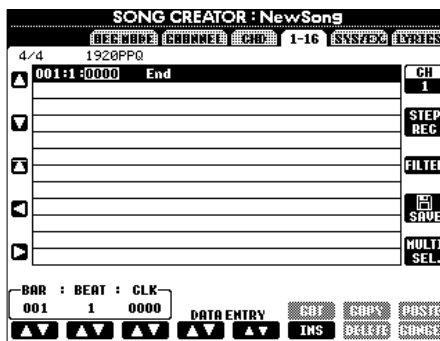
2 [DIGITAL RECORDING (デジタルレコーディング)]ボタンを押します。



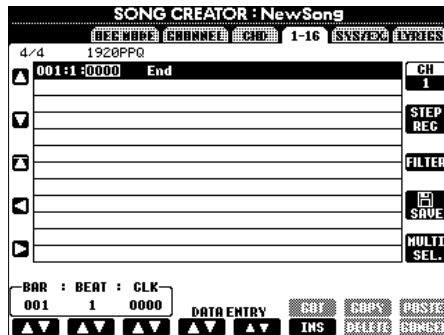
3 [A]ボタンを押し、SONG CREATOR画面を表示させます。



4 メロディを録音するときは「1-16」ページ、コードを録音するときは「CHD」ページを[BACK(バック)][NEXT(ネクスト)]ボタンで表示させます。「1-16」ページを表示させたときは、[F](CH)ボタンで録音チャンネルを指定します。



5 [G]ボタンを押して、STEP RECORD画面を表示させます。



NOTE

MIXING CONSOLE画面で音色やエフェクトを調節したあとに(P.116)「CHD」ページを表示させると、MIXING CONSOLE画面での設定が無効になります。

NOTE

ステップ録音では、USERページとFLOPPY DISKページの音色は選ぶことができません。PRESETページの音色は選ぶことができますが、元の音色と多少響きが異なります。

6 必要に応じて音色を選びます。入力したい音の長さ、強さなどをこの画面で選んでから鍵盤を弾いて音程を入れます。

カーソル位置を上下方向に移動します。

カーソルを曲の先頭位置(最初の小節の最初の音符)に戻します。

次に入力する音符のペロシティを指定します(メロディ録音時のみ)。ペロシティ設定については下記を参照してください。

入力する位置からの割合で音符の長さ(実際に音が鳴る時間)を設定します(メロディ録音時のみ)。ゲートタイム設定については下記を参照してください。

ボタンを押すたびに、画面の一番下にある3種類の音符(標準音符、付点音符、3連符)が順番に切り替わります(メロディ録音時のみ)。

現在カーソルが置かれているイベントを削除します。

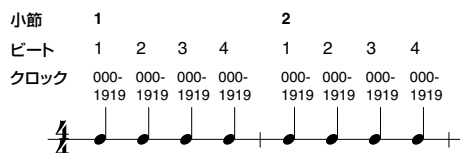
イベントを、小節 (BAR)、ビート (BEAT)、クロック (CLOCK) 単位で移動させます。小節/ビート/クロックについては下記を参照してください。

次に入力する音符の種類を指定します (16分音符はメロディ録音時のみ)。音符が入力されるとカーソルが次の入力位置に進みますが、その進み先がここでの選択によって決まります。



[EXIT(戻る)] ボタンを押してSTEP RECORD画面を閉じ、[I](SAVE) ボタンで録音データを保存 (P.44)します。

■ 小節/ビート/クロックについて



■ ペロシティの設定について

設定できる項目とペロシティ値は下記のようになります。

Kbd. Vel	fff	ff	f	mf	mp	p	pp	ppp
実際に鍵盤を弾いた強さ	127	111	95	79	63	47	31	15

■ ゲートタイムの設定

次の項目が設定できます。

- Normal(ノーマル) 80%
- Tenuto(テヌート) 99%
- Staccato(スタッカート) 40%
- Staccatissimo(スタッカティッシモ) 20%
- Manual(マニュアル)

ゲートタイム(音符の長さ)を[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイアルを使ってパーセンテージで指定することができます。

メロディを録音する STEP RECORD (Note)

右の楽譜の例を使って、実際に音符をステップ録音する方法をご紹介します。

ここでの説明は、P.95の操作手順6に相当します。



1

1-1 この音符を選びます。

1-2 この鍵盤を押しながら、

1-3 これを押します (タイの入力)。

NOTE

タイを入力したデータや長い音符のデータを本体の画面で楽譜表示した場合、入力したとおりに表示されることがあります。入力したとおりに表示させたい場合は、[H] ボタンを使ってゲートタイムをテヌートにしてから入力してください。

2

2-1 この音符を選びます。

2-2

2-3

2-4

3

3-2 この音符を選びます。

3-1 このボタンを押して付点音符を表示させます。

3-3

4

4-2 この音符を選びます。

4-1 このボタンを押して標準音符を表示させます。

4-3

NOTE

休符を入力する場合は、単に休符分の小節/ビート/クロックを先に進めてから、次の音符を入力します。

再生してみよう

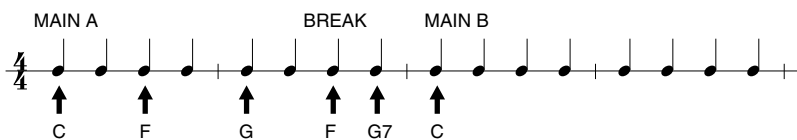
[C] (▲) ボタンでカーソルを曲の先頭位置に移動させて**SONG[START/STOP]**(ソング[スタート/ストップ])ボタンを押し、録音した曲を試聴します。録音したデータを確定するには**[EXIT(戻る)]**ボタンを押します。確定したデータは **SONG CREATOR(1-16)**画面で編集(P.103)することもできます。

自動伴奏のコードチェンジを録音する STEP RECORD (Chord)

コードステップ録音は、正確な位置に1つずつ自動伴奏用のコードチェンジを録音することができる機能です。演奏しながらコードチェンジを入力していくわけではないので、メロディの録音を行なう前に、複雑なコード進行や伴奏を簡単に作成することができます。ここでの説明は、P.95の操作手順6に相当します。

コード/セクション(コードステップ)の入力

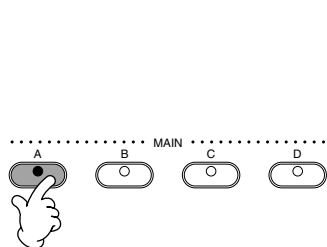
たとえば、下記の手順で次のコード進行を入力することができます。



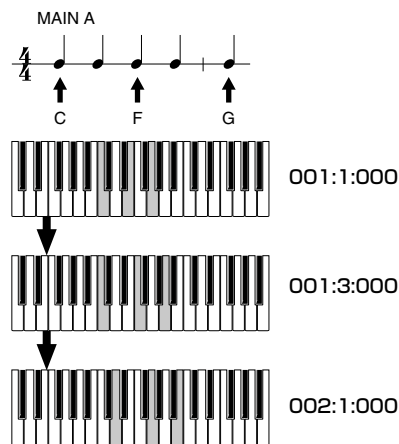
NOTE

コードの入力は、自動伴奏のコードの押さえ方と自動伴奏用鍵盤で行なってください。

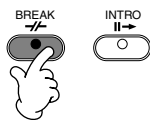
1 [MAIN A(メインA)]ボタンを押してセクションを指定し、右側に示されたようにコードを入力します。



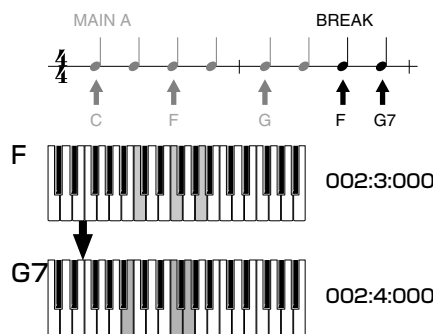
この音符を選んで、右側に示されたコードを弾きます。



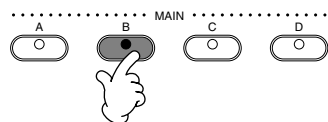
2 [BREAK(ブレイク)]ボタンを押してセクション「BREAK」を指定し、右側に示されたようにコードを入力します。



この音符を選んで、右側に示されたコードを弾きます。



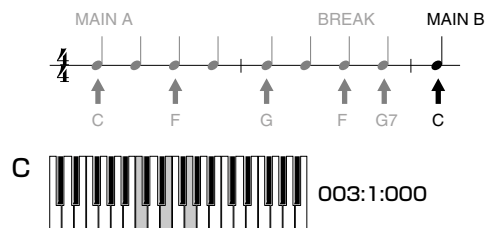
3 【MAIN B(メインB)]ボタンを押してセクションを指定し、右側に示されたようにコードを入力します。



SONG CREATOR : NewSong			
STEP RECORD			
4/4	2PPQ		
001:1:0000	Sty	8ビート	
001:1:0000	Sect	M	A Main A : 2
001:1:0000	Chord	C	
001:1:0000	Tempo	92	
001:3:0000	Chord	F	
002:1:0000	Chord	G	
002:3:0000	Sect	F	Br Break : 1
002:4:0000	Chord	G	7
003:1:0000	Chord	C	
003:1:0000	Sect	M	B Main B : 2
005:1:0000	End		

BAR : BEAT : CLK
003 2 0000

この音符を選んで、右側に示されたコードを弾きます。



■ 再生してみよう

[C] (▲) ボタンでカーソルを曲の先頭位置に移動させて**SONG [START/STOP]**(ソング [スタート/ストップ])ボタンを押し、録音した曲を試聴します。録音したデータを確定するには**[EXIT(戻る)]**ボタンを押します。確定したデータは**SONG CREATOR(CHD)**画面で編集(P.104)することもできます。

入力したデータを曲データに変換するには**SONG CREATOR(CHD)**画面(P.104)で**[F] (EXPAND)**ボタンを押します。

NOTE

フィルインを入力したいときは、**[AUTO FILL IN(オートフィルイン)]**ボタンをONにしてから**[MAIN A(メインA)]**~**[D]**ボタン(フィルインと同時に切り替えるセクション)を押します。

NOTE

「END」の位置について
STEP RECORD画面では、曲データの終わり位置に「END」が表示されます。曲の最後に入力されたセクションがエンディングの場合、「END」は自動的にエンディングデータに続けて記録されます。曲の最後に入力されたセクションがエンディング以外の場合、「END」の位置は入力されたセクションの2小節あとになります。「END」の位置は移動させることもできます。

録音の始め方/終わり方/上書き方法を選ぶ

ロック モード
REC MODE

クイック録音や多重録音で、録音の始め方や終わり方などを設定します。

操作への入り方はP.94の操作手順1~3を行なったあと、**[BACK(バック)]** **[NEXT(ネクスト)]** ボタンで**REC MODE**の画面を表示させます。

録音の始め方を選びます。

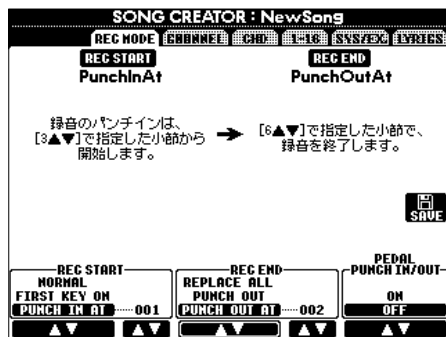
NORMAL SONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ])ボタンを押したときかシンク口待機状態で鍵盤を弾いたときに、上書き録音がスタートします。

FIRST KEY ON

鍵盤を弾くと同時に上書き録音がスタートします。曲の途中を差し替えたいときに便利です。

PUNCH IN AT

[3▲▼] ボタンの上に表示されている小節番号の小節の先頭までは元のデータが再生され、それ以降上書き録音がスタートします。



I **SONG** 画面を表示させ、録音データを保存します。

ソステヌートペダル(まん中のペダル)でパンチイン/アウトをします。ペダルを踏んでいる間に録音されます。

「PUNCH IN AT」のとき、上書き録音をスタートしたい小節位置を指定します。

録音の終わり方を選びます。

REPLACE ALL

録音をストップした所からあとのデータを消します。

PUNCH OUT

録音をストップした所からあとのデータを残します。

PUNCH OUT AT

[6▲▼] ボタンの上に表示されている小節番号の小節の先頭まで上書き録音され、それ以降は元のデータが再生されます。

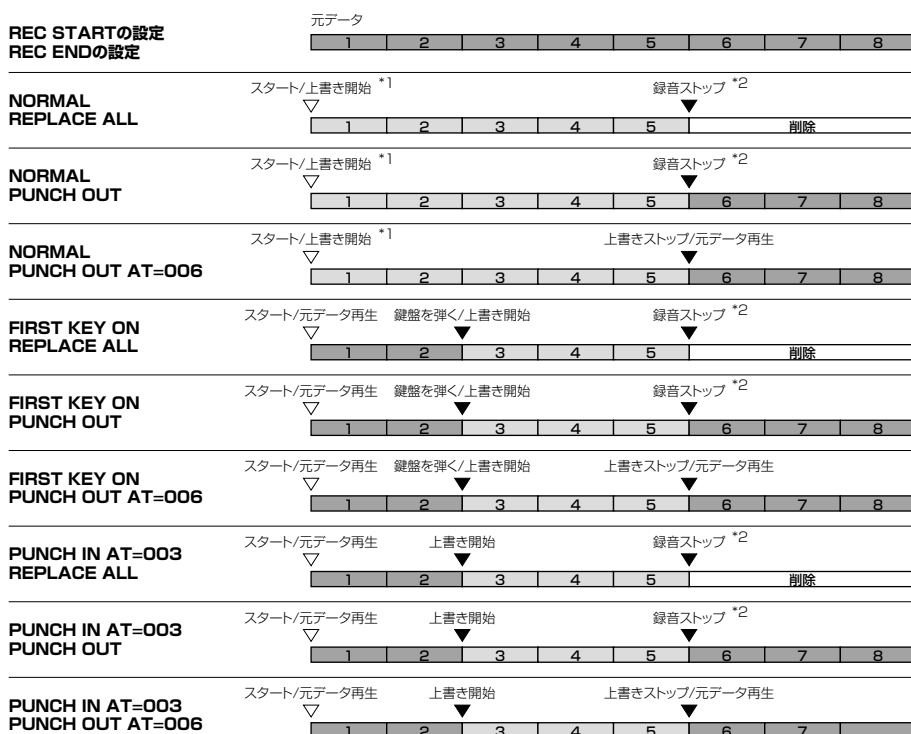
「PUNCH OUT AT」のとき、どの小節まで上書きするかを指定します。

NOTE

PEDAL PUNCH IN/OUTがONのときは、ソステヌートペダルに割り当てられていた機能は無効となります。

パンチイン/アウトについて

録音済みのチャンネルを部分的に録音し直すことができます。下の図は、8小節中の5小節めまでの録音をやり直す場合のイメージ図です。



*1 1~2小節を上書きしないときは、SONG POSITION=003からスタート

*2 5小節終了時に**[REC(録音)]** ボタンを押す必要があります。

■ 録音されていたデータ
■ 新しく録音したデータ
■ 削除されたデータ

録音した曲を編集する

クイック録音、多重録音、ステップ録音で録音した曲を編集します。

チャンネルに関する編集をする CHANNEL

チャンネル

操作への入り方はP.94の操作手順4と同様です。下記画面は【BACK(バック)】【NEXT(ネクスト)】ボタンで表示させます。

クオンタイズ
QUANTIZE

クオンタイズはすでに録音された曲の発音のタイミングを修正する機能です。たとえば、次の楽譜は正確な4分音符と8分音符で書かれています。



このフレーズをどんなに正確に弾いたつもりでも、実際の拍より少しだけ前や後ろにずれる可能性があります。クオンタイズは、クオンタイズサイズ(下記参照)で、曲(指定されたチャンネル)中のすべての音符を正確なタイミングに並べます。

項目を選びます。

これを押しとクオンタイズが行なわれます。クオンタイズ実行後は、このボタンが【UNDO(取り消し)】を実行するボタンになります。クオンタイズされたデータを試聴して、元に戻したい場合はもう一度このボタンを押します。なお、取り消すことができるのは1つ前の操作のみです。

クオンタイズをかけたいチャンネルを選びます。

クオンタイズサイズを選びます。詳しくは下記をご参照ください。

クオンタイズをかける強さを決定します。100%以下の値が選ばれていると、指定されたクオンタイズの長さに従って指定された量(%分)だけ各音符のタイミングが移動します。100%以下でクオンタイズをかければ、演奏のリアルタイム感を残すことができます。

SONG画面を表示させ、データを保存します。

■ クオンタイズサイズについて

クオンタイズをかけるチャンネルの中で一番短い音符に合わせて、クオンタイズサイズを設定します。たとえば、4分音符と8分音符の両方の音符が録音されているデータの場合、クオンタイズサイズとして8分音符を選びます。もし、この例でクオンタイズサイズを4分音符に設定してクオンタイズを実行した場合、8分音符は4分音符単位の位置に移動してしまいます。

8分音符でクオンタイズをかける前



8分音符でクオンタイズをかけた後



クオンタイズサイズ

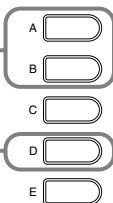
4分音符	8分音符	16分音符	32分音符	16分音符+3連8分音符*
3連4分音符	3連8分音符	3連16分音符	8分音符+3連8分音符*	16分音符+3連16分音符*

*マークの付いた3つのクオンタイズ設定は、異なる2つの音符の長さを同時に利用してクオンタイズを実行できるので大変便利です。たとえば、8分音符と3連8分音符の両方の音符が録音されているチャンネルに、8分音符の長さでクオンタイズをかけた場合、そのチャンネルのすべての音符が8分音符でクオンタイズされてしまい、3連符のリズムが完全になくなってしまいます。ところが、8分音符+3連8分音符の設定を使うと、8分音符と3連符の両方の音符をクオンタイズすることができます。

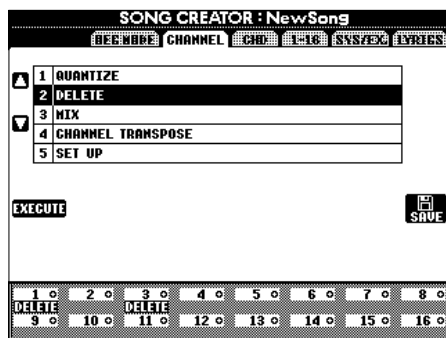
DELETE

曲(指定したチャンネル)のデータを削除します。

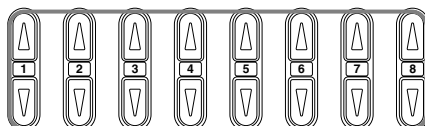
項目を選びます。



選んだチャンネルを削除します。実行後は、このボタンが「UNDO(取り消し)」ボタンとして機能します。削除したチャンネルを戻したい場合に、実行前の状態に戻すことができます。なお、取り消すことができるのは1つ前の操作のみです。



SONG画面を表示させ、データを保存します。

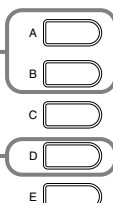


削除するチャンネルを選びます。

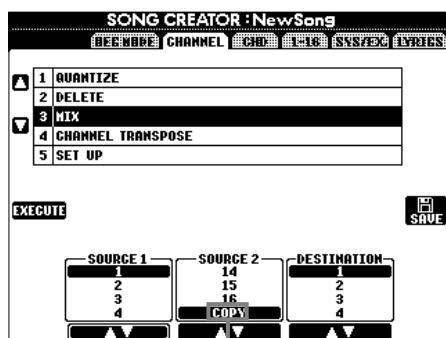
MIX

指定した2つのチャンネルのデータをミックスして、別のチャンネルにコピーすることができます。また、あるチャンネルから別のチャンネルにデータをコピーすることができます。

項目を選びます。

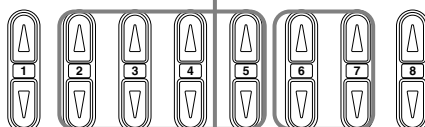


このボタンを押すとミックスを実行します。ミックス実行後は、このボタンが「UNDO(取り消し)」を実行するボタンになります。ミックスされたデータを試聴して、元に戻したい場合はもう一度このボタンを押します。なお、取り消すことができるのは1つ前の操作のみです。



NOTE
ミックスした音符データ以外のすべてのデータは、SOURCE 1チャンネルから抽出されます。

SONG画面を表示させ、データを保存します。



ミックスしたいチャンネルを指定します。

ここで選んだチャンネルにミックスやコピーの結果が置かれます。

「COPY」を選ぶと、「SOURCE 1」のチャンネルから「DESTINATION」のチャンネルへコピーすることができます。

チャンネル トランスポーズ
CHANNEL TRANSPOSE

データを含むチャンネルの音程を、それぞれ上下2オクターブの範囲で、半音単位で変更することができます。

項目を選びます。

このボタンを押すとチャンネルトランスポーズを実行します。チャンネルトランスポーズ実行後は、このボタンが「UNDO (取り消し)」を実行するボタンとして機能します。チャンネルトランスポーズの結果が気に入らない場合などに、実行前の状態に戻すことができます。なお、取り消すことができるのは1つ前の操作のみです。

チャンネル「1-8」と「9-16」の表示を交互に切り替えます。

このボタンを押しながらいずれかのチャンネルを調節すると、すべてのチャンネルを同時にトランスポーズ(移調)することができます。

SONG画面を表示させ、データを保存します。

各チャンネルの音程変更の大きさを設定します。

セット アップ
SET UP

音色や音量、テンポなど曲の初期設定値を、現在のミキシングコンソールやパネルの設定値に書き替えることができます。

項目を選びます。

SET UPを実行します。一度SET UPを実行したら、取り消しはできません。

SONG画面を表示させ、データを保存します。

「SELECT」で選んだ項目にチェックマークを付けます。

曲の再生(選曲)と共に呼び出したい項目を選びます。なお、「KEYBOARD VOICE」以外の項目は、曲の先頭にだけ記録することができます。「KEYBOARD VOICE」以外の項目を設定するときは、曲(ソング)を【TOP(トップ)】ボタンで先頭に戻して停止させてから項目を選んでください。

- SONG 現在のミキシングコンソールでの設定値と、テンポを記憶させます。
- KEYBOARD VOICE 曲を再生させるときに手弾き音(メイン/レイヤー/レフト)の音色を自動的に設定させることができます。現在の鍵盤の音色、パートのON/OFFを記憶させます。途中で曲を止めて【D】(EXECUTE)ボタンを押すと、曲の途中で手弾き音の音色変更を記憶させることができます。
- SCORE SETTING SCORE画面での設定を記憶させます。
- LYRICS LANGUAGE LYRICS画面での設定を記憶させます。
- MIC. SETTING ミキシングコンソールでのマイクの設定を記憶させます。

ノートイベントを編集する 1-16

ノートイベントを編集します。操作への入り方はP.94の操作手順4と同様です。下記画面は【BACK(バック)】【NEXT(ネクスト)】ボタンで表示させます。

カーソル位置を上下方向に移動します。

現在の曲の先頭位置(最初の小節の最初の音符)に戻します。

カーソル位置を左右方向に移動します。編集中の位置からカーソルを別の位置に移動すると、自動的に値が確定されます。

イベントを、小節 (BAR)、拍 (BEAT)、クロック(CLK)単位で移動させます。

イベントの値を大まかに調節します。

イベントの値を微調節します。

選ばれているすべてのイベントをカットします。カット(切り取り)したイベントは、別の位置にペースト(貼り付け)できます。

イベントリストに新しいイベントを追加します。

編集したいチャンネルを選びます。

STEP REC画面(P.95)を表示させます。

FILTER画面(P.105)を表示させ、画面に表示させるイベントの種類を選ぶことができます。

このボタンを押しながら、【A】【B】ボタンで複数のイベントを同時に選ぶことができます。

このボタンを押しながら、【A】【B】ボタンで複数のイベントを同時に選ぶことができます。

カットまたはコピーしたすべてのイベントをペースト(貼り付け)します。

カーソル位置の値を変更しても、これを押すと元の値に戻すことができます。

選ばれているすべてのイベントをコピーします。コピーしたイベントは、別の位置にペースト(貼り付け)できます。

現在カーソルが置かれているイベントを削除します。

NOTE

編集した値を確定するには、カーソルを別の位置に動かすか、【START/STOP(スタート/ストップ)】ボタンを押して再生をスタートします。

ノートイベント

表示	設定項目	設定内容	詳細
Note	ノート	音程、ベロシティ、音の長さ	音程、音の強さ、音の長さを設定します。
Ctrl	コントロールチェンジ	コントロールチェンジの種類、設定値	コントロールチェンジの設定を行いません。コントロールチェンジについては別冊データリスト(MIDIデータフォーマット)を参照してください。
Prog	プログラムチェンジ	音色番号	音色を設定します。プログラムチェンジについては別冊データリスト(音色一覧)を参照してください。
P.Bnd	ピッチバンド	設定値	ピッチバンドの値を設定します。
A.T.	アフタータッチ	設定値	アフタータッチの値を設定します。

NOTE

ステップ録音で録音した音色(Prog)は、再生すると元の音色と多少響きが異なります。

コードイベントを編集する コード CHD

コードイベントを編集します。

操作への入り方はP.94の操作手順4と同様です。下記画面は【BACK(バック)】【NEXT(ネクスト)】ボタンで表示させます。【F】(EXPAND)ボタン以外の操作方法は、「ノートイベントを編集する(P.103)」と同様です。

NOTE
編集した値を確定するには、カーソルを別の位置に動かすか、【START/STOP(スタート/ストップ)】ボタンを押して再生をスタートします。

コードイベント

表示	設定項目	設定内容	詳細
Style	伴奏スタイル	伴奏スタイル名	STYLE画面を呼び出し、入力したい伴奏スタイルを選びます。
Tempo	テンポ	テンポの値	テンポを設定します。
Chord	コード名	コードルート、コードタイプ、オンベース	コードを指定します。
Sect	セクション	セクション名、バリエーション	セクションを指定します。
OnOff	チャンネルオンオフ	チャンネル名、ON/OFF	リズム、ベースなどの再生オンオフを設定します。
CH.Vol	チャンネル音量	チャンネル名、音量	リズム、ベースなどの音量を設定します。
S.Vol	伴奏スタイル音量	音量	伴奏スタイル全体の音量を設定します。

システムイベントを編集する システムエクスクルーシブ SYS/EX. (System Exclusive)

システムイベントを編集します。

操作への入り方はP.94の操作手順4と同様です。下記画面は【BACK(バック)】【NEXT(ネクスト)】ボタンで表示させます。操作方法は、「ノートイベントを編集する(P.103)」と同様です。

システムイベント

表示	設定項目	設定内容	詳細
ScBar	楽譜の開始小節番号	小節番号	先頭小節の小節番号を指定します。小節番号は、MAIN画面や楽譜で表示されます。曲データの先頭に1つだけ指定できます。
Tempo	テンポ	テンポの値	テンポを設定します。
Time	拍子	分子/分母	拍子を設定します。
Key	調	短調/長調、調の設定	調を設定します。
XG Prm	XGパラメーター	-	データ部を変更することができます。このメッセージの詳細は別冊データリスト(MIDIデータフォーマット)を参照ください。
SysEx	システムエクスクルーシブ	-	ソング中のシステムエクスクルーシブデータを表示します。内容の変更はできませんが、デリート(削除)、カット(切り取り)、コピー、ペースト(貼り付け)することはできます。
Meta	メタイベント	-	ソング中のSMFメタイベントを表示します。内容の変更はできませんが、デリート(削除)、カット(切り取り)、コピー、ペースト(貼り付け)することはできます。

歌詞イベントを入力/編集する LYRICS

リリックス

曲に、曲名や歌詞などを入れることができます。また、歌詞を書き換えることもできます。歌詞イベントについては下記を参照してください。操作への入り方はP.94の操作手順4と同様です。下記画面は【BACK(バック)】【NEXT(ネクスト)】ボタンで表示させます。操作方法は、「ノートイベントを編集する(P.103)」と同様です。

ここでは、例として内蔵曲「キラキラ星」の歌詞の一部を書き替えます。

1 「star」が表示されているイベントにカーソルを移動させます。

2 「star」までカーソルを移動させます。

3 歌詞を入力する画面(Lyrics画面)を表示させます。
Lyrics画面であなたの名前に書き替えてみましょう。

4 書き替えた歌詞データを保存します。

NOTE
内蔵曲「キラキラ星」は、「ソングブック(P.74)」の中のフォルダー「こどもの歌」に入っています。

NOTE
編集した値を確定するには、カーソルを別の位置に動かすか、【START/STOP(スタート/ストップ)】ボタンを押して再生をスタートします。

歌詞イベント

表示	設定項目	設定内容	詳細
Name	曲名	曲名	NAME画面を呼び出し、曲名の入力ができます。
Lyrics	歌詞	歌詞	歌詞を入力します。
Code	その他のコントロール	CR/LF	CR: 歌詞表示を改行します。 LF: 現在表示されている歌詞を消し、次の歌詞を表示させます。

表示させるイベントの種類を選ぶ FILTER

フィルター

編集画面上に表示させるイベントの種類を選ぶことができます。表示させるイベントの種類を選ぶには、イベント名の左にあるボックスにチェックマークを付けます。ボックスからチェックマークを外すと、そのイベントタイプはリスト上に表示されなくなります。ここでの画面は「1-16」～「LYRICS」ページ(P.103～P.105)で【H】(FILTER)ボタンを押して表示させます。

MAIN FILTERを表示させます。各項目については別冊の「データリスト(MIDIデータフォーマット)」を参照してください。

CONTROL CHANGE FILTERを表示させます。各項目については別冊の「データリスト(MIDIデータフォーマット)」を参照してください。

ACCOMPANIMENT FILTERを表示させます。各項目については別冊の「データリスト(MIDIデータフォーマット)」を参照してください。

項目を選びます。MAIN FILTERがACCOMPANIMENT FILTERを選んでいるとき、カーソルはいちばん上かいちばん下の項目に移動します。CONTROL CHANGE FILTERを選んでいるとき、カーソルは8項目ずつ移動します。

項目を選びます。カーソルは1項目ずつ移動します。

すべての項目にチェックマークを付けます。

【NOTE】だけにチェックマークを付けます。

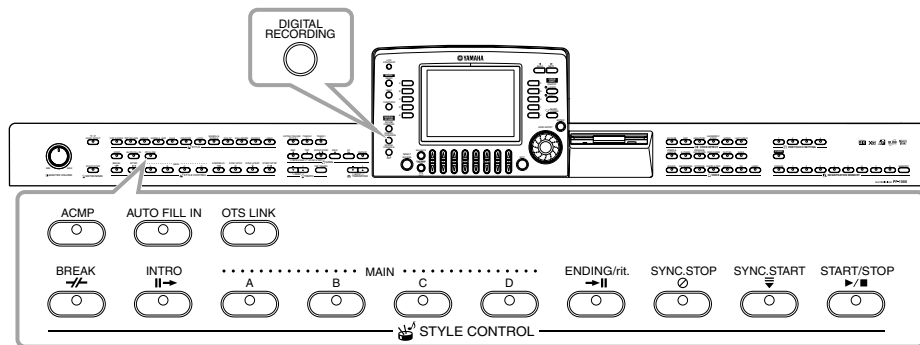
すべての項目のチェックマークの設定を逆にします。



【EXIT(戻る)】ボタンを押して設定を確定します。

伴奏スタイルを作る スタイル クリエーター STYLE CREATOR

オリジナルの伴奏スタイルを作って、プリセットの伴奏スタイルと同じように自動伴奏で使用することができます。



伴奏スタイルの作成について

伴奏スタイルを構成するチャンネルは、右記のようになっています。各セクションの1チャンネルずつに伴奏パターンを録音し、伴奏スタイルを作りあげます。

■ リアルタイム録音(P.108)

楽器を演奏して伴奏スタイルを録音します。内蔵の伴奏スタイルの中から自分の作りたい伴奏スタイルにもっとも近いイメージのものを選んで一部を差し替えたり、新しく伴奏スタイルを作ったりすることができます。

リアルタイム録音の特徴

● ループ方式であること

自動伴奏は数小節の伴奏パターンの演奏をくり返す(ループ)ものですが、録音も同じようにループ方式になります。たとえば2小節のメインセクションの録音をスタートさせると、2小節の録音が何回もくり返されます。一度録音したデータはその次の「ループ」からは演奏されますので、耳で録音データの確認ができます。

● オーバーダブ方式であること

オーバーダブとは、一度録音したチャンネルに、元のデータを消さずに重ねて録音する方法のことです。スタイル録音では、削除しないかぎり、一度録音したデータが消えることはありません。たとえば2小節のメインセクションの録音をスタートさせると、2小節の録音が何回もくり返されます。一度録音したデータはその次の「ループ」からは演奏されます。その録音データを耳で確認しながら、さらに重ねて新しいノートデータを録音していく方式です。

■ ステップ録音(P.109)

譜面を書いていくように、音程や音の長さなどを選んで録音することができます。楽器を演奏しなくても簡単に伴奏スタイルを作ることができます。

■ 伴奏スタイルの組み立て(P.110)

内蔵されているプリセットの伴奏スタイルからさまざまなパターンを混ぜ合わせて伴奏スタイルを作ることができます。たとえば、オリジナルの8ビートスタイルを作る場合、8ビート1スタイルからリズムパターンを取り出し、8ビート2スタイルのベースパターンを利用し、60's 8ビートスタイルのコードパターンを利用する、といったようにさまざまな要素を組み合わせて1つの伴奏スタイルを作ることができます。

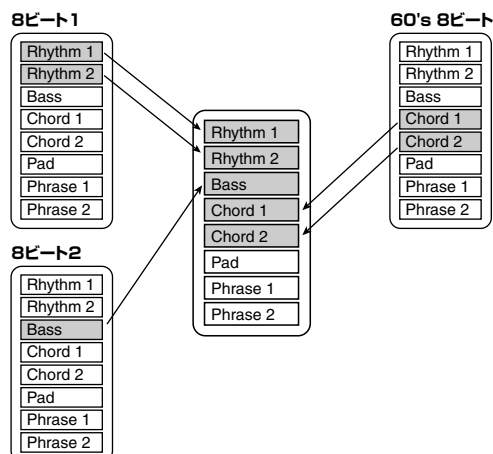
■ 伴奏スタイルの編集(P.111)

リアルタイム録音、ステップ録音、伴奏スタイルの組み立てで録音した伴奏スタイルを編集します。

セクション	チャンネル
INTRO A~D	
MAIN A~D	RHYTHM 1, RHYTHM 2, BASS, CHORD 1, CHORD 2, PAD,
FILL IN A~D	PHRASE 1, PHRASE 2
BREAK	
ENDING A~D	

♪ NOTE

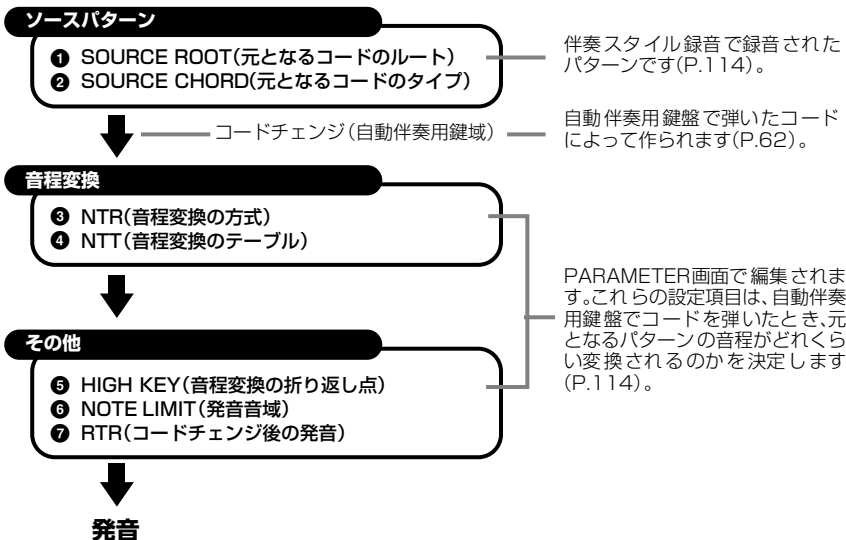
伴奏スタイルの構成部分についてはP.92を参照してください。



スタイルファイルフォーマット(SFF)について

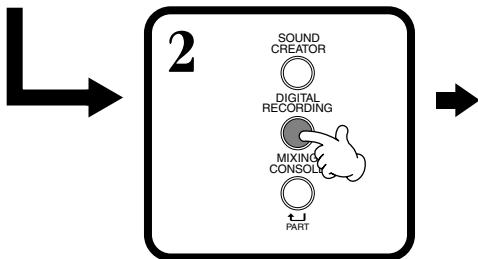
スタイルファイルフォーマット(SFF)は、ヤマハの自動伴奏のノウハウを集大成した統一フォーマットです。エディット機能を使うことにより、SFFを利用して自由にオリジナルの伴奏スタイルを作ることができます。

右の図は、伴奏が再生される過程を示していません(これは、リズムチャンネルには無効です)。図中の元となるパターン(ソースパターン)は、オリジナルのスタイルデータです。伴奏スタイル録音(P.107)で、このソースパターンが録音されます。右図のように、実際の伴奏の出力先は、ソースパターンに入力されたさまざまな項目の設定とコードチェンジ(自動伴奏用鍵盤で弾いたコード)によって決まります。

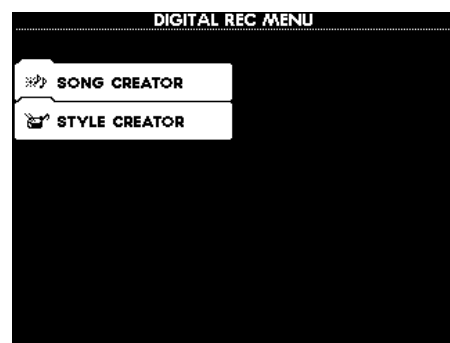
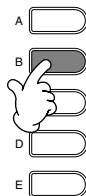


操作手順

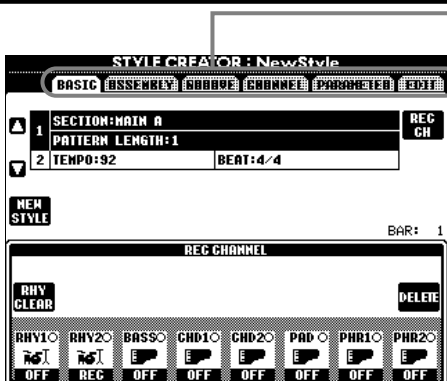
1 録音/編集の元となる伴奏スタイルを選びます。新しく伴奏スタイルを録音したい場合は、下記STYLE CREATOR画面の「BASIC」ページで「NEW STYLE」を選びます。



3

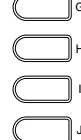


4 伴奏スタイルを録音、編集します。各画面の操作方法については、次ページからの説明を参照してください。



BACK NEXT

[BACK(バック)] [NEXT(ネクスト)] ボタンで該当ページを表示させます。



5 [I] (SAVE) ボタン (ASSEMBLY ページの場合は [J] ボタン) を押して STYLE 画面を表示させ、[USER] [FLOPPY DISK] ページに、録音、編集したデータを保存します。



[EXIT(戻る)] ボタンで STYLE CREATOR画面を閉じます。

リアルタイム録音 ベーシック BASIC

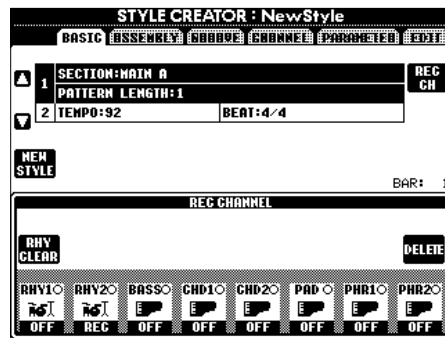
内蔵の伴奏スタイルデータを基に伴奏スタイルを作ったり、新しく伴奏スタイルを作ったりすることができます。この画面はP.107の手順4に相当します。

- 1 **[F](REC CH)** ボタンを押しながら**[1▼]~[8▼]**ボタンを押して、録音するチャンネルを指定します。
[BASS]~[PHR2]チャンネルに録音したいときは、選んだチャンネルのデータを削除してください。
[EXIT(戻る)]ボタンを押して**REC CHANNEL**画面を閉じると、その他の項目(P.109「**BASIC**画面で設定できるその他の項目参照)を設定することができます。もう一度**REC CHANNEL**画面を呼び出したいときは、**[F](REC CH)** ボタンを押します。

TEMPO/BEATを変更する画面を表示させて、テンポや拍子を変更します。

空のスタイルを呼び出します。新しく伴奏スタイルを作るときに使います。

録音チャンネルが**[RHY 1]****[RHY 2]**の場合だけ、録音中に特定の打楽器音を消すことができます。このボタンを押しながら、消したい楽器に対応した鍵盤を押します。



これを押すと、データがあるチャンネルに**「DELETE(削除)」**が表示されます。このボタンを押しながら**[1▲]~[8▲]**ボタンを押して、削除したいチャンネルを**「DELETE」**に設定します。設定を解除するときは、このボタンを押したまま**[1▼]~[8▼]**ボタンを押します。ボタンから指を離れたときに**「DELETE」**に設定されたデータが削除されます。**[BASS]~[PHR2]**チャンネルに録音したいときは、基のスタイルのデータを削除する必要があります。選んだチャンネルのデータを必ず削除してください。

F 録音チャンネル ON
G 再生チャンネル ON
H 録音チャンネル OFF
I 再生チャンネル OFF
J 消音チャンネル

- 2 必要に応じて音色を選びます。**STYLE CONTROL [START/STOP]**(スタイルコントロール[スタート/ストップ])ボタンを押して録音をスタートします。

選ばれているセクションの再生がスタートします。伴奏パターンは繰り返し再生されますので、パターンを聞きながら必要な鍵盤を押して、前の音に重ねて録音していくことができます。各鍵盤の上に印刷されているイラストが、それぞれの鍵盤に割り当てられている打楽器音を示しています。

NOTE

[SYNC.START(シンクスタート)] ボタンを押して、鍵盤を弾くと同時に録音をスタートすることもできます。

- 3 もう一度**STYLE CONTROL [START/STOP]**(スタイルコントロール[スタート/ストップ])ボタンを押して、録音をストップさせます。

- 4 **REC CHANNEL**画面を表示させているときは**[EXIT(戻る)]**ボタンで閉じます。

NOTE

- 「RHY2」チャンネルには、ドラムキット/SFXキットのみを選ぶことができます。
- 「BASS」~「PHR2」チャンネルには、ドラムキット/SFXキットを除くすべての音色を選ぶことができます。

BASIC画面で設定できるその他の項目

[I](SAVE) ボタン

STYLE画面を表示させて伴奏スタイルデータを保存します。

[3▲▼][4▲▼](SECTION) ボタン

録音したいセクションを選びます。

[5▲▼][6▲▼](PATTERN LENGTH) ボタン

選んだセクションに対して使用したい小節数(1~32)を変更できます。ブレイク/フィルインセクションは1小節の長さで固定されています。

[D](EXECUTE) ボタン

小節数の変更を実行します。

D)NOTE

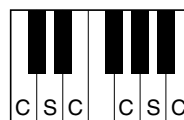
録音したいセクションは、パネルのセクションボタンでも切り替えることができます。セクションボタンを押すとSECTION画面が表示され、[6▲▼][7▲▼]ボタンでセクションを変更することができます。選んだセクションは[8▲]ボタンで確定します。この場合、FILL INセクションの指定には、[AUTO FILL IN(オートフィルイン)] ボタンを使います。

録音時の注意

伴奏スタイルの基礎となるコードはソースコードと呼ばれます。その他のコードは、このソースコードを基にして音程を変換して発音されます。メイン/フィルインセクションを録音するとき(ソースコードがCM7の場合)は、以下の点に注意してください。

- ベースチャンネルやフレーズチャンネルを録音するときは、使用推奨音だけを使うといろいろなコードで使いやすい伴奏スタイルを作ることができます(経過音として短く使う音はその他の音でも構いません)。
- コードチャンネルやパッドチャンネルを録音するときは、CM7のコードノートだけを使うといろいろなコードで使いやすい伴奏スタイルを作ることができます(経過音として短く使う音はその他の音でも構いません)。初期設定のソースコードはCM7になっていますが、弾きやすいコードに変えることもできます。詳しくは「スタイルファイルフォーマットの項目を設定する(P.114)」を参照してください。

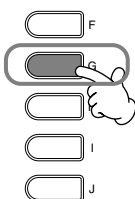
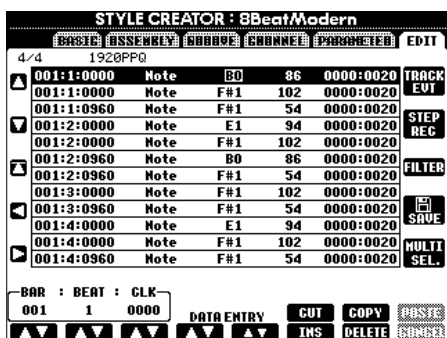
イントロとエンディングセクションを録音するときは、ソースコードとは無関係にコード進行まで含めて録音してください。このときPARAMETERページのNTRをROOT TRANSPOSEに、NTTをHARMONIC MINORかMELODIC MINORにすると、再生時にコードタイプの違いによる音程変換はされず、メジャー系かマイナー系の変換とコードのルートだけが音程変換されます。



C = コードノート
C, S = 使用推奨音

ステップ録音 STEP RECORD

演奏をしなくても、音譜や休符のデータをひとつずつ入力して伴奏スタイルを作ることができます。この画面は、P.107の操作手順4.に相当します。



以下に示すポイントを除いて、録音の手順は曲のステップ録音(P.94)と同じです。EDITページで各イベントを編集することもできますが、編集の手順も曲の編集(P.103)と同じです。

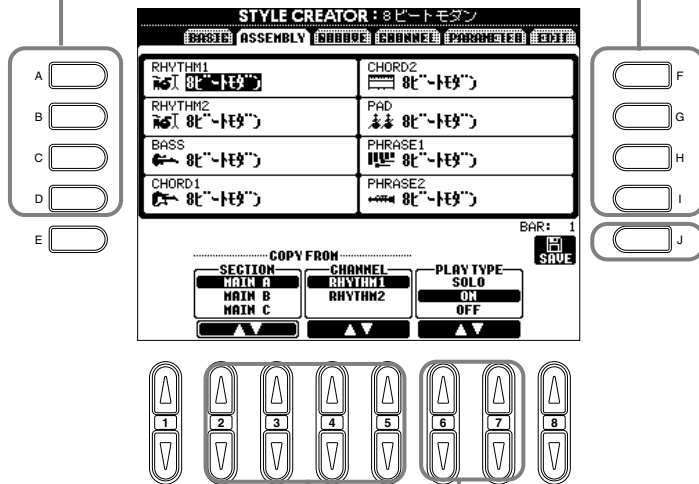
- 曲(ソング)の録音ではエンドマークの位置が自由に変更できますが、伴奏スタイル作成では変更できません。これは、選んだセクションによって自動的に伴奏スタイルの長さが決められるからです。たとえば、4小節の長さのセクションを基にして伴奏スタイルを作成する場合、エンドマークの位置は自動的に4小節目の最後に設定され、STEP RECORD画面で変更することはできません。
- 曲(ソング)の録音では[F](REC CH)ボタンで録音チャンネルを変更することができますが、伴奏スタイルの録音では[F](TRACK)ボタンはイベント(ノート、コントロールチェンジなど)とコントロール(システムエクスクルーシブなど)の切り替えに使います。録音チャンネルは、あらかじめ他の画面(P.108 BASICページなど)で設定してください。

伴奏スタイルの組み立て アッセンブリー ASSEMBLY

個々のパターン(リズム、ベース、コードなど)を編成し、オリジナルの伴奏スタイルを作ります。ここでの説明は、P.107の操作手順4に相当します。

1 各チャンネルについて、元になる伴奏スタイルを選びます。**[A]~[D]**、**[F]~[I]**ボタンで設定するチャンネルを選び、もう一度同じボタンを押すと**STYLE**画面が表示され、伴奏スタイルを選ぶことができます。

3 必要に応じて手順1と2を繰り返して伴奏スタイルの組み立てを完成させ、このボタンを押してすべてのチャンネル(RHYTHM1、RHYTHM2、BASS...)の設定をひとつの伴奏スタイルデータとして保存します。



2 基になる伴奏スタイルの、どのセクションとチャンネルを組み込むかを設定します。

基になる伴奏スタイルのセクション/チャンネルを再生させながら伴奏スタイルを組み立てることができます。ここでは、その場合の指定チャンネルの再生方式を選びます。

- SOLO**..... 選んだチャンネルだけ再生します。**REC CHANNEL**画面(P.108)でリズムチャンネル(RHY)が録音チャンネルに指定されているときは、リズムチャンネルも同時に再生されます。
- ON**..... 選んだチャンネルを再生します。**REC CHANNEL**画面(P.108)でONに指定されているチャンネルも、同時に再生されます。
- OFF**..... 選んだチャンネルを消音します。録音チャンネルに指定されているチャンネルを手順1で指定した場合、「OFF」は表示されません。

NOTE

手順1、2でセクション/チャンネルを変更すると、現在指定されていたセクション/チャンネルも変更されます。録音中のチャンネルでも同様に変更され、録音が中止されます。

NOTE

「PLAY TYPE」で指定するのは試験中の再生方式です。実際の伴奏スタイルデータには影響しません。

作成した伴奏スタイルを編集する

リズムのノリを変える GROOVE/DYNAMICS

グループとダイナミクスの設定項目はオリジナルの伴奏スタイルのリズムの「ノリ」を、幅広く変化させることができます。ここでの説明は、P. 107の操作手順4.に相当します。

■ GROOVE

項目を選びます。

設定を実行します。実行後は、このボタンが「UNDO(取り消し)」ボタンとして機能します。設定を戻したい場合に、実行前の状態に戻すことができます。なお、取り消すことができるのは1つ前の操作のみです。

STYLE画面を表示させ、作った伴奏スタイルデータを保存します。

グループの各項目(下記リスト参照)を設定します。

グループ設定項目

ORIGINAL BEAT (オリジナルビート)	グループ効果を加けるビートを指定します。たとえば、「8 Beat」を選ぶと、8分音符のグループ効果がかかります。また、「12 Beat」を選ぶと、3連8分音符のグループ効果がかかります。
BEAT CONVERTER (ビートコンバーター)	ORIGINAL BEATの項目で指定されたビートのタイミングを、指定されたビートに変更します。たとえば、ORIGINAL BEATの設定が「8 Beat」でBEAT CONVERTERの設定が「12」の場合、セクション内のすべての8分音符が3連8分音符のタイミングにずれます。ORIGINAL BEATが「12」に設定されているときに表示される「16A」と「16B」のBEAT CONVERTERの設定は、「16」のパリエーション設定です。
SWING (スイング)	オフビート(2拍目、4拍目などの第2アクセントとなる拍)のタイミングをずらすことにより、スイング感を出すことができます。たとえば、指定されているORIGINAL BEATが「8 Beat」の場合、スイングの設定により2番目、4番目、6番目、8番目のビートが遅れることでスイング感が出ます。[A]～[E]の設定はそれぞれ異なる度合いのスイング感を出します。[A]設定では最も弱いスイング感、[E]設定で最も強いスイング感が得られます。
FINE (ファイン)	「グループ」の効き具合を微調節します。PUSH設定は実際のビートより早く演奏される「前ノリ」のリズムを作ります。また、HEAVY設定は実際のビートより遅いタイミング、「後ノリ」を作ります。2、3、4、5の数字は、効果を加えるビートを設定します。指定されたビート数までのすべてのビートが、前ノリや後ノリで演奏されますが、最初のビートだけは含まれません。たとえば、「3」が選ばれているときは2番目と3番目のビートだけに効果がかかります。どの場合も、「A」タイプは弱い効果で、「B」タイプは中ぐらいの効果、「C」タイプは最大の効果を得ることができます。

ダイナミクス

項目を選びます。

設定を実行します。実行後は、このボタンが【UNDO(取り消し)】ボタンとして機能します。設定を戻したい場合に、実行前の状態に戻すことができます。なお、取り消すことができるのは1つ前の操作のみです。

ダイナミクス効果を加えるチャンネルを選びます。

ダイナミクスの各項目(下記リスト参照)を設定します。

STYLE画面が表示されます。作った伴奏スタイルデータを保存します。

ダイナミクス設定項目

ACCENT TYPE (アクセントタイプ)	アクセントの種類を選びます。
STRENGTH (ストレングス)	効き具合いを決定します。値を大きくするほど、より強い効果が得られます。
EXPAND (エクスパンド=拡張)/ COMP. (コンプレッション=圧縮)	音量を、ベロシティ「64」を基準に、エクスパンド(拡張)/コンプレッション(圧縮)します。値を100%以上に設定すると、変化幅が広がります。また、値を100%未満に設定すると、変化幅が狭まります。
BOOST (ブースト=増加)/ CUT (カット=減少)	音量をブースト(増加)させたり、カット(減少)したりします。値を100%以上に設定すると、音量が大きくなります。また、値を100%未満に設定すると、音量が小さくなります。

NOTE
ベロシティ=鍵盤を押す強弱を表します。数値が大きくなるほど、強い(大きい)音になります。

チャンネル内のデータを編集する CHANNEL

チャンネル

録音された伴奏スタイルデータを編集するために、「クオンタイズ」など、5種類の機能が用意されています。ここでの説明は、P.107の操作手順4に相当します。

下記の説明を参照してください。



NOTE

プリセットチャンネルのBASS～PHRASE2は編集することができません。

■ クオンタイズ QUANTIZE

P.100を参照してください。

■ ベロシティ チェンジ VELOCITY CHANGE

[1 ▲▼][2 ▲▼](CHANNEL)ボタンで指定したチャンネルにあるすべての音符のベロシティを、[4 ▲▼][5 ▲▼](BOOST/CUT)ボタンでブースト(増やす)したり、カット(減らす)したりすることができます。

■ バー コピー BAR COPY

指定したチャンネル内で、1小節または複数の小節のデータを別の位置にコピーすることができます。[4▲▼](TOP)、[5▲▼](LAST)ボタンで、コピー元の範囲(最初の小節と最後の小節)を指定します。[6▲▼](DEST)ボタンで、コピー先の位置(最初の小節)を指定します。

■ バー クリア BAR CLEAR

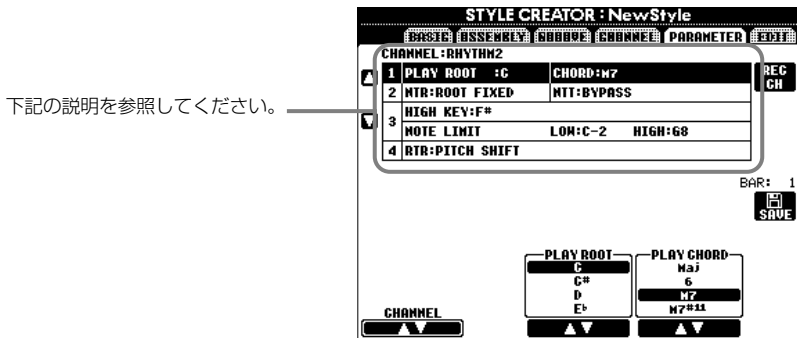
指定したチャンネル内の指定した範囲の小節からすべてのデータを消去します。[4▲▼](TOP)、[5▲▼](LAST)ボタンで、消去される範囲(最初の小節と最後の小節)を指定します。

■ リムーブ イベント REMOVE EVENT

指定したチャンネルから、指定したイベントを取り除くことができます。[4▲▼]～[6▲▼](EVENT)ボタンで、取り除くイベントタイプを選びます。

スタイルファイルフォーマットの項目を設定する PARAMETER

録音した伴奏スタイルを自動伴奏機能を使って演奏する際、左手鍵域でコードを弾いたときにどのように音程変換して鳴らすかを決めることができます。各項目間の関係は、P.107の「スタイルファイルフォーマット(SFF)について」を参照してください。ここでの説明は、P.107の操作手順4に相当します。



下記の説明を参照してください。

NOTE

伴奏スタイル作成中はソースルート/コードでの再生しか聞くことができませんが、スタイルクリエーターを抜けないでコードを変えて試聴することはできません。NTRをROOT FIXED、NTTをBYPASSにして(RHYTHM1、2はほとんどの設定です)「PLAY ROOT」と「PLAY CHORD」で再生したいコードを指定します。どのチャンネルでコードを指定しても、全チャンネルのコードが変わりません。ただし、ここでは試聴用にコード変換をしているため、保存することはできません。現在録音中のチャンネルは、コードを変えて試聴することができません。

■ SOURCE ROOT/CHORD

これらの項目では、ソースパターンを録音するときに何のキーで演奏するか設定します。

BASIC ページで基となる伴奏スタイルのチャンネルデータを削除すると、元の設定に関係なくCM7 が自動的に設定されます。

ソースルート/コードを初期設定のCM7から別のコードに変更すると、新しく設定したソースルート/コードに従ってコードノートや使用推奨音が変わります。コードノートと使用推奨音については、P.109を参照してください。

ソースルートCの場合

CMaj C S C C S	C6 C S C C C S	CM7 C S C C S C	CM7#11 C S C C S C	C9 C C C C S	CM7⁹ C C C C S C	C6⁹ C C C C C S
Caug C S C S C S	Cm C S S C	Cm6 C S S C C	Cm7 C S C C	Cm7⁵ C S C S C	Cm⁹ C C S C	Cm7⁹ C C S C C
Cm7¹¹ C S C C C	CmM7 C S S C C	CmM7⁹ C C S C C	Cdim C S C S	Cdim7 C S S C S	C7 C C C C	C7sus4 C C C C
C7⁵ C S C C C	C7⁹ C C C C C	C7¹¹ C S C C C S	C7¹³ C S C C C C	C7⁹ C C C C C	C7¹³ C C S C C C	C7⁹ C C C S C
CM7aug C S C S S C	C7aug C S C S C C	C1+8 C C	C1+5 C C	Csus4 C S C C	Csus2 C C S C S	

C = コードノート
C, S = 使用推奨音

■ NTR (Note Transposition Rule)/NTT (Note Transposition Table)

● NTR (ノートトランスポジションルール)

ソースパターンの音程変換の方式を設定します。2つの設定ができます。

ROOT TRANS (ルートトランスポーズ)

ルート音が音程変換されたとき、各音符間の音程の関係が維持されます。たとえば、CのキーでのC3、E3、G3の音はFに音程変換されたときにはF3、A3、C4の音になります。メロディラインがあるチャンネルに対してこの設定を使います。



ROOT FIXED (ルートフィックス)

コードの構成音は、できるだけ1つ前のコードの構成音に近い範囲から選ばれます。たとえば、CのキーでのC3、E3、G3の音はFに音程変換されたときにはC3、F3、A3の音になります。コードチャンネルに対してこの設定を使います。



● **NTT(ノートトランスポジションテーブル)**

ソースパターンの音程変換のテーブルを設定します。6種類の音程変換パターンがあります。

BYPASS(バイパス)

音程変換されません。

MELODY(メロディ)

メロディラインの音程変換に最適です。「**PHRASE 1**」と「**PHRASE 2**」のようなメロディチャンネルに使用します。

CHORD(コード)

コードの音程変換に最適です。「**CHORD 1**」と「**CHORD 2**」がピアノやギターのようなコード演奏を含むときに使用します。

BASS(ベース)

ベースラインの音程変換に最適です。基本的にメロディの音程変換と同じですが、フィンガリングが「**FINGERED ON BASS**」のときは、オンベースコードも認識します。主にベースライン用として使います。

MELODIC MINOR(メロディックマイナー)

ソースコードがメジャーコードで、マイナーコードに変換されるとき、メジャー音階の長3度の音が半音低くなります。また、マイナーコードからメジャーコードに変換されるとき、短3度の音が半音高くなります。他の音は変わりません。

HARMONIC MINOR(ハーモニックマイナー)

ソースコードがメジャーコードで、マイナーコードに変換されるとき、メジャー音階の長3度の音と長6度の音が半音低くなります。また、マイナーコードからメジャーコードに変換されるとき、短3度の音と短6度の音が半音高くなります。他の音は変わりません。

■ **HIGH KEY/NOTE LIMIT**

● **HIGH KEY(ハイキー)**

コードのルート変更に対する、再生音程変換のオクターブ折り返し点を設定します。この折り返し点を境に、再生音のオクターブが切り替わります。NTRの設定(P.114)で「**ROOT TRANS**」が選ばれているときにだけ、この設定をすることができます。

(例)ハイキーがF#のとき

ルート変更	➔	CM	C#M	...	FM	F#M	...
再生音	➔	C3-E3-G3	C#3-F3-G#3		F3-A3-C4	F#2-A#2-C#3	

● **NOTE LIMIT(ノートリミット)**

スタイルチャンネルに録音される音色の発音域(最高音と最低音)を設定します。発音域の設定によって、現実的でない音(高いベース音や低いピッコロの音など)を鳴らさないようにすることができます。発音される音は、発音域の範囲の中から生成されます。

(例)最低音が「C3」で最高音が「D4」のとき

ルート変更	➔	CM	C#M	...	FM	...
再生音	➔	E3-G3-C4	F3-G#3-C#4		F3-A3-C4	

■ **RTR (Retrigger Rule)**

コードチェンジしたときに、発音を止めるか、またはどのように音程を変更するかを設定します。

STOP(ストップ)

現在鳴っている音が止まります。

PITCH SHIFT(ピッチシフト)

現在鳴っている音が、次のコードの音程に差し替えられます。

PITCH SHIFT TO ROOT(ピッチシフトトゥールート)

現在鳴っている音が、次のコードのルート音に差し替えられます。ただし、音程のオクターブは現在鳴っている音のオクターブのままです。

RETRIGGER(リトリガー)

現在鳴っている音がキーオフし、次のコードの音程で再発音します。

RETRIGGER TO ROOT(リトリガートゥールート)

現在鳴っている音がキーオフし、次のコードのルート音で再発音します。ただし、音程のオクターブは現在鳴っている音のオクターブのままです。

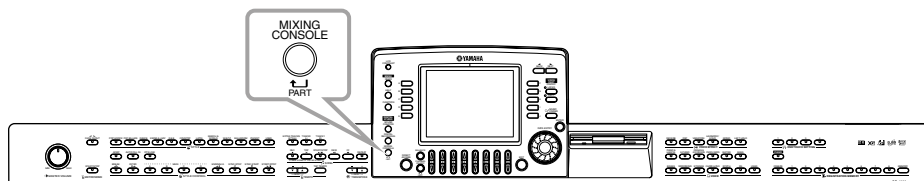
音量バランスや音色などを調節する

MIXING CONSOLE

画面全体がミキシングコンソールとして、幅広いコントロール機能を提供します。

NOTE

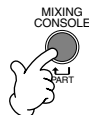
ミキシングコンソール=複数の音声信号をまとめて、音声バランスやステレオ定位、エフェクトのかかり具合などを調節する装置



[BALANCE(バランス)]ボタンと[CHANNEL ON/OFF(チャンネルオン/オフ)]ボタンで、シンプルなミキシングコンソールを呼び出すこともできます(P.61)。

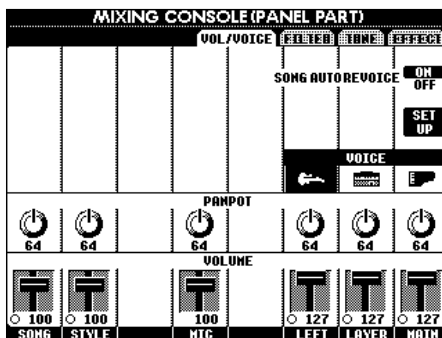
操作手順

1



MIXING CONSOLE画面を表示させ、目的のパートの画面が表示されるまで何度か押します。ボタンを押すたびに、下記の順番で画面が切り替わります。

- PANEL PART**.....手弾き(メイン/レイヤー/レフト)パート、伴奏パート、曲(ソング)、マイク
- STYLE PART**.....伴奏パート
- SONG CH 1~8**...再生曲のチャンネル1~8
- SONG CH 9~16**...再生曲のチャンネル9~16



NOTE

項目ごとに、すべてのパートの設定値を同じ値に設定することができます。調節したい項目に対応する[A]~[J]ボタンを押しながら、[1]~[8]ボタンを押します(または[DATA ENTRY(データエントリー)]ダイヤルを回します)。VOICEを選んでいる場合は、すべてのパートの音色を同時に選ぶことはできません。

NOTE

SOUND CREATORと連動している設定値については、P.86を参照してください。

2

[BACK(バック)] [NEXT(ネクスト)] ボタンでページをめくり、各機能を設定します。各機能の操作方法については、P.117からの説明をご参照ください。



[EXIT(戻る)] ボタンでMIXING CONSOLE画面を閉じます。

■ 各機能について

• VOL/VOICE(VOLUME/VOICE)(ボリューム/ボイス)(P.117)

各パート/チャンネルの音量や音色に関する設定をします。また、通常XG音色(P.149)で再生される曲(ソング)を、自動的にPF-1000が持つ豊かな音色で再生させる設定(オートリボイス)もここで行ないます。より本物の楽器に近い音色で曲を再生することができます。

• FILTER(フィルター)(P.118)

音色にパンチを付けたり、音色の明るさを調節したりします。

• TUNE(チューン)(P.118)

音程に関する調節をします。

• EFFECT(エフェクト)(P.119)

エフェクトのかかり具合などを調節します。

ボリューム ボイス

音量バランスや音色を設定する VOL/VOICE(VOLUME/VOICE)

ここでの説明は、P.116の操作手順2に相当します。

1 [VOICE/PANPOT/VOLUME] を切り替えます。

曲(ソング)データに含まれるXG音色の一部を、PF-1000が持つ音色に置き替える(ON)、置き替えない(OFF)を設定します。

置き替える音色を選ぶことができます。

ボタンを押すたびにパートやチャンネルを変更することができます。

各パートの音色を選んだり、パンやボリュームを調節したりすることができます。

VOICE..... VOICE画面が表示されます。VOICE画面で音色を選びます(P.54)。STYLE/SONG/パートを選んでいるときは、USER音色を選ぶことができません。

PANPOT.... 特定の音色またはトラックが鳴る位置(ステレオ定位)を設定します。0で左端、64で中央、127で右端となります。

VOLUME.... 各チャンネルの音量を変更し、パート全体の音量バランスを調整することができます。

NOTE 曲データがGMモードのとき、[SONG CH 9~16] ページの10CHはDrum Kit音色専用です。

NOTE [VOICE]で伴奏スタイルや曲(ソング)のリズム音色(ドラムキットなど)を変更すると、ドラム音色に関する細かい設定がリセットされてしまい、もう一度元のリズム音色に戻しても元どおりの音に戻らない場合があります。曲の場合は曲を先頭に戻す、伴奏スタイルの場合はスタイルを選びなおすと元の音に戻ります。

2

置き替えたいXG音色(通常、曲再生時に使われている音色)を選びます。

置き替える音色(「SONG AUTO REVOICE」が「ON」のときの音色)を選びます。

設定を確認せずにAUTO REVOICE SETUP画面を閉じます。

設定を確認してAUTO REVOICE SETUP画面を閉じます。

置き替えできるすべてのXG音色を、PF-1000の持つ豊かな音色に置き替えます。

ピアノ音色だけを置き替えます。

曲再生に適したおすすめの色だけを置き替えます。

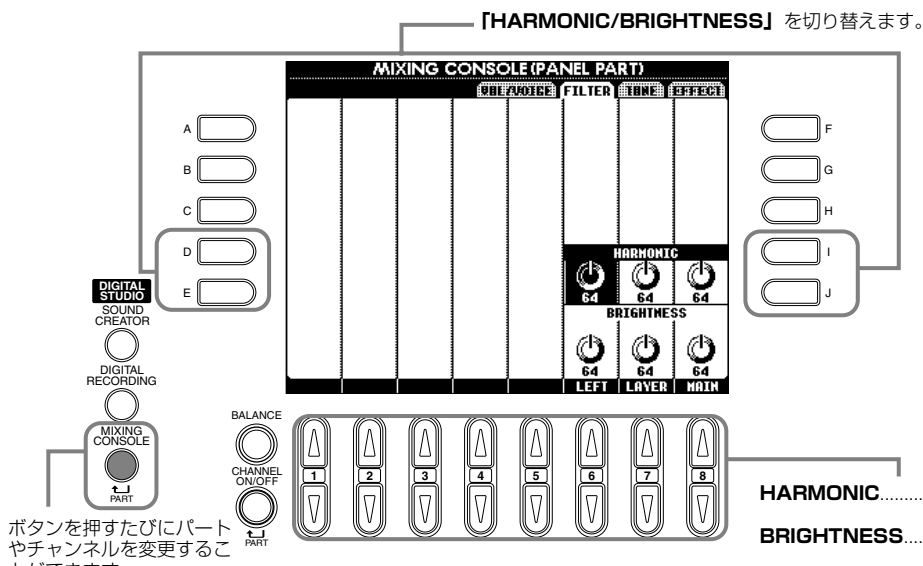
すべての音色を元のXG音色に戻します。

NOTE PIANOとBASICは同時に選ぶことができます。

NOTE 曲データによっては、音色を置き替えても効果的でない場合があります。

音色を調節する フィルター FILTER

ここでの説明は、P.116の操作手順2に相当します。



ボタンを押すたびにパートやチャンネルを変更することができます。

NOTE

フィルターについてはP.88を参照してください。

NOTE

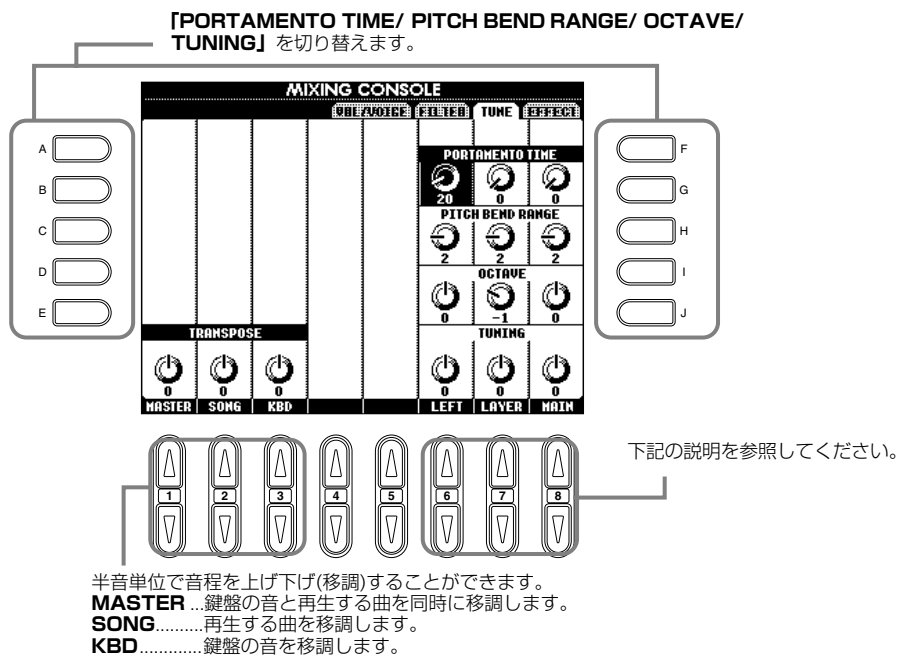
音色が「NATURAL」のときは、「HARMONIC」と「BRIGHTNESS」は調節できません。

NOTE

特定の音色では、「HARMONIC」や「BRIGHTNESS」の設定によって、極端なノイズ(雑音)が発生する場合があります。

音程を調節する チューン TUNE

ここでの説明は、P.116の操作手順2に相当します。



NOTE

ポルタメント=高さの異なる複数の音をなめらかに音程変化させることです。

NOTE

音色が「NATURAL」のときは、「PORTAMENTO TIME」は調節できません。

PORTAMENTO TIME (ポルタメントタイム)パートが「MONO(P.58、87)」に設定されているとき、ポルタメントタイムを調節します。値を高くするほど、ポルタメントの音程変化にかかる時間が長くなります。音符をレガート(たとえば、1つの音符を弾いたまま次の音符を弾く)に演奏すると、ポルタメントがかかります。

PITCH BEND RANGE (ピッチベンドレンジ).....ペダルにピッチベンドやグライドを設定した場合、ペダルを踏んだときの音程変化の幅を半音単位で設定します。

OCTAVE (オクターブ).....音程を1オクターブ単位で2オクターブまで上げ下げすることができます。

TUNING (チューニング).....音程を設定します。

エフェクトを調節する エフェクト EFFECT

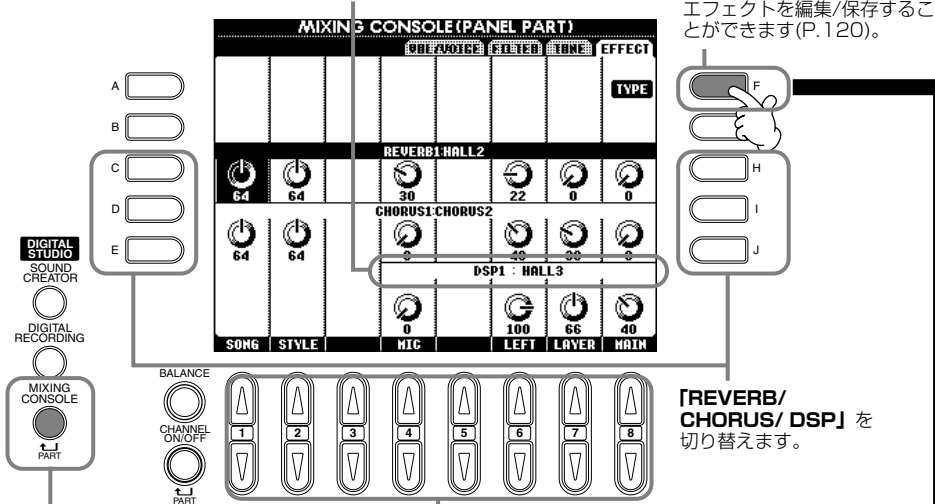
ここでの説明は、P.116の操作手順2に相当します。

NOTE

PF-1000には、REVERB(リバーブエフェクト用)、CHORUS(コーラスエフェクト用)、DSP(エフェクト全般用)のエフェクトがNATURALボイス、REGULARボイスのそれぞれに用意されています。詳しくはエフェクトブロックリスト(P.120)を参照してください。

1

DSPのタイプ名が表示されます。



エフェクトを編集/保存することができます(P.120)。

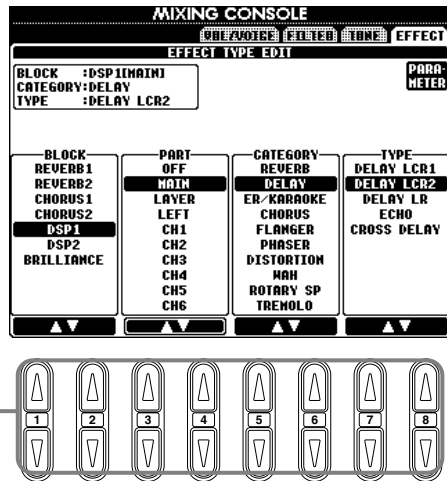
「REVERB/ CHORUS/ DSP」を切り替えます。

ボタンを押すたびにパートやチャンネルを変更することができます。

各パートのエフェクトのかけ具合を調節することができます。各エフェクトの特徴については、P.120の「エフェクトブロック」リストを参照してください。

2

「BLOCK」で「REVERB 1」「CHORUS 1」「DSP 1」が選ばれているとき、エフェクトの詳細設定を変更する画面を表示することができます。



エフェクトブロックを選び、エフェクトを割り振ります。

BLOCK.....エフェクトブロック(同じような効果のエフェクトタイプをまとめてグループ化したもの)です(P.120)。

PART.....インサージョンエフェクトにかけるパートです。ブロックが「DSP1」で「PARAMETER」の「CONNECTION」が「Insertion」の場合だけ有効です。

CATEGORY...下記「TYPE」の内容をカテゴリー別に分けたものです。選択中のBLOCKによっては、表示されない場合(P.120)があります。

TYPE.....ブロックに割り当てるエフェクトの種類です。

3

パラメーターを切り替えます。下のパラメーターでは、パネルの [VARIATION (バリエーション)] ボタンが ON のときに DSP のバリエーションのかかり具合を調節することができます。

エフェクトを調節したいブロックを選びます。

エフェクトを調節したいタイプを選びます。

エフェクトを調節したいカテゴリを選びます。

調節したいエフェクトのパラメーター (項目) を選びます。

パラメーターの値を変更します。

エフェクトの音量(リターンレベル)を調節します。エフェクトブロックが「DSP1」でパラメーターが「CONNECTION」値(VALUE)が「Insertion」の場合は調節できません。

エフェクトを保存する画面を表示させます。

NOTE
[BLOCK] で [REVERB2] [CHORUS2] [DSP2] [BRILLIANCE] を選んだ場合は、パラメーターの設定はできません。

NOTE
エフェクトのパラメーター値を調節すると、ノイズ(雑音)が発生する場合があります。

4

NAME 画面を表示させて USER EFFECT の名前を変更します (P.45)。

お好みの設定を USER EFFECT として本体(システム)に保存します。USER EFFECT を呼び出すには、手順2の画面の TYPE からここで設定した名前を選びます。

エフェクトの保存先を選びます。ブロックごとに保存先の数が異なります (下記リスト参照)。

エフェクトブロック

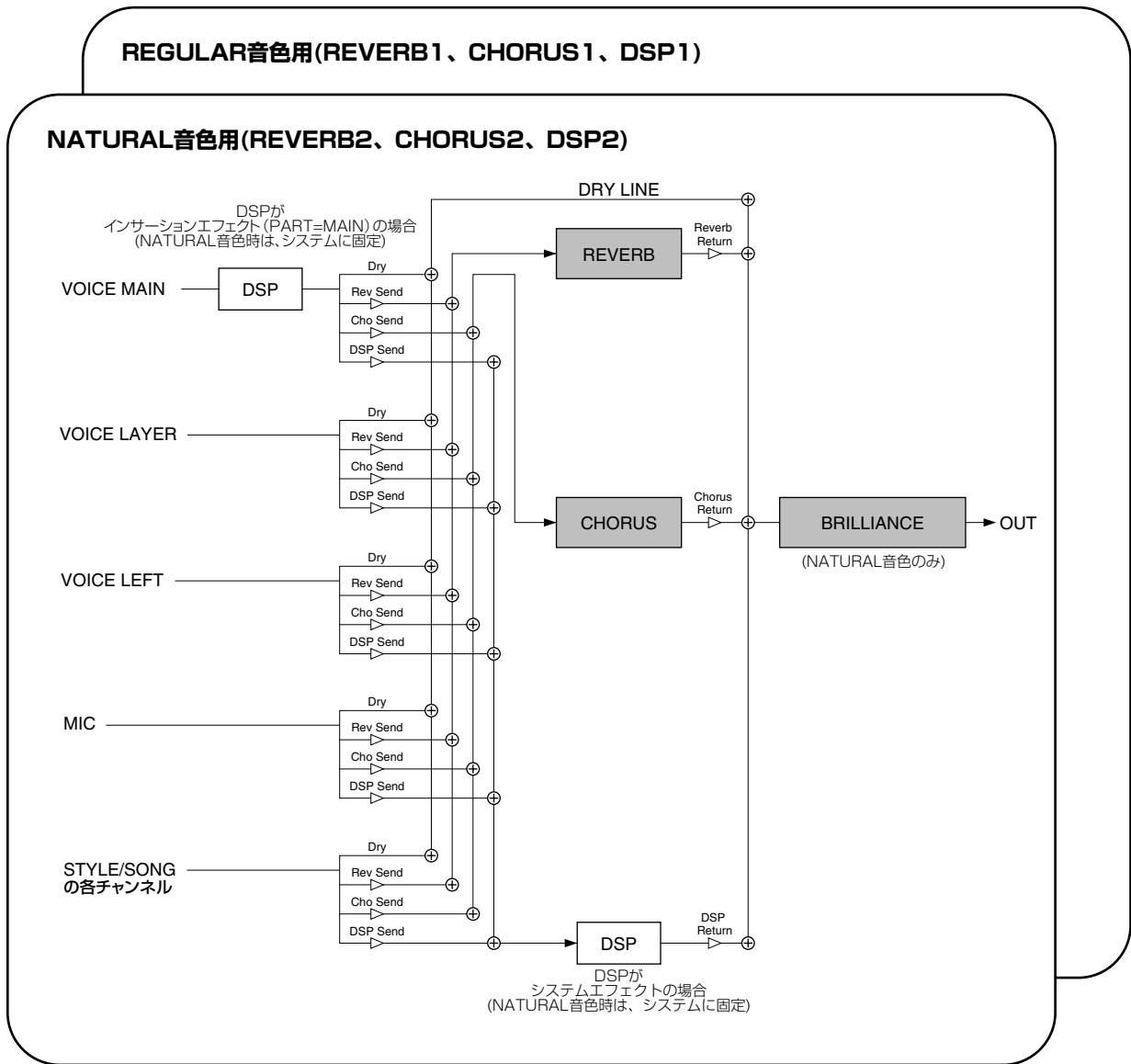
ブロック	対象パート	特徴	USER EFFECTの数
REVERB 1 (REGULAR音色用)	全パート	コンサートホールやライブハウスで演奏しているような臨場感を得ることができます。	3
REVERB 2 (NATURAL音色用)	MICを除く全パート		-
CHORUS 1 (REGULAR音色用)	全パート	同時に複数のパートを演奏しているような厚みを得ることができます。	3
CHORUS 2 (NATURAL音色用)	MICを除く全パート		-
DSP 1 (REGULAR音色用)	MAIN、LAYER、LEFT SONG (CH1~CH16)、MIC	リバーブとコーラスに加え、ディストーションのように音を歪ませる効果をはじめとするいろいろな効果をかけることができます。	3
DSP 2 (NATURAL音色用)	MICを除く全パート		-
BRILLIANCE (NATURAL音色用)	MICを除く全パート	音の明るさを変えます。	-

エフェクトのしくみについて

以下のデジタルエフェクトが、NATURAL音色(P.86)用とREGULAR音色(P.86)用に、独立して用意されています。パネル操作で、各タイプ/デプス/パラメーターを設定できます。

- **REVERB(リバーブ)**通常はスタイルに適した設定が選択されています。NATURAL音色時は、主に音色(VOICE)に適した設定が選択されます。
- **CHORUS(コーラス)**通常はスタイルに適した設定が選択されています。NATURAL音色時は、主に音色(VOICE)に適した設定が選択されます。
- **DSP(デジタルシグナルプロセッサー)**通常は音色に適した設定が選択されています。また、タイプごとに、VARIATION(効果の表情を変えた設定)が用意されており、パネルの**[VARIATION(バリエーション)]**ボタンでON/OFFすることができます。ただし、NATURAL音色を選んでいる場合は、**[VARIATION(バリエーション)]**ボタンは無効となります。

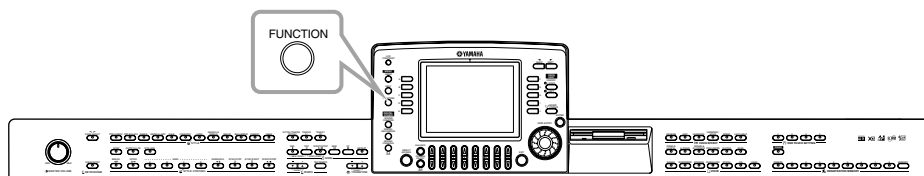
以下のイラストは、PF-1000のパネル操作で設定できるエフェクトパラメーターの関係を図にしたものです。



便利なその他の諸設定

ファンクション FUNCTION

ペダルやディスクに関する機能設定や、PF-1000をさらに便利に使いこなすための細かい設定ができます。



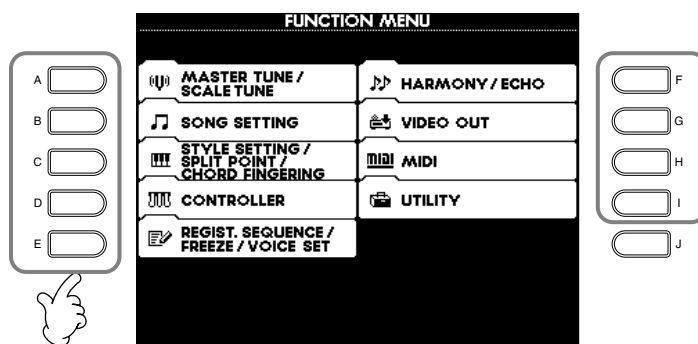
操作手順

1



2

使いたい機能を選びます。



3.

選んだ機能の項目を設定します。
各機能の操作方法については、下記の説明を参照してください。



[EXIT(戻る)]ボタンを押して元の画面に戻ります。

音程(ピッチ)/音律を調整する マスター チューン スケール チューン MASTER TUNE/SCALE TUNE

マスター チューン MASTER TUNE (P.124)

音程(ピッチ)を微調整します。合奏のときなどに、他の楽器と音程を正確に合わせるすることができます。

スケール チューン SCALE TUNE (P.124)

音律(調律法)を選びます。その曲が作られたときの音律で演奏することによって、当時の響きを味わうことができます。

曲(ソング)再生に関する設定をする ソング セッティング SONG SETTING (P.126)

曲(ソング)再生に関する設定をします。

自動伴奏に関する設定をする スタイル セッティング スプリット ポイント コード フィンガリング STYLE SETTING/SPLIT POINT/CHORD FINGERING

スタイル セッティング スプリット ポイント STYLE SETTING/SPLIT POINT (P.127)

自動伴奏に関する設定をしたり、スプリットポイントを決めたりします。

コード フィンガリング CHORD FINGERING (P.128)

自動伴奏のコードの押さえ方(フィンガリング)を決めます。画面上にコードの構成音が表示されるので、コードの押さえ方を確認することができます。

ペダルや鍵盤の音に関する設定をする

CONTROLLER

■ PEDAL (P.128)

すべてのペダル(別売りのフットコントローラー/フットスイッチ含む)に、伴奏スタイルをスタート/ストップしたり、フィルインを入れるスイッチとして使うなど、いろいろな機能を割り当てます。

■ KEYBOARD/PANEL (P.130)

鍵盤のタッチ感(鍵盤を弾く強さによって音の強弱を変える)を変えたり移調させるパートを指定したりします。

レジストシーケンス/フリーズ/ボイスセットの設定をする

REGIST. SEQUENCE/FREEZE/VOICE SET

■ REGISTRATION SEQUENCE (P.131)

REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー) [1]~[8]ボタンに登録されたパネル設定を呼び出す順を決めて [BACK(バック)] [NEXT(ネクスト)] ボタンやペダルで順に切り替えることができます。

■ FREEZE (P.131)

REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)で登録したパネル設定のうち、呼び出したくない項目を指定することができます。

■ VOICE SET (P.132)

音色を選んだときに、各音色に割り当てられている設定を呼び出すかどうかを決定します。

ハーモニーやエコーの設定をする

HARMONY/ECHO (P.132)

鍵盤の音にかけるハーモニーやエコーの種類を選び、かかり具合を調節します。

PF-1000の画面をテレビ画面に映す

VIDEO OUT (P.133)

PF-1000の画面をテレビ画面に映したときの、画面サイズ、文字、背景色などを選びます。画面表示はVIDEO OUT端子に接続されたテレビやビデオモニターに出力させることができます。画面の背景色と同様に表示文字の大きさや色も設定します。

MIDIに関する設定をする MIDI

■ SYSTEM (P.134)

システムメッセージ(クロック、スタート/ストップ、エクスクルーシブなど)やローカルON/OFFを設定します。

■ TRANSMIT (P.135)

どのMIDIチャンネルを通じてどのパートの演奏情報を送信するのかが指定します。また、チャンネルごとに送信されるデータの種類を指定します。

■ RECEIVE (P.136)

PF-1000のMIDI受信チャンネルごとのMIDI受信パート(どのパートをどのチャンネルで受信するか)を指定します。また、チャンネルごとに受信するデータの種類を指定します。

■ ROOT (P.136)

自動伴奏のベース音として認識されるチャンネルを設定します。

■ CHORD DETECT (P.136)

自動伴奏のコード押鍵として認識されるチャンネルを設定します。

その他の諸設定 UTILITY

■ CONFIG1 (P.137)

フェード/メトロノーム/パラメーターロック/タップ音に関する設定をします。

■ CONFIG2 (P.138)

画面調整/スピーカー/ボイスナンバー表示に関する設定をします。

■ DISK (P.139)

ディスクからディスクへのコピー、ディスクのフォーマットなどをします。

■ OWNER (P.140)

電源を入れたときに表示される画面の「Owner Name」を入力したり、画面に表示される言語を切り替えたりします。

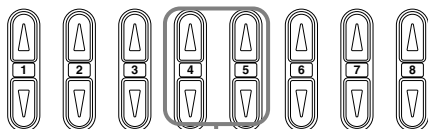
■ SYSTEM RESET (P.140)

PF-1000の設定を工場出荷時と同じ状態に戻します。工場出荷時の状態に戻す項目を指定することもできます。また、ご自分で作った設定をファイルとして保存し、必要に応じて呼び出すこともできます。

音程 (ピッチ) / 音律を調整する MASTER TUNE / SCALE TUNE

ここでの説明は、P.122の操作手順3に相当します。

音程 (ピッチ) を微調整する MASTER TUNE



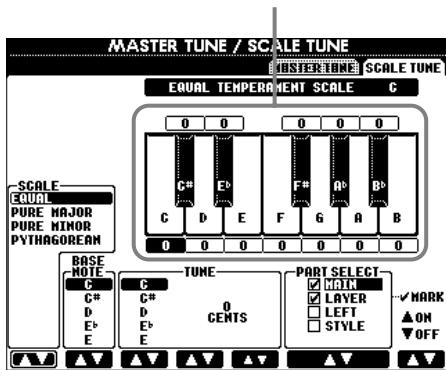
鍵盤全体の音程を、414.8Hz~466.8Hzの範囲でチューニングします。4または5の【▲▼】ボタンを同時に押すと基本設定(440.0Hz)に戻ります。

NOTE
Hz(ヘルツ)=音の高さ(1秒間に音波が何回振動するか)を示す単位です。

NOTE
ドラム/SFXキット音色の音程は調整することができません。

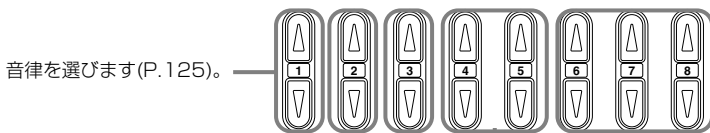
音律 (調律法) を選ぶ SCALE TUNE

チューニングは、対応する鍵盤上に表示されます。



NOTE
セント=半音を100等分した音程の単位です。100セント=半音

NOTE
チューニングした音律はレジストレーションメモリーに登録することができます。レジストレーション登録項目の「SCALE」にチェックマークを付けて登録しましょう(P.82)。



音律を選びます (P.125)。

音律の基音となる音(ベース音)を変更します。BASE NOTEを変更すると、音律はそのままで移調します。

チューニングする音を選びます。

音律の設定を有効にするパートを選びます。6または7の【▲▼】で音律の設定を有効/無効にするパートを選び、【8 ▲▼】でチェックマークを付けたり(有効)外したり(無効)します。

選んだ音をチューニングします。
 【4▲▼】: 50セント単位でチューニング(設定範囲:-50,0,+50)
 【5▲▼】: 1セント単位でチューニング(設定範囲:-64~+63)
 4または5の【▲▼】を同時に押す:基本設定に戻る
 チューニングした場合は、画面上方の音律名が「EDITED SCALE」になります。この表示は、プリセットの音律から変更されたことを表します。

音律について

■ イコール テンペラメント EQUAL TEMPERAMENT(平均律)

1オクターブを12の間隔で等分した音律です。現在もっともポピュラーな、ピアノの調律法です。

■ ピュア メジャー PURE MAJOR(純正律長調)/ピュア マイナー PURE MINOR(純正律短調)

自然倍音を基準とするため、主要3和音が美しく純粋に響くのが特長です。現在でも合唱のハーモニーなどにみられます。

■ ピタゴリアン PYTHAGOREAN(ピタゴラス音律)

ギリシャ時代の哲学者ピタゴラスによって考えられた、5度音程だけの組み合わせからできた音律です。3度はうなりが生じますが5度と4度の音程が美しく、旋律の演奏に向いています。

■ ミントーン MEAN-TONE(中全音律)

ピタゴラス音律の3度のうなりをなくすために改良された音律です。16世紀後半から18世紀後半までにかけて広く普及し、ヘンデルも使用しました。

■ ヴェルクマイスター WERCKMEISTER(ヴェルクマイスター音律)/キルンベルガー KIRNBERGER(キルンベルガー音律)

中全音律とピタゴラス音律を組み合わせた音律で、それぞれその組み合わせ方が異なります。転調により曲想が変化するのが特長です。バッハやベートーベン時代に使用され、現在でもその時代の曲をパープシコード(=チェンバロ)などで演奏するときにしばしば用いられます。

■ アラビック ARABIC(アラブ音律) 1、2

アラブ音楽を演奏するとき使用される音律です。

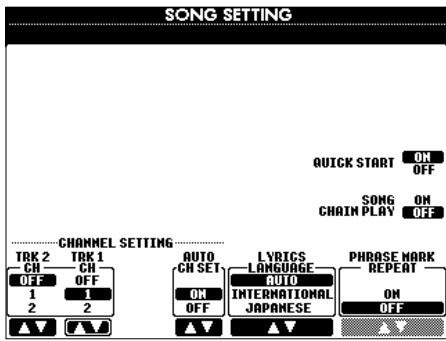
各音律のチューニング(ベース音Cの例 単位: セント)

本体上では、下記表の数値を4捨5入した値になります。

	C	C [♯]	D	E ^b	E	F	F [♯]	G	A ^b	A	B ^b	B
EQUALTEMPERAMENT(平均律)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
PURE MAJOR(純正律長調)	0	-29.7	3.9	15.6	-14.1	-2.3	-9.4	2.3	-27.3	-15.6	18.0	-11.7
PURE MINOR(純正律短調)	0	33.6	3.9	15.6	-14.1	-2.3	31.3	2.3	14.1	-15.6	18.0	-11.7
PYTHAGOREAN(ピタゴラス音律)	0	14.1	3.9	-6.3	7.8	-2.3	11.7	2.3	15.6	6.3	-3.9	10.2
MEAN-TONE(中全音律)	0	-24.2	-7.0	10.2	-14.1	3.1	-20.3	-3.1	-27.3	-10.2	7.0	-17.2
WERCKMEISTER(ヴェルクマイスター音律)	0	-10.2	-7.8	-6.3	-10.2	-2.3	-11.7	-3.9	-7.8	-11.7	-3.9	-7.8
KIRNBERGER(キルンベルガー音律)	0	-10.2	-7.0	-6.3	-14.1	-2.3	-10.2	-3.1	-7.8	-10.2	-3.9	-11.7
ARABIC1(アラブ音律1)	0	0	-50	0	0	0	0	0	0	-50	0	0
ARABIC2(アラブ音律2)	0	0	0	0	-50	0	0	0	0	0	0	-50

曲(ソング)再生に関する設定をする ソング セッティング SONG SETTING

ここでの説明は、P.122の操作手順3に相当します。



- F
- G
- H — クイックスタートをON/OFFします。
- I — 同じフォルダー内の曲を表示順に続けて再生させます。
- J

曲(ソング)をフレーズマークで繰り返し再生する (ON)、繰り返し再生しない (OFF)を設定します。フレーズマークリピートONで曲を再生すると、指定した番号のフレーズを繰り返し再生することができます。フレーズマーク番号の指定方法はP.76と同様です。

表示される歌詞の言語を選びます。

AUTO ... 曲データで言語が指定されているときは、その言語に設定されます。ないときには、本体の設定(P.140)が日本語の場合はJAPANESE、それ以外の場合はINTERNATIONALに設定されます。

曲データの種別を判別して、TRK1,2のチャンネルを設定します。通常はONにしておきます。

パネルの【TRACK1(R)(トラック1(右手))]ボタンに割り振るMIDIチャンネルを選びます。

パネルの【TRACK2(L)(トラック2(左手))]ボタンに割り振るMIDIチャンネルを選びます。

NOTE

クイックスタート=曲の最初の小節で【START/STOP(スタート/ストップ)]ボタンを押すと、曲頭の休符を再生せずに最初の音符から再生されます。市販のディスクの中には音源の設定のために先頭小節が空になっているものがありますが、そのような場合もすみやかに曲をスタートさせることができます。曲を録音するときは、クイックスタートはできません。

NOTE

チャンネル =MIDIチャンネル (P.147) のことです。PF-1000には下記のようにチャンネルが割り振られています。

曲 1~16
伴奏スタイル9~16

NOTE

フレーズマーク=曲データに設定されている、曲中のある箇所を指定するデータです。

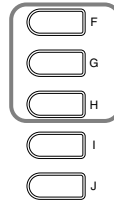
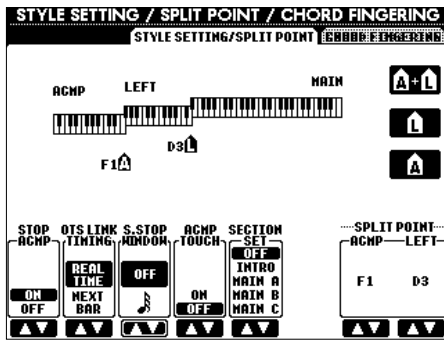
自動伴奏に関する設定をする

スタイル セッティング スプリット ポイント コード フィンガリング
 STYLE SETTING/SPLIT POINT/CHORD FINGERING

ここでの説明は、P.122の操作手順3に相当します。

自動伴奏に関する設定をする/スプリットポイントを設定する

スタイル セッティング スプリット ポイント
 STYLE SETTING/SPLIT POINT



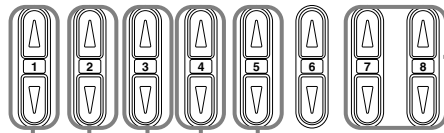
どれかを押しながら、スプリットポイントにしたい鍵盤を押します。押した鍵盤は、自動伴奏用鍵域 (ACMP) または左手鍵域 (LEFT) に含まれます。

A+L (ACMP&LEFT) ..自動伴奏用鍵域と左手鍵域を、同じ鍵域に同時に設定します。

L (LEFT) 左手鍵域を設定します。

A (ACMP) 自動伴奏用鍵域を設定します。

NOTE
SECTION SETについて
 MAIN A~Dセクションのうちどれかが伴奏スタイルデータにない場合は、一番近いセクションに変わります。たとえば、MAIN Dが伴奏スタイルにない場合は、MAIN Cに変わります。



自動伴奏用鍵域 (ACMP) や左手鍵域 (LEFT) のスプリットポイントを設定します。設定内容は [F][G][H] ボタンと同じですが、鍵盤を押さなくてもスプリットポイントを設定することができます。

伴奏スタイルがストップしている状態で伴奏スタイルを変更したときに、設定されるセクションを選びます。

自動伴奏用鍵盤のタッチレスポンスをON/OFFします。ONの場合、自動伴奏用鍵盤を押した強さで自動伴奏の音量を変えることができます。

自動伴奏用鍵盤/左手鍵盤で、短く鍵盤を押してシンクロストップ (P.65) する機能です。ここでは、鍵盤を押す長さを選びます。

STOP ACMP機能をON/OFFします。ONにすると、伴奏スタイルがストップしているときに自動伴奏用鍵盤でコードを押さえると、コードとベースを両方鳴らすことができます。

曲(ソング)や伴奏スタイルを鳴らしながらセクションボタンを押したときの、OTSが呼び出されるタイミングを選びます。[OTS LINK (OTSリンク)] ボタンONのとき

REAL TIME セクションボタンを押した時点で OTS が呼び出されます。

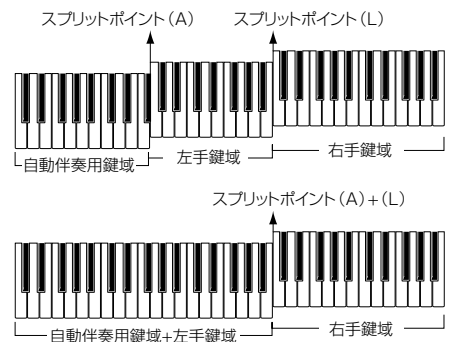
NEXT BAR 伴奏スタイルが次の小節にさしかかった時点でOTSが呼び出されます。

NOTE
 スプリットポイントは、MAIN画面でも設定することができます。

スプリットポイントについて

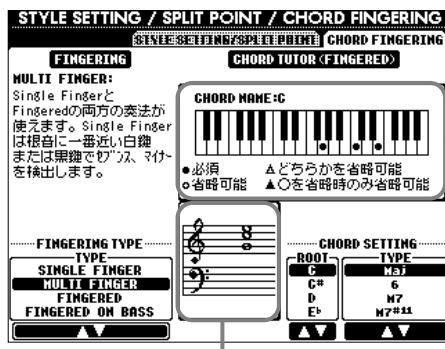
スプリットポイントとは、鍵盤上で自動伴奏用鍵域 (ACMP) / 左手鍵域 (LEFT) と右手鍵域 (MAIN) を分けている位置のことです。

スプリットポイント (L) はスプリットポイント (A) より下の位置には設定できません。スプリットポイント (A) はスプリットポイント (L) よりも上の位置には設定できません。



自動伴奏のコードの押さえ方(フィンガリング)を決める コード フィンガリング CHORD FINGERING

自動伴奏のコードの押さえ方を決めます。CHORD TUTOR(コードチューター)では、コードの押さえ方を簡単に知ることができます。



コードの押さえ方が表示されま
す。構成音は、省略してもよい音
もあります。コード名は
「CHORD NAME」に表示され
ます。

- ...必ず押さえる音です。
- ...省略してもよい音です。
- △ ...どちらかの音を省略できま
す。
- ▲ ...○の音を省略したときに、
省略してもよい音です。

NOTE
コード表示は、どの奏法(フィン
ガリングタイプ)を選んでいても
FINGEREDの押さえ方で表示さ
れます。

NOTE
CHORD TUTOR
(コードチューター)について
コードチューターを使うと、コー
ドの押さえ方を簡単に知ること
ができます。
知りたいコードを[6▲▼]~[8
▲▼]ボタンで指定すると画面に
コードの押さえ方や構成音が示
されるので、コードを確認したり
覚えるために利用することがで
きます。

コードの押さえ方 (P.62)
を選びます。

コードのタイプを変更します。

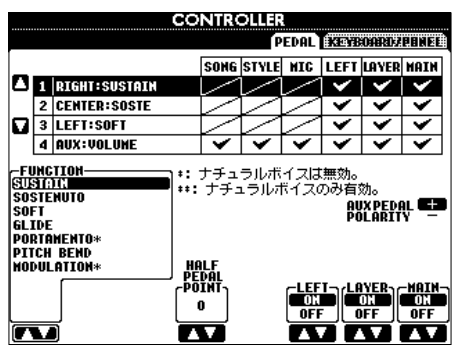
コードの構成音が楽譜
で表示されます。

コードのルート(根音)を
変更します。

ペダルや鍵盤の音に関する設定をする コントローラー CONTROLLER

ここでの説明は、P.122の操作手順3に相当します。

ペダルに機能を割り当てる ペダル PEDAL



機能を割り当てるペダルを選
びます。

AUX PEDAL端子に接続した
ペダルによって、踏んだときの
効果(ON/OFFや強弱など)が逆
になる場合があります。そのよ
うな場合に切り替えます。

ペダルの機能(TYPE)を選びます。
各ペダルに、すべての機能のうちひ
とつを設定することができます。
ペダルの機能については、P.129
の「ペダルでコントロールできる機
能」を参照してください。

必要に応じて、パートを ON/
OFFしたり効果のかけ具合を
変えたりすることができます
(P.129)。

ペダルでコントロールできる機能

VOLUME(ボリューム)*	音量を調節します。AUX PEDAL端子に接続したペダルだけに設定することができます。
SUSTAIN(サステイン)	ペダルを踏むと、演奏音に長い余韻が付きます。ペダルをゆるめると、すぐにサステインがかかった音は止まります。
SOSTENUTO(ソステヌート)	ペダルを踏んだときに押さえていた鍵盤の音だけを、鍵盤から指を離しても長く響かせることができます。ペダルを踏んでいるかぎり余韻が付きます。ただし、ペダルを踏んだあとに弾いた音には効果はかかりません。たとえば、コードにサステインをかけて響かせながら、他の音をスタッカートで演奏することができます。
SOFT(ソフト)	ペダルを踏むと音量がわずかに下がり、音の響きが柔らかくなります。ピアノ音色など特定の音色にだけ有効です。
GLIDE(グライド)	ペダルを踏むと音程が変化し、ペダルをゆるめると元に戻ります。
PORTAMENTO(ポルタメント)	ペダルを踏むと、ポルタメント効果(音と音をスムーズな音程変化で移行させる効果)がかかります。ポルタメント効果は、音符をレガートに演奏したとき(1つの音符を弾いたまま次の音符を弾いたとき)にかかります。ポルタメントタイムは、MIXING CONSOLE(P.118)で設定することができます。NATURAL音色が選ばれているときは機能しません。
PITCHBEND(ピッチベンド)*	音程を上げたり下げたりすることができます。
MODULATION(モジュレーション)*	ビブラート効果を付け加えます。ペダルを踏むと効果が深くなります。NATURAL音色が選ばれているときは機能しません。
DSP VARIATION(DSPバリエーション)	[VARIATION(バリエーション)] ボタンと同じです。NATURAL音色が選ばれているときは機能しません。
VIBEROTOR ON/OFF(バイブローターオン/オフ)	EFFECT TYPE(P.119)のVIBEROTORをON/OFFします。NATURAL音色が選ばれているときだけ機能します。
HARMONY(ハーモニー)/ECHO(エコー)	[HARMONY/ECHO(ハーモニー/エコー)] ボタンと同じです。
SCOREPAGE+(スコアページプラス)	曲が停止しているときに、楽譜のページを進めることができます。
SCOREPAGE-(スコアページマイナス)	曲が停止しているときに、楽譜のページを戻すことができます。
SONG START/STOP(ソングスタート/ストップ)	SONG[START/STOP(ソングスタート/ストップ)] ボタンと同じです。
STYLE START/STOP(スタイルスタート/ストップ)	STYLE CONTROL[START/STOP(スタイルコントロールスタート/ストップ)] ボタンと同じです。
TAP TEMPO(タップテンポ)	[TAP TEMPO(タップテンポ)] ボタンと同じです。
SYNCRON START(シンクロスタート)	[SYNCRON START(シンクスタート)] ボタンと同じです。
SYNCRON STOP(シンクロストップ)	[SYNCRON STOP(シンクストップ)] ボタンと同じです。
INTRO(イントロ)	[INTRO(イントロ)] ボタンと同じです。
MAIN A(メインA)	[MAIN A(メインA)] ボタンと同じです。
MAIN B(メインB)	[MAIN B(メインB)] ボタンと同じです。
MAIN C(メインC)	[MAIN C(メインC)] ボタンと同じです。
MAIN D(メインD)	[MAIN D(メインD)] ボタンと同じです。
FILL DOWN(フィルダウン)	フィルを入れてから、左隣りのMAINセクションに移ります。
FILL SELF(フィルセルフ)	フィルを入れます。
BREAK(ブレイク)	ブレイクを入れます。
FILL UP(フィルアップ)	フィルを入れてから、右隣りのMAINセクションに移ります。
ENDING(エンディング)	[ENDING/rit.(エンディング/rit.)] ボタンと同じです。
FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)	[FADE IN/OUT(フェードイン/アウト)] ボタンと同じです。
FING/ON BASS(フィンギング/オンベース)	フィンギリング(P.62)のフィンガードとフィンガードオンベースを交互に切り替えます。
BASS HOLD(ベースホールド)	ペダルを踏んでいる間は、伴奏スタイルのコードを変えてもベース音は変わりません。ただしフィンギリングが「FULL KEYBOARD」のときは機能しません。
PERCUSSION(パーカッション)	[4▲▼]~[8▲▼] ボタンで選んだ打楽器音をペダルで演奏します。打楽器音は、鍵盤を押して選ぶこともできます。
LAYER ON/OFF(レイヤーオン/オフ)	[LAYER(レイヤー)] ボタンと同じです。
LEFT ON/OFF(レフトオン/オフ)	[LEFT(レフト)] ボタンと同じです。
OTS+	次のOTSを呼び出します。
OTS-	ひとつ前のOTSを呼び出します。

*... 別売りのペダルを使う場合は、YAHAMA FC7をお使いください。

機能ごとの設定

ペダルに割り当てた機能ごとに設定できる項目が変わります。

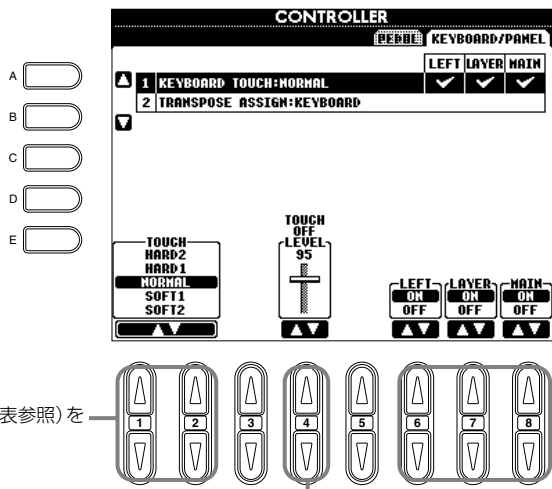
SONG, STYLE, MIC, LEFT, LAYER, MAIN (ソング、スタイル、マイク、レフト、レイヤー、メイン)	ペダルの設定をするパートを選びます。
HALF PEDAL POINT(ハーフペダルポイント)*	ペダルをどのくらい踏み込めばダンパー効果(P.58)が効き始めるのかを設定することができます。
DEPTH(デプス)	レフトペダルでの効果のかかり具合(深さ)を調節します。NATURAL音色が選ばれているときだけ機能します。
UP/DOWN(アップ/ダウン)	PITCH BENDまたはGLIDEで音程を上げる(UP)/下げる(DOWN)します。
RANGE(レンジ)	ペダルを踏んだときの音程変化の幅を半音単位で設定します。MIXING CONSOLEのPITCH BEND RANGE(P.118)と同じ効果です。
ON SPEED(オンスピード)	GLIDEでペダルを踏んだときの、音程の変化の速さを設定します。
OFF SPEED(オフスピード)	GLIDEでペダルを離れたときの、音程の変化の速さを設定します。
KIT(キット)	すべてのドラムキットが表示されます。ペダルに割り当てたいドラムキットを選びます。
PERCUSSION(パーカッション)	各ドラムキット中の全音色が表示されます。ペダルに割り当てたいドラム音色を選びます。

*... 別売りのペダルを使う場合は、YAHAMA FC7をお使いください。

タッチ感を変える/移調する KEYBOARD/PANEL

KEYBOARD TOUCH

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の付きかた(タッチ感)を選びます。



設定したいタッチ(右表参照)を選びます。

タッチがOFFのときのレベルを設定します。

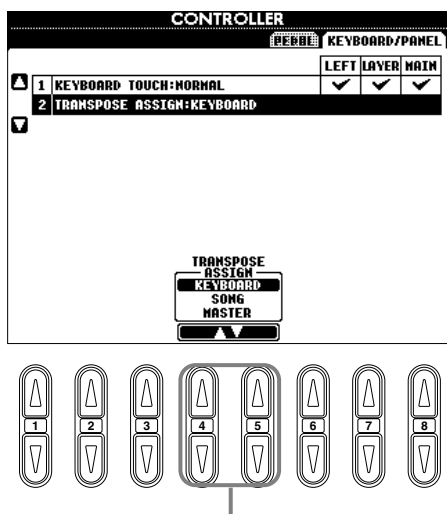
HARD 2	重いタッチです。強く弾かないと大きな音が出ません。
HARD 1	HARD 2とNORMALの中間のタッチです。
NORMAL	標準的なタッチです。
SOFT 1	SOFT 2とNORMALの中間のタッチです。
SOFT 2	軽いタッチです。弱く弾いても大きな音が出ます。

NOTE

ここでの設定は、すべての音色に共通で有効となります。パイプオルガンでタッチによる音の強弱を付けたくないなど、音色ごとに異なるタッチ(TOUCH SENSE)を設定することもできます(P. 87)。

TRANSPOSE ASSIGN

【TRANSPOSE(トランスポーズ)】ボタンの機能を決定します。

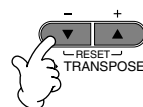


- KEYBOARD 手弾き音(メイン、レイヤー、レフト)と伴奏スタイルの音程を移調させることができます。
- SONG 曲(ソング)の音程だけを移調させることができます。
- MASTER PF-1000全体(手弾き音、再生曲、伴奏スタイルなど)の音程を移調させることができます。

移調する TRANSPOSE

鍵盤の音や曲(ソング)を半音単位で移調することができます。

1 どちらかのボタンを押します。



2 TRANSPOSE ASSIGNで設定されている画面が表示されます。



3 トランスポーズ[-][+]ボタンで値を入力します。



【EXIT(戻る)】ボタンを押して TRANSPOSE 画面を閉じます。

●KEYBOARD/SONGの使い分け

曲(ソング)再生と鍵盤演奏の両方をそれぞれ特定のキーに移調するために使われます。たとえば、録音済みの曲に合わせて弾き語りしたい場合、曲データはFのキーだけれど、歌うのはDのキーが歌いやすく、鍵盤パートの演奏はCのキーに慣れているといった場合に便利です。キーを合せるために、マスタートランスポーズは「0」、キーボードトランスポーズは「2」、ソングトランスポーズは「-3」に設定します。これで、鍵盤パートはキーが上がり、曲データは歌いやすいキーに下がります。

NOTE

各種のドラム/SFXキット音色にはトランスポーズはかかりません。

レジストシーケンス/フリーズ/ボイスセットの設定をする

REGIST. SEQUENCE/FREEZE/VOICE SET

ここでの説明は、P.122の操作手順3に相当します。

レジストレーションメモリーを呼び出す順番を決める

REGISTRATION SEQUENCE

REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー)[1]~[8]ボタンに登録されたパネル設定は通常[1]~[8]ボタンを押して切り替えますが、ここでは[1]~[8]ボタンを呼び出す順番を決めて、演奏のときに**[BACK(バック)]****[NEXT(ネクスト)]**ボタンやペダルを使って[1]~[8]ボタンを順に切り替えるよう設定することができます。ここで組んだレジストレーションを呼び出す順番のことを「レジストシーケンス」と呼びます。

選ばれているレジストレーションバンクのファイル名です。

レジストシーケンスを進めるペダルを決めます。

レジストシーケンスを戻すペダルを決めます。

レジストシーケンスをON/OFFします。ONのときは、MAIN画面のタイトルバー右上にレジストシーケンスが表示され、MAIN画面での**[BACK(バック)]****[NEXT(ネクスト)]**ボタンやペダルでレジストシーケンスを再生することができます。

レジストレーションメモリーを呼び出す順番が表示されます。データがないときは空白になります。

レジストレーションメモリー番号をすべてを消去します。

カーソル位置の番号を消去します。

カーソルの直前に、現在パネルで選ばれているレジストレーションメモリー番号を挿入します。

カーソル位置の番号を、現在パネルで選ばれているレジストレーションメモリー番号に置きかえます。

レジストシーケンスが最後まで来た場合の動作を決めます。

STOP **[NEXT(ネクスト)]** ボタンを押したりペダルを踏んだりしても、レジストレーションメモリーは呼び出されません。

TOP 先頭に戻ります。

NEXTBANK ... 同じフォルダーの中で次に表示されているレジストレーションバンクファイルの先頭に移動します。

- NOTE**
「REGISTRATION SEQUENCE ENABLE」が「ON」の場合は、REGIST (+) PEDAL/REGIST (-) PEDALで選択されたペダルに関しては、PEDAL の設定 (P.128) と VOICESSET による PEDAL の設定 (P.132) が無効になります。
- NOTE**
「REGIST (+) PEDAL」「REGIST (-) PEDAL」両方が「OFF」の場合は、ペダルでレジストシーケンスを再生することはできません。MAIN 画面の**[BACK(バック)]****[NEXT(ネクスト)]**ボタンで再生します。
- NOTE**
「REGIST (+) PEDAL」と「REGIST (-) PEDAL」が同じペダルになっている場合は、REGIST (+) の機能となります。

END **[EXIT(戻る)]**ボタンを押して設定を確定します。

NOTE
レジストシーケンスデータはレジストバンクファイルの一部です。レジストシーケンスデータを保存したいときは現在のレジストバンクファイルを保存(P.38, 44)しましょう。レジストバンクファイルを保存しないと、設定したレジストシーケンスデータは、レジストバンクを変更したときに消去されます。

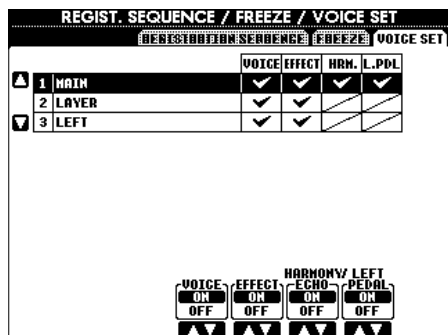
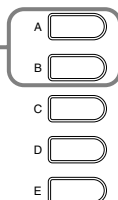
パネル設定を固定する FREEZE

REGISTRATION MEMORYで登録したパネル設定のうち、呼び出たくない項目を指定することができます。操作手順についてはP.84を参照してください。

自動の音色設定をON/OFFする VOICE SET

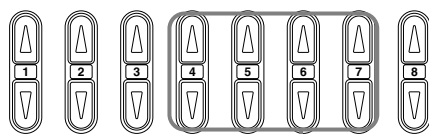
音色を変更する(音色ファイルを選ぶ)場合は、必ずその音色に合った設定(サウンドクリエイターで設定するパラメーターと同じ)が自動的に設定されます。このページでは、音色ごとの設定をパートごとにON(有効)/OFF(無効)することができます。たとえば、プリセットの音色はそれぞれLEFT PEDALの設定を持っていますが、この画面でOFFにしておくと、音色を変えてもLEFT PEDALの設定が変更されません。

パートを選びます。



NOTE
通常はすべてONにしておくことをおすすめします。

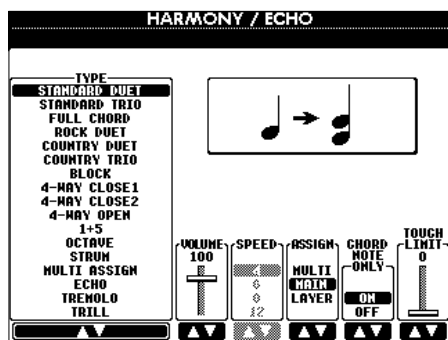
NOTE
レイヤー/ レフトパートには、ハーモニー/エコー、レフトペダルの設定はできません。



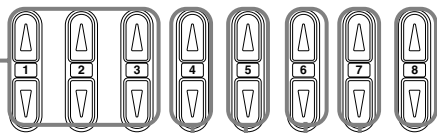
各音色にプリセットで割り当てられている音色、エフェクト、ハーモニー/エコー、レフトペダルの設定を呼び出すかどうかを決めます。各パートに対して個別にON/OFFすることができます。

ハーモニーやエコーの設定をする HARMONY/ECHO

ここでの説明は、P.122の操作手順3に相当します。



ハーモニータイプを選びます。
詳しくはP.133をご参照ください。



ハーモニー音を付けるために必要な最低ペロシティ値を決定します。この値よりも、強く弾いた音にハーモニー効果がかかります。

ハーモニー効果の音量を設定します。

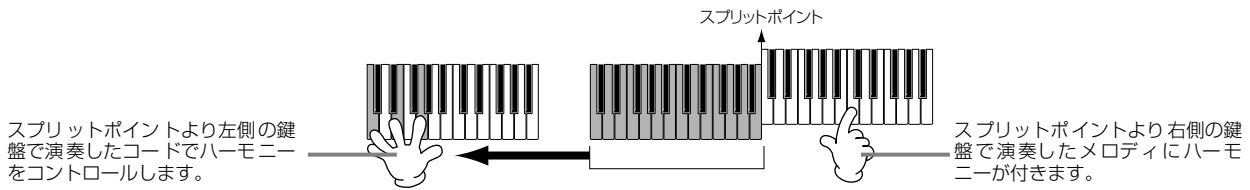
エコー/トレモロ/トリル効果のスピードを調節します。ハーモニータイプに「ECHO」「TREMOLO」「TRILL」を選んだときだけ調節することができます。

ONに設定すると、コードの構成音だけにハーモニー効果がかかります。「MULTI ASSIGN」「ECHO」「TREMOLO」「TRILL」のタイプが選ばれているときは、この設定はできません。

いろいろなパートに対して、ハーモニー効果を割り当てます。

タイプ ハーモニータイプ(TYPE)について

スタンダード デュエット ストラム 「STANDARD DUET」～「STRUM」が選ばれているとき



マルチ アサイン 「MULTI ASSIGN」が選ばれているとき

右手鍵域で同時に弾いた音を、自動的に別々のパート(音色)に割り当てます。2つの音を続けて鳴らした場合、1つめはメイン音色、2つめはレイヤー音色で演奏されます。

エコー 「ECHO」が選ばれているとき

エコー効果が、設定されているテンポで鍵盤の音にかかります。

トレモロ 「TREMLOLO」が選ばれているとき

トレモロ効果が、設定されているテンポで鍵盤の音にかかります。

トリル 「TRILL」が選ばれているとき

鍵盤で押さえている2音が、設定されているテンポで交互に鳴ります。

アサイン ハーモニー効果の割り当て(ASSIGN)について

マルチ MULTI

追加されるハーモニー音の1～4つめの音を自動的に別々のパート(音色)に割り当てます。たとえばメイン、レイヤーパートがONになっていて「STANDARD DUET」タイプが選ばれている場合、鍵盤で弾いた音はメイン音色で演奏され、付加されるハーモニー音はレイヤー音色で演奏されます。

メイン MAIN

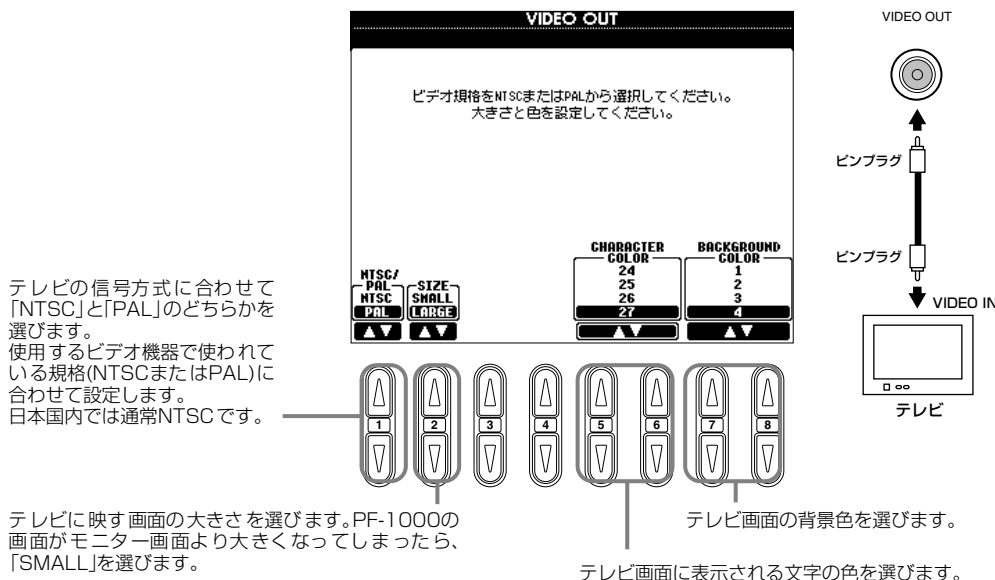
ハーモニーはメインパートだけに付けることができます。

レイヤー LAYER

ハーモニーはレイヤーパートだけに付けることができます。レイヤーパートがOFFの場合は、ハーモニー効果は付きません。

ビデオ アウト PF-1000の画面をテレビ画面に映す VIDEO OUT

ここでの説明は、P.122の操作手順3に相当します。



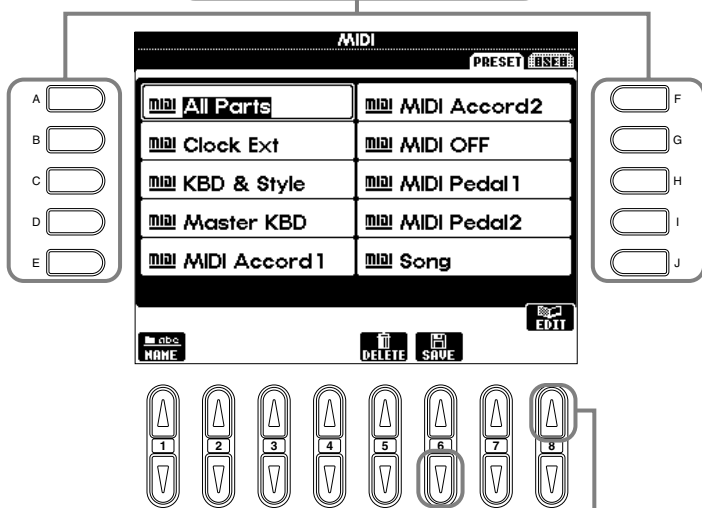
NOTE

- 通常のテレビ画面(インターレース方式)では細い横線がちらつくことがあります。これは表示機器の性能限界で、PF-1000の故障によるものではありません。
- 視覚障害を引き起こす原因となりますので、長時間テレビやビデオモニターを見続けないようにしてください。定期的に休憩を取ったり、焦点を遠くの物に合わせるなどして、目を休めてください。
- ここで推奨されているような設定をすべて行なった場合でも、PF-1000の画面がお使いのテレビモニターにきれいに表示されない場合もあります。たとえば、表示が画面サイズに合っていないかったり、文字がはっきりしていなかったり、色が悪かったりする場合がありますのでご了承ください。

MIDIに関する設定をする ミディ MIDI

MIDIに関する設定をします。設定は、ひとまとめにして「USER」ページに保存し、必要に応じて呼び出すことができます。MIDIについて詳しくは、「MIDIって何? (P.145)」を参照してください。ここでの説明は、P.122の操作手順3に相当します。

1 使いたい設定を選びます。



3 USERページを表示させてから、このボタンを押してMIDIに関する設定を保存します。
最多で10の設定を保存できます。

2 設定画面を表示させ、各機能を設定します。
設定方法については、この後の説明を参照してください。



【EXIT(戻る)】ボタンを押して元の画面に戻ります。

プリセットMIDI設定

All Parts (オールパート)	すべてのパート(メイン/レイヤー/レフト)を送信します。
Master KBD (マスターキーボード)	外部音源やその他の機器をコントロールするなど、PF-1000をマスターキーボードとして使います。
KBD & Style (キーボードアンドスタイル)	個別のパート(メイン/レイヤー/レフト)ではなく、右手鍵域と左手鍵域の鍵盤演奏データを送信します。
Song (ソング)	すべての送信チャンネルがソングチャンネル1-16に設定されます。外部音源からソングデータを流すときや外部シーケンサーで演奏を録音するときに使います。
Clock Ext. (クロックエクスターナル)	MIDIクロックをMIDI IN端子で受信し、外部MIDI機器にPF-1000を同期させます。
MIDI Accord 1 (ミディアコード1)	MIDIアコーディオンを使って、キーボードや伴奏をコントロールします。
MIDI Accord 2 (ミディアコード2)	コードやベースパートを弾いているのと同じように、MIDIアコーディオンのコードとベースボタンが伴奏をコントロールします。
MIDI Pedal 1 (ミディペダル1)	MIDI IN端子に接続されたMIDIペダル鍵盤で伴奏のベース音をコントロールします。
MIDI Pedal 2 (ミディペダル2)	MIDI IN端子に接続されたMIDIペダル鍵盤でベースパートを演奏します。
MIDI OFF (ミディオフ)	MIDI信号は送受信されません。

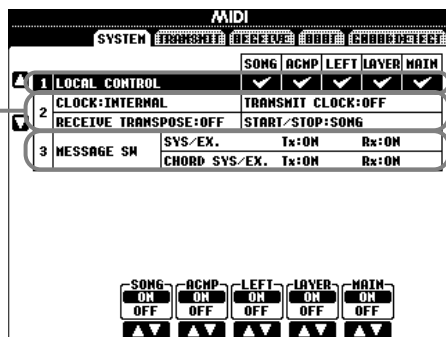
NOTE

保存した設定は、USERページで名前付け (P.41)、消去 (P.43) することができます。

システム(ローカルコントロール、クロックなど)を設定する システム SYSTEM

上記手順2で設定画面を表示させます。

CLOCK、TRANSMIT、CLOCK、RECEIVE、TRANPOSE、START/STOPの設定をします。



LOCAL CONTROLの設定をします。

MESSAGE SWの設定をします。

ローカル コントロール LOCAL CONTROL

ローカルコントロールをパートごとにON/OFFします。PF-1000は、鍵盤を弾いて内蔵の音源を鳴らすしくみになっています。この状態をローカルコントロールONと呼びます。ローカルコントロールをOFFにすると、「鍵盤」と「音源」が切り離され、鍵盤を弾いてもPF-1000からは音が出なくなります。PF-1000から音が出なくなっても鍵盤を弾いた演奏情報をMIDI出力させることはできますので、音を鳴らさずに外部音源を鳴らしたいときに、ローカルコントロールをOFFにします。

クロック トランスミット クロック レシーブ トランスポーズ スタート ストップ
CLOCK, TRANSMIT CLOCK, RECEIVE TRANSPOSE, START/STOP

CLOCK

PF-1000を内部クロック(INTERNAL)でコントロールするか、外部機器から受け取ったMIDIクロック(EXTERNAL)でコントロールするかを設定します。PF-1000を単独で使用したり、MIDIクロックによる同期演奏のマスターとして使用したりする場合はINTERNALを選択します。外部シーケンサー、MIDIコンピューター、その他のMIDI機器と一緒にPF-1000を使う場合、外部機器のMIDIクロックにPF-1000を同期させたいときは、この機能をEXTERNALに設定します。後者の場合、外部機器がPF-1000のMIDI IN端子に接続されており、MIDIクロック信号が外部機器からきちんと送信されている必要があります。

TRANSMIT CLOCK

MIDIクロック信号の送信をON/OFFします。OFFに設定されているとき、MIDIクロック信号やスタート/ストップデータは送信されません。

RECEIVE TRANSPOSE

トランスポーズ受信の項目をOFFに設定しているときは、PF-1000が受信した音符データは移調されません。ONに設定しているときは、現在のキーボードトランスポーズ(P.130)の設定に従って、受信した音符データが移調されます。

START/STOP

受信したFA/FCメッセージを曲(ソング)、伴奏スタイルどちらに送るかを切り替えます。

NOTE
 FA/FC=曲(ソング)、伴奏スタイルをスタート、ストップするMIDIメッセージです。FAがスタート、FCがストップのメッセージです。

MESSAGE SW

SYS/EX. Tx(TRANSMIT)

MIDIシステムエクスクルーシブデータの送信をON/OFFします。

SYS/EX. Rx(RECEIVE)

外部機器から送られるMIDIエクスクルーシブデータの受信をON/OFFします。

CHORD SYS/EX. Tx(TRANSMIT)

MIDIコードエクスクルーシブデータ(コード検出:ルートとタイプ)の送信をON/OFFします。

CHORD SYS/EX. Rx(RECEIVE)

外部機器から送られるMIDIコードエクスクルーシブデータの受信をON/OFFします。

MIDIデータを送信する TRANSMIT

どのMIDIチャンネルからどのパートをMIDI出力するかを指定します。

チャンネルを選びます。

CH	PART	NOTE	CC	PC	PB
1	MAIN	✓	✓	✓	✓
2	LAYER	✓	✓	✓	✓
3	LEFT	✓	✓	✓	✓
4	OFF	—	—	—	—
5	OFF	—	—	—	—
6	OFF	—	—	—	—
7	OFF	—	—	—	—
8	OFF	—	—	—	—

データが送信されたとき、そのMIDIチャンネル(1~16)に対応したランプが短く点滅します。

選んだチャンネルに対応するパートを選びます。

指定したデータタイプの送信をON/OFFします。データタイプについて詳しくは下記のリストを参照してください。

TRANSMIT/RECEIVE画面でのデータタイプ

NOTE(ノート)	鍵盤を弾いたときに生成される演奏情報です。各メッセージは、押された鍵盤に対応した特定のノート番号と、どれくらいの強さで鍵盤が押されたのかを示すベロシティ値(音の強弱)を持っています。
CONTROL CHANGE(コントロールチェンジ)(CC)	ペダルやその他のコントローラーなど、主に演奏表現を高めるために使われる情報です。
PROGRAM CHANGE(プログラムチェンジ)(PC)	音色を切り替えるための情報です。
PITCH BEND(ピッチベンド)(PB)	P.129を参照してください。
AFTER TOUCH(アフタータッチ)(AT)*	鍵盤を押さえる強さの情報です。鍵盤を押さえる強さによって音の響き方が変わります。

*... RECEIVE画面(P.136)だけの設定です。

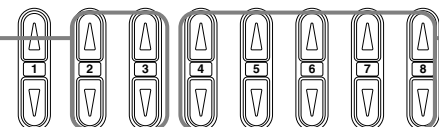
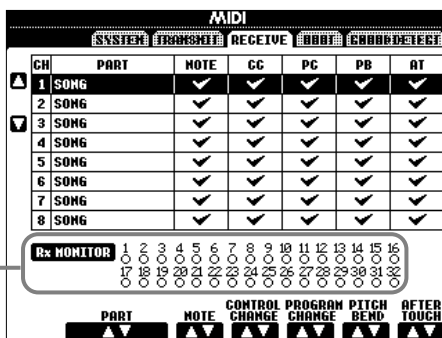
MIDIデータを受信する レシーブ RECEIVE

どのMIDIチャンネルからどのパートにMIDI入力するかを指定します。

チャンネルを選びます。

データを受信したとき、そのMIDIチャンネル(1~32)に対応したランプが短く点滅します。

選んだチャンネルに対するパートを選びます。受信パートについて詳しくは下記を参照してください。



NOTE

チャンネル1~16にはMIDI端子またはTO HOST端子のAポート(CBXドライバーのポートA)が入力されます。チャンネル17~32にはTO HOST端子のBポート(CBXドライバーのポートB)が入力されます。

指定したデータタイプの受信をON/OFFします。データタイプについて詳しくはP.135を参照してください。

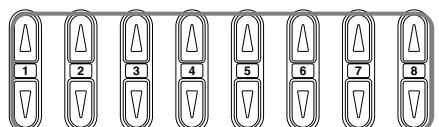
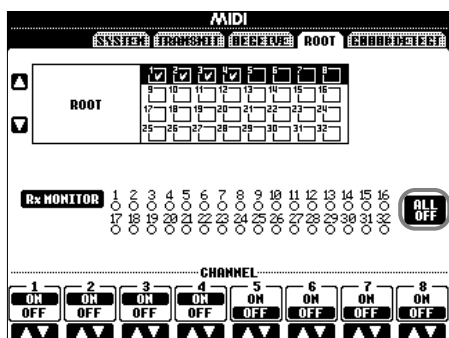
MIDI受信パート

OFF(オフ)	MIDIデータを受信しません。
SONG(ソング)	通常、曲(ソング)再生に使われている音源のパートでMIDI受信します。チャンネル1~16はそれぞれ曲チャンネルの1~16チャンネルに対応しています。1~16チャンネルのみ指定することができます。
MAIN(メイン)	対応するチャンネルのMIDI受信データによってMAINパートがコントロールされます。
LAYER(レイヤー)	対応するチャンネルのMIDI受信データによってLAYERパートがコントロールされます。
LEFT(レフト)	対応するチャンネルのMIDI受信データによってLEFTパートがコントロールされます。
KEYBOARD(キーボード)	キーボードで演奏しているのと同じように、PF-1000で受信したMIDIノートデータに対応する音が演奏されます。
ACMP RHYTHM1~2(アカンプリズム1~2)	受信したノートデータは、伴奏のリズム1とリズム2を演奏するのに使われます。
ACMP BASS(アカンブベース)	受信したノートデータは、伴奏のベースを演奏するのに使われます。
ACMP CHORD1~2(アカンブコード1~2)	受信したノートデータは、伴奏のコード1とコード2を演奏するのに使われます。
ACMP PAD(アカンブパッド)	受信したノートデータは、伴奏のパッドを演奏するのに使われます。
ACMP PHRASE1~2(アカンブフレーズ)	受信したノートデータは、伴奏のフレーズ1とフレーズ2を演奏するのに使われます。
EXTRA PART1~5(エキストラパート1~5)	MIDI受信専用5パート用意されています。通常、本体で使用されていないパートです。この5パートを追加することにより、全体で32チャンネルのマルチティンバー音源として機能します。

ルートチャンネルを設定する ルート ROOT

ONに設定されているチャンネルで受信したノートON/OFF情報が、自動伴奏のルート音として認識されます。ルート音の検出は、自動伴奏機能のON/OFFやパネル上のスプリットポイントの設定に関係なく行なわれます。

各チャンネルグループ1~8、9~16、17~24、25~32を選びます。



必要なチャンネルをON/OFFします。

NOTE

チャンネル1~16にはMIDI端子またはTO HOST端子のAポート(CBXドライバーのポートA)が入力されます。チャンネル17~32にはTO HOST端子のBポート(CBXドライバーのポートB)が入力されます。

NOTE

いくつかのチャンネルを同時にONにしたとき、それらのチャンネルがミックスされたMIDIデータからルート音が検出されます。

すべてのチャンネルをOFFにします。

コードチャンネルを設定する コード ディテクト CHORD DETECT

ONに設定されているチャンネルで受信したノートON/OFF情報が、自動伴奏のコード押鍵として認識されます。検出されるコードは、フィンガリングモードによって異なります。コードの検出は、自動伴奏機能のON/OFFやパネル上のスプリットポイントの設定に関係なく行なわれます。操作方法は、上記のルートチャンネルを設定する方法と同じです。

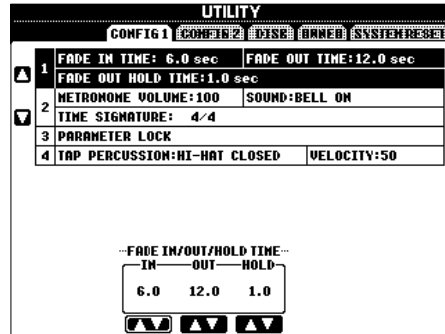
その他の諸設定 ユーティリティ UTILITY

ここでの説明は、P.122の操作手順3に相当します。

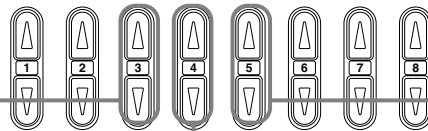
フェード/メトロノーム/パラメーターロック/タップ音に関する設定をする コンフィグ CONFIG1

フェード イン タイム / フェード アウト タイム / フェード アウト ホールド タイム FADE IN TIME/FADE OUT TIME/FADE OUT HOLD TIME

伴奏スタイルや曲(ソング)をフェードイン/アウトする時間を設定します。



NOTE
SEC=秒



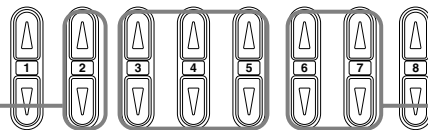
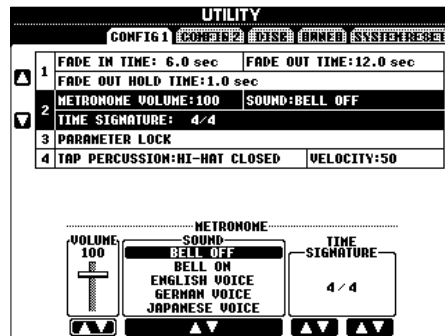
フェードインで音量が上がりきるまでの時間を単位秒(0~20.0秒)で決めます。

フェードアウト終了後、音量ゼロをキープする時間を単位秒(0~5.0秒)で決めます。

フェードアウトで音量がゼロになるまでの時間を単位秒(0~20.0秒)で決めます。

メトロノーム METRONOME

メトロノームに関する設定をします。



メトロノームの音量を調節します。

メトロノームの拍子を決めます。曲や伴奏スタイルをスタートすると、自動的にそれらに合わせた値がセットされます。

- メトロノームの音を決めます。
- BELL OFF.....メトロノーム音(ベルなし)
 - BELL ON.....メトロノーム音(ベルあり)
 - ENGLISH VOICE.....英語のカウント(One, Two, Three, Four)
 - GERMAN VOICE.....ドイツ語のカウント(Eins, Zwei, Drei, Vier)
 - JAPANESE VOICE.....日本語のカウント(いち, に, さん, し)
 - FRENCH VOICE.....フランス語のカウント(Un, Deux, Trois, Quatre)
 - SPANISH VOICE.....スペイン語のカウント(Uno, Dos, Tres, Cuatro)

パラメーター ロック
PARAMETER LOCK

特定の設定を固定して、レジストレーションメモリー、ワンタッチセッティング、ミュージックファインダーなどを使ったときに自動的に変更させないようにします。固定された設定は、本体パネルのボタンから変更することができます。

固定する設定を選びます。

選ばれている機能にチェックマークを付けます。チェックマークを付けた機能がロックされます。

選ばれている機能からチェックマークを外します。

UTILITY
CONFIG1 CONFIG2 DISC BANNER SYSTEMRESET
1 FADE IN TIME: 6.0 sec FADE OUT TIME: 12.0 sec
FADE OUT HOLD TIME: 1.0 sec
2 METRONOME VOLUME: 100 SOUND: BELL OFF
TIME SIGNATURE: 4/4
3 PARAMETER LOCK
4 TAP PERCUSSION: HI-HAT CLOSED VELOCITY: 50
PARAMETER LOCK
SELECT
 REVERB RETURN LEVEL REVERB TYPE MARK
 CHORUS RETURN LEVEL ON
 DSP RETURN LEVEL OFF
 SPLIT POINT

タップ カウント
TAP COUNT

タップスタート(P.51)するときのタップ音に関する設定をします。

タップ音の音色を選びます。打楽器音Standard Kit (P.55)の全音色から選ぶことができます。

タップ音のベロシティ(強弱)(0~127)を決めます。

UTILITY
CONFIG1 CONFIG2 DISC BANNER SYSTEMRESET
1 FADE IN TIME: 6.0 sec FADE OUT TIME: 12.0 sec
FADE OUT HOLD TIME: 1.0 sec
2 METRONOME VOLUME: 100 SOUND: BELL OFF
TIME SIGNATURE: 4/4
3 PARAMETER LOCK
4 TAP PERCUSSION: HI-HAT CLOSED VELOCITY: 50
PERCUSSION VELOCITY
SHARE 50
HAND CLAP
SHARE TIGHT
FLOOR TOM L
HI-HAT CLOSED

画面調整/スピーカー/ボイスナンバー表示に関する設定をする コンフィグ
CONFIG2

画面のバックライトの明るさ(0~20)を調整します。

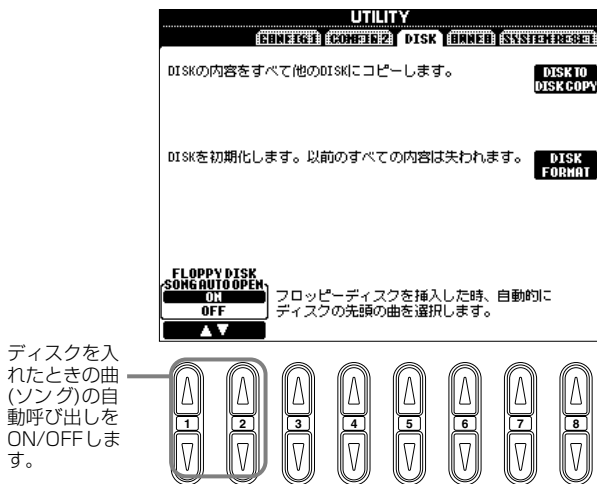
HEADPHONE SW ...ヘッドフォンが接続されていないときだけスピーカーが鳴ります。
On.....常にスピーカーが鳴ります。
Off.....スピーカーは鳴りません。

外部機器からPF-1000の音色を選ぶ際に必要なバンクセレクトMSB/LSB/プログラムチェンジナンバーの情報をVOICE画面のPRESETページ(P.54)に表示する(ON)/しない(OFF)を設定します。

UTILITY
CONFIG1 CONFIG2 DISC BANNER SYSTEMRESET
LCD BRIGHTNESS: 20
1 DISPLAY VOICE NUMBER: OFF
SPEAKER: HEADPHONE SWITCH

ディスクのコピー、フォーマット(初期化)などをする

ディスク DISK



ディスクを入れたときの曲(ソング)の自動呼び出しをON/OFFします。

F G H I J

ディスクに入っているデータを、まとめて別のディスクにコピーします。ディスクのデータを編集する前にバックアップを取ることができます。コピーの仕方は、下記の「DISK TO DISK 操作手順」を参照してください。

ディスクをフォーマット(初期化)します。操作の仕方は下記の「ディスクフォーマット操作手順」を参照してください。

! フロッピーディスクおよびディスクドライブの扱い方について、必ずP.7をお読みください。

NOTE

- 2DD ディスクから 2HD ディスク、2HD ディスクから 2DD ディスクへのコピーはできません。
- コピー元のデータ量が多い場合は、コピーを完了するまでに何回かコピー元とコピー先のディスクを入れ替える必要があります。

DISK TO DISK(ディスクトゥーディスク)操作手順

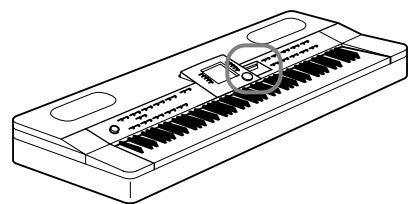
下図のように、コピー元のディスクのデータを本体にいったんコピーした後に、コピー先のディスクにコピーします。

- 1** [F](DISK TO DISK COPY) ボタンを押すと「コピー元のディスクを入れてからOKボタンを押してください。OK/CANCEL」が表示されます。
- 2** コピー元のディスクを入れて、「OK」を押します。→「コピー中です。CANCEL」が表示され、ディスクのデータを本体にコピーし始めます。中止するときは「CANCEL」を押します。
- 3** 「コピー先のディスクを入れてからOKボタンを押してください。OK/CANCEL」が表示されたら、コピー元のディスクとコピー先のディスクを入れ替え「OK」を押します。中止するときは「CANCEL」を押します。
- 4** コピー先のフロッピーディスクを取り出します。

NOTE

市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。市販のミュージックデータの中には、コピーできないものもあります。

ディスクフォーマット操作手順

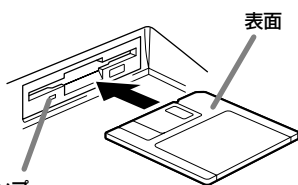


新しいディスクや他の機器で使っていたディスクはそのままでは使うことができませんので、最初にフォーマット(初期化)します。フォーマットをすれば、ディスクに入っているデータを一度に削除することもできます。

NOTE

フォーマットとは、その機器本体が対応している収納方式をディスクに指定しておくことです。ディスクの収納方式にはいくつかの種類があるため、本体に合った収納方式を知らせておく必要があります。

2DD のディスクは 720KB、2HD のディスクは 1.44MB にフォーマットされます。



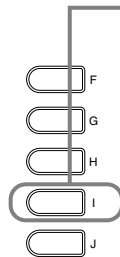
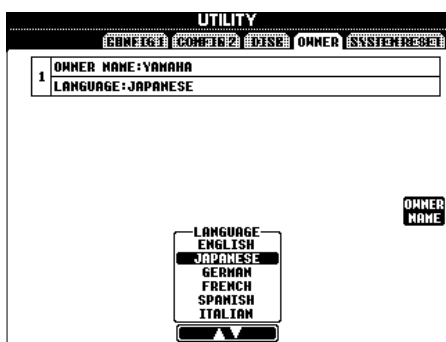
録音用ディスクを、シャッター側を奥に、ラベル面を上にしてディスクドライブに差し込みます。上記UTILITY画面の「DISK」ページで[H](DISK FORMAT) ボタンを押すと、フォーマットが始まります。

! ディスクをフォーマットすると、すべてのデータが削除されてしまいます。必要なデータが入っていないかどうか確認してからフォーマットしましょう。

ユーズランプ
電源を入れると、そのディスク挿入口左下のユーズランプは点灯し、フロッピーディスクドライブが使用可能であることを示します。

個人情報に関する設定をする OWNER OWNER

オーナー

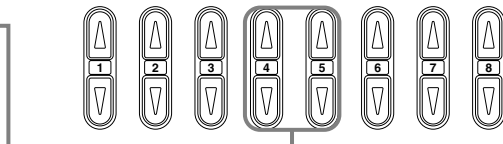


電源を入れたときに表示される画面(P.17)の「OWNER NAME」を入力(P.45)します。

NOTE

「LANGUAGE」で「JAPANESE」を選んでおられるときにユーザードライブかディスクドライブに保存したファイル名は、「JAPANESE」以外に切りかえると漢字やかなが文字化けします。その逆の場合も「」（ウムラウト）や「`」（アクセント）、記号などが文字化けします。また、フロッピーディスクの場合にはこれら文字化けするファイルは読み出せなくなります。PF-1000で保存したファイルが入ったフロッピーディスクをパソコンで使用するとき、異なる言語のOSを使用すると同様の問題が起こることがあります。言語を切り替えながら使用の場合は、この点十分で留意ください。

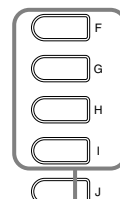
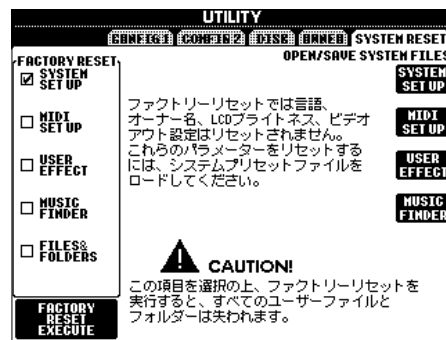
画面に表示される言語を切り替えることができます。ここで言語を切り替えると、メッセージや文字入力画面などの言語が切り替わります。



PF-1000の設定を工場出荷時の状態に戻す

システム リセット SYSTEM RESET

SYSTEM SETUPの項目(別冊データリストのパラメーター一覧)を工場出荷時の状態に戻します。一番右側の鍵盤 (C7) を押しながら電源を ON にしても「System Setup」の項目だけを工場出荷時の状態に戻すことができます。



NOTE

以下の機能は、「SYSTEM SETUP」をリセットしても工場出荷時の状態に戻りません。

- LANGUAGE
- OWNER NAME
- LCD BRIGHTNESS
- VIDEO OUT関連項目(NTSC/PAL、SIZE、CHARACTER COLOR、BACKGROUND COLOR)

ただし、「OPEN/SAVE SYSTEM FILES」で「SYSTEM SETUP」のプリセットファイルを呼び出すと、上記の機能を含むすべての機能を工場出荷時の状態に戻すことができます。

NOTE

MUSIC FINDERを保存する場合は、全レコードがまとめて保存されます。保存したMUSIC FINDERファイルを読み出すと、レコードの置き換え/追加を選ぶメッセージが表示されます。

REPLACE

現在のミュージックファインダー全レコードが消去され、ファイルから呼び出されたレコードに置き替えられます。

APPEND

ファイルから呼び出されたレコードは、空きレコード番号に追加されます。

MIDIのユーザー設定(P.134)を工場出荷時の状態に戻します。

USER EFFECT(P.120)を、工場出荷時の状態に戻します。

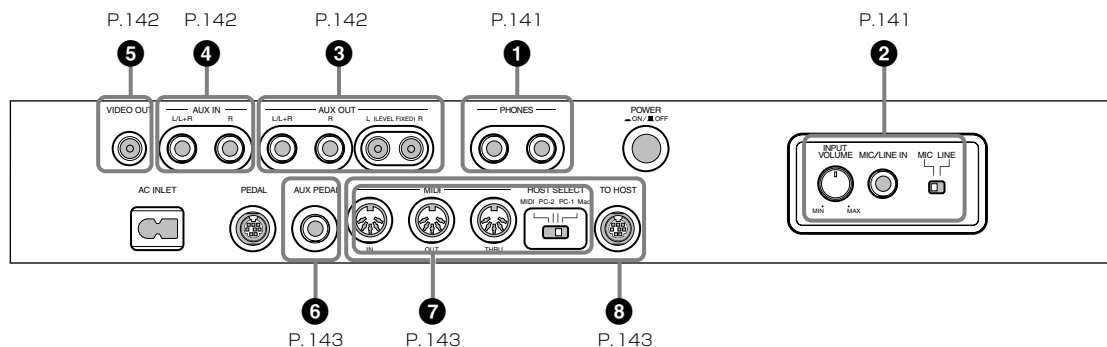
ミュージックファインダーのデータ(P.71)を工場出荷時の状態に戻します。

Userページに保存したすべてのファイル/フォルダーを消去します。

「FACTORY RESET」でチェックマークを付けた項目を、工場出荷時の状態に戻します。

それぞれのオープンセーブ画面を表示させます。SYSTEM SETUP～MUSIC FINDERの設定をファイルとして保存します。保存したファイルは必要に応じて呼び出すことができます。それぞれの「PRESET」の中には工場出荷時のデータが入っていて、これを呼び出すとそれぞれの項目を工場出荷時の状態に戻すことができます(「FACTORY RESET」と同様)。

他の機器と接続して演奏しましょう



外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切った上で行なってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電または機器の損傷のおそれがあります。

① スピーカーから音を出さずヘッドフォンで音を聞く (PHONES端子)

ヘッドフォンをPHONES端子(標準フォーン端子)に接続して使います(P.17)。ヘッドフォンを接続したときに、PF-1000本体のスピーカーから音を出す、出さないを設定することができます(P.138)。初期設定では、ヘッドフォンを接続するとスピーカーからは音が出ません。また、PHONES端子は2つありますので、ヘッドフォンを2本接続して2人で演奏を楽しむこともできます。1本だけ接続する場合は、どちらの端子をご使用いただいても構いません。

NOTE

別売ヘッドフォン
YAMAHAヘッドフォン
HPE-160 (税別価格: 5,500円)

② マイクやギターをつないで使う (MIC/LINE IN端子)

マイクを接続すると、弾き語りやカラオケを楽しむことができます。マイク入力された音声は、PF-1000のスピーカーから鳴ります。またMIC/LINE IN端子にギターなどを接続して、PF-1000のスピーカーから音を出すこともできます。

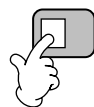
1 マイクをMIC/LINE IN端子に接続します。

NOTE

ダイナミックマイクをご使用ください。

2 音声を入力する場合は、MIC/LINE切り替えスイッチをMIC側に、ギターなど出力レベルの高い機器を接続する場合はLINE側に切り替えます。

MIC LINE



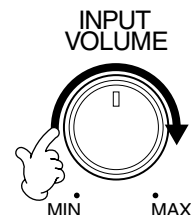
マイクを接続したとき

MIC LINE



ギターを接続したとき

3 マイクのボリュームをINPUT VOLUMEつまみで調節します。



③④⑤ 外部オーディオビジュアル機器と接続する

PF-1000をステレオなどに接続してより大きな音を出したり、カセットテープレコーダーなどに接続して演奏を録音したりできます。

オーディオ接続コードを使って図のように接続します。

NOTE

オーディオ接続コードおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

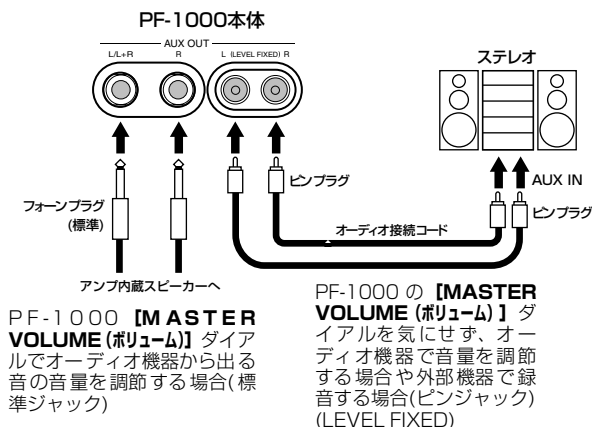
③ PF-1000の音を外部オーディオ機器から出したり、外部機器で録音したりする (AUX OUT端子)



電源を入れるときは、PF-1000→外部オーディオ機器の順に、電源を切るときは、外部オーディオ機器→PF-1000の順に行なってください。



AUX OUTから出力した音を、AUX INに戻さないでください(AUX OUTから外部オーディオ機器に接続した場合、その機器から再びPF-1000のAUX INに接続しないでください)。PF-1000のAUX INから入力された音はそのままPF-1000のAUX OUTから出力されますので、オーディオ系の発振が起り、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。



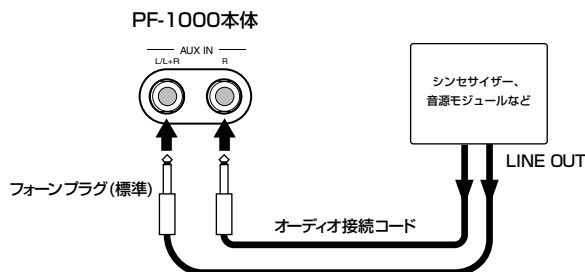
NOTE

- AUX OUT (LEVEL FIXED)からの出力音にはPF-1000のボリュームは効きません。
- モノ出力にはAUX OUT L/L+R (標準ジャック) をご使用ください。

④ PF-1000のスピーカーから外部機器の音を出す (AUX IN端子)



電源を入れるときは、外部オーディオ機器→PF-1000の順に、電源を切るときは、PF-1000→外部オーディオ機器の順に行なってください。



NOTE

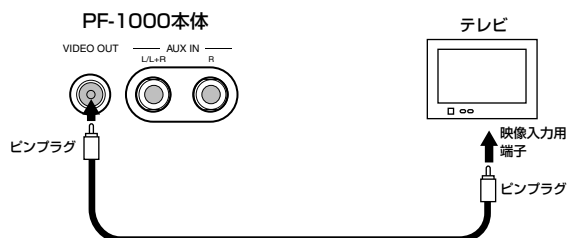
- モノ入力にはAUX IN L/L+Rをご使用ください。
- AUX INからの入力音にはPF-1000のボリュームが有効です。

⑤ PF-1000の画面をテレビに映し出す (VIDEO OUT端子)

PF-1000とテレビを接続して、PF-1000の画面をテレビ画面に映し出すことができます。図のように、映像用接続コードでPF-1000とテレビを接続します。ファンクションのVIDEO OUT (P.133)で、画面のサイズと文字や背景の色を選ぶことができます。

NOTE

- テレビの信号方式については、P.133を参照してください。初期値は、日本での標準であるNTSC方式に設定されています。
- 接続コードは、高周波特性のよいもの(AV機器用)で、ピンプラグのものを使用してください。



⑥ ペダル(フットスイッチ)やフットコントローラーを使う (AUX PEDAL端子)

別売のフットコントローラー (FC7)を接続すると、足を使って手弾き音のボリュームを調節して演奏に抑揚を付ける(初期設定)など、さまざまな機能をフットコントロールできます (P.128)。また、別売のフットスイッチ(FC4またはFC5)を接続すると、自動伴奏のスタート/ストップなど、パネルのボタン機能を持たせることができます。



ペダルの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。

NOTE

YAMAHA FC7: 6,000円(税別価格)
YAMAHA FC4: 3,000円(税別価格)
YAMAHA FC5: 1,500円(税別価格)

⑦ 外部MIDI機器と接続する (MIDI端子)

外部MIDI機器との接続には、MIDI端子を使用します。接続には、専用のMIDIケーブルをご使用ください。HOST SELECTスイッチはMIDIに設定します。接続については、MIDIでできること(P.147)を参照してください。

MIDI INMIDIデータを受信する端子です。

MIDI OUTMIDIデータを送信する端子です。

MIDI THRU ...MIDI INから入ってきたデータをそのまま送信する端子です。

MIDIの概念(MIDIって何?)、MIDIでできること、MIDI機能の設定については、以下を参照してください。

- MIDIって何? (P.145)
- MIDIでできること(P.147)
- MIDIに関する設定(P.134)

NOTE

YAMAHA MIDIケーブル

MIDI01 (長さ1m、税別価格: 800円)
MIDI03 (長さ3m、税別価格: 1,100円)

- 長いケーブルを使用すると、エラーが生じる場合があります。15m以内のケーブルをご使用ください。

⑧ パーソナルコンピューターと接続する (MIDI端子、TO HOST端子)

PF-1000とパーソナルコンピューター(パソコン)を接続すると、パソコン用の音楽ソフトを楽しむことができます。接続には3つの方法があります。

- PF-1000のTO HOST端子を使った接続
- PF-1000のMIDI端子を使った接続
- パソコンのUSB端子と、USBインターフェース機器(UX256、UX96、UX16など)を使った接続

NOTE

- パソコンでMIDIを扱う場合、お使いのパソコンや目的にあったMIDIアプリケーションソフトウェアが必要となります。
- パソコンと接続する場合は、最初に、PF-1000とパソコンの電源を切った状態で、ケーブル接続、HOST SELECTスイッチの設定を行ない、その後パソコン → PF-1000の順番で、電源を入れてください。
- PF-1000のTO HOST端子を使用しない場合は、必ずTO HOST端子からケーブルを抜いてください。ケーブルを接続したままだと、PF-1000が正常に動作しないことがあります。
- HOST SELECTスイッチを[PC-2][PC-1][Mac]に設定しているときは、TO HOST端子が使えますが、MIDI端子は使えません (MIDIデータを送受信しません)。逆に、HOST SELECTスイッチを[MIDI]に設定しているときは、MIDI端子が使えますが、TO HOST端子は使えません (データを送受信しません)。

Windowsをご使用のお客様へ (MIDIドライバーについて)

パソコンのシリアルポートとPF-1000のTO HOST端子を接続して、データのやり取りをするためには、指定のMIDIドライバー (YAMAHA CBX Driver [Windows対応]) をパソコンにインストールする必要があります。

YAMAHA CBX Driverは、インターネットのヤマハホームページ/XGライブラリー→
<http://www.yamaha.co.jp/xg>
から、ダウンロードして入手することができます。

PF-1000のTO HOST端子を使った接続

パソコンのシリアルポート（RS-232C端子やRS-422端子）とPF-1000のTO HOST端子を接続します。接続に使用するケーブルは、パソコンの種類に合わせて下記のシリアルケーブル（別売）をご使用ください。

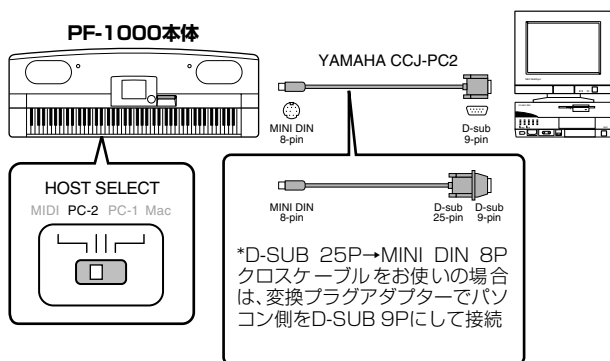
NOTE

使用するソフトウェアの種類によって、下記の設定では動作しない場合があります。お使いになるソフトウェアの取扱説明書を参照して、HOST SELECTスイッチを適合するボーレートの位置に設定してください。また、PC-9801、PC-9821シリーズをお使いの場合は、HOST SELECTスイッチを[PC-1]にセットしてください([PC-1]のボーレートは、31,250bpsです)。

■ IBM-PC/ATシリーズ(Windows)

シリアルケーブルYAMAHA CCJ-PC2（市販品の場合は、D-SUB 9P→MINI DIN 8Pクロスケーブル）で、パソコンのRS-232C端子とPF-1000のTO HOST端子とを接続します。

PF-1000のホストセレクトスイッチは[PC-2]（ボーレート=38,400bps）にセットします。

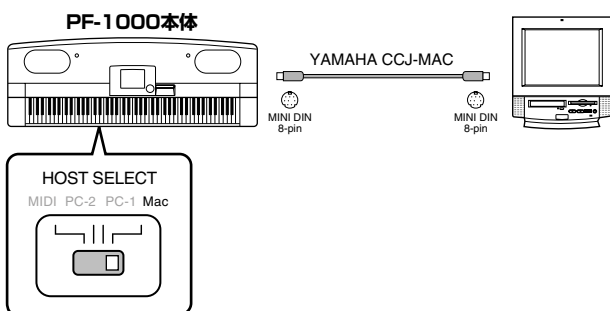


■ Macintoshシリーズ

シリアルケーブルYAMAHA CCJ-MAC（市販品の場合は、システムペリフェラルケーブル8ピン）で、パソコンのRS-422端子（モデムまたはプリンター端子）とPF-1000のTO HOST端子とを接続します。

PF-1000のホストセレクトスイッチは[Mac]（ボーレート=31,250bps）にセットします。

使用するシーケンスソフトウェア側で、MIDIインターフェースのクロックを1MHzに設定してご使用ください。詳しくは、お使いになるソフトウェアの説明書をよくお読みください。

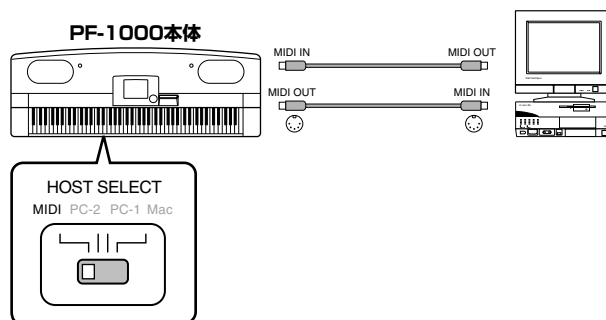


PF-1000のMIDI端子を使った接続

パソコン側に取り付けたMIDIインターフェース機器を使用して、パソコンとPF-1000のMIDI端子を接続します。

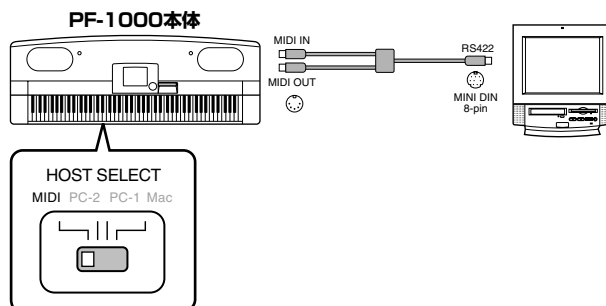
接続に使用するケーブルは、専用のMIDIケーブルをご使用ください。

- MIDI インターフェース（別売）を装備したパソコンの場合は、パソコン側のMIDI OUT端子とPF-1000のMIDI IN端子とを接続します。PF-1000のホストセレクトスイッチは[MIDI]にセットします。



- Macintosh シリーズの MIDI インターフェースを使用する場合は、パソコンのRS-422端子（モデムまたはプリンター端子）にMIDIインターフェースを接続し、MIDIインターフェースのMIDI OUT端子とPF-1000のMIDI IN端子とを下図のように接続します。

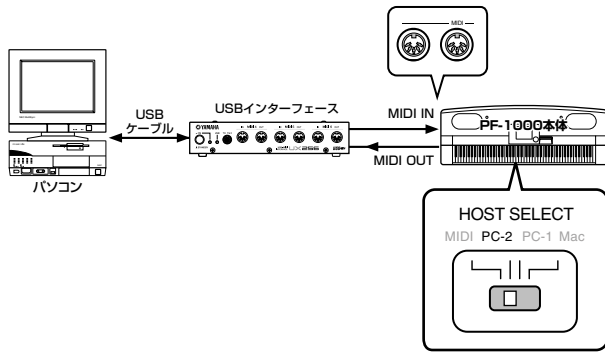
PF-1000のホストセレクトスイッチは[MIDI]にセットします。



- ホストセレクトスイッチを [MIDI] に設定している場合は、TO HOST端子の入出力は無視されます。
- Macintoshシリーズをお使いの場合、使用するMIDIインターフェースの設定に合わせて、アプリケーションソフトウェア側で、MIDIインターフェースのクロックを設定してください。詳しくは、お使いになるソフトウェアの説明書をよくお読みください。

パソコンのUSB端子と、USBインターフェース機器(UX256、UX96、UX16など)を使った接続

パソコンのUSB端子とUSBインターフェースをUSBケーブルで接続します。USBインターフェースに付属のドライバーをインストールします。USBインターフェースとPF-1000をMIDIケーブルで接続します。PF-1000のホストセレクトスイッチは[MIDI]にセットします。詳しくは、USBインターフェースに付属の取扱説明書を参照してください。

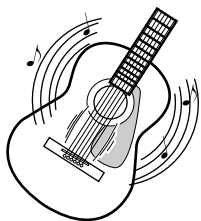


使用するパソコンやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

MIDIって何?

アコースティック楽器の代表的なものにはアコースティックピアノやガットギターが挙げられます。ピアノは鍵盤をたたくことにより、内部でハンマーが弦をたたいて鳴らしています。ギターは直接弦を弾いて鳴らしています。それではデジタル楽器と呼ばれるものは、どのようなしくみで音を鳴らしているのでしょうか？

アコースティック楽器の発音



弦を弾くとボディが共鳴して鳴る

デジタル楽器(電子楽器)の発音

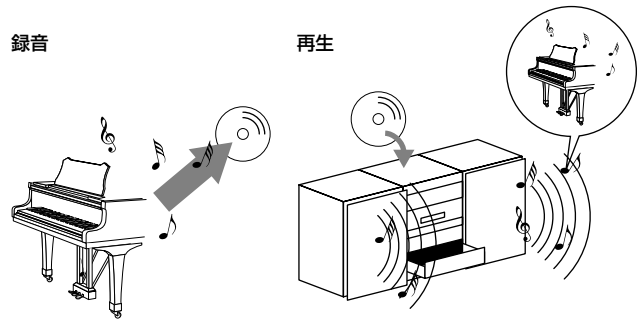


鍵盤からの演奏情報をもとに、音源に記録されているサンプリング音がスピーカーを通して発音

上のイラストのように、電子楽器では演奏情報をもとに、**音源部**(電子回路)に記憶されているサンプリング音(あらかじめ録音されている音)がスピーカーを通して発音するのです。

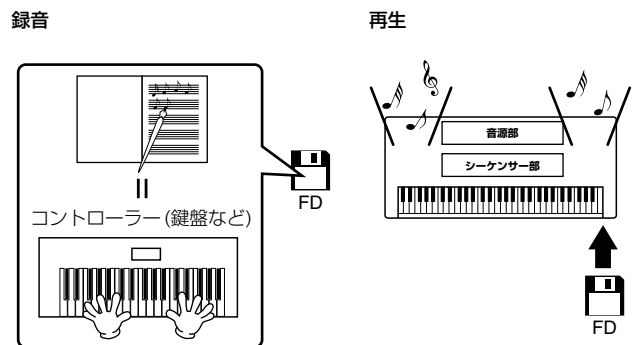
次に録音されているデータを再生する場合を考えてみましょう。一般のCDなどに録音されている演奏は、実際に演奏された音(空気の振動)を記録したものです。MIDIデータと区別してオーディオデータと呼んだりします。

アコースティック楽器の演奏(オーディオ)の録音と再生



上のイラストのようにアコースティックピアノの演奏の録音であれば、「ピアニスト(演奏者)」が「ピアノ」を弾いて鳴った実際の「音」そのものを閉じてめたものが、CDなどに録音されているオーディオデータです。これをCDプレーヤーで再生すれば、実際にピアニストの演奏によって鳴った音が再現されます。「ピアノ」を弾いて鳴った実際の「音」が記録されているので、再生のときにピアノは必要ありません。

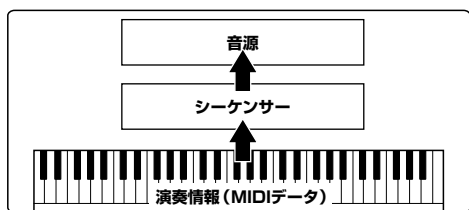
デジタル楽器(電子楽器)の演奏(MIDI)の録音と再生



NOTE

デジタル楽器の場合でも、AUX OUTから出力されるのは、オーディオ信号です。

デジタル楽器で上のピアノに相当するのは「コントローラー（鍵盤など）」と「音源」です。「演奏者」が鍵盤を弾いた「演奏情報（下記参照）」を閉じこめたものが、MIDIのソングデータです。ソングデータには、演奏者の動作が記録されているとイメージしてみてください。ピアノ演奏の録音では、ピアノとは別に録音の機材が必要ですが、PF-1000には、演奏情報を録音する「シーケンサー」が搭載されていますので、録音用機器は必要ありません。演奏情報が録音されるということは、実際に楽器が鳴った音が記録されるのではないことを意味します。そのため、再生する際にも、その演奏情報を読みとって演奏する役目が必要です。**シーケンサー**はこの演奏者の役目も果たします。



また、シーケンサーの命令を受けて実際に音を発生する役目も必要です。この役目を果たするのが「音源」です。音源は、ピアノなどの楽器の音の特性を記憶していますので、シーケンサー部が音源を鳴らすことで、演奏が再現されるのです。シーケンサーと音源の関係は、ピアニストとピアノの関係に例えるとわかりやすいでしょう。このように、デジタル楽器では、演奏情報と楽器音の情報を別々に扱っているため、ピアノ演奏用のソングデータでストリングスの音を鳴らすということができるのです。

NOTE

PF-1000は、コントローラー、音源、シーケンサーといった複数の電子機器の集まったものと考えられます。各部はMIDI信号によって情報をやりとりしています。

それでは、発音のもとになる演奏情報とはいったい何なのでしょう？

たとえば、PF-1000の鍵盤でグランドピアノの音色で「ド」の音を4分音符の長さで強く弾いたとします。共鳴して音を出すアコースティック楽器と異なり、電子楽器は「どの音色で」「どの鍵盤を」「どのくらいの強さで」「いつ押さえたか」「いつ離れたか」といった演奏情報を作り出します。そして、ひとつひとつの演奏情報は、数値に置き換えて音源部に伝えられます。音源部ではその数値をもとに、記憶されているサンプリング音が鳴るのです。

演奏情報の例

ボイスナンバー (どのボイスで)	1 (グランドピアノ)
ノートナンバー (どの鍵盤を)	60 (ド : C3)
ノートオン (いつ押さえたか) & ノートオフ (いつ離れたか)	タイミングを数値化 (4分音符)
ベロシティ (どのくらいの強さで)	120 (強く)

このようにPF-1000では、鍵盤演奏や音色変更などのパネル操作のひとつひとつがMIDIデータとして処理されています。また自動伴奏や曲(ソング)、録音された曲/伴奏スタイルも同様にMIDIデータで構成されています。

MIDI(ミディ)は、Musical Instrument Digital Interfaceの頭文字をとったもので、楽器同士を接続して演奏情報や音色情報などをやりとりするために作られた世界統一の規格です。世界統一規格ですからメーカーや楽器の種類が違っててもデータをやりとりすることができます。複数のMIDI楽器(機器)をケーブルで接続すれば、機器間でさまざまな演奏情報が送受信でき、より高度な演奏が可能になります。

NOTE

- MIDI(データ)には次のようなメリットがあります。
- 同じ長さのオーディオ曲と比べてデータサイズが小さい
- 手軽に編集ができる(音色や演奏情報を変更可)

MIDIで扱うメッセージ(データ)には、大きく分けて「チャンネルメッセージ」と「システムメッセージ」の2種類があります。

チャンネルメッセージ

PF-1000はMIDI16チャンネル (TO HOST使用時の受信は32チャンネル) を扱う電子楽器です。「MIDI16チャンネル」とはどういう意味でしょうか？ これは「16種類の楽器を同時に鳴らせる」ということを表します。チャンネルメッセージには、ノートオン/オフ、プログラムチェンジなど、16チャンネルのそれぞれに演奏情報があります。

メッセージ名	PF-1000の操作/パネル設定
ノートオン/オフ	鍵盤の演奏情報 (ノートナンバーとベロシティで構成)
プログラムチェンジ	ボイスの設定 (コントロールチェンジのバンクセレクトMSB/LSBと合わせて設定)
コントロールチェンジ	ミキサー、パラメーターエディットの設定 (パン、ボリュームなど)

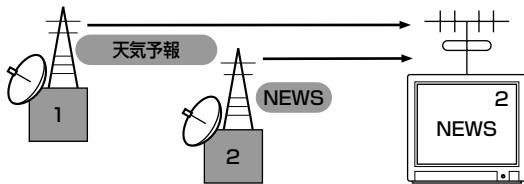
NOTE

ソング、スタイルの演奏データもすべてMIDIデータです。

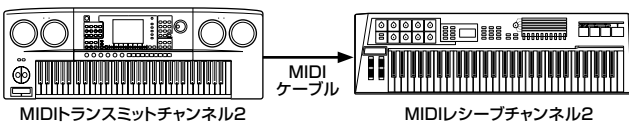
MIDIチャンネル

MIDIの情報には、MIDIチャンネルという1～16の番号が割り当てられています。このMIDIチャンネルを使って、1本のMIDIケーブルで同時に16パート用の情報を送る仕組みになっています。

MIDIチャンネルは、テレビのチャンネルと同じようなものだと考えることができます。テレビの放送局は、あらかじめ割り当てられたチャンネルで情報を送信します。各家庭では複数の放送局から送られてきた情報を同時に受信した上で、特定のチャンネルを選択することで目的の放送局の情報(番組)をみる事ができるわけです。



MIDIチャンネルもこれと同じ仕組みです。MIDIデータは、送信側の楽器で設定されたMIDIチャンネル(MIDIトランスミットチャンネル)によってMIDIケーブルを通り受信側の楽器に送られます。このとき、受信側の楽器で設定されるMIDIチャンネル(MIDIレシーブチャンネル)が、送信側のMIDIチャンネルと一致してはじめて音が鳴ります。



NOTE

PF-1000の鍵盤と内蔵の音源部もMIDIによって接続されています。
→LOCAL CONTROL(P.134)

たとえば、下のイラストのようにPF-1000の自動伴奏の演奏も含めて、複数のパート用のデータ(トラック)を同時に送信することができます。

PF-1000の自動伴奏を使った演奏を外部シーケンサーに録音する場合の例



このように、データを送信する際に、何のデータをどのMIDIチャンネルで送信するかを設定しておく必要があります(P.135)。

また、PF-1000でMIDIデータを受信する際は、受信したデータでどのように鳴らすかを設定することができます(P.136)。

■ システムメッセージ

MIDIシステム全体に共通して使用するデータです。システムメッセージには、メーカー固有のデータを送受信するエクスクルーシブメッセージ、MIDI機器をコントロールするリアルタイムメッセージなどがあります。

メッセージ名	PF-1000の操作/パネル設定
エクスクルーシブメッセージ	リバーブ/コーラス/DSPタイプ設定など
リアルタイムメッセージ	クロック スタート/ストップ

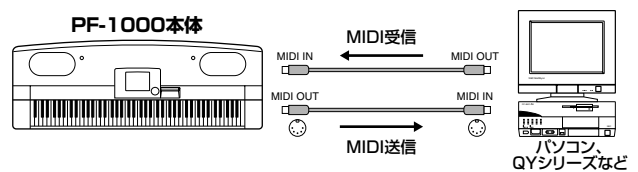
詳しくは、別冊データリストのMIDIデータフォーマットおよびMIDIインプリメンテーションチャートを参照してください。

MIDIでできること

MIDIについて以下の設定ができます。

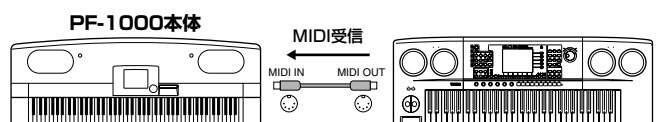
- MIDIに関する設定(代表的なMIDI送受信設定)(P.134)
- TRANSMIT(P.135)
- RECEIVE(P.136)
- LOCAL CONTROL(P.134)
- CLOCK(P.135)

■ PF-1000で自動伴奏を使った演奏データを(1～16チャンネル)をまとめて外部シーケンサー(パソコン)などに録音する。録音後、外部シーケンサーで編集した上で、PF-1000を鳴らす。



PF-1000をXGマルチ音源として鳴らす場合は、1～16チャンネルの受信パートを「SONG」に設定→MIDI受信設定(P.136)

■ 外部 MIDI キーボードで PF-1000 を鳴らしたりコントロールしたりする。



データの互換性について

ここでは、PF-1000で録音したデータを他のMIDI機器で再生できるかどうか、あるいはその逆の、市販のいろいろな種類のミュージックデータや、電子楽器などで録音した曲データ、パーソナルコンピューターなどで作成した曲データをPF-1000で再生できるか、といった各種演奏データの互換性について考える上で、一般的な基礎知識の一端をご紹介します。実際は、再生できる場合でも、そのまま再生できる場合、再生するためにいくつかの特殊な作業が必要となる場合など、再生するMIDI機器やデータの特性により異なってきますので、事例ごとに、下記を参考にしてください。

ディスクのフォーマット

フロッピーディスクは、パソコンなどのいろいろな機器で、いろいろなデータの収納場所として使われます。その際、フロッピーディスクのデータの収納方式にはいくつかの種類があるため、その機器で対応している収納方式を、フロッピーディスクに最初に指定する必要があります。このことを「フォーマット(初期化)する」と言います(たとえば、白い紙に縦書きの線を入れるか横書きの線を入れるかというようなことです)。

- フロッピーディスクにはMF2DD (両面倍密度タイプ)とMF2HD (両面高密度タイプ) というタイプがあり、それぞれのタイプによってもフォーマット形式が異なります。
- PF-1000 では両タイプのコピーディスクを使って録音も再生もすることができます。
- PF-1000 でフロッピーディスクをフォーマットすると、2DD ディスクは720KB(キロバイト)、2HD ディスクは1.44MB(メガバイト) にフォーマットされます。(「720KB」「1.44MB」はデータの記憶可能容量を示す言葉ですが、フォーマットの種類を表すときに、このように言います。)
- 再生したいディスクのフォーマットと、再生したいMIDI機器が対応しているディスクのフォーマットが一致していないと、再生できません。

シーケンスフォーマット

演奏データを記録する書式のことをシーケンスフォーマットと言います。

演奏データのシーケンスフォーマットと、PF-1000やMIDI機器が対応しているシーケンスフォーマットが一致していないと、再生できません。PF-1000は以下のフォーマットに対応しています。

■ SMF(スタンダードMIDIファイル)

代表的なシーケンスフォーマットの1つで、「フォーマット0」と「フォーマット1」があります。多くのMIDI機器が「SMFフォーマット0」に対応しており、また市販のディスクソフトの多くが「SMFフォーマット0」で作られています。

- PF-1000のディスクドライブは「SMFフォーマット0」と「SMFフォーマット1」の再生に対応しています。
- PF-1000 で録音した演奏データは「SMFフォーマット0」になります。
- PF-1000でロード(読み込み)したソングデータは、元のフォーマットにかかわらず、「SMFフォーマット0」で保存されます。

■ ESEQ(イーシーク)

ヤマハの多くの機器やディスクソフトで採用されている代表的なシーケンスフォーマットの1つです。

- PF-1000のディスクドライブは「ESEQ(イーシーク)」の再生に対応しています。

■ XF

SMF(スタンダードMIDIファイル)をより拡張し、歌詞表示などを可能にしたヤマハ独自のシーケンスフォーマットです。

■ STYLE FILE(スタイルファイル)

スタイルファイルフォーマットとは、ヤマハの自動伴奏(オートアカンパニメント)機能のノウハウを集大成した統一フォーマットです。

音色配列フォーマット

MIDIでは音色を番号で指定します。(プログラムチェンジナンバーと言います。) その番号の付け方(音色を並べる順番)の規格を「音色配列フォーマット」と言います。

再生したい演奏データの音色配列フォーマットと、再生したいMIDI機器が対応している音色配列フォーマットが一致していないと、音色が正しく再生されません。PF-1000は以下のフォーマットに対応しています。

NOTE

これらの条件を満たしていても、機器の仕様や、演奏データの特殊な作り方により、完全な互換性が実現できない場合もあります。

■ GMシステムレベル1

代表的な音色配列フォーマットの1つです。

多くのMIDI機器が「GMシステムレベル1」に対応しています。また、市販のディスクソフトの多くが「GMシステムレベル1」で作られています。

■ XG

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハの音源フォーマットの音色配列です。

PF-1000のXG音色グループ内の音色で録音した演奏データの音色配列は「XG」になります。

■ DOC(Disk Orchestra Collection =ディスクオーケストラコレクション)

PF-1000をはじめとするヤマハの多くのMIDI機器で対応している音色配列です。ヤマハの別売ディスクソフト「ピアノアンサンブル」のDOCファイルなどで使われています。

XG フォーマット関連市販参考書籍のご紹介

「XG バイブル」 米谷知巳著

MIDI音源の可能性を飛躍的に拡大したXGフォーマットのすべてを解説しています。

(発売：(株)リットーミュージック)

¥3,800 (税別価格)

「誰にでもわかるXG スーパーマニュアル」 関和則編著

XGについて初歩からわかるDTM入門ガイドブックです。

(発売：(株)ヤマハミュージックメディア)

¥1,900 (税別価格)

スタンドの取り付け方

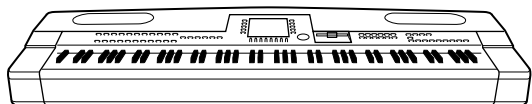
PF-1000は、スタンドを取り付けなくてもご使用いただけます。
PF-1000にスタンドを取り付ける場合は、この手順に従って取り付けてください。

- 部品をまちがえたり、向きをまちがえないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- 組み立ては、必ず2人以上で行なってください。
- ネジは付属の指定サイズ以外のものは使用しないでください。サイズの違うネジを使用すると、製品の破損や故障の原因になることがあります。
- ネジは各ユニット固定後、ゆるみがないようきつく締め直してください。
- 解体するときは、組み立てと逆の手順で行なってください。

付属のレンチを使用します。

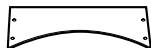


本体

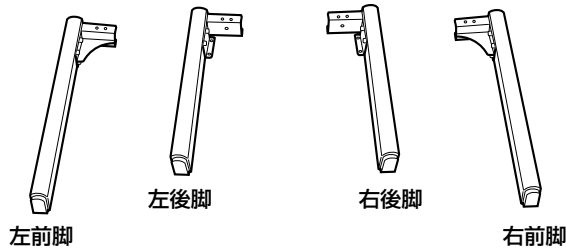
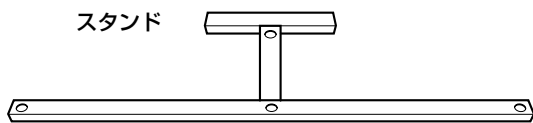


下記の部品を取り出します。

プレート



スタンド



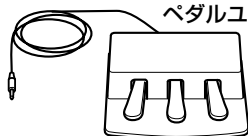
左前脚

左後脚

右後脚

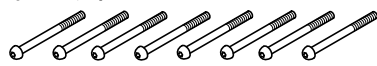
右前脚

ペダルユニット



電源コード

ネジセット



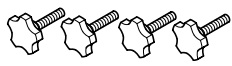
長いネジ(6 × 65 mm):8本



短いネジ(6 × 20 mm):8本



コードホルダー:2個



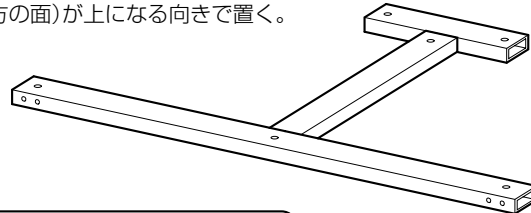
キャップボルト:4本



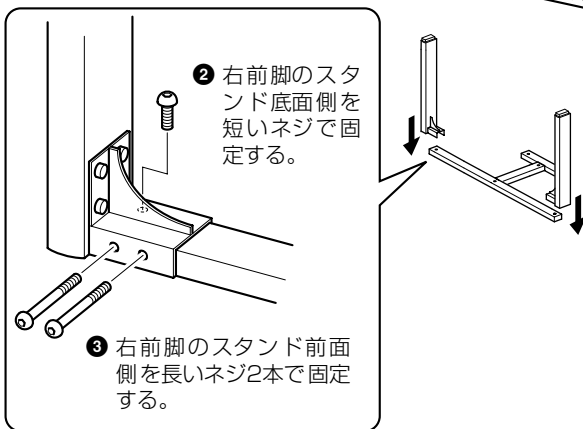
レンチ:1本

1 左右の前脚を固定します。

- ① スタンドを、底面(開いている穴が小さい方の面)が上になる向きで置く。



- ② 右前脚のスタンド底面側を短いネジで固定する。

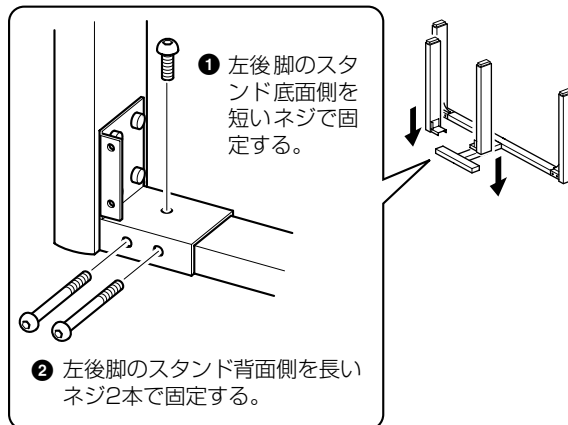


- ③ 右前脚のスタンド前面側を長いネジ2本で固定する。

- ④ 左前脚も同様に固定する。

2 左右の後脚を固定します。

- ① 左後脚のスタンド底面側を短いネジで固定する。

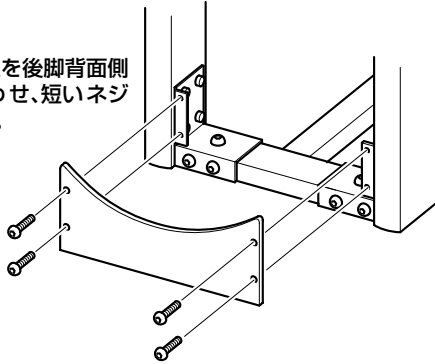


- ② 左後脚のスタンド背面側を長いネジ2本で固定する。

- ④ 右後脚も同様に固定する。

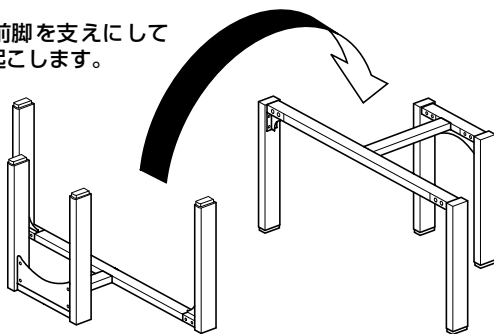
3 プレートを固定します。

プレートのネジ穴を後脚背面側の金具の穴に合わせ、短いネジ4本で固定します。



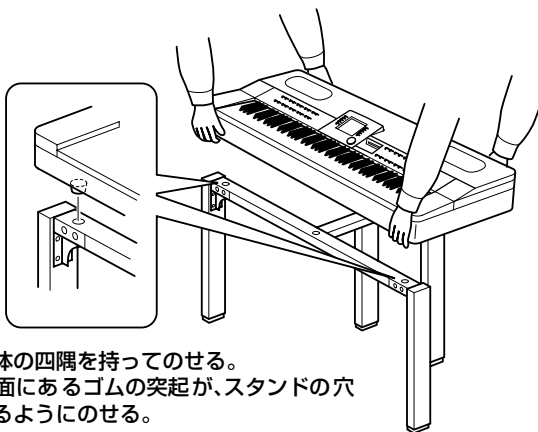
4 スタンドを起こします。

左右の前脚を支えにして
本体を起こします。



指をはさんだりしないよう、十分ご注意ください。

5 スタンドに本体をのせます。



必ず本体の四隅を持つてのせる。
本体底面にあるゴムの突起が、スタンドの穴にはまるようにのせる。



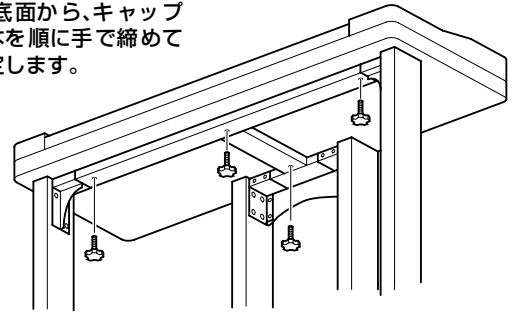
指をはさんだり、本体を落としたりしないよう、十分ご注意ください。



指定した位置以外を持たないでください。

6 本体を固定します。

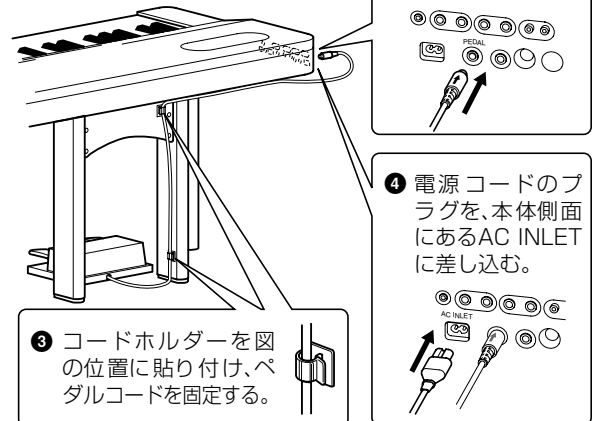
スタンド底面から、キャップ
ボルト4本を順に手で締めて
本体を固定します。



7 ペダルユニットと電源コードを取り付けます。

① ペダルユニットを後脚の
手前に置く。

② ペダルコードの
プラグを、本体左側
面にある PEDAL
端子に、矢印が上
になる向きで差
し込む。



③ コードホルダーを図
の位置に貼り付け、ペ
ダルコードを固定する。

④ 電源コードのプ
ラグを、本体側面
にある AC INLET
に差し込む。

* 電源コードも、コードホルダーで固定することができます。

■ 組み立て後、必ず以下の点をチェックしてください。

- 部品が余っていませんか？
→組み立て手順を再確認してください。
- 部屋のドアなどがPF-1000にあたりませんか？
→PF-1000を移動してください。
- PF-1000がぐらぐらしませんか？
→ネジを確実に締めてください。
- ペダルコード、電源コードのプラグが、確実に本体に差し込まれていますか？
→確認してください。
- 使用中に本体がきしむ、横ゆれする、ぐらぐらするなどの症状がでたら、組み立て図に従って各部のネジを締め直してください。

故障かな？と思ったら

現象	原因	解決法
PF-1000の電源が入らない。	電源プラグが差し込まれていない(本体側と家庭用コンセント側)。	電源プラグを、本体と家庭用コンセント(AC100V)に確実に差し込んでください(P.17)。
電源スイッチをONまたはOFFにしたとき、「カチッ」と音がする。	電気が流れたため。	異常ではありません。
PF-1000から雑音が出る。	PF-1000の近くで携帯電話を使っている(または呼び出し音が鳴っている)。	PF-1000の近くでは携帯電話の電源を切ってください。PF-1000の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。
LCD画面が明るすぎて(暗すぎて)画面の文字が見えない。	周囲の環境(温度など)によって明るさが変化する。	明るさを調節してください(P.17)。
鍵盤で弾く音が、伴奏スタイルや曲(ソング)の再生音に比べて小さい。	手弾き音のボリュームが下がっている。	MAIN画面の「BALANCE(P.61)」で手弾き音「MAIN」「LAYER」「LEFT」のボリュームを上げたり、「STYLE」「SONG」のボリュームを下げてたりして調節してください。
伴奏スタイルや曲(ソング)の再生音が、鍵盤で弾く音に比べて小さい。	伴奏スタイルのパートごとのボリュームや、曲再生音のチャンネルごとのボリュームが下がっている。	ミキサー画面で、パートごとまたはチャンネルごとのボリュームを調節してください(P.117)。
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	全体ボリュームが下がっている。	[MASTER VOLUME(ボリューム)]ダイアルでボリュームを上げてください。
	各パートのボリュームが下がっている。	MAIN画面の「BALANCE(P.61)」で「MAIN」「LAYER」「LEFT」「STYLE」「SONG」のボリュームを上げてください。
	鳴らしたいチャンネルがOFFになっている。	OFFになっているチャンネルをONにしてください(P.61,76)。
	ヘッドフォンを接続している(ただし、スピーカーの設定がHEADPHONE SWの場合 P.138)。	ヘッドフォンのプラグを抜いてください。
	スピーカーがOFFになっている。	スピーカーをONにしてください(P.138)。
	ローカルコントロールOFFになっている。	ローカルコントロールをONにしてください。(P.134)
ペダルのダンパー機能、ソステヌート機能、ソフト機能が効かない。	ペダルに別の機能が割り当てられている。	それぞれのペダルに「SUSTAIN」「SOSTENUTO」「SOFT」を割り当ててください(P.128)。
	ペダルコードのプラグが本体に差し込まれていない。	ペダルコードのプラグを本体に確実に差し込んでください。(P.150)
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	最大同時発音数を越えている。	前の音を消してあとの音を優先的に鳴らすしくみになっています。最大同時発音数については、P.154を参照してください。
伴奏スタイル、曲(ソング)の再生がスタートしない。	MIDIロックが外部(EXTERNAL)になっている。	MIDIロックを内部(INTERNAL)にしてください(P.135)。
	曲(ソング)をスタートさせるときにSTYLE CONTROL [START/STOP](スタイルコントロール[スタート/ストップ])ボタンを押している。 伴奏スタイルをスタートさせるときにSONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ])ボタンを押している。	曲(ソング)をスタートさせるときはSONG [START/STOP](ソング[スタート/ストップ])ボタンを、伴奏スタイルをスタートさせるときはSTYLE CONTROL [START/STOP](スタイルコントロール[スタート/ストップ])ボタンを押してください(P.61,74)。
	NewSongが選ばれている。	SONG画面で曲を選んでください(P.74)。
	曲(ソング)が終わった位置で停止している。	[TOP(トップ)]ボタンで曲を先頭に戻してください(P.76)。
伴奏スタイルがリズムしか再生されない。	自動伴奏機能がONになっていない。	[ACMP(自動伴奏)]ボタンを押して自動伴奏機能をONにしてください。
シンクロスタート待機状態で鍵盤を弾いても伴奏スタイルがスタートしない。	スプリットポイントの右側の鍵盤を弾いている。	スプリットポイントの左側の自動伴奏用鍵盤を弾いてください。
自動伴奏で思ったおりの和音が出ない。	正確に押さえていない。	「フィンガードでの押さえ方一覧(P.63)」を参考にしてください。
	自動伴奏の奏法に合った押さえ方をしていない。	自動伴奏の奏法を確認し、選んだ奏法に合った押さえ方をしてください(P.62)。

現象	原因	解決法
スプリットポイントの設定や鍵盤で弾いたコードに関係なく自動伴奏のコードが検出される。	フィンガリング(奏法)でフルキーボードまたはAIフルキーボードが選ばれている。フルキーボード、AIフルキーボードでは、スプリットポイントの設定に関係なく全鍵域でコードが検出されません。	他の奏法を選んでください(P.62)。
一定の音名の音程がずれている。	スケールチューニングされている。	SCALE TUNEページ(P.124)の「SCALE」で「EQUAL」を選んでください。
曲データの再生時、再生されないチャンネルがある。	そのチャンネルが再生OFFになっている。	OFFになっているチャンネルを再生ONにしてください(P.76)。
ハーモニー機能が働かない。	フィンガリング(奏法)がフルキーボードまたはAIフルキーボードに設定されている。	他の奏法を選んでください(P.62)。
マイクの音が録音できない。	マイクの音は録音できません。	異常ではありません。
MIDIケーブルは正しく接続されているが、MIDI端子を通じてMIDIデータの送受信が行えない。	HOST SELECTスイッチがMIDIに設定されていない。	HOST SELECTスイッチをMIDIに設定してください(P.144)。
音色が変わると、以前選ばれていたエフェクトが変更されてしまう。	各音色がそれぞれの音に合った最適なプリセットを持ち、音色ごとにプリセットのエフェクトを呼び出すため。	VOICE SET画面で、各エフェクトを呼び出す(ON)、呼び出さない(OFF)を設定してください(P.132)。
鍵盤で弾く音にわずかな音質の違いがある。	PF-1000のサンプリングシステムによります。	異常ではありません。
ループして(繰り返して)鳴る音がある。		
音色によっては、高音になるほど雑音やビブラートが付いてしまう。		
高音域や低音域で演奏すると、音程がオクターブ単位でジャンプしてしまう音色がある。	音程の限界に達すると音程がシフトしてしまう音色もあります。	異常ではありません。
ユーザーボイスを含むレジストレーションメモリーを呼び出したとき、VOICEオープンセーブ画面では、ユーザーボイスではなくプリセットボイスが選ばれる。	ユーザードライブやディスクドライブ上の音色をレジストレーションメモリーに記憶させたときは、以下2点がメモリーに記憶されます。 ・ユーザーボイスの基になったプリセットボイス ・サウンドクリエイターでの各パラメーターの設定 したがって、ユーザーボイスを含むレジストレーションメモリーを呼び出した場合、記憶させたユーザーボイスそのものではなく、基になったプリセットボイスが選ばれます。ただし上記のとおり、サウンドクリエイターでの各パラメーターの設定も併せて呼び出されるので、結果としてレジストレーションメモリーに記憶させたユーザーボイスが再現されます。	異常ではありません。
ディスク保存操作に時間がかかる。	1MBのデータをフロッピーディスクに保存するのに、約1分かかります。	異常ではありません。
音色に極端なノイズ(雑音)が発生する。	音色によっては、ミキシングコンソールのハーモニックコンテンツやブライツネスの設定によって、ノイズ(雑音)が発生する場合があります。	ハーモニックコンテンツやブライツネスの設定を調節してください(P.118)。
音が歪んだり、雑音が混じっている。	ボリュームが上がりが過ぎている。	ボリュームを下げてください。
	エフェクトに起因する場合があります。	すべての不要なエフェクト(特にディストーションタイプのエフェクト)をキャンセルしてください(P.119)。
	SOUND CREATOR画面でのフィルターハーモニックコンテンツの設定によって音が歪む。	フィルターハーモニックコンテンツを調節してください(P.88)。
変に音がダブって聞こえる。鍵盤を押すたびに、わずかに音が異なって聞こえる。	MAINとLAYERパートがONで、両パートに同じ音色が選ばれている。	レイヤーパートをOFFにするか(P.56)、音色を変更してください(P.54)。
特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい。	音色(とりわけピアノ音色)の聞こえ方に個人差があるため。人によっては特定の倍音が強調されて聞こえるなどの場合があります。	異常ではありません。
鍵盤を弾くと、機構音がカタカタ鳴る。	PF-1000の鍵盤機構が、ピアノの鍵盤機構をシミュレートして設計されているため。ピアノの場合でも機構音は実際に出ているものです。	異常ではありません。

仕様

		PF-1000		
音源		AWM音源		
ディスプレイ		320×240ドット LCD(バックライト付き)		
鍵盤		88鍵 (A-1～C7)		
ボイス	最大同時発音数	96		
	音色数	PF-1000 オリジナル ノーマル音色:308種類 XG音色:480種類 ドラムキット:16セット		
		レギュラー音色	287	
		スイート音色	8	
		クール音色	2	
		ライブ音色	1	
	ナチュラル音色	21		
サウンドクリエイター	○			
エフェクト	エフェクトブロック	リバーブ	2系統	
		コーラス	2系統	
		DSP	2系統	
		ブリリアンス	1系統	
		マイク	DSPと共用	
		エフェクトタイプ	リバーブ1	28+3ユーザー
	リバーブ2	5		
	コーラス1	21+3ユーザー		
	コーラス2	3		
	DSP1	101+3ユーザー		
	DSP2	12		
	ブリリアンス	5		
	伴奏スタイル	ノーマルスタイル数	194	
		セッションスタイル数	12	
ピアニストスタイル数		36		
ピアノコンボスタイル数		17		
自動伴奏		シングルフィンガー、フィンガード、フィンガードオンベース、 マルチフィンガー、AIフィンガード、フルキーボード、AIフルキーボード		
スタイルクリエイター		○		
OTS (ワンタッチセッティング)		各伴奏スタイルに4種類		
OTSリンク		○		
ミュージックファインダー		最大2500レコード		
エディット		○		
曲(ソング)	フォーマット	SMF(フォーマット0,1), ESEQ		
	プリセットソング	○		
	歌詞表示	○		
	楽譜表示	○		
	録音	クイック録音、多重録音、ステップ録音、曲編集(歌詞編集含む)		
	録音チャンネル数	16		

		PF-1000
記憶媒体 デバイス	フロッピーディスク(2HD、2DD)	○
	フラッシュメモリー(内蔵)	1MB
	記憶できるデータの種類	ソング(SMF)、スタイル(SFF)、レジストレーション、ボイス、その他
テンポ	テンポ範囲	5~500
	タップテンポ	○
	メトロノーム	○
	サウンド	ベル オン/オフ、ヒューマンボイス(5言語)
レジストレーションメモ リー	ボタン	8
	レジストシーケンス	○
	フリーズ	○
ユーティリティ	デモ機能	機能、音色、伴奏スタイル
	デモ・ヘルプ言語	6言語(日、英、独、仏、西、伊)
	ダイレクトアクセス	○
	ピアノボタン(ピアノロック含)	○
その他	マスターボリューム	○
	フェードイン/アウト	○
	トランスポーズ	キーボード/ソング/マスター
	チューニング	○
	チューニングカーブ	フラット/ストレッチ(NATURAL音色のピアノのみ)
	スケール	平均律、純正律長音、純正律短音、ピタゴラス音律、中全音律、 ヴェルクマイスター音律、キルンベルガー音律、アラブ音律1/2
	タッチレスボンス	○
付属端子		PHONES端子×2、MIDI(THRU、OUT、IN)、TO HOST端子、 HOST SELECTスイッチ、AUX PEDAL端子、AUX IN(L/L+R)端子、 AUX OUT(LEVEL FIXED)(L/R)端子、AUX OUT(L/L+R)端子 マイクロフォン端子(INPUT VOLUME、MIC/LINE IN)、VIDEO OUT端子
ペダル	ペダル数	3
	ペダルファンクション	ボリューム、サステイン、ソステヌート、ソフト、グライド、ポルタメント、ピッチベ ンド、パイプローターオン/オフ、ソング/スタイルスタート/ストップ、その他
再生部	出力	30W×2
	スピーカー	(16cm + 5cm)×2
定格電源		AC100V 50/60Hz
消費電力		60W
寸法(間口×奥行×高さ)(譜面立て、ペダルユニットを除く) []内はスタンドを取り付けた場合		1430mm×507mm×165mm [1430mm×507mm×782mm]
質量(譜面立て、ペダルユニットを除く) []内はスタンドを取り付けた場合		31kg [43kg]

仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

索引

数字

[-] [+] ボタン (TEMPO)	18, 50
[-] [+] ボタン (TRANSPOSE)	18, 130
[1] ~ [4] ボタン (ONE TOUCH SETTING)	19, 67
[1] ~ [8] ボタン (REGISTRATION MEMORY)	19, 82
[1 ▲▼] ~ [8 ▲▼] ボタン	18, 38 ~ 45
1-16	94, 103
1 つ上の階層のページを表示させる	44
2 つの音色を重ねる	26, 56
3.5" フロッピーディスクドライブ	7, 18

A

A-B REPEAT (A-B リピート)	77
[AC INLET] 端子	17, 19
[ACMP (自動伴奏)] ボタン	18, 60
AI FINGERED (AI フィンガード)	62
AI FULL KEYBOARD (AI フルキーボード)	62
AI (Artificial Intelligence) (エーアイ)	62
APPEND (アペンド)	71
ARABIC (アラビック)	125
ASSEMBLY (アッセンブリー)	110
ATTACK (アタック)	88
AUTO (オート)	20
[AUTO FILL IN (オートフィルイン)] ボタン	18, 66
AUTO REVOICE (オートリボイス)	117
AUX IN [L/L+R][R] 端子	19, 142
AUX OUT [L/L+R][R] 端子	19, 142
AUX OUT (LEVEL FIXED) [L][R] 端子	19, 142
AUX PEDAL 端子	19, 143
[A] ~ [J] ボタン	18, 40

B

[BACK (バック)] ボタン	18, 40, 46
[BALANCE (バランス)] ボタン	18, 61
BAR CLEAR (バークリア)	113
BAR COPY (バーコピー)	113
BASIC (ベーシック)	108
BASIC 画面で設定できるその他の項目	109
BASS (ベース)	92
BEAT (ビート)	70, 71
[BREAK (ブレイク)] ボタン	18, 64
[BREAK (ブレイク)][INTRO (イントロ)][MAIN (メイン)] [ENDING/rit. (エンディング / rit.)] ボタンのランプについて	64
BRIGHTNESS (ブライトネス)	88

C

CANCEL (キャンセル)	70, 72
cent (セント)	124
CHANNEL (チャンネル)	100, 113
[CHANNEL ON/OFF (チャンネルオン / オフ)] ボタン	18, 61, 76
CHANNEL TRANSPOSE (チャンネルトランスポーズ)	102
CHD (コード)	104
CHORD (コード)	92
CHORD DETECT (コードディテクト)	136
CHORD FINGERING (コードフィンガリング)	128
CHORD TUTOR (コードチューター) について	128
CHORUS (コーラス)	121
CLEAR (クリア)	70, 71
CLOCK (クロック)	135
COMMON (コモン)	87
CONFIG (コンフィグ) 1	137
CONFIG (コンフィグ) 2	138
CONTROLLER (コントローラー)	128
Cool! (クール)	55
COPY (コピー)	43
CUT (カット)	42

D

[DATA ENTRY (データエントリー)] ダイアル	18, 46
DECAY (ディケイ)	88
DELAY (ディレイ)	88
DELETE (デリート)	43, 101
DELETE RECORD (デリートレコード)	71
[DEMO (デモ)] ボタン	14, 18, 20, 52
DEPTH (デプス)	88
[DIGITAL RECORDING (デジタルレコーディング)] ボタン	14, 18, 90, 106
[DIRECT ACCESS (ダイレクトアクセス)] ボタン	18, 47
DISK (ディスク)	139
DISK TO DISK (ディスクトゥーディスク) 操作手順	139
DOC (Disk Orchestra Collection = ディスクオーケストラコレクション)	149
Drums (ドラムス)	55
[DSP] ボタン	18, 57
DSP (デジタルシグナルプロセッサ)	121
DYNAMICS (ダイナミクス)	112

E

EDIT (エディット)	109
EFFECT (エフェクト)	89, 119
EG (エンペローブジェネレーター)	88
ENDING (エンディング)	66
[ENDING/rit. (エンディング / rit.)] ボタン	18, 31, 64
[END] の位置について	98
[ENTER (エンター)] ボタン	18, 46
EQUAL TEMPERAMENT (イコールテンペラメント)	125
ESEQ (イーシーク)	148
[EXIT (戻る)] ボタン	18, 40
[EXTRA TRACKS (STYLE) (その他トラック (スタイル))] ボタン	18, 77

F

FADE IN TIME (フェードインタイム)	137
[FADE IN/OUT (フェードイン / アウト)] ボタン	18, 65
FADE OUT HOLD TIME (フェードアウトホールドタイム)	137
FADE OUT TIME (フェードアウトタイム)	137
FAVORITE (フェーバリット)	71
[FF (早送り)] ボタン	18, 76
FILL (フィル)	66
FILTER (フィルター)	88, 105, 118
FINGERED (フィンガード)	62
FINGERED ON BASS (フィンガードオンベース)	62
FIRST KEY ON (ファーストキーオン)	99
FLOPPY DISK (フロッピーディスク) ドライブ	39
[FREEZE (フリーズ)] ボタン	19, 84, 131
FULL KEYBOARD (フルキーボード)	62
[FUNCTION (ファンクション)] ボタン	18, 122

G

GENRE (ジャンル)	70, 72
GENRE NAME (ジャンルネーム)	72
GM システムレベル 1	149
GROOVE (グルーブ)	111

H

HARMONIC CONTENT (ハーモニックコンテンツ)	88
HARMONY (ハーモニー)	89
[HARMONY/ECHO (ハーモニー / エコー)] ボタン	18, 29, 58
HARMONY/ECHO (ハーモニー / エコー) の設定	132
[HELP (ヘルプ)] ボタン	18, 49
HIGH KEY (ハイキー)	115
[HOST SELECT] スイッチ	19, 143
Hz (ヘルツ)	124

I

ICON SELECT (アイコンセレクト)	46
[INPUT VOLUME] つまみ	19, 141
[INTRO (イントロ)] ボタン	18, 31, 64
INTRO/ENDING (イントロ / エンディング)	66

K

KEY SIGNATURE (キーシグネチャー)	79
KEYBOARD TOUCH (キーボードタッチ)	130
KEYBOARD/PANEL (キーボード / パネル)	130
KEYWORD (キーワード)	70, 71
KIRNBERGER (キルンベルガー)	125

L

[LANGUAGE]で選べる言語.....	49
[LAYER(レイヤー)]ボタン.....	18, 56
[LCD CONTRAST(LCDコントラスト)]つまみ.....	17, 18
[LEFT(レフト)]ボタン.....	18, 56, 57
LEFT CH(レフトチャンネル).....	79
[LEFT HOLD(レフトホールド)]ボタン.....	18, 58
Live!(ライブ).....	55
LOCAL CONTROL(ローカルコントロール).....	134
LYRICS(リリックス).....	81, 105

M

MAIN(メイン)[A]～[D]ボタン.....	18, 64
MAIN(メイン)音色.....	25
MAIN(メイン)画面.....	38
MAIN(メイン)画面のテンポ表示について.....	51
MASTER TUNE(マスターチューン).....	124
[MASTER VOLUME(ボリューム)]ダイヤル.....	17, 18
MEAN-TONE(ミーントーン).....	125
[MEMORY(メモリー)]ボタン.....	19, 82
MESSAGE SW(メッセージスイッチ).....	135
METRONOME(メトロノーム).....	50, 137
MIC/LINE IN 端子.....	19, 141
[MIC LINE] 切り替えスイッチ.....	19, 141
MIDI [IN][OUT][THRU]端子.....	19, 143
MIDI(ミディ).....	134
MIDI(ミディ)に関する設定をする.....	134
MIDI(ミディ)データを送信する.....	135
MIDI(ミディ)受信パート.....	136
MIDI(ミディ)データを受信する.....	136
MIDI SETUP(ミディセットアップ).....	140
MIDI IN(ミディイン).....	143
MIDI OUT(ミディアウト).....	143
MIDI THRU(ミディスルー).....	143
MIDI(ミディ)端子.....	143
MIDI(ミディ)ドライバーについて.....	143
MIDI(ミディ)端子を使った接続.....	144
MIDI(ミディ)って何?.....	145
MIDI(ミディ)チャンネル.....	147
MIDI(ミディ)でできること.....	147
MIDI(ミディ)パートを選んだ場合.....	93
MIX(ミックス).....	101
[MIXING CONSOLE(ミキシングコンソール)]ボタン.....	18, 116
[MONO(モノ)]ボタン.....	18, 58
MULTI FINGER(マルチフィンガー).....	62
MUSIC(ミュージック).....	70, 71
[MUSIC FINDER(ミュージックファインダー)]ボタン.....	15, 18, 33, 69
MUSIC FINDER RECORD EDIT(ミュージックファインダーレコードエディット).....	71
MUSIC FINDER SEARCH(ミュージックファインダーサーチ).....	70

N

NAME(ネーム).....	41
NATURAL VOICE(ナチュラルボイス).....	86
Natural!(ナチュラル).....	55
NEW(ニュー)(FOLDER).....	44
NEW RECORD(ニューレコード).....	72
[NEXT(ネクスト)]ボタン.....	18, 40, 46
NORMAL(ノーマル).....	99
NOTE LIMIT(ノートリミット).....	115
NOTE NAME(ノートネーム).....	80
NTR(ノートトランスポジションルール).....	114
NTT(ノートトランスポジションテーブル).....	115

O

OCTAVE(オクターブ).....	118
ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング).....	67, 68
[OTS LINK(OTSリンク)]ボタン.....	18, 68
OWNER(オーナー).....	140

P

PAD(パッド).....	92
PARAMETER(パラメーター).....	114
PARAMETER LOCK(パラメーターロック).....	138
PASTE(ペースト).....	42, 43
PEDAL(ペダル).....	128
[PEDAL] 端子.....	16, 19
PF-1000 と合奏する.....	36
PF-1000 の音を外部オーディオ機器から出したり、外部機器で録音したりする.....	142
PF-1000 の画面をテレビ画面に映す.....	133, 142
PF-1000 のスピーカーから外部機器の音を出す.....	142
PF-1000 の設定を工場出荷時の状態に戻す.....	140
PHONES 端子.....	19, 141
PHRASE(フレーズ).....	92
Pianist!(ピアニスト).....	60
PIANO(ピアノ).....	87
[PIANO(ピアノ)]ボタン.....	15, 19, 55
Piano Combo!(ピアノコンボ).....	60
PIANO LOCK(ピアノロック).....	55
PITCH BEND RANGE(ピッチベンドレンジ).....	118
PORTAMENTO TIME(ポルタメントタイム).....	118
[POWER ON/OFF]ボタン.....	17, 19
PRESET(プリセット)ドライブ.....	39
PUNCH IN AT(パンチインアット).....	99
PUNCH OUT(パンチアウト).....	99
PUNCH OUT AT(パンチアウトアット).....	99
PUREMAJOR(ピュアマジャー).....	125
PUREMINOR(ピュアマイナー).....	125
PYTHAGOREAN(ピタゴリアン).....	125

Q

QUANTIZE(クオンタイズ).....	79, 100, 113
-----------------------	--------------

R

[REC(録音)]ボタン.....	18, 90
REC MODE(レックモード).....	99
RECEIVE(レシーブ).....	136
RECEIVE TRANSPOSE(レシーブトランスポーズ).....	135
REGISTRATION BANK(レジストレーションバンク).....	83
REGISTRATION EDIT(レジストレーションエディット)画面について.....	83
REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー).....	82
REGISTRATION SEQUENCE(レジストレーションシーケンス).....	131
REGULAR VOICE(レギュラーボイス).....	86
RELEASE(リリース).....	88
REMOVE EVENT(リムーブイベント).....	113
[REPEAT(くり返し)]ボタン.....	18, 77
REPLACE(リプレース).....	71
REPLACE ALL(リプレースオール).....	99
RESONANCE(レゾナンス).....	88
[REVERB(リバーブ)]ボタン.....	18, 57
REVERB(リバーブ).....	121
[REW(巻戻し)]ボタン.....	18, 76
RHYTHM(リズム).....	92
RIGHT CH(ライトチャンネル).....	79
ROOT(ルート).....	136
RTR(リトリガールール).....	115

S

SAVE(セーブ).....	38, 44
SCALE TUNE(スケールチューン).....	124
SCORE(スコア).....	78
SEARCH AREA(サーチエリア).....	70
SECTION SET(セクションセット)について.....	127
Session!(セッション).....	60
SET UP(セットアップ).....	102
SFX(エスエフエックス).....	55
SINGLE FINGER(シングルフィンガー).....	62
SMF(スタンダードMIDI(ミディ)ファイル).....	148
SONG(ソング).....	73
SONG AUTO REVOICE(ソングオートリボイス).....	117
SONG CREATOR(ソングクリエーター).....	90
SONG SETTING(ソングセッティング).....	126
SOUND(サウンド)(REGULAR 音色のみ).....	87
[SOUND CREATOR(サウンドクリエーター)]ボタン.....	18, 85
SOUND CREATOR(サウンドクリエーター)で設定できる項目.....	86
SOURCE ROOT/CHORD(ソースルート/コード).....	114
SPEED(スピード).....	88
SPLIT POINT(スプリットポイント).....	127
[START/STOP(スタート/ストップ)]ボタン(METRONOME).....	18, 50
[START/STOP(スタート/ストップ)]ボタン(SONG).....	18, 74
[START/STOP(スタート/ストップ)]ボタン(STYLE CONTROL).....	18, 60
START/STOP(スタート/ストップ)(MIDI).....	135
STEP RECORD(ステップレコード)(Chord)(曲の録音).....	97

STEP RECORD (ステップレコード) (Note) (曲の録音)	96
STEP RECORD (ステップレコード) (曲の録音)	94
STEP RECORD (ステップレコード) (伴奏スタイルの録音)	109
STYLE (スタイル)	59, 70, 71
STYLE (スタイル) ボタン	18, 28, 59
STYLE CONTROL (スタイルコントロール)	18, 28, 60
STYLE CREATOR (スタイルクリエイター)	106
STYLE FILE (スタイルファイル)	148
STYLE SETTING (スタイルセッティング)	127
Sweet! (スウィート)	55
[SYNC.START (シンクスタート)] ボタン	18, 60
[SYNC.STOP (シンクストップ)] ボタン	18, 65
SysEX (System Exclusive) (システムエクスクルーシブ)	104
SYSTEM (システム)	134
SYSTEM RESET (システムリセット)	140
SYSTEM SETUP (システムセットアップ)	140

T

TAP COUNT (タップカウント)	138
[TAP TEMPO (タップテンポ)] ボタン	18, 51
TEMPO (テンポ)	50, 72
TEMPO FROM (テンポフロム)	70
TEMPO TO (テンポトゥー)	70
TO HOST 端子	15, 19, 143
TO HOST 端子を使った接続	144
[TOP (トップ)] ボタン	18, 76
[TRACK1 (R) (トラック1 (右手))] ボタン	18, 77
[TRACK2 (L) (トラック2 (左手))] ボタン	18, 77
TRANSMIT (トランスミット)	135
TRANSMIT CLOCK (トランスミットクロック)	135
TRANSMIT/RECEIVE (トランスミット / レシーブ) 画面でのデータタイプ	135
TRANSPOSE (トランスポーズ)	130
TRANSPOSE ASSIGN (トランスポーズアサイン)	130
TUNE (チューン)	118
TUNING (チューニング)	118

U

UP (アップ)	44
USER (ユーザー) ドライブ	39
USER EFFECT (ユーザーエフェクト)	120, 140
UTILITY (ユーティリティ)	137

V

[VARIATION (バリエーション)] ボタン	18, 57
VELOCITY CHANGE (ベロシティチェンジ)	113
VIBRATO (ビブラート)	88
VIDEO OUT (ビデオアウト)	133
VIDEO OUT 端子	19, 142
VOICE (ボイス) ボタン	19, 54
VOICE EFFECT (ボイスエフェクト)	57
VOICE SET (ボイスセット)	132
VOL/VOICE (VOLUME/VOICE) (ボリューム / ボイス)	117

W

WERCKMEISTER (ヴェルクマイスター)	125
Windows をご使用のお客様へ	143

X

XF (エックスエフ)	148
XG (エックスジー)	149

あ

アイコンを変更する	46
アタック	88
頭出し	76
新しいフォルダーを作ってファイルを整理する	44
アッセンブリー	110
アラブ音律	125

い

いくつかの音色を同時に鳴らす	56
移調する	130
[イントロ] ボタン	18, 31, 64
イントロとエンディングの種類を選ぶ	66

う

ヴェルクマイスター音律	125
-------------------	-----

え

液晶画面	15
エフェクト	89, 119
エフェクトのしくみについて	121
エフェクトブロック	120
エフェクトを調節する	119
選んだスタイルに最適な設定を呼び出す (ワンタッチセッティング)	32
選んだ伴奏スタイルに合ったパネル設定を呼び出す	67
演奏情報の例	146
演奏するメロディに自動的に和音や装飾音を付ける (ハーモニー / エコー)	29
演奏を録音して曲を作る	90
演奏を録音 (記録) してみましょう	37
[エンター] ボタン	18, 46
エンディング	66
[エンディング / rit.] ボタン	18, 31, 64
エンベロープジェネレーター	88

お

[オートフィルイン] ボタン	18, 66
オートリボイス	117
オーナー	140
オーバーダブ方式	106
オープンセーブ画面	38
オクターブ	118
おすすめスタイルを検索する	70
音色	54
音色を選ぶ	25, 54
音色 (ボイス = 楽器音) を変えて弾いてみましょう	25
音色の特長	55
音色 (VOICE) を編集する	85
音色を調節する	118
音色配列フォーマット	149
音程 (ピッチ) を微調整する	124
音律について	125
音律 (調律法) を選ぶ	124
音量バランスを調節する	61, 76
音量バランスや音色などを調節する	116
音量バランスや音色を設定する	117
音量 (ボリューム) を調節する	17

か

外部 MIDI (ミディ) 機器と接続する	143
外部オーディオビジュアル機器と接続する	142
各音律のチューニング	125
楽譜の詳細設定画面	79
楽譜を表示させる	78
歌詞イベントを入力 / 編集する	105
歌詞を表示させる	81
画面の明るさを調節する	138
画面のコントラストを調節する	17
画面 (小画面) の閉じ方	40
カレントメモリー	39
漢字変換	45

- き**
- キーシグネチャー 79
 - キーボード / パネル 130
 - キーボードタッチ 130
 - キーボードパーカッション 55
 - キーワード 70, 71
 - 記号入力 45
 - 機能説明を見る 49
 - 基本操作 38
 - 曲ごとのおすすめ伴奏スタイルを呼び出す 69
 - 曲(ソング)の再生 21, 73, 74
 - 曲(ソング)の種類 73
 - 曲(ソング)に合わせて演奏や練習をしてみましょう 36
 - 曲(ソング)と伴奏スタイルの同時再生 75
 - 曲再生に関するその他の操作 76
 - 曲(ソング)再生に関する設定をする 126
 - キルンベルガー音律 125
- く**
- クイックスタート 126
 - クイック録音 91
 - クオンタイズ 79, 100, 113
 - クオンタイズサイズについて 100
 - [くり返し] ボタン 18, 77
 - グループ 111
 - クロックについて 95
 - クロック (MIDI) 135
- け**
- ゲートタイムの設定 95
 - 鍵盤を分けて別々の音色で演奏する(レフト) 27, 57
 - 鍵盤から指を離すと同時に伴奏スタイルをストップさせる 65
 - 鍵盤で弾いた音に変化をつける 57
- こ**
- 項目を選ぶ 46
 - コード / セクション(コードステップ)の入力 97
 - コードイベントを編集する 104
 - コードチャンネルを設定する 136
 - コードディテクト 136
 - コードの押さえ方 62
 - コードの押さえ方(フィンガリング)を決める 128
 - コーラス 121
 - 故障かな?と思ったら 152
 - 個人情報に関する設定をする 140
 - コントローラー 128
 - コンフィグ 1 137
 - コンフィグ 2 138
- さ**
- サーチエリア 70
 - [サウンドクリエイター] ボタン 18, 85
 - サステイン 88
- し**
- シーケンサー 146
 - シーケンスフォーマット 148
 - システムイベントを編集する 104
 - システムメッセージ 147
 - システムリセット 140
 - システム(ローカルコントロール、クロックなど)を設定する 134
 - 指定の範囲を繰り返し再生する 77
 - 自動でワンタッチセッティング番号を切り替える 68
 - 自動の音色設定を ON/OFF する 132
 - [自動伴奏] ボタン 18, 60
 - 自動伴奏を使って弾いてみましょう 28
 - 自動伴奏のパターンに変化をつける(セクション) 30
 - 自動伴奏のコードチェンジを録音する 97
 - 自動伴奏に関する設定をする 127
 - ジャンル 70, 72
 - ジャンルネーム 72
 - 純正律短調 125
 - 純正律長調 125
 - 小節について 95
 - [シンクスタート] ボタン 18, 60
 - [シンクストップ] ボタン 18, 65
 - シングルフィンガー 62
- す**
- 数字入力 45
 - 数値を決める 46
 - スケールチューン 124
 - スコア 78
 - [スタート / ストップ] ボタン(METRONOME) 18, 50
 - [スタート / ストップ] ボタン(SONG) 18, 74
 - [スタート / ストップ] ボタン(STYLE CONTROL) 18, 60
 - [スタイル] ボタン 18, 28, 59
 - スタイル 14, 59, 70, 71
 - スタイルクリエイター 106
 - スタイルセッティング 127
 - スタイルファイルフォーマットの項目を設定する 114
 - スタイルファイルフォーマット(SFF)について 107
 - スタンドの取り付け方 150
 - ステップ録音 94, 109
 - ステップ録音(コード) 97
 - ステップ録音(ノート) 96
 - スピーカーの設定をする 138
 - スピード 88
 - スプリットポイント 127
- せ**
- セーブ 38, 44
 - セクション 30
 - 接続 141
 - セットアップ 102
- そ**
- ソースルート / コード 114
 - ソステヌートペダル 19, 58
 - [その他トラック(スタイル)] ボタン 18, 77
 - その他の諸設定 137
 - ソング 14, 73
 - ソングブック 22
 - ソングクリエイター 90
 - ソングセッティング 126
- た**
- ダイナミクス 112
 - [ダイレクトアクセス] ボタン 18, 47
 - ダイレクトアクセス一覧表 48
 - [° (濁点)] [° (半濁点)] の入力 45
 - 多重録音 92
 - タッチ感を変える 130
 - タップカウント 138
 - [タップテンポ] ボタン 18, 51
 - ダンパーペダル 19, 58
- ち**
- チャンネル 61, 76, 79, 100, 113, 126
 - [チャンネルオン / オフ] ボタン 18, 61, 76
 - チャンネルトランスポート 102
 - チャンネル内のデータを編集する 113
 - チャンネルに関する編集をする 100
 - チャンネルメッセージ 146
 - 中全音律 125
 - チューニング 118
 - チューン 118
- て**
- ディケイ 88
 - ディスク曲を再生する 76
 - ディスクのファイル / フォルダーについて 42
 - ディスクのコピー、フォーマット(初期化)などをする 139
 - ディスクフォーマット操作手順 139
 - ディスクのフォーマット 148
 - ディレイ 88
 - [データエントリー] ダイアル 18, 46
 - データの互換性について 148
 - デジタルシグナルプロセッサ 57, 121
 - [デジタルレコーディング] ボタン 14, 18, 90, 106
 - デブス 88
 - [デモ] ボタン 14, 18, 20, 52
 - デリート 101
 - デリートレコード 71
 - 電源を入れる 17
 - テンポトウ 70
 - テンポフロム 70
 - テンポを調節する 50

と	
登録した項目を呼び出す.....	84
登録したパネル設定を本体に保存する.....	83
登録したパネル設定を呼び出す.....	84
特定のチャンネルを消音する.....	76
特定のパートを消音する.....	61, 77
[トップ] ボタン.....	18, 76
[トラック 1 (右手)] ボタン.....	18, 77
[トラック 2 (左手)] ボタン.....	18, 77
トランスポーズアサイン.....	130
トランスミット.....	135
トランスミットクロック.....	135
な	
内蔵曲を再生する.....	74
に	
ニューレコード.....	72
ね	
[ネクスト] ボタン.....	18, 40, 46
の	
ノートイベントを編集する 1-16.....	103
ノートトランスポジションテーブル.....	115
ノートトランスポジションルール.....	114
ノートネーム.....	80
は	
バークリア.....	113
バーコピー.....	113
パーソナルコンピューターと接続する.....	143
ハーモニー.....	89
[ハーモニー/エコー] ボタン.....	18, 29, 58, 132
ハーモニー効果の割り当て(ASSIGN)について.....	133
ハーモニータイプ(TYPE)について.....	133
ハーモニーやエコーの設定をする.....	132
ハーモニックコンテンツ.....	88
パソコンのUSB 端子と、USB インターフェイス機器を使った接続.....	145
[バック] ボタン.....	18, 40, 46
パネル設定を固定する.....	131
パネル設定を登録する.....	82
パネルの設定をワンタッチセッティングに登録する.....	68
[早送り] ボタン.....	18, 76
パラメーター.....	114
パラメーターロック.....	138
[バランス] ボタン.....	18, 61
[バリエーション] ボタン.....	18, 57
伴奏スタイルを選ぶ.....	28
伴奏スタイルを再生する.....	59
伴奏スタイルの特長.....	60
伴奏スタイルのパターンに変化を付ける.....	64
伴奏スタイルの構成パートについて.....	92
伴奏スタイルの作成について.....	106
伴奏スタイルを作る.....	106
伴奏スタイルの組み立て.....	110
伴奏スタイルを編集する.....	111
伴奏セクションが切り替わったときに自動でフィルを入れる.....	66
パンチイン/アウトについて.....	99
ひ	
[ピアノ] ボタン.....	15, 19, 55
ピアノロック.....	55
ビート.....	70, 71
ビートについて.....	95
ピタゴラス音律.....	125
ピッチベンドレンジ.....	118
ビデオアウト.....	133
ビブラート.....	88
表示させるイベントの種類を選ぶ.....	105

ふ	
ファイル.....	39
ファイル / フォルダーを選ぶ.....	40
ファイル / フォルダーに関する操作.....	41
ファイル / フォルダーに名前を付ける.....	41
ファイル / フォルダーを移動させる.....	42
ファイル / フォルダーをコピーする.....	43
ファイル / フォルダーを消去する.....	43
ファイルを保存する.....	44
[ファンクション] ボタン.....	18, 122
フィル.....	66
フィルター.....	88, 105, 118
フィンガード.....	62
フィンガードオンベース.....	62
フィンガードでの押さえ方一覧.....	63
フェードアウトタイム.....	137
フェードアウトホールドタイム.....	137
[フェードイン / アウト] ボタン.....	18, 65
フェードインタイム.....	137
フェーバリット.....	71
付属品(お確かめください).....	7
フットコントローラー.....	58, 143
フットスイッチ.....	58, 143
譜面立て.....	16
ブライトネス.....	88
[フリーズ] ボタン.....	19, 84, 131
プリセット MIDI(ミディ)設定.....	134
フルキーボード.....	62
[ブレイク] ボタン.....	18, 64
ブレイク.....	64
[ブレイク][イントロ][メイン][エンディング /rit.] ボタンのランプについて.....	64
フレーズマーク.....	76, 126
フロッピーディスクの取り扱い.....	7
へ	
平均律.....	125
ベーシック.....	108
ペダルを使う.....	58
ペダルに機能を割り当てる.....	128
ペダルや鍵盤の音に関する設定をする.....	128
ペダルでコントロールできる機能.....	129
ペダル(フットスイッチ)やフットコントローラーを使う.....	143
ヘッドフォンを使う.....	17
[ヘルプ] ボタン.....	18, 49
ペロシティ.....	112
ペロシティチェンジ.....	113
ペロシティの設定について.....	95
便利なその他の諸設定.....	122
ほ	
ボイスボタン.....	15, 19, 54
ボイスエフェクト.....	57
ボイスセット.....	132
ボイスナンバー表示に関する設定をする.....	138
他の機器と接続して演奏しましょう.....	141
保存.....	38, 44
ボタンをたいた速さでテンポを設定する.....	51
ボリューム / ボイス.....	117
[ボリューム] ダイアル.....	17, 18
ポルタメント.....	58
ポルタメントタイム.....	118
ま	
マイクやギターをつないで使う.....	141
[巻き戻し] ボタン.....	18, 76
マスターチューン.....	124
マルチフィンガー.....	62
み	
[ミキシングコンソール] ボタン.....	18, 116
ミックス.....	101
ミディ.....	134
ミュージック.....	70, 71
[ミュージックファインダー] ボタン.....	15, 18, 33, 69
ミュージックファインダーのレコード(設定データ)を検索する.....	34, 70
ミュージックファインダーレコードエディット.....	71

め	
メイン	25
メッセージについて	9
メトロノーム	50, 137
[メモリー] ボタン	19, 82
メロディを録音する	96
も	
目的の画面をすばやく表示させる	47
目的別目次	12
文字を入力する	45
[戻る] ボタン	18, 40
[モノ] ボタン	18, 58
ゆ	
ユーティリティ	137
よ	
呼び出したくない項目を指定する	84
ら	
ライトチャンネル	79
り	
リアルタイム録音	106, 108
リズムだけを鳴らす	61
リズムのノリを変える	111
リトリガールール	115
[リバーブ] ボタン	18, 57, 121
リムーブイベント	113
リリース	88
リリックス	81, 105
る	
ルートチャンネルを設定する	136
ループ方式	106
れ	
[レイヤー] ボタン	18, 56
レイヤー	26, 56
レコード	69
レコードを編集する	71
レシーブ	136
レシーブトランスポーズ	135
レジストレーションシーケンス	131
レジストレーションメモリー	82
レジストレーションメモリーを呼び出す順番を決める	131
レゾナンス	88
レックモード	99
[レフト] ボタン	18, 56
レフト	27, 57
レフトチャンネル	79
レフトペダル	19, 58
[レフトホールド] ボタン	18, 58
ろ	
ローカルコントロール	134
[録音] ボタン	18, 90
録音した曲を編集する	100
録音の始め方 / 終わり方 / 上書き方法を選ぶ	99
わ	
和文シート	16
ワンタッチセッティング	32, 67, 68
ワンタッチでピアノの設定を呼び出す	55

■ 保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのヤマハ電気音響製品サービス拠点にご連絡ください。

● 保証書

本機には保証書がついています。
保証書は販売店がお渡ししますので、必ず「販売店印・お買い上げ日」などの記入をお確かめのうえ、大切に保管してください。

● 保証期間

お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。
下記の部品については、使用時間により劣化しやすいため、消耗に応じて部品の交換が必要となります。消耗部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ電気音響製品サービス拠点へご相談ください。

消耗部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、フロッピーディスクドライブなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「故障かな? と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。
それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点へ修理をお申し付けください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとおわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

ヤマハ電気音響製品サービス拠点（修理受付および修理品お持込み窓口）

北海道サービスステーション	〒064-8543	札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内	TEL (011) 512-6108
仙台サービスステーション	〒984-0015	仙台市若林区卸町5-7 仙台卸商共同配送センター 3F	TEL (022) 236-0249
首都圏サービスセンター	〒143-0006	東京都大田区平和島2丁目1番1号 京浜トラックターミナル内14号棟A-5F	TEL (03) 5762-2121
浜松サービスステーション	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL (053) 465-6711
名古屋サービスセンター	〒454-0058	名古屋市中川区玉川町2-1-2 ヤマハ(株)名古屋流通センター 3F	TEL (052) 652-2230
大阪サービスセンター	〒565-0803	吹田市新芦屋下1-16 ヤマハ(株)千里丘センター内	TEL (06) 6877-5262
四国サービスステーション	〒760-0029	高松市丸亀町8-7 (株)ヤマハミュージック神戸 高松店内	TEL (087) 822-3045
九州サービスステーション	〒812-8508	福岡市博多区博多駅前2-11-4	TEL (092) 472-2134
[本社] CSセンター	〒435-0016	浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内	TEL (053) 465-1158

●所在地・電話番号などは変更されることがあります。

◆ポータブル楽器に関するお問い合わせ窓口

ポータブル楽器 インフォメーションセンター

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1 TEL. 053-460-5272

- 受付日 月曜日～金曜日(祝日およびセンターの休業日を除く)
- 受付時間 10:00～12:00 / 13:00～17:00

EM営業統括部

企画推進室

〒108-8568 東京都港区高輪2-17-11
TEL (03) 5488-5476

北海道営業所

〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50 ヤマハセンター内
TEL (011) 512-6113

仙台営業所

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-2-10
TEL (022) 222-6147

名古屋営業所

〒460-8588 名古屋市中区錦1-18-28
TEL (052) 201-5199

大阪営業所

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-12-9 心斎橋プラザビル東館
TEL (06) 6252-5231

九州営業所

〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2-11-4
TEL (092) 472-2130

PA・DMI事業部

EKB営業部 CL・PK営業課

〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1
TEL (053) 460-3275

※住所および電話番号は変更になる場合があります。

◆インターネットホームページのご案内

製品等に関する情報をホームページ上でご案内しております。ご参照ください。

- ・ ヤマハ株式会社のホームページ
<http://www.yamaha.co.jp/>
- ・ PK CLUB(ポータブル楽器ホームページ)
<http://www.yamaha.co.jp/product/pk/index.html>
- ・ ヤマハマニュアルライブラリー
<http://www2.yamaha.co.jp/manual/japan/>
- ・ 「音楽する人、音楽したい人のための頼れるポータルサイト」
ミュージックイークラブ・ドットコム
<http://www.music-eclub.com>



この取扱説明書は
エコパルプ(ECF:無塩素系漂白パルプ)
を使用しています。



この取扱説明書は
大豆油インクで印刷しています。

この取扱説明書は再生紙を使用しています。

ヤマハ株式会社